

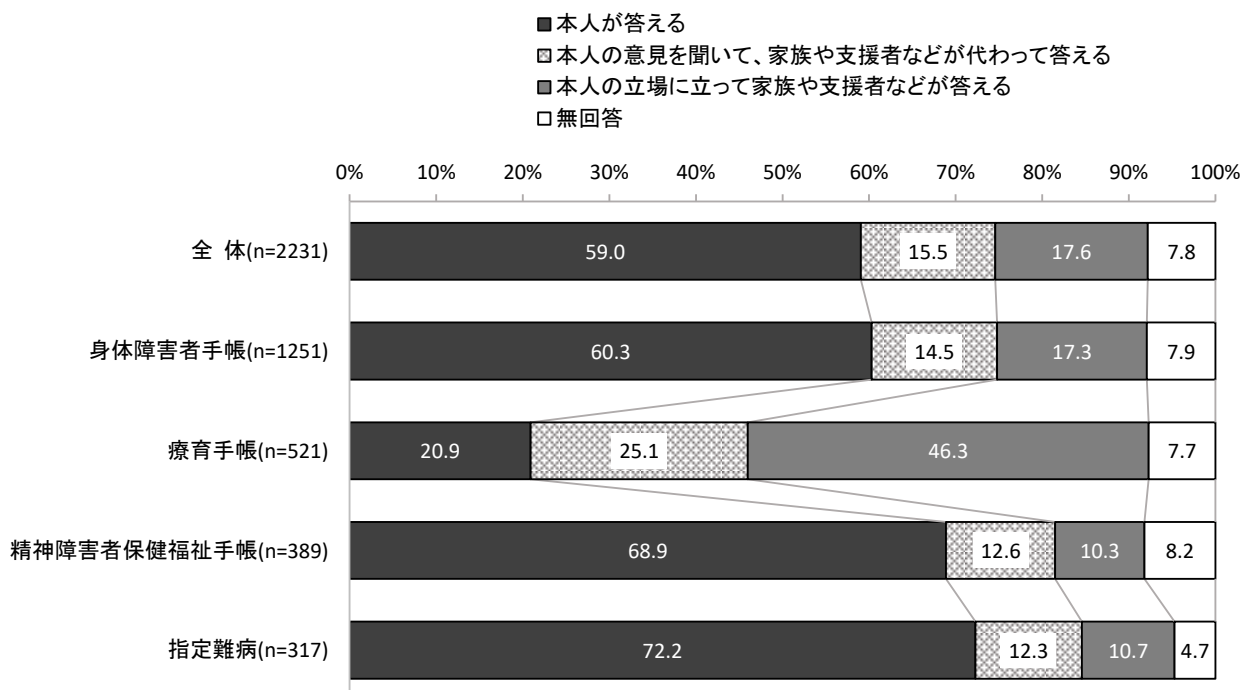
i 障がいのある人の調査結果

1. 属性・障がいについて

(1) 調査票回答者

問1 この調査票をお答えになる方はどなたですか。(〇は1つ)

本人からの回答が全体の59.0%を占めている。身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者においては「本人が答える」が6割以上となっているが、療育手帳所有者については「家族や支援者などが回答」が46.3%と最も高い。

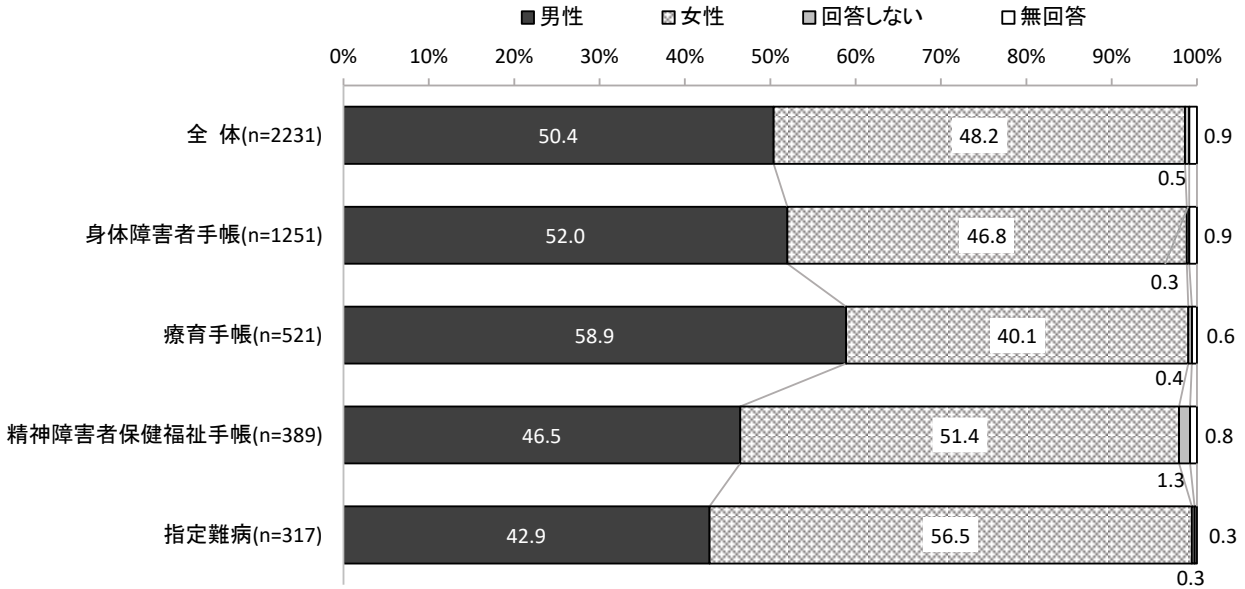


(2) 対象者本人の属性

問2 あなた(ご本人)のこについて、お伺いします。

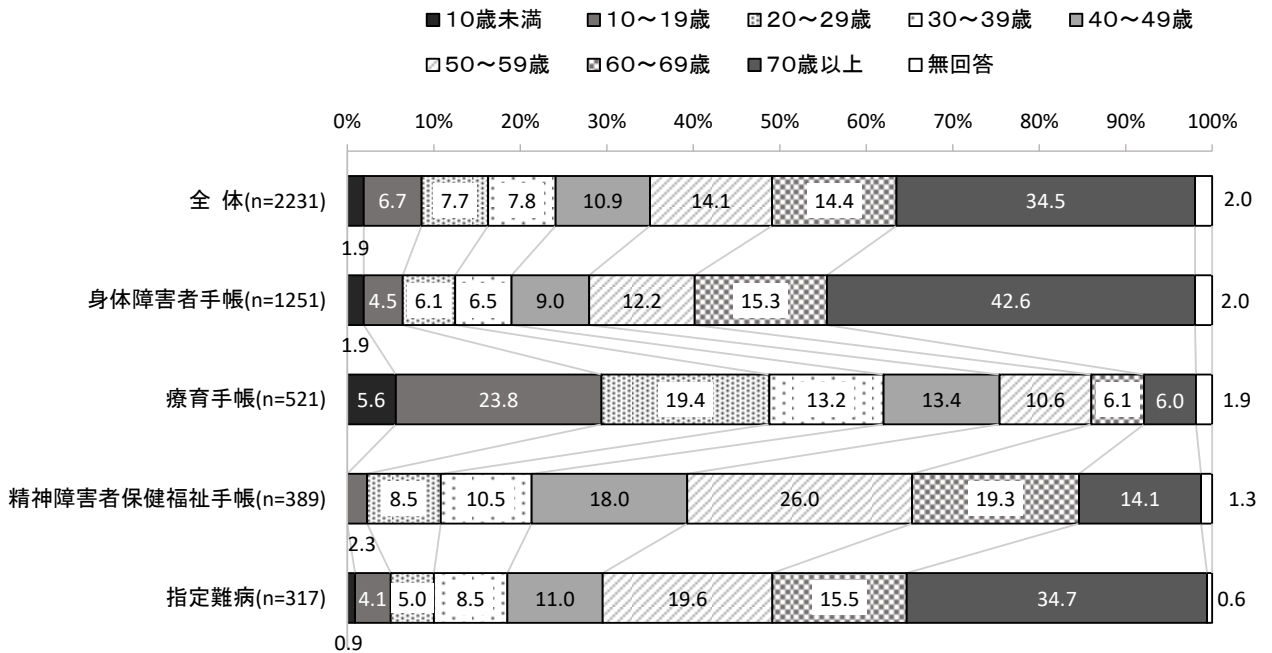
【性別】

全体では、「男性」50.4%、「女性」48.2%とやや男性の割合が高くなっている。



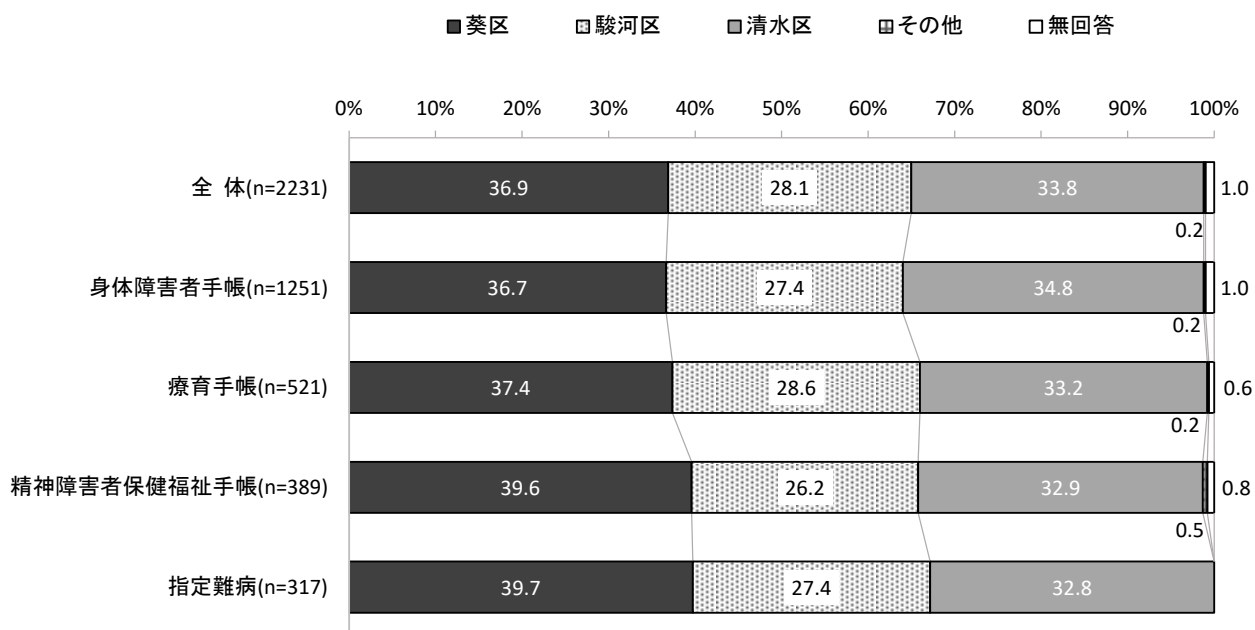
【年齢】

精神障害者保健福祉手帳所有者では10代から70代以上まで幅広い年代が回答している。身体障害者手帳保有者は「70代以上」が4割台とやや高い割合となっている一方、療育手帳所有者においては10代以下が約3割を占めている。



【居住地】

全体では「葵区」36.9%、「駿河区」28.1%、「清水区」33.8%の構成比となっている。

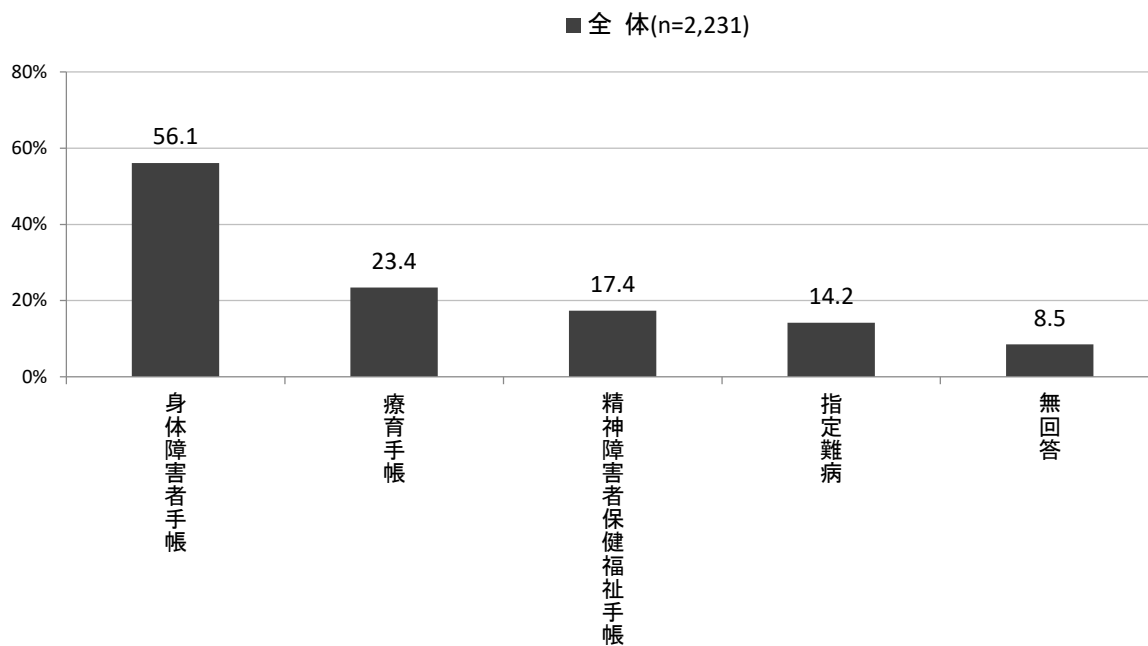


(その他) 浜松市 1 件、浜松市天竜区 1 件、医療施設 1 件、入所中 1 件

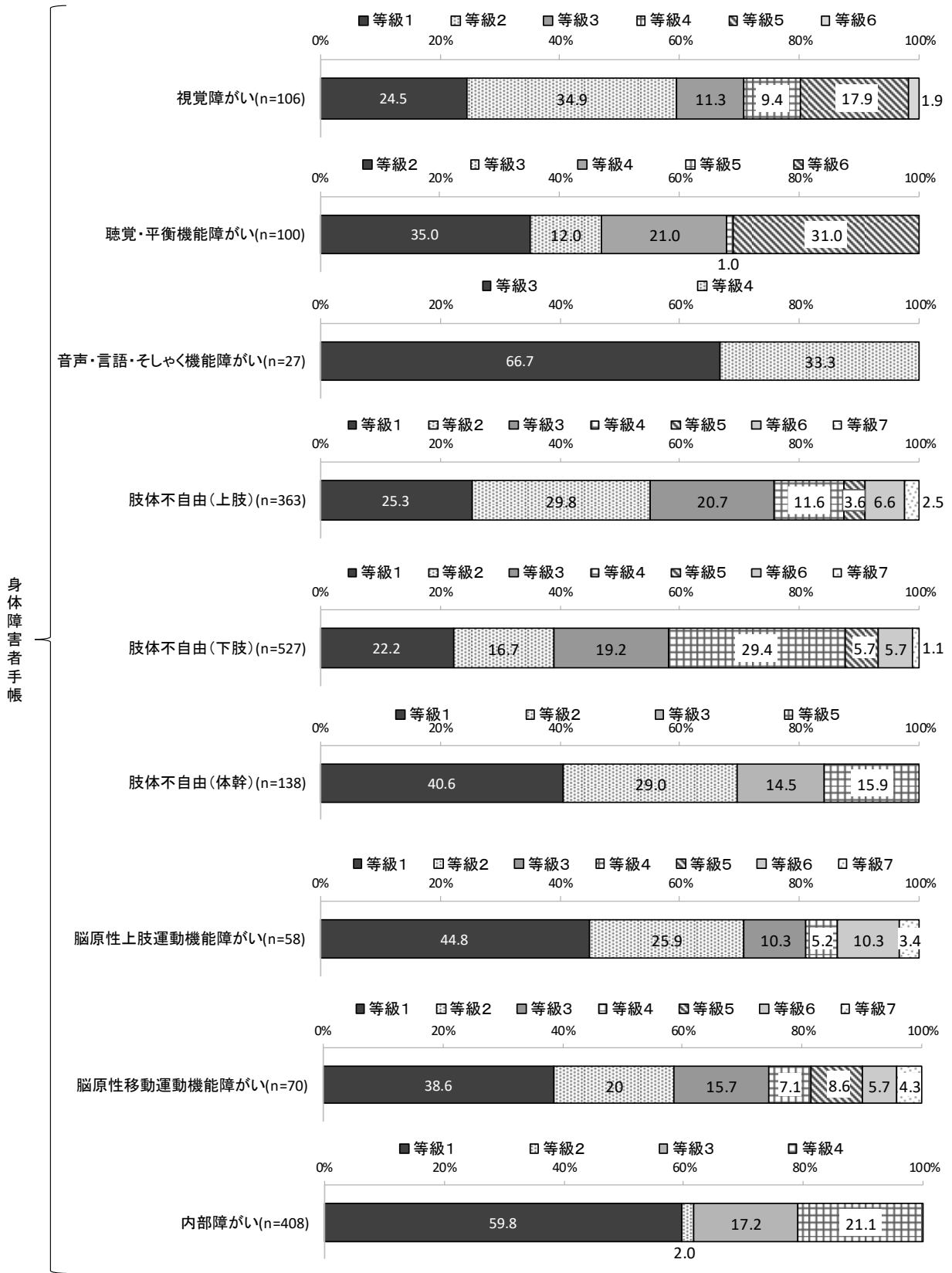
(3) 手帳の種類

問3 あなたの手帳の種類と程度を教えてください。(あてはまるもの全てに○)
また、難病のある方は、()内に病名又は番号をご記入ください。

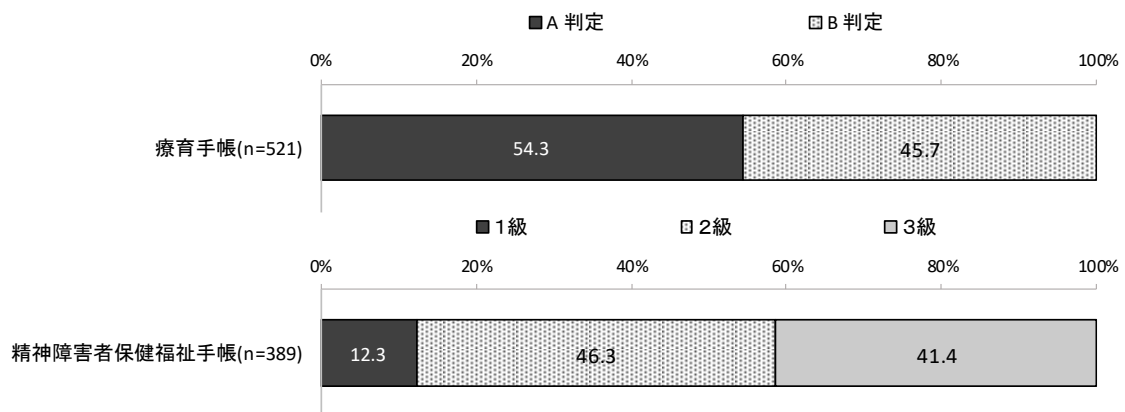
「身体障害者手帳」を所有している人は56.1%、「療育手帳」は23.4%、「精神障害者保健福祉手帳」は17.4%、「指定難病」は14.2%となっている。



<手帳の種類別の程度（等級・判定）>



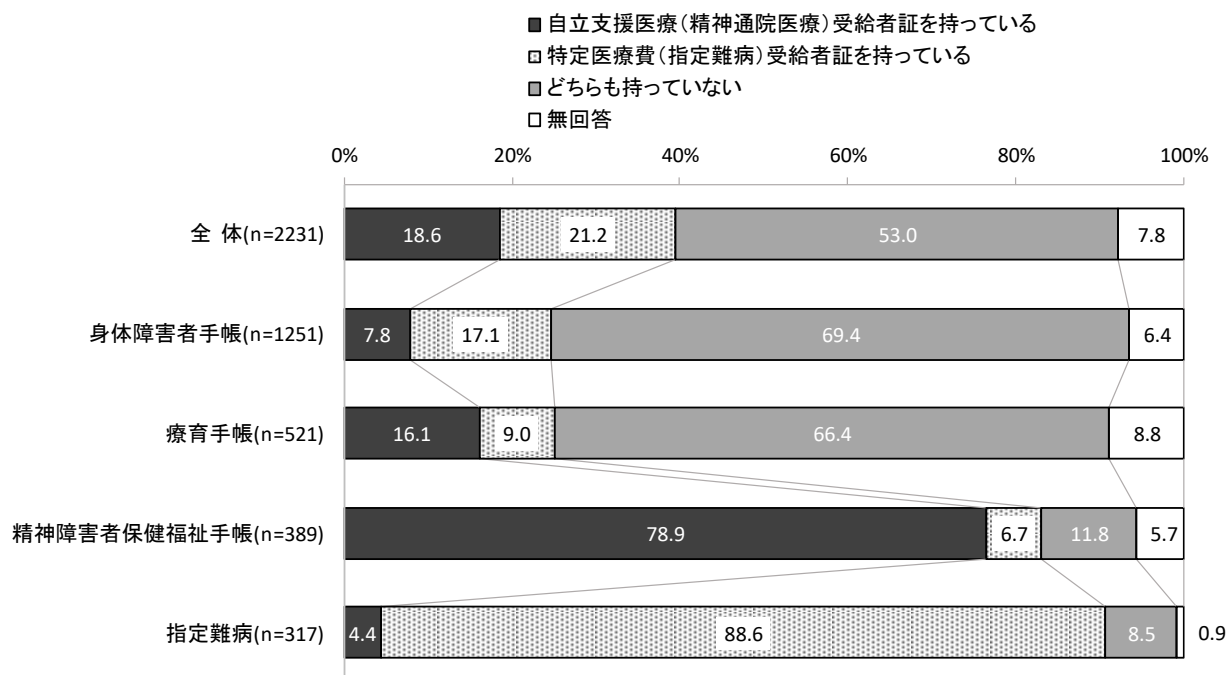
II 調査結果



(4) 自立支援医療受給者証・特定医療費受給者証の有無

問4 次の中から、あなたがお持ちのものをお答えください。(〇はいくつでも)

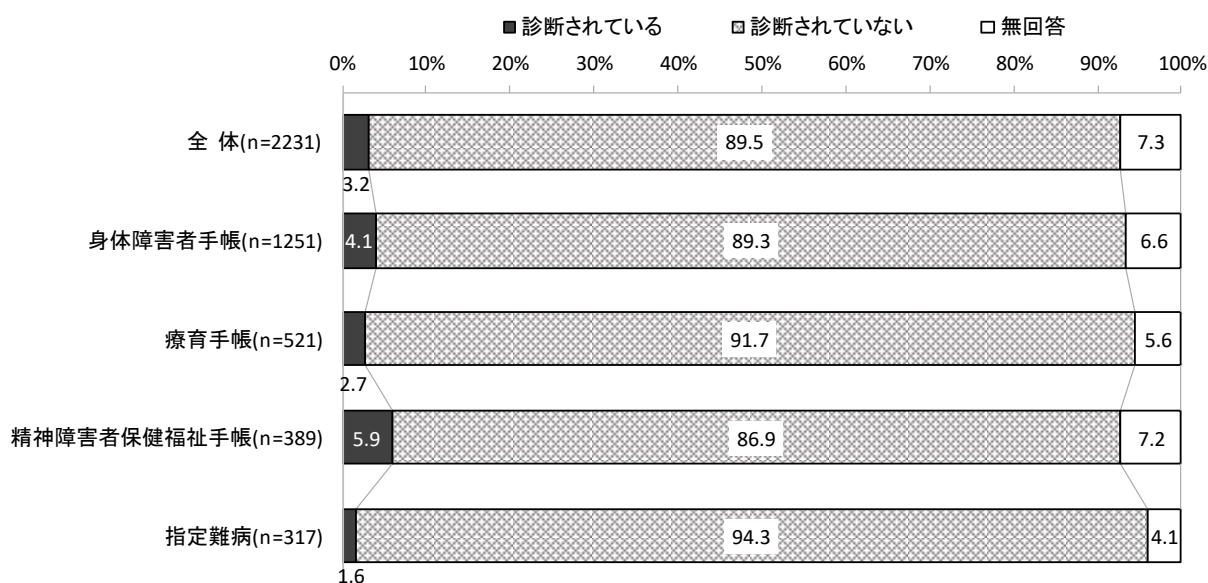
「自立支援医療受給者証」を持っている人は、全体の18.6%。身体障害者手帳所有者では7.8%、療育手帳所有者は16.1%、精神障害者保健福祉手帳所有者は78.9%、指定難病者は4.4%となっている。



(5) 高次脳機能障がいの診断

問5 あなたは、高次脳機能障がいと診断されていますか。(〇は1つ)

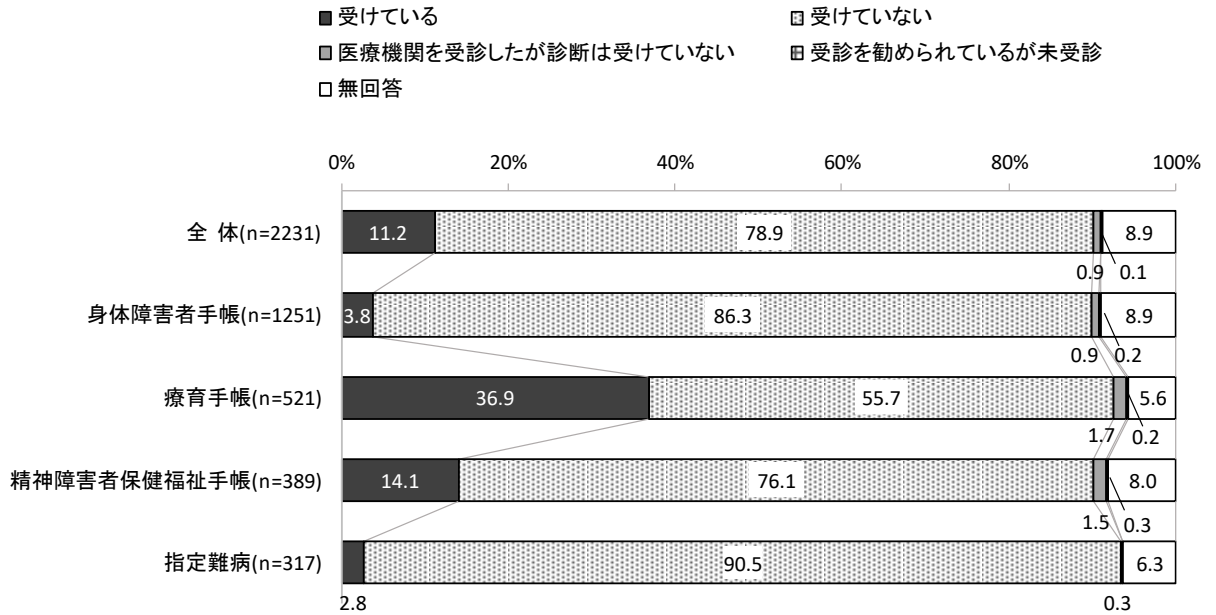
高次脳機能障がいと「診断されている」は、全体の3.2%となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者は5.9%と他と比べてやや高くなっている。



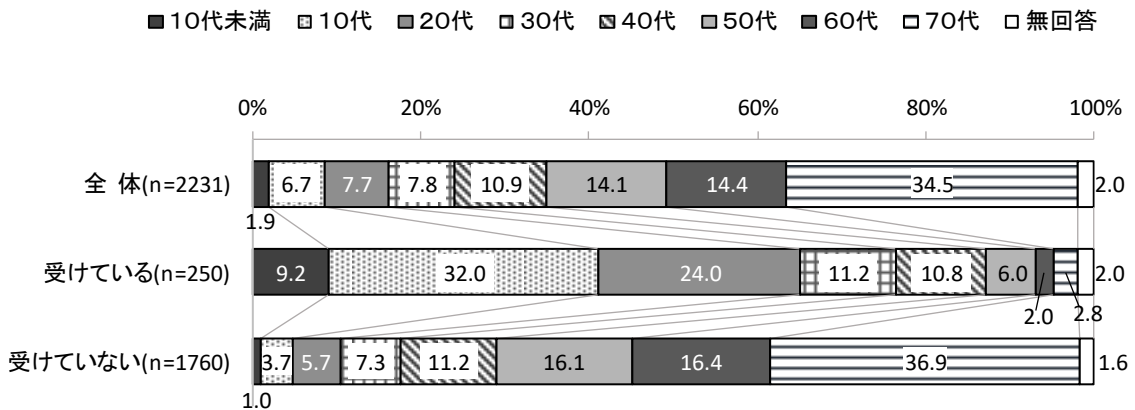
(6) 発達障がいの診断状況

問6 発達障がいの診断を受けていますか。(○は1つ)

発達障がいの診断を「受けている」人は、全体の11.2%。療育手帳所有者では36.9%となっている。

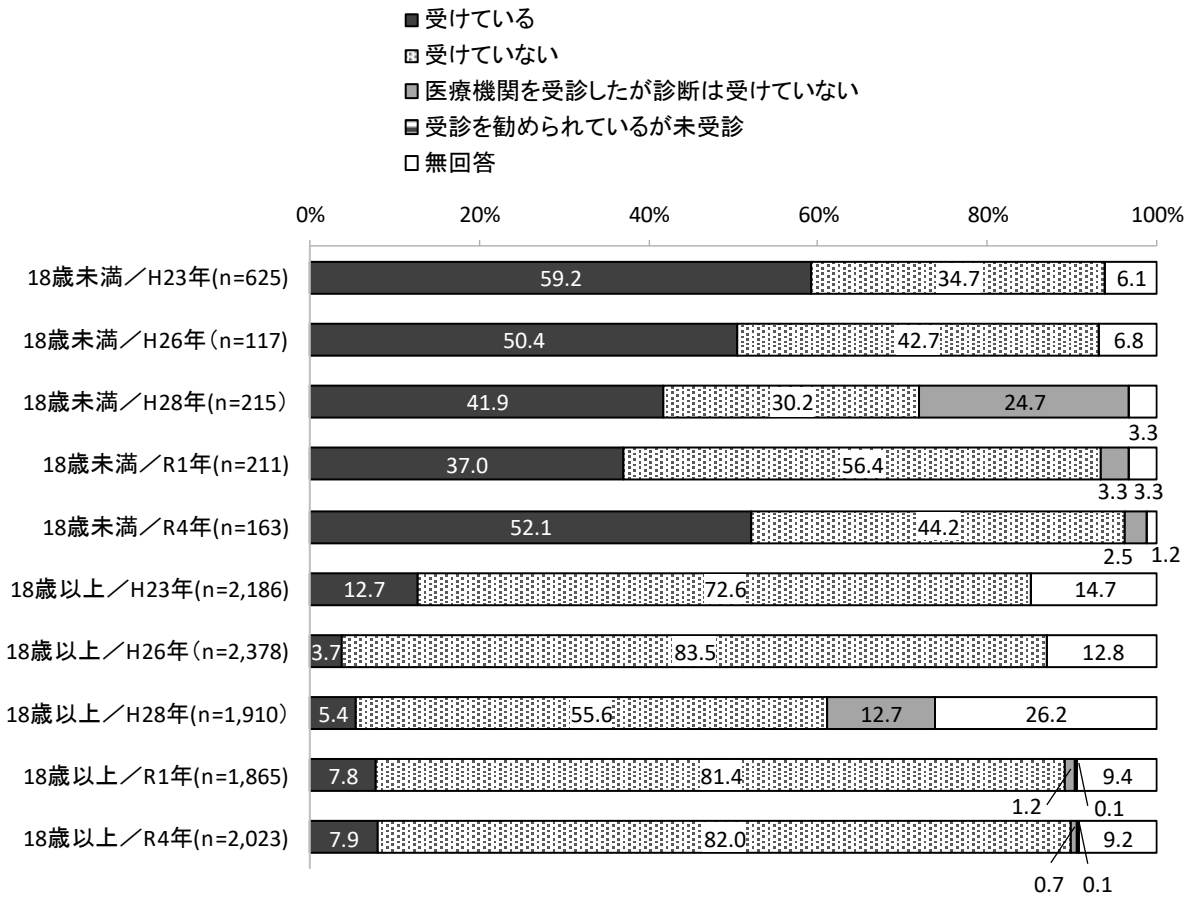


<年齢別>



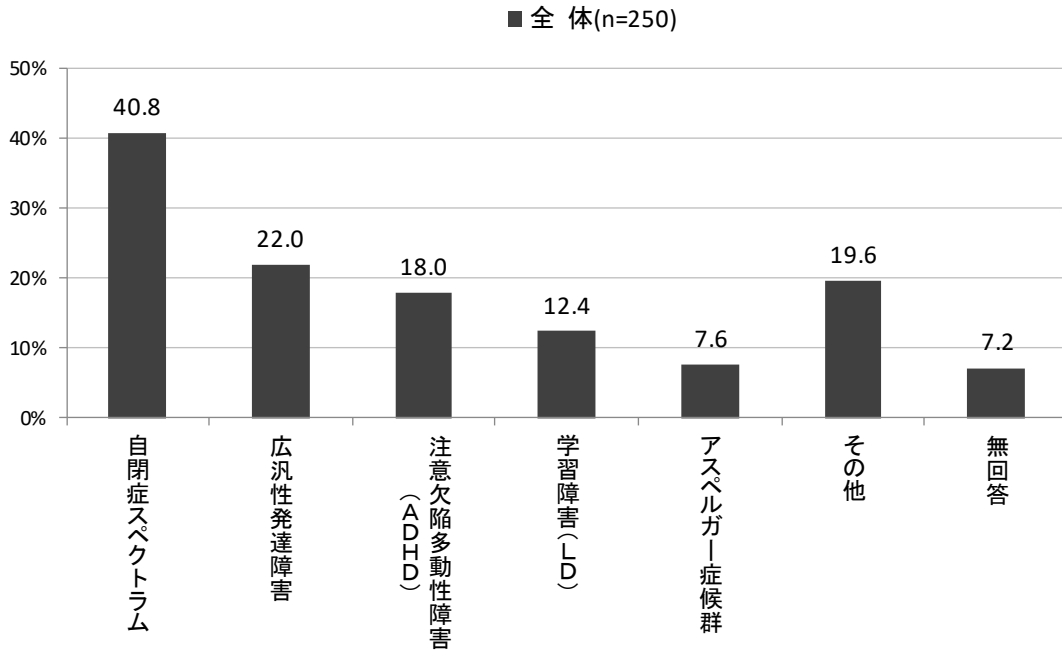
<経年変化>

18歳未満の発達障がいの診断を「受けている」人の割合は、令和元年まで減少傾向にあったが、令和4年は52.1%と、過去2番目に高くなっている。



付問① その診断名をお答えください。(〇はいくつでも)

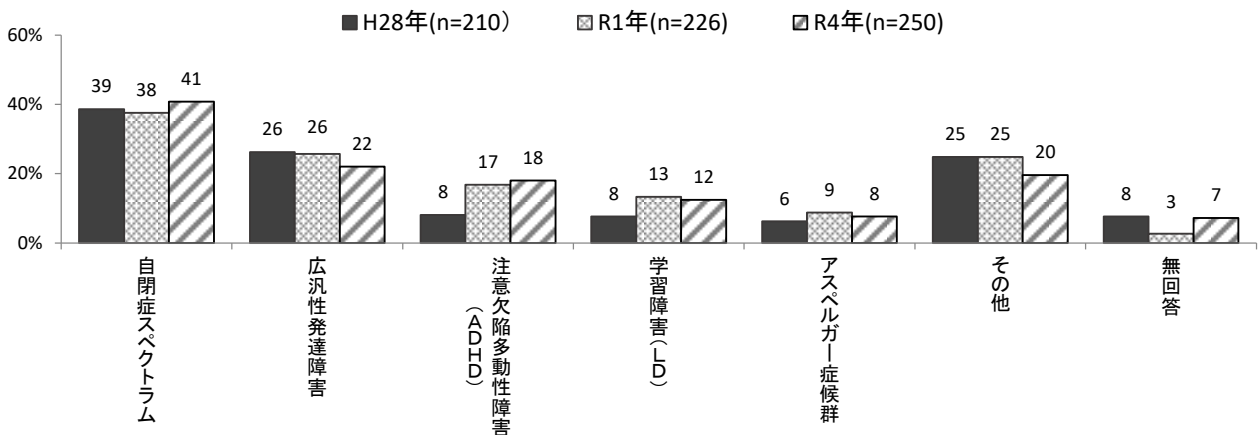
「受けている」と回答した人に診断名をたずねたところ、「自閉症スペクトラム」が最も高く、40.8%。次いで「広汎性発達障害」22.0%となっている。



(その他)

知的障害(16件)/発達障害(2件)/ダウン症(9件)/心機能障害(2件)/自閉症(2件)/てんかん(2件)/脳性マヒ(2件)/統合失調症/チック症/レット症候群/遺伝子異常/音声・言語の発達障害/歌舞伎メーキャップ/関節リウマチ/幻聴/高次脳機能障害/酸素チューブ/疾患による四肢体幹機能障害/重症筋無力症/精神科/精神薄弱/言語機能障害/中皮発達遅延/聴覚の治療/適応障害/発達症/発達地帯/類疱疹/病名なし

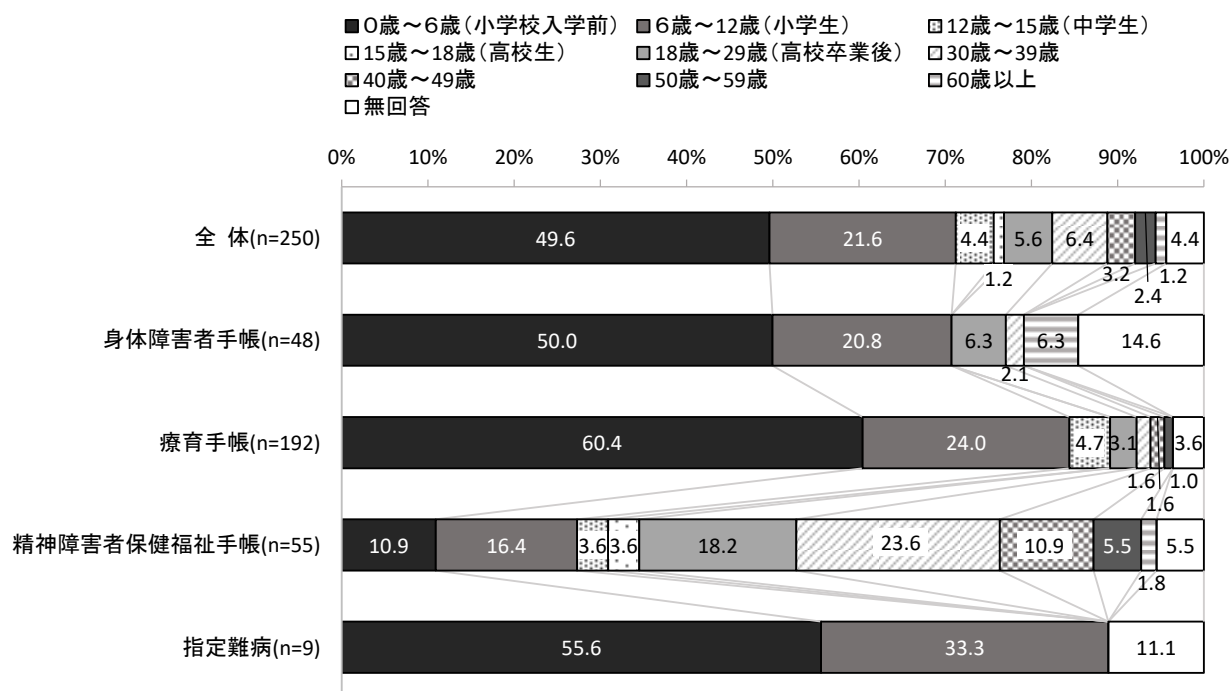
<経年変化>



付問② 診断を受けた時期をお答えください。(〇は1つ)

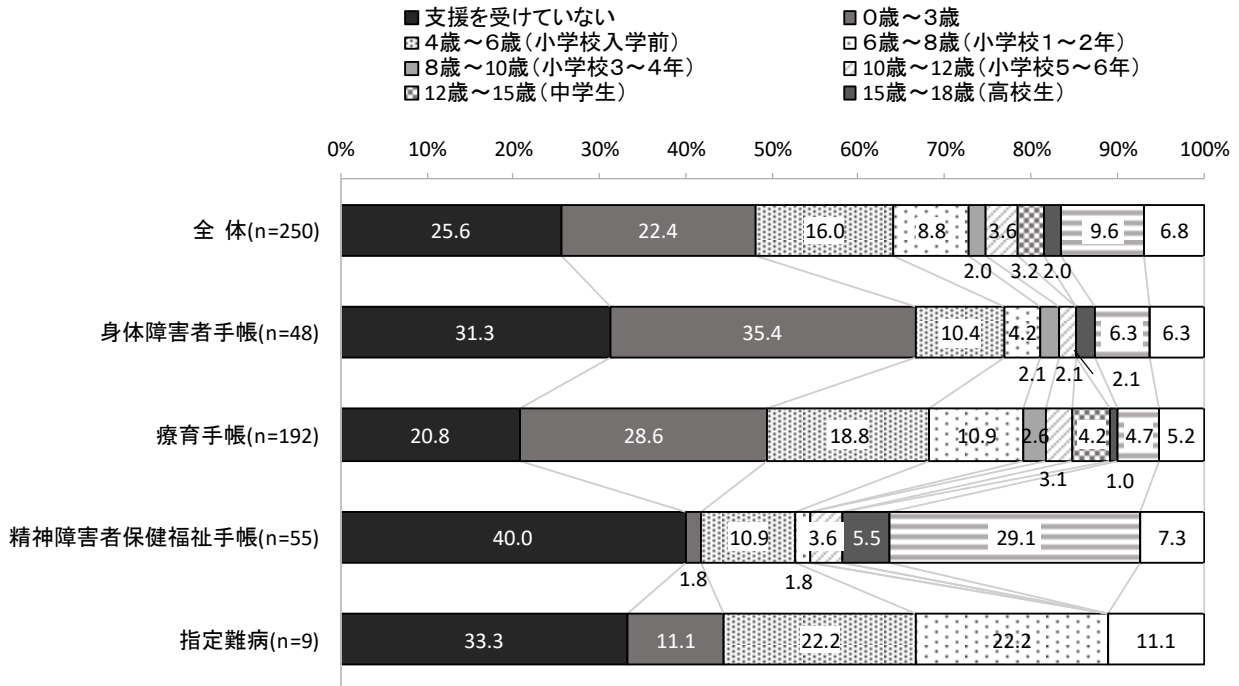
「受けている」と回答した人に診断を受けた時期をたずねたところ、全体では「0歳～6歳(小学校入学前)」が最も高く、49.6%。次いで「6歳～12歳(小学生)」21.6%となっている。

精神障害者保健福祉手帳所有者では、「30歳～39歳」が最も高く、23.6%。



付問③ あなたは、発達障がいに関する支援を受けていますか。また、受けている場合はいつからですか。(○は1つ)

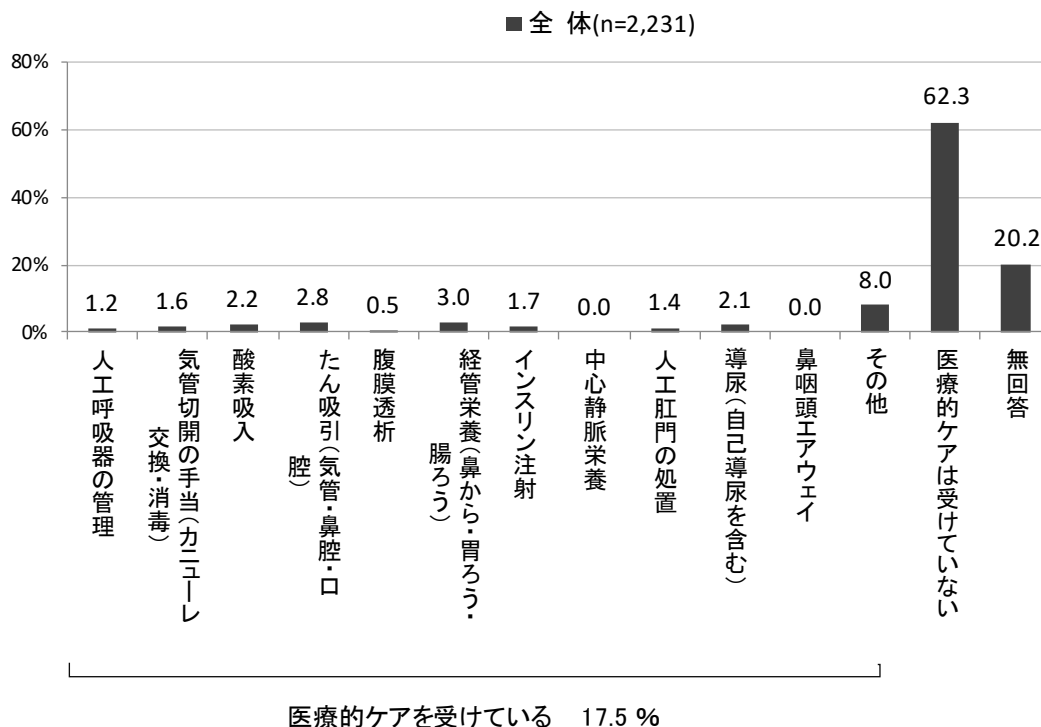
「受けている」と回答した人に発達障がいに関する支援を受けているか、受けている場合はいつからかをたずねたところ、「支援を受けていない」が全体の 25.6%。いつから受けているかは「0歳～3歳」が22.4%で最も高かった。次いで「4～6歳(小学校入学前)」16.0%となっている。



(7) 医療的ケアの有無

問7 あなたは、日常的に医療的ケアを受けていますか。(〇はいくつでも)

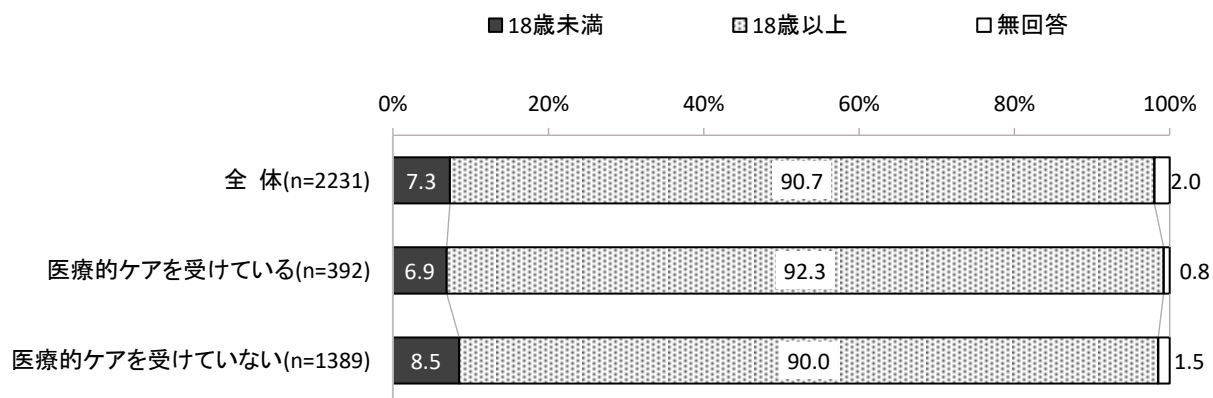
全体の17.5%が何らかの医療的ケアを受けている。



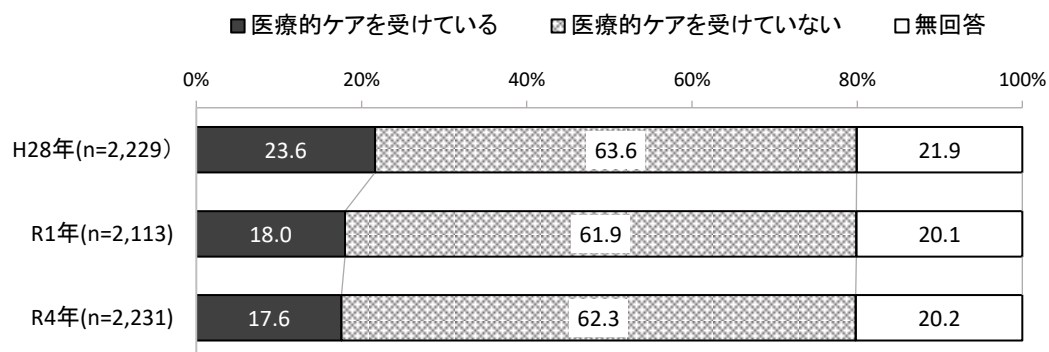
(その他)

人工透析(33件)/ペースメーカー(16件)/服薬(10件)/リハビリ(6件)/血液透析(5件)/通院(5件)/投薬(4件)/バルンカテーテル(3件)/精神科(3件) 高血圧(2件)/シーパップ(2件)/ホルモン注射(2件)/うつ病(2件)/マッサージ(2件)/定期検診(2件)/訪問診療(2件)/糖尿病/ラジカット/2ヶ月の外来/CAPA/インスリン薬/ADHD/ウロストミ/カウンセリング/ハレデイトロピンフレックスプロ/ベンリスタ皮下注射/ マッピング/まめな目薬/口の乾きを防ぐスプレー/リウマチ点滴治療/リウマチ生物学製剤アクテムラ/眼科・腎臓内科通院/吸入/胸にチューブを入れて液体の薬を入れている/在宅酸素/歯科/週一の注射/自己注射/注射シリンジ/心筋梗塞・予報脳卒中/心臓機能障害/心房細動/心臓弁膜症/脳梗塞/神経内科/人口マスク/人口さんしょう弁/睡眠時無呼吸症候群/赤・白血球の輸血/洗腸/前立腺肥大でカテーテルをつけている/定期的に心臓検診/畜尿袋/直腸機能障害/便秘症/てんかん/歩行困難/訪問看護師ストマー/両股関節人工関節/膀胱ろうの処置

<年齢別>



<経年変化>

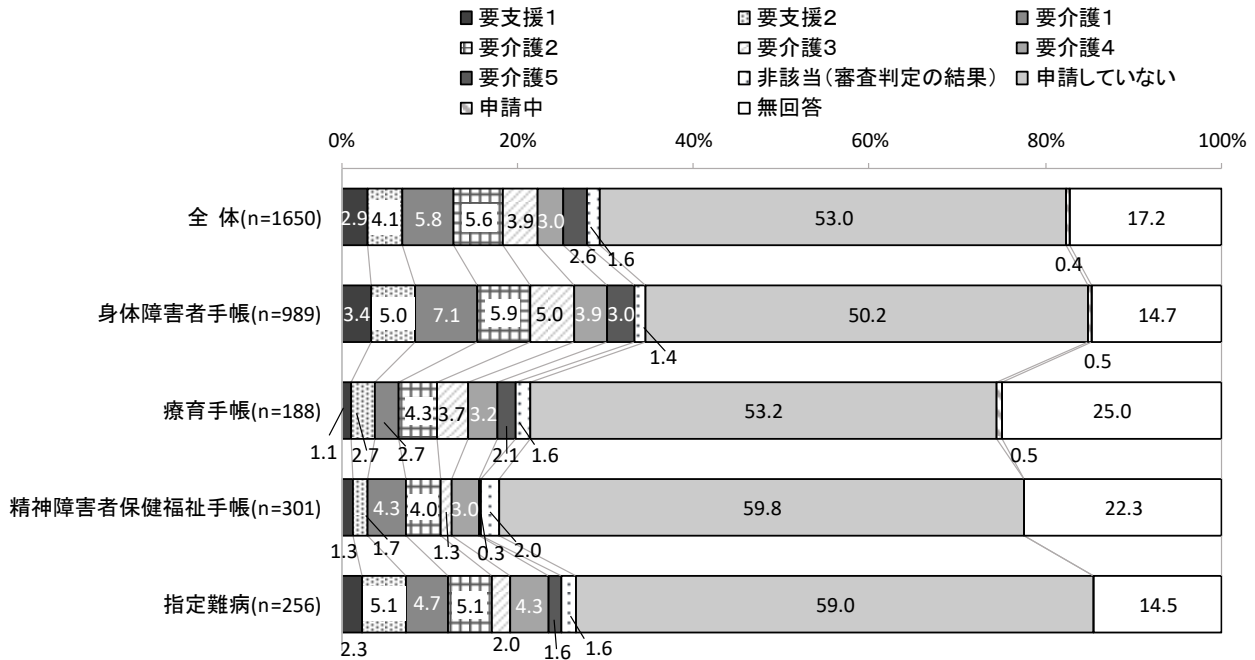


(8) 介護保険の要介護度

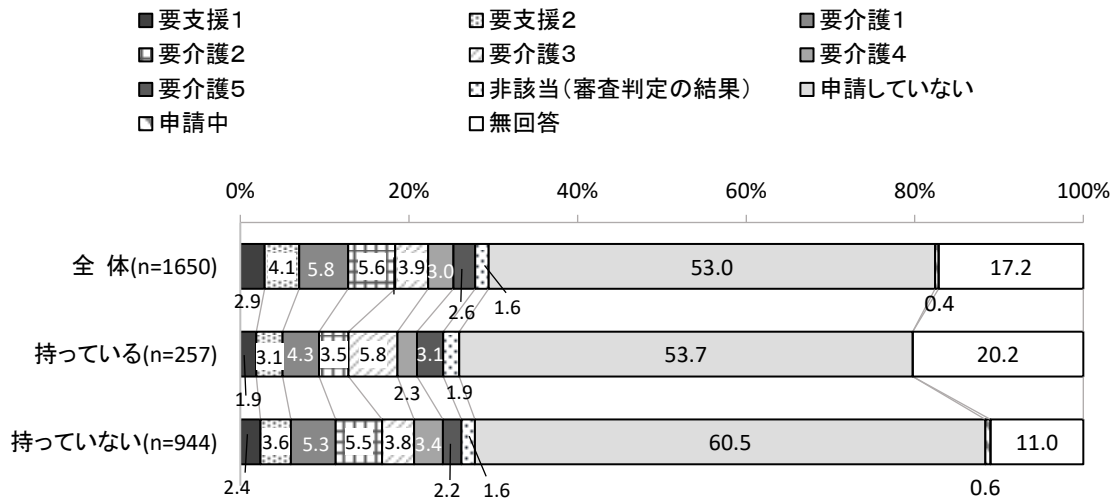
(ご本人が40歳以上の場合にお答えください。40歳未満の方は問9へ)

問8 あなたは、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は、要介護度をお答えください。(〇は1つ)

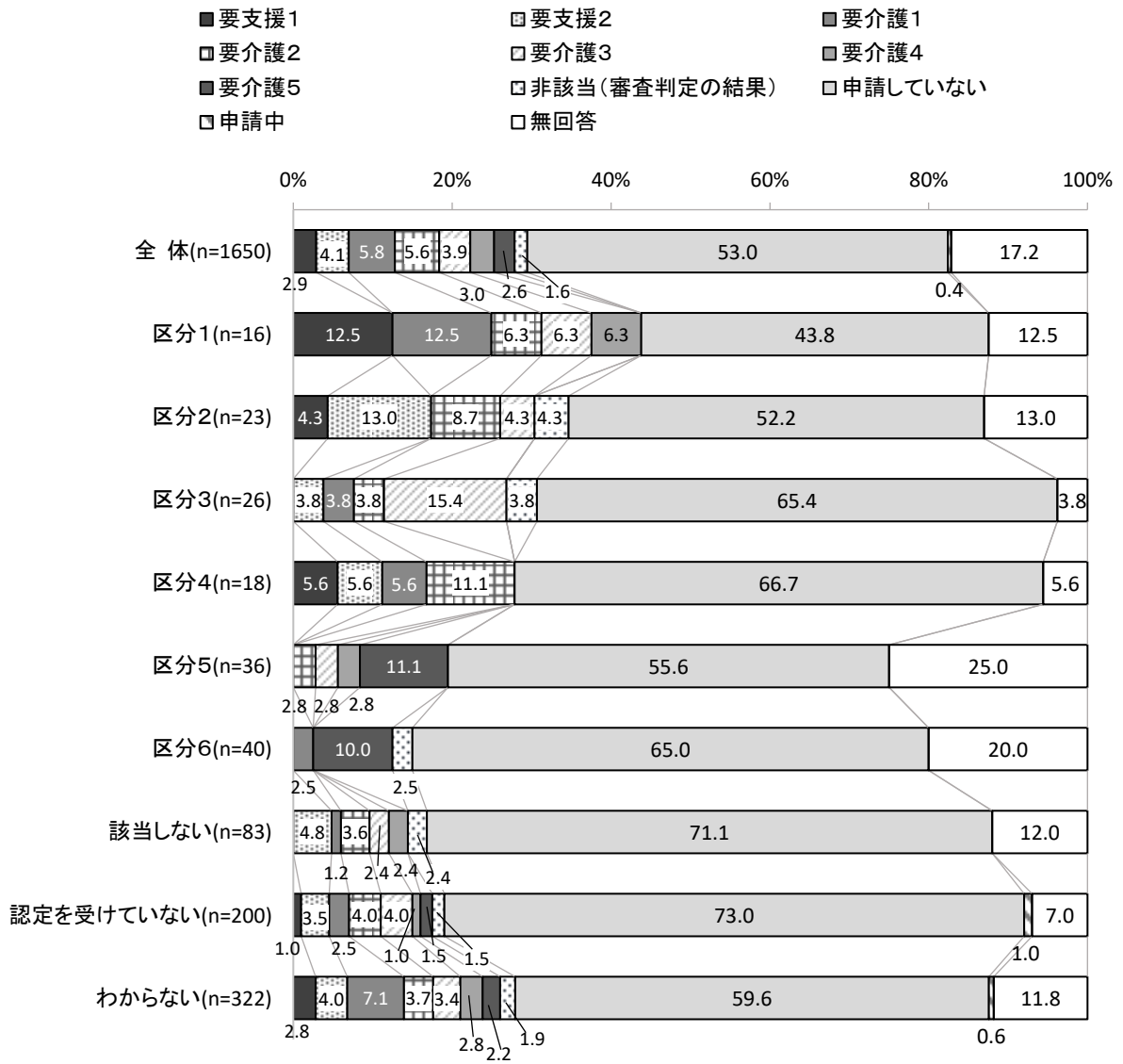
「要支援」の認定を受けているのは全体の7.0%。「要介護」は20.9%。



<障害福祉サービス受給者証の所有別>



<障害支援区分別>



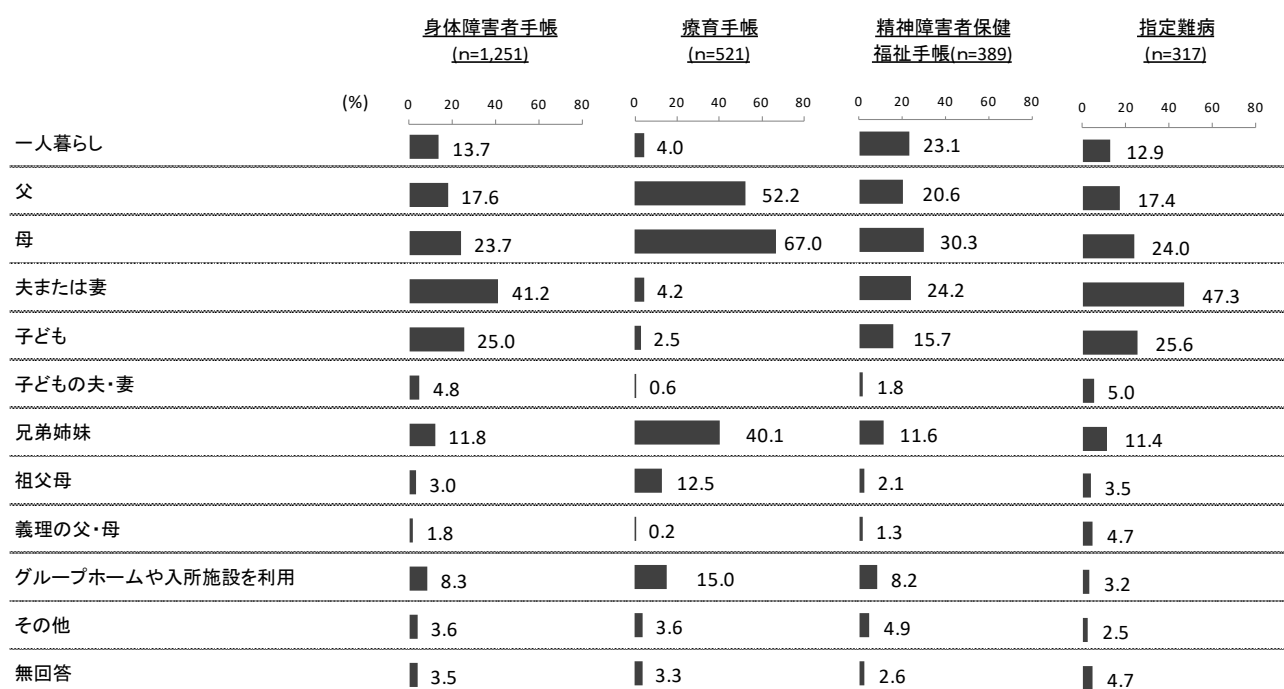
2. ご家族や支援者について

(1) 同居者

問9 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所有者と指定難病者では「夫または妻」の同居率が高く、療育手帳所有者では「母」と「父」の同居率が高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「母」と「夫または妻」と同居している人の割合が高めだが、「一人暮らし」の割合も高め。

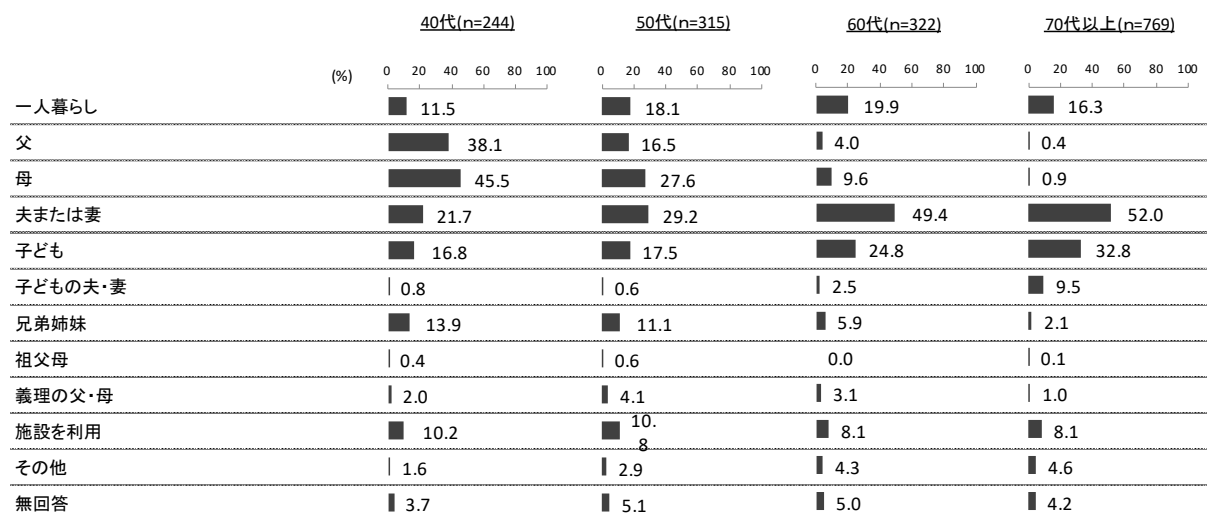
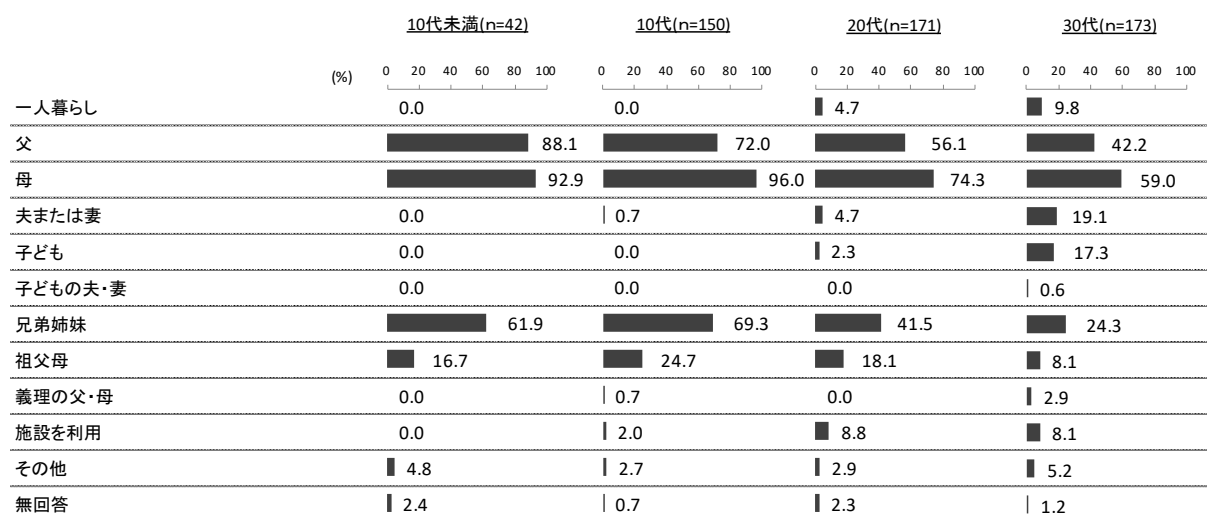
年齢別では10代以下では「母」が9割以上と高く、20代から30代でも「母」が5～7割台、「父」が4～5割と、30代以下では親と同居している割合が高い。



(その他)

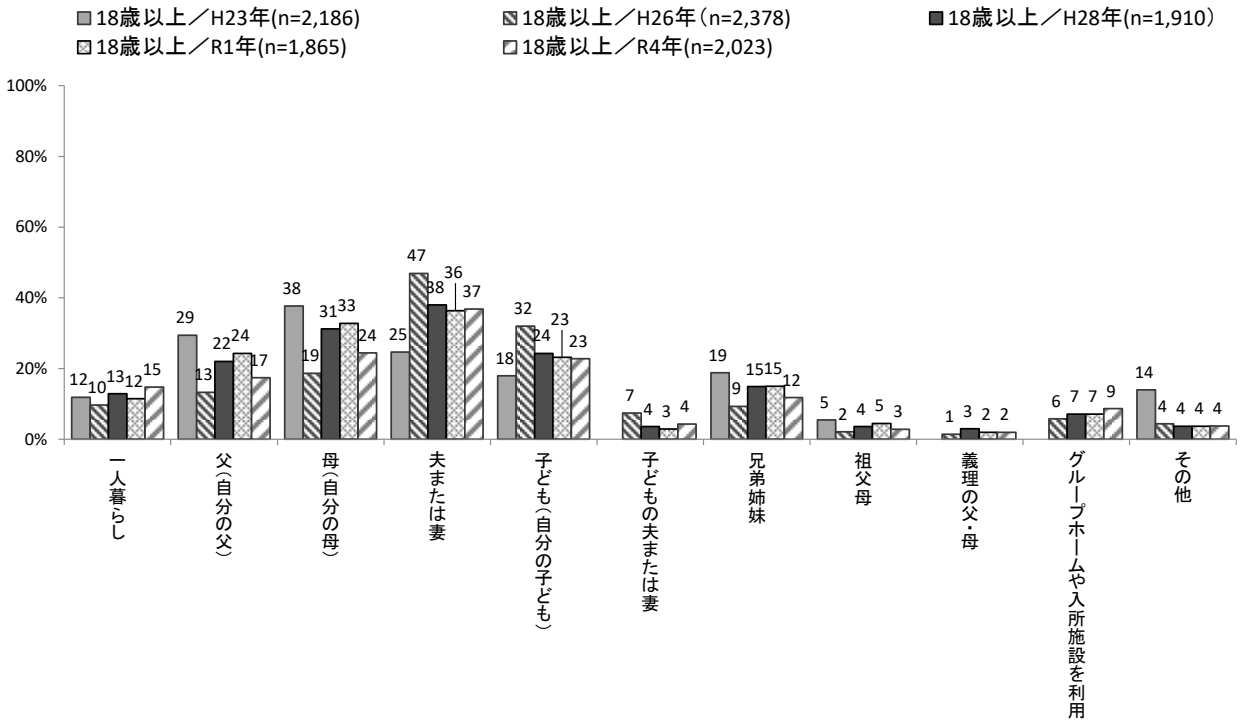
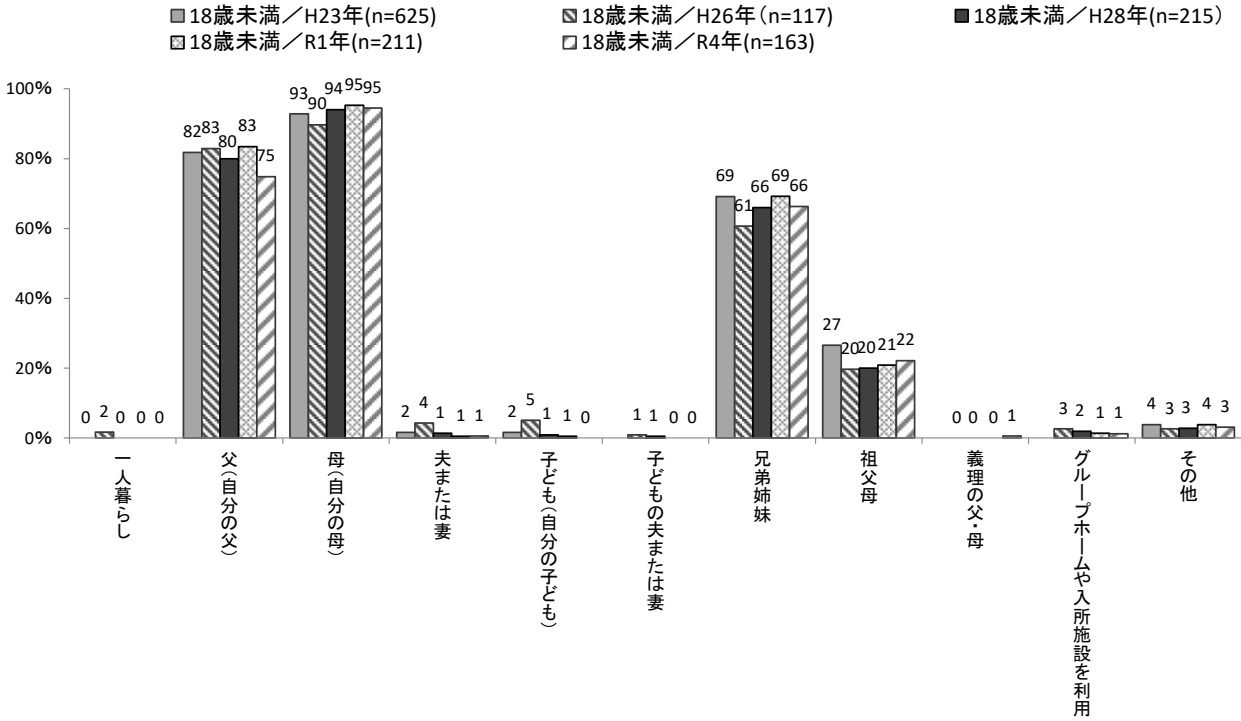
入院中(18件)/孫(15件)/姪(2件)/有料老人ホーム(2件)/友人(2件)/叔父(2件)/叔母(2件)/寮/叔母、叔父/介護付有料老人ホーム/義姉/義妹/介護者/シェアハウス/パートナー/孫、曾孫/息子夫婦・孫1家/孫の夫/兄/兄の友人/兄弟の子供/姉が時々来ている/曾祖母/祖母/弟/同居人/内縁の夫/二世帯/彼氏/彼女/夫/夫と子供/夫妻/父母兄弟姉妹/妹/福祉ホーム/30年前から亡姉の子供を引き取って今は籍に入り同居している

<年齢別>



<経年変化>

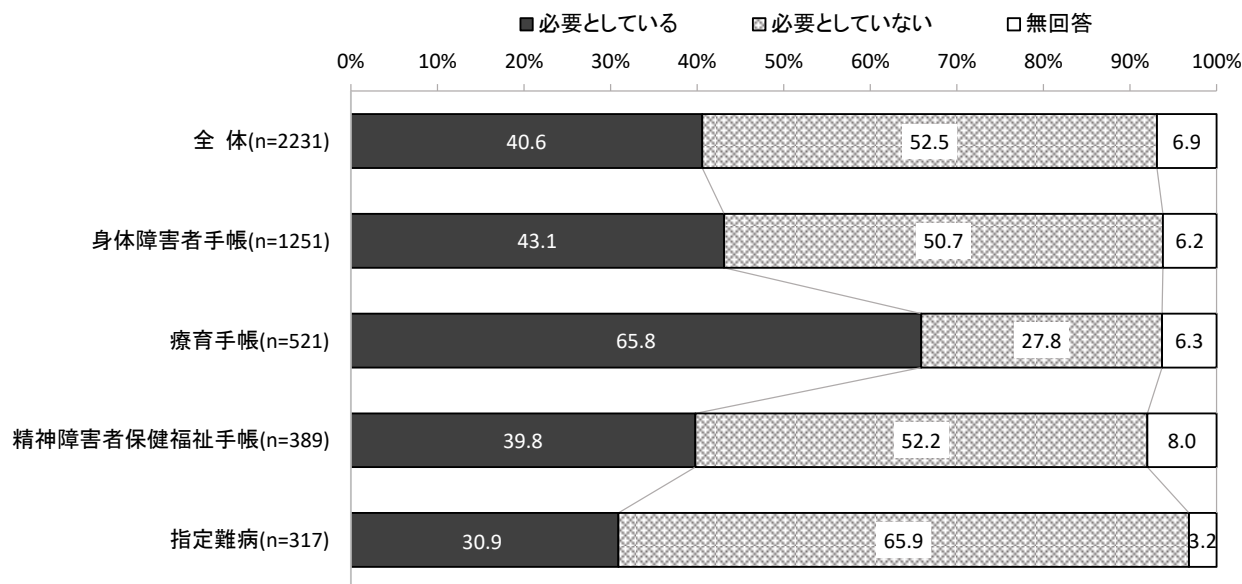
平成26年・28年、令和元年の調査結果と比較すると、18歳以上においては「父」「母」「兄弟姉妹」と同居している人の割合が低くなっており、「一人暮らし」の割合が高くなっている。



(2) 普段の生活での介助又は支援

問 10 あなたは、普段の生活で介助又は支援を必要としていますか。(○は1つ)

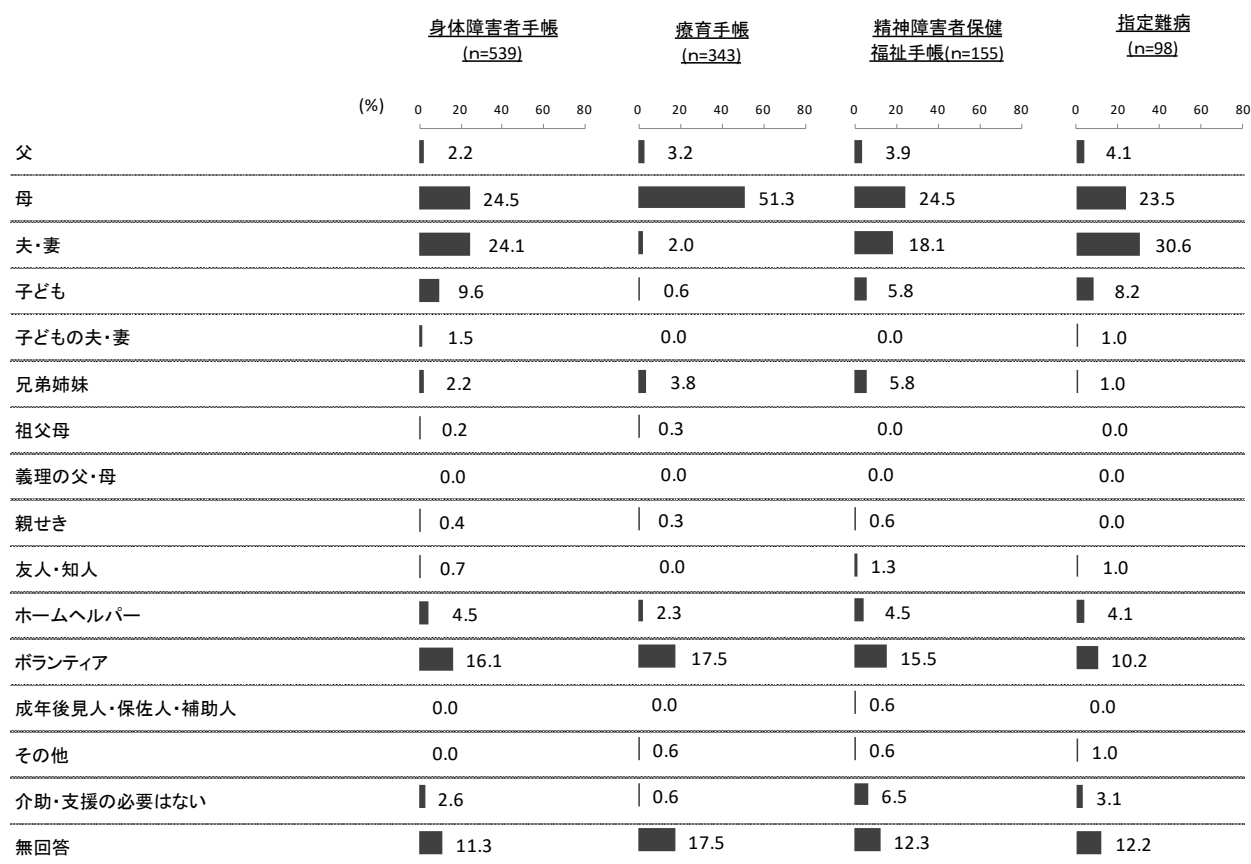
全体としては普段の生活で介助又は支援を「必要としている」は40.6%、「必要としない」は52.5%となっている。「必要としている」を手帳所有者別でみると、療育手帳所有者は65.8%と他と比べて多くなっている。次いで身体障害者手帳所有者の43.1%、精神障害者保健福祉手帳所有者の39.8%と続く。指定難病所有者は「必要としない」が65.9%と他と比べて高くなっている。



付問① 主な介助者又は支援者は誰ですか。(○は1つ)
 付問① 主な介助者又は支援者は誰ですか。(○は1つ)

付問① 主な介助者又は支援者は誰ですか。(○は1つ)

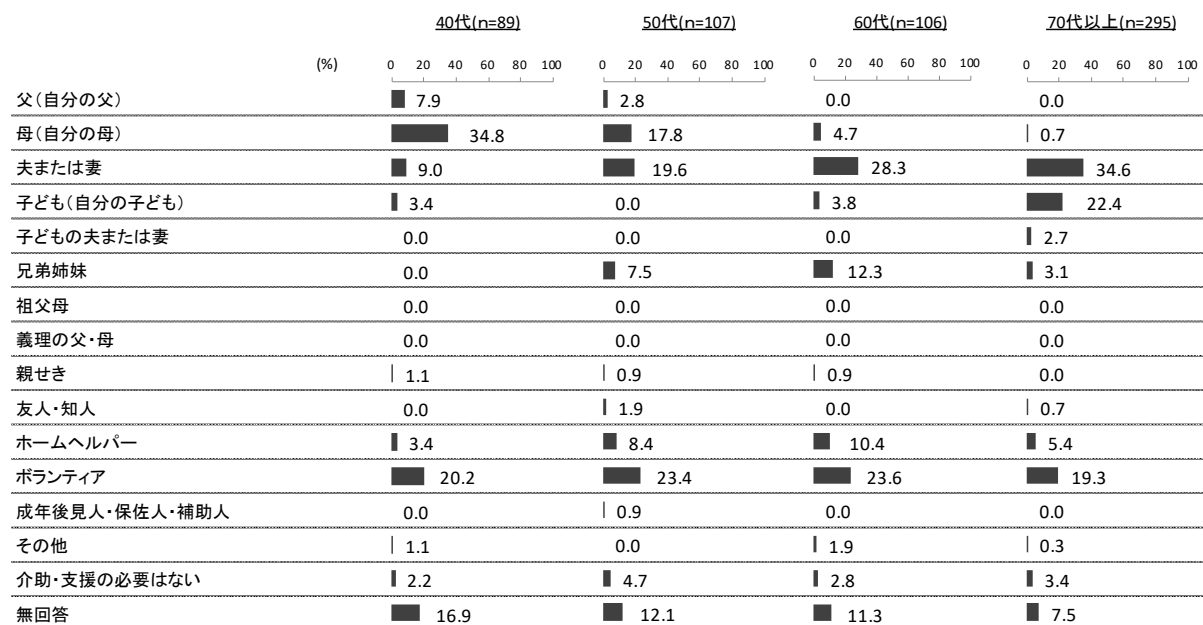
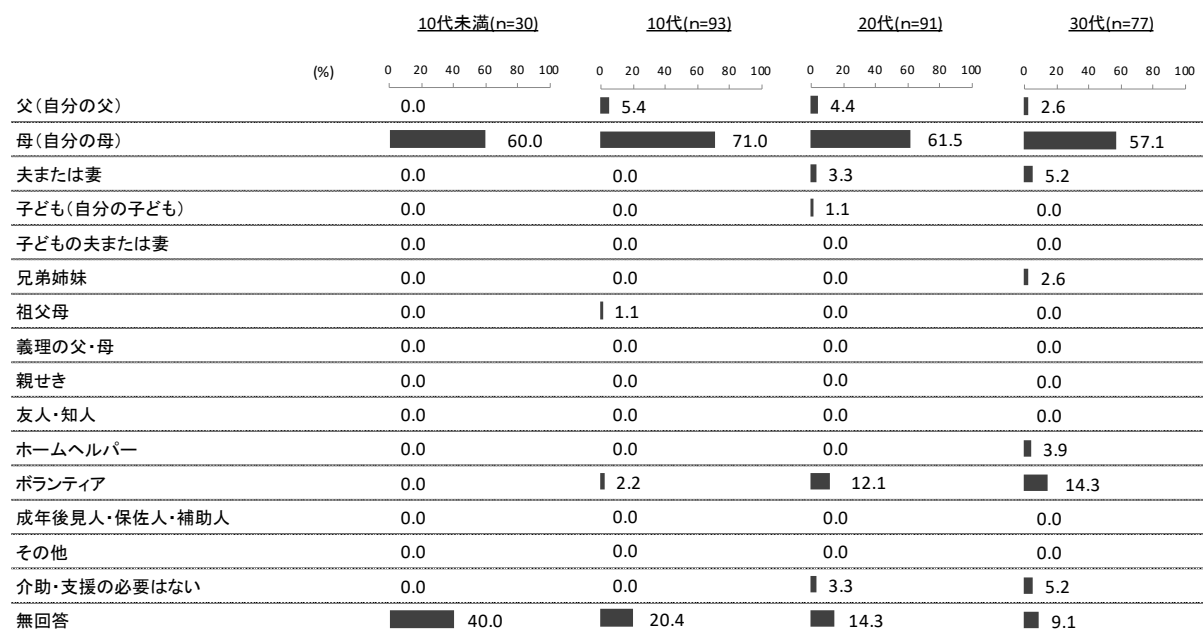
付問① 主な介助者又は支援者は誰ですか。(○は1つ)



(その他)

施設職員(5件)/訪問看護師(5件)/病院職員(3件)/病院入院(2件)/妹/民生委員/GH職員/NPO団体の支援員/一般社団法人/家政婦/看多機、ヘルパー・ケアマネ/兄/サービスを受ける時の手続きが複雑で大変/権利擁護/国/市登録手話通訳者/市内局/静岡市市民生活課/自分/同行援護/内縁の夫/医師にホームヘルパーをすすめられている/訪問看護に依頼する予定

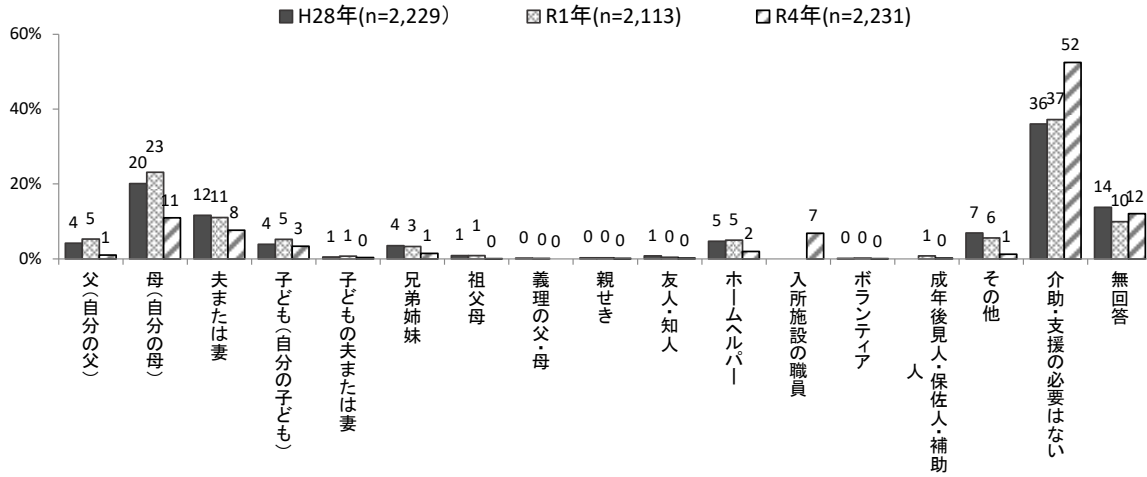
<年齢別>



<経年変化>

令和元年の調査結果と比較すると、「父」「母」「兄弟姉妹」「夫または妻」はいずれも減少した一方で、「介助・支援の必要はない」が増加している。

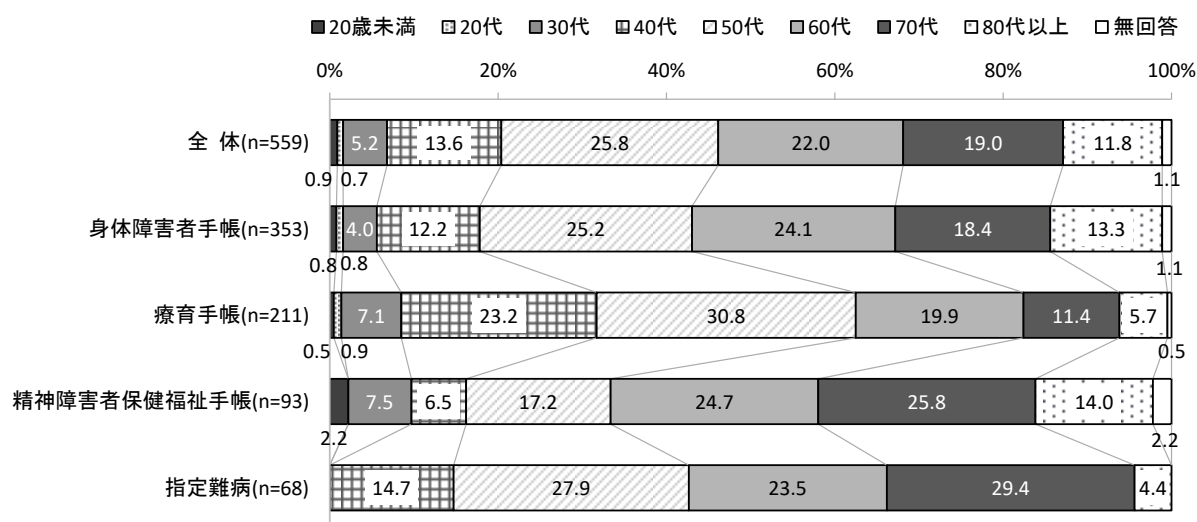
※ 「入所施設の職員」は令和4年調査より新設。



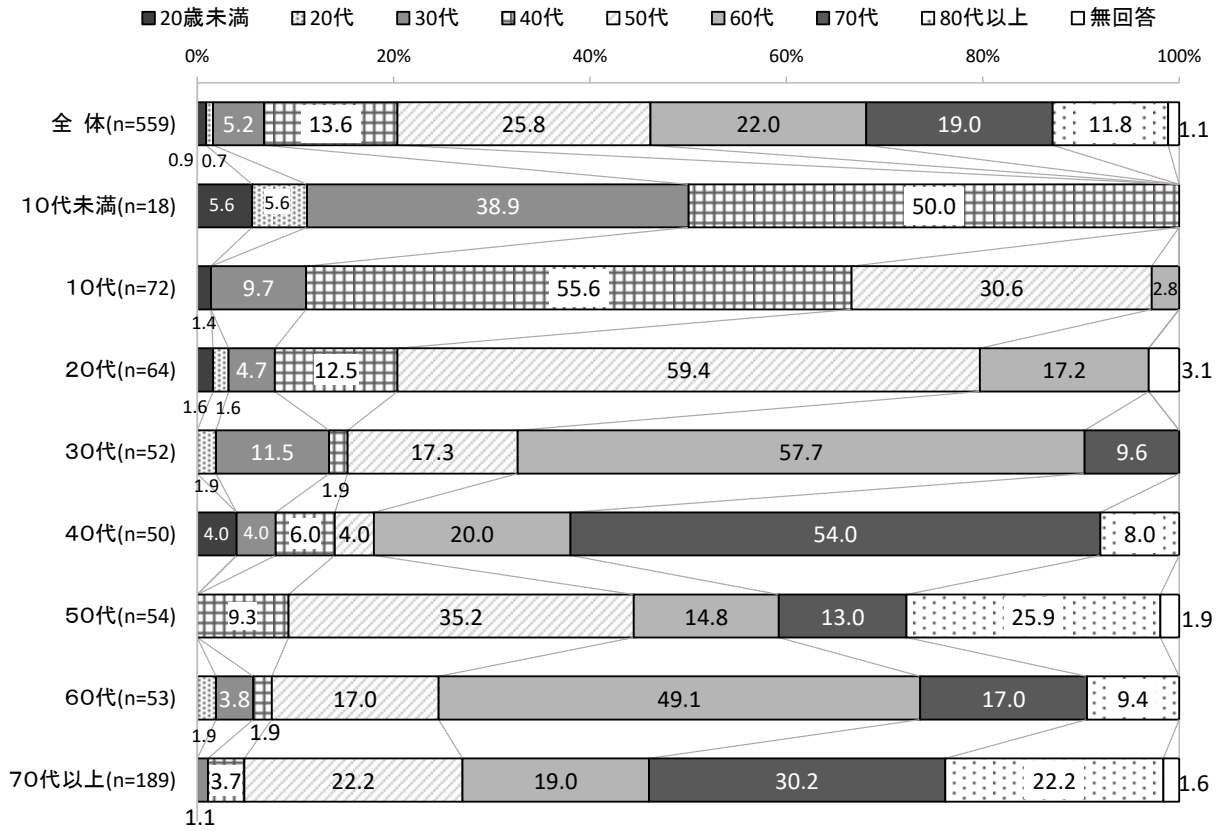
付問② (介助・支援をしている方にお伺いします)
 主な介助者又は支援者の年齢はいくつですか。(○は1つ)

主な介助者の年齢としては、精神障害者保健福祉手帳所有者で60代以上が6割を占めている。療育手帳所有者については「50代」が30.8%と最も高い。

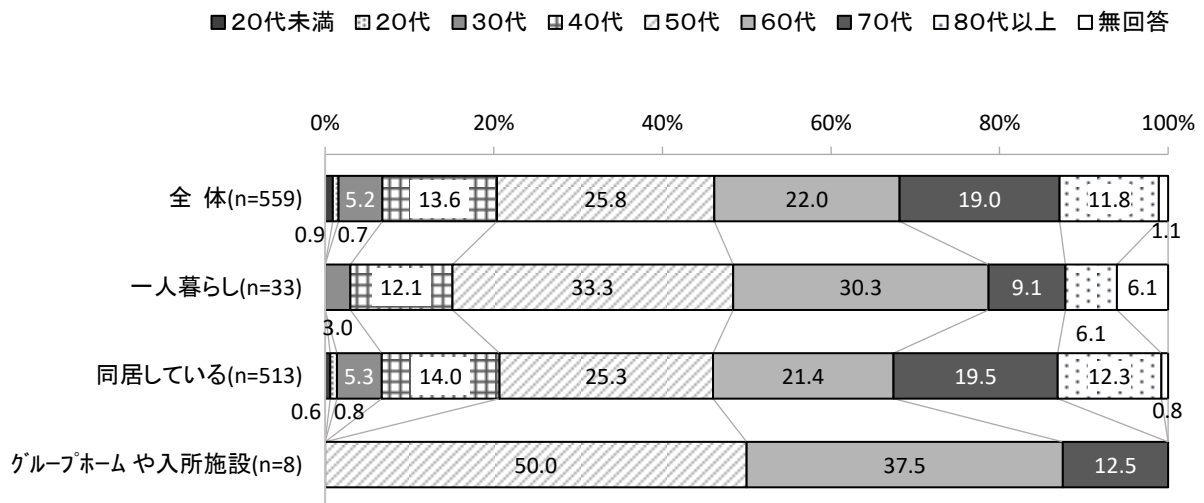
年齢別で見ると、40代以下では主な介助者が「母」であるため、20代では50代の介助者が、30代では60代の介助者の割合が高くなっている。50代以上になると、主な介助者は「夫・妻」となるため、介助者は同年代である割合が高い。



<年齢別>※本人年齢別

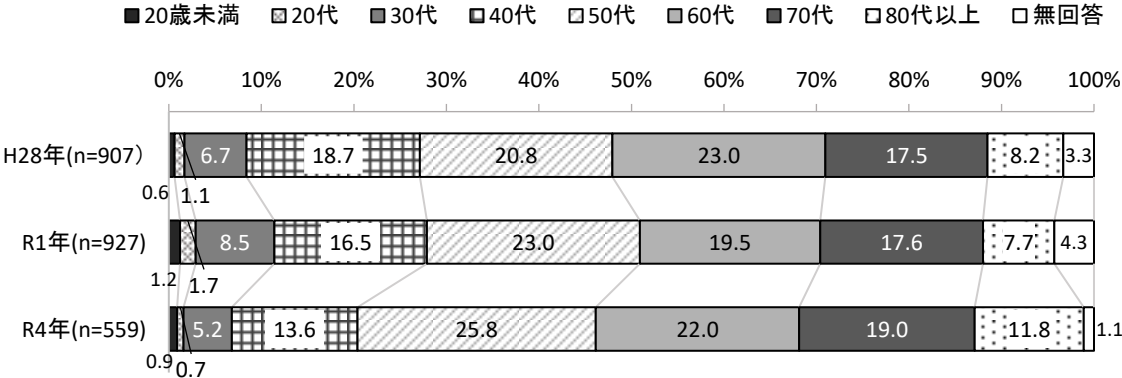


<同居の状況別>



<経年変化>

令和元年の調査結果と比べると、「30代」「40代」の割合が低くなっている。



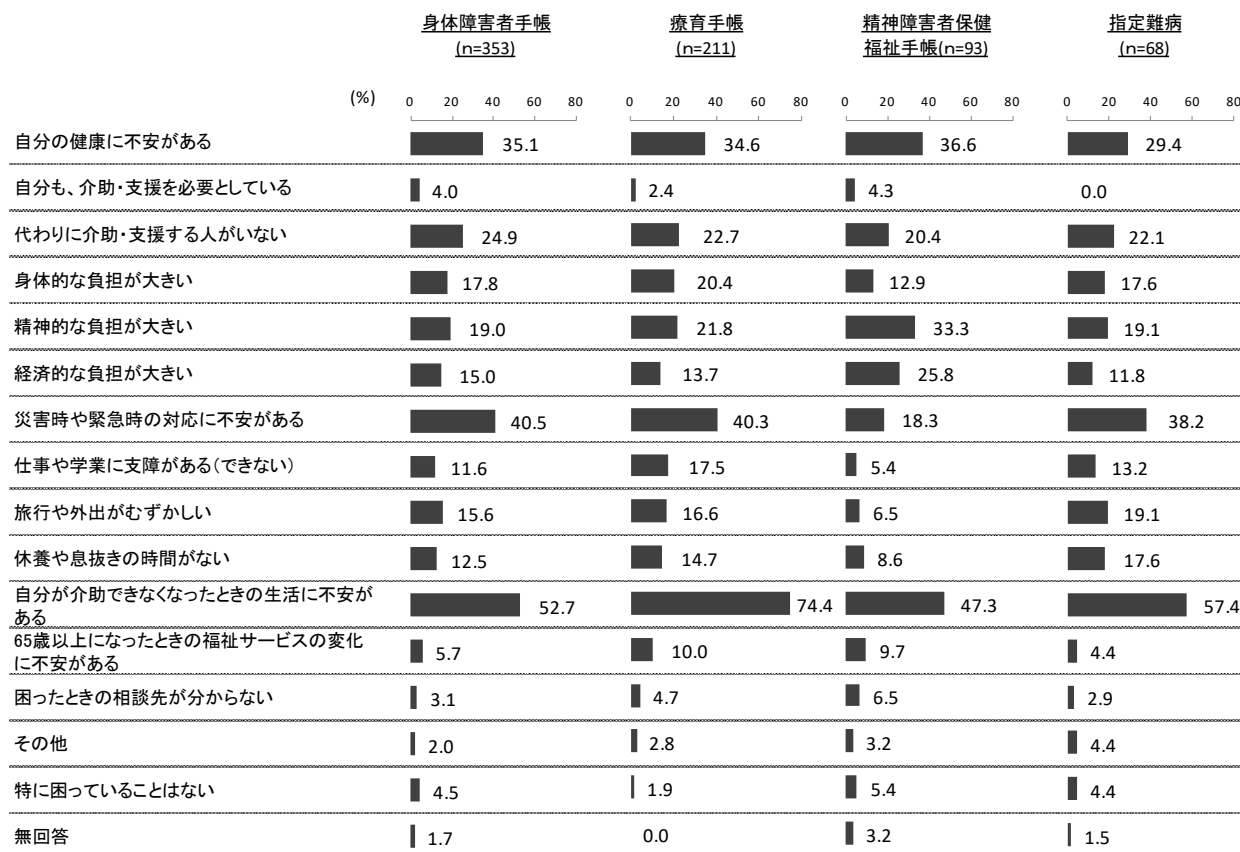
付問③ (介助・支援をしている方にお伺いします)
 介助・支援をしていて困ることは何ですか。(〇は3つまで)

介助・支援をする上で困っていることは、「自分が介助できなくなったときの生活に不安がある」が身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者では5割を越し、また精神障害者保健福祉手帳所有者も47.3%と最も高い割合となっている。次いで「災害時や緊急時の対応に不安がある」が身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者において約4割と高くなっている。また、4者とも「自分の健康に不安がある」「代わりに介助する人がいない」などの数値が高くなっている。

対象者の年齢別でみると、10代未満の障がい者を介助している人では「仕事ができない」が38.9%と高くなっている。

また、日常的に医療ケアを受けている障がい者を介助している人については、全般的に「災害時や緊急時の対応」、「自分の健康」に不安を抱えている人が高くなっている。

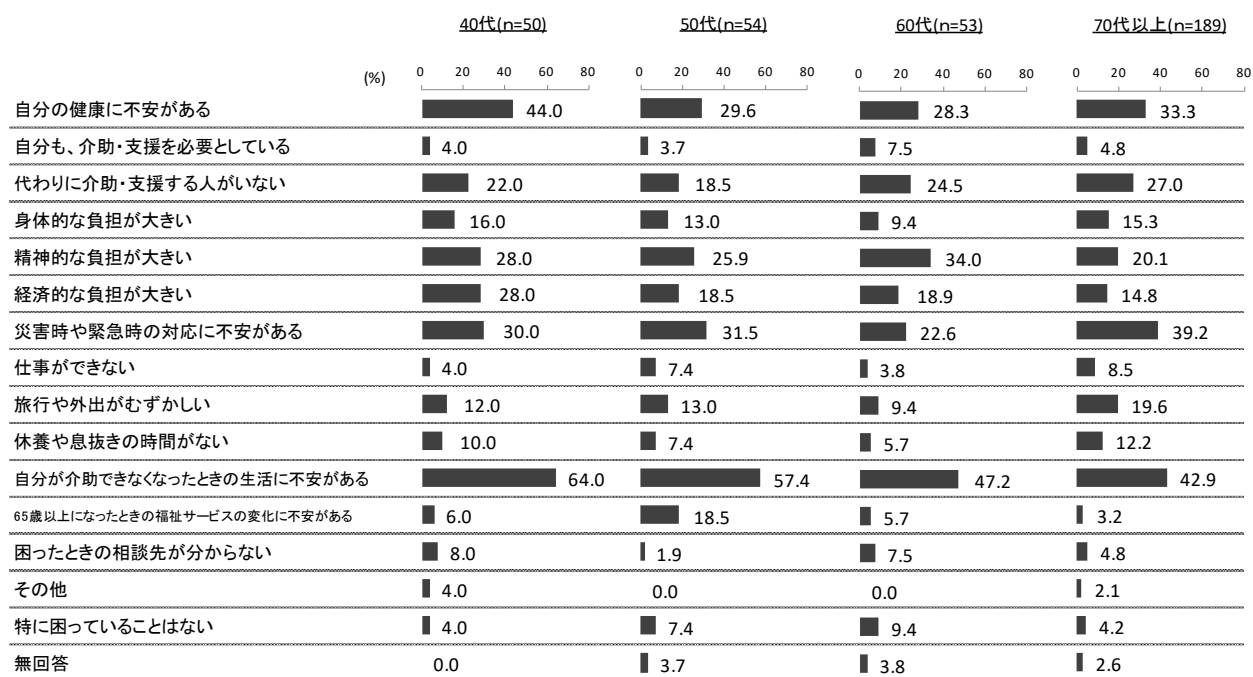
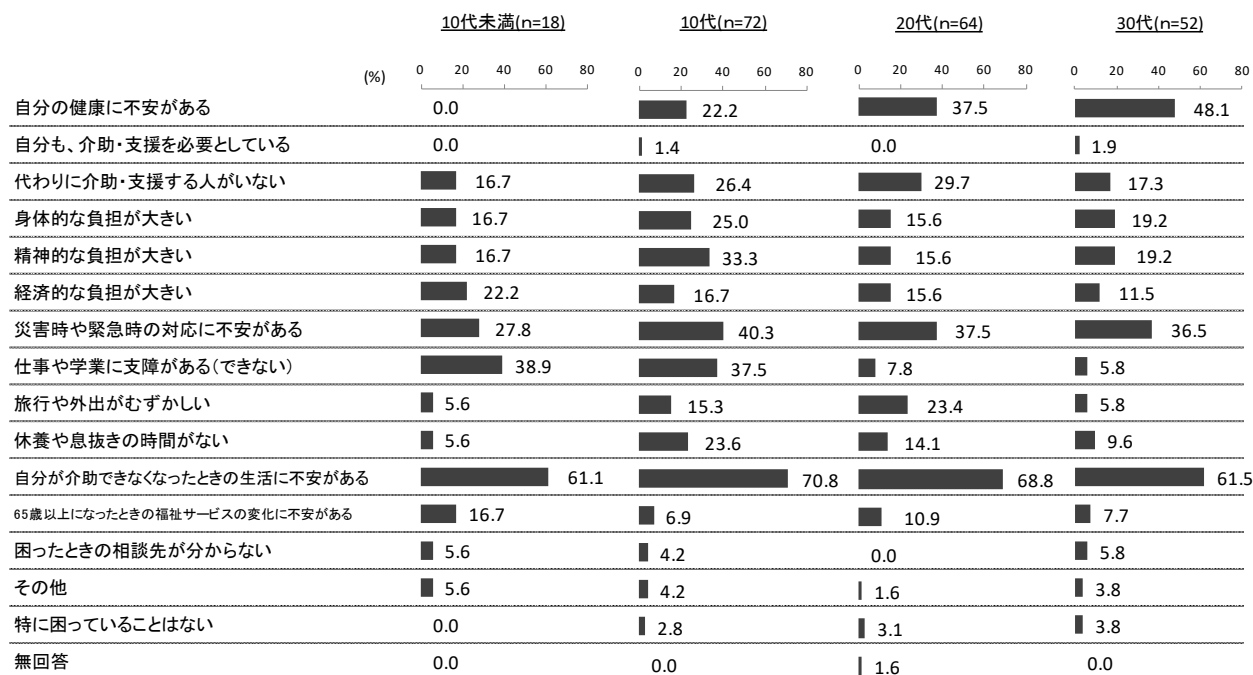
介助者の年齢別でみると、「自分の健康に不安がある」は、年代が上がるほど高くなり、特に70代以上で高い数値となっている。



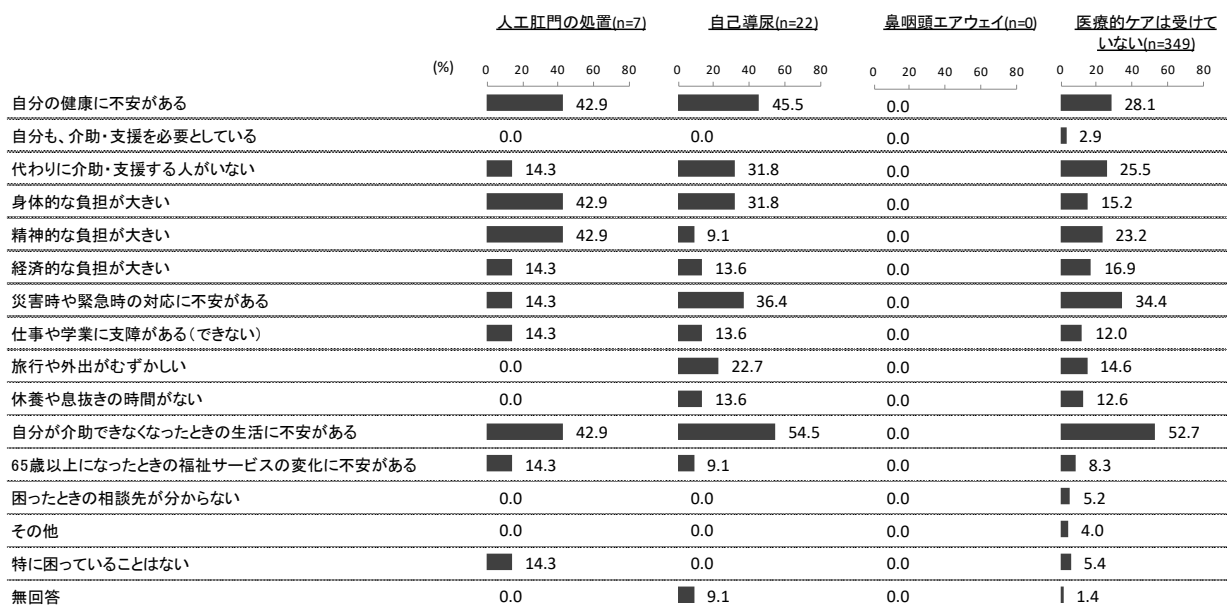
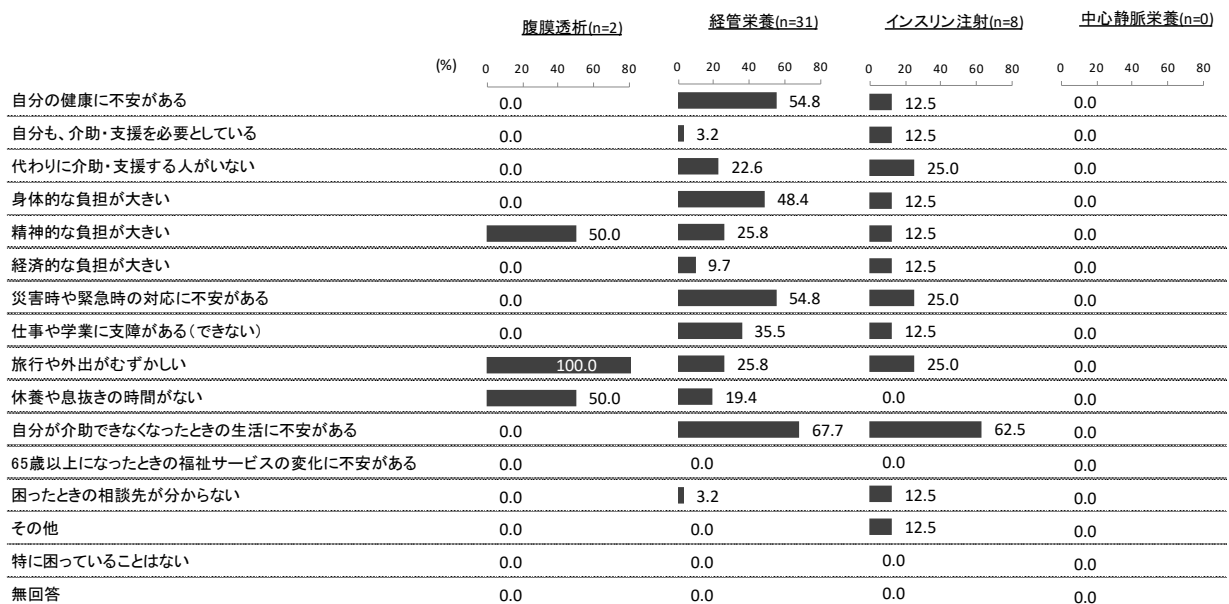
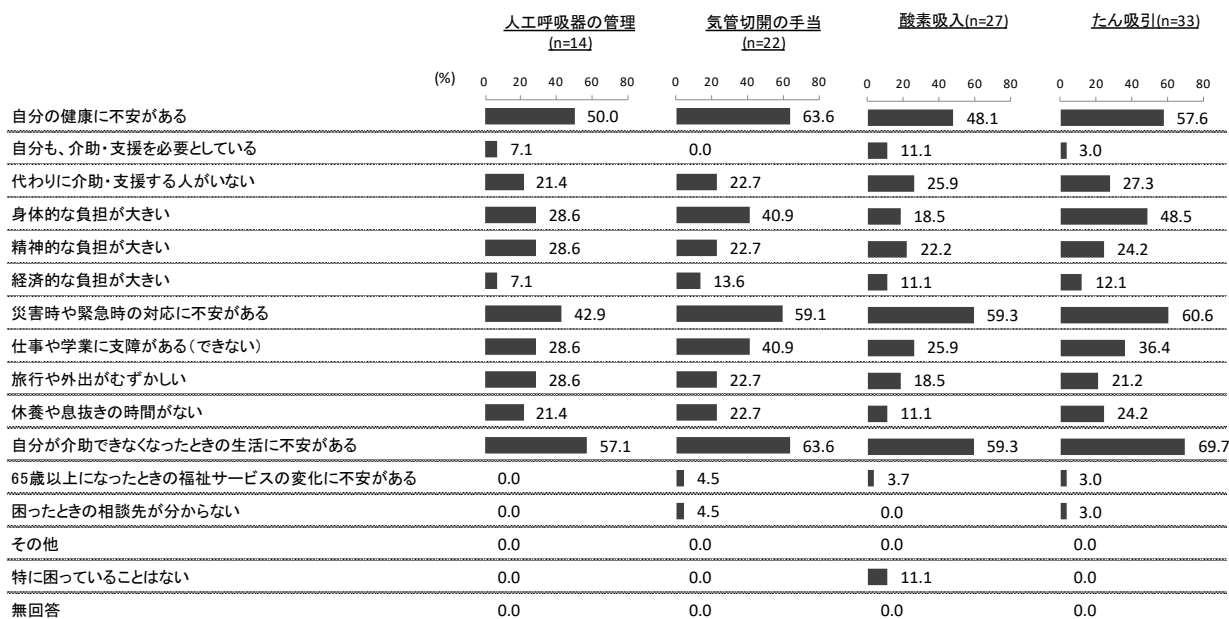
(その他)

将来の不安(3件)/施設、学校への送迎(2件)/自分が支援できなくなった時/金銭面/本人が病気になるか/男なので女の人の胸などをさわってしまう事がある/聴覚障害のある妻の耳は障害のない人と同様に聞こえていくのか?/子供が小さい為/とにかく時間が足りない/ひどい自傷に困っている/夫の死後/全部不安/200回も同じ悩みごとを言ってきた

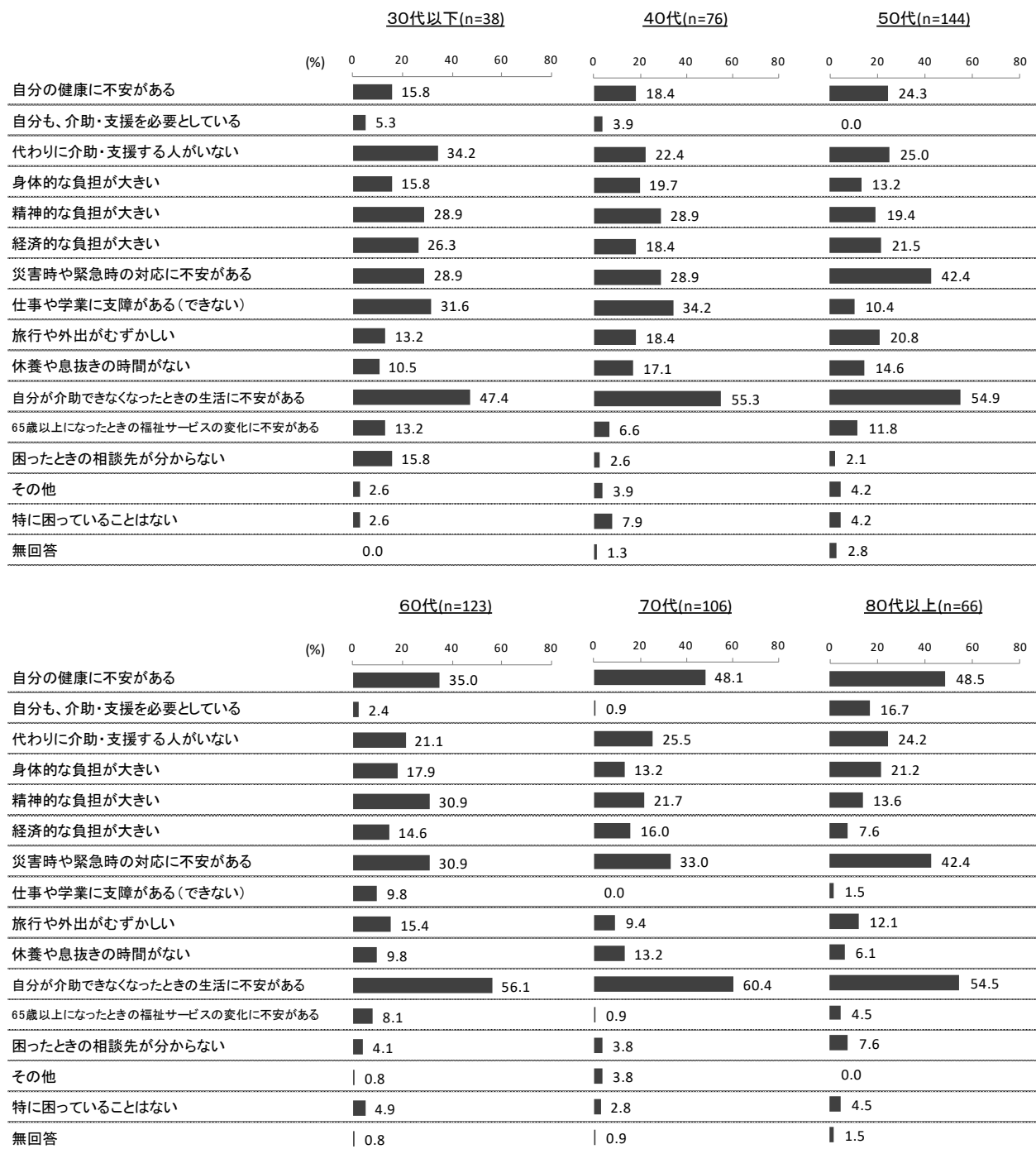
<年齢別>



<日常的に受けている医療ケア別> ※「その他」省略



<主な介助者の年齢別>



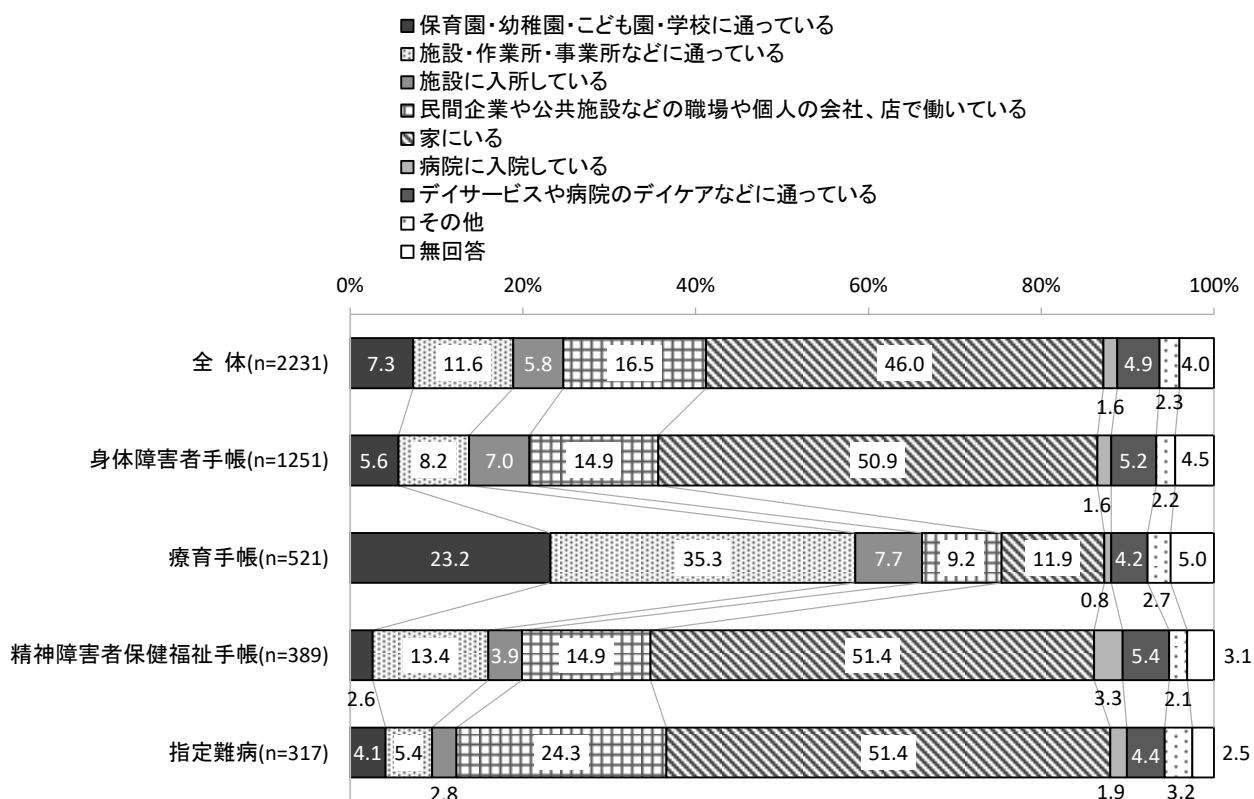
3. 日常生活について

(1) 日中の過ごし方

問 11 あなたは、日中は主にどこで過ごしていますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は、「家にいる」が最も高く、いずれも4～5割を占めている。次いで「職場や会社、店」の割合が高い。療育手帳所有者では「施設・作業所・事業所など」35.3%、「保育園・幼稚園・こども園・学校」23.2%の順に高い。

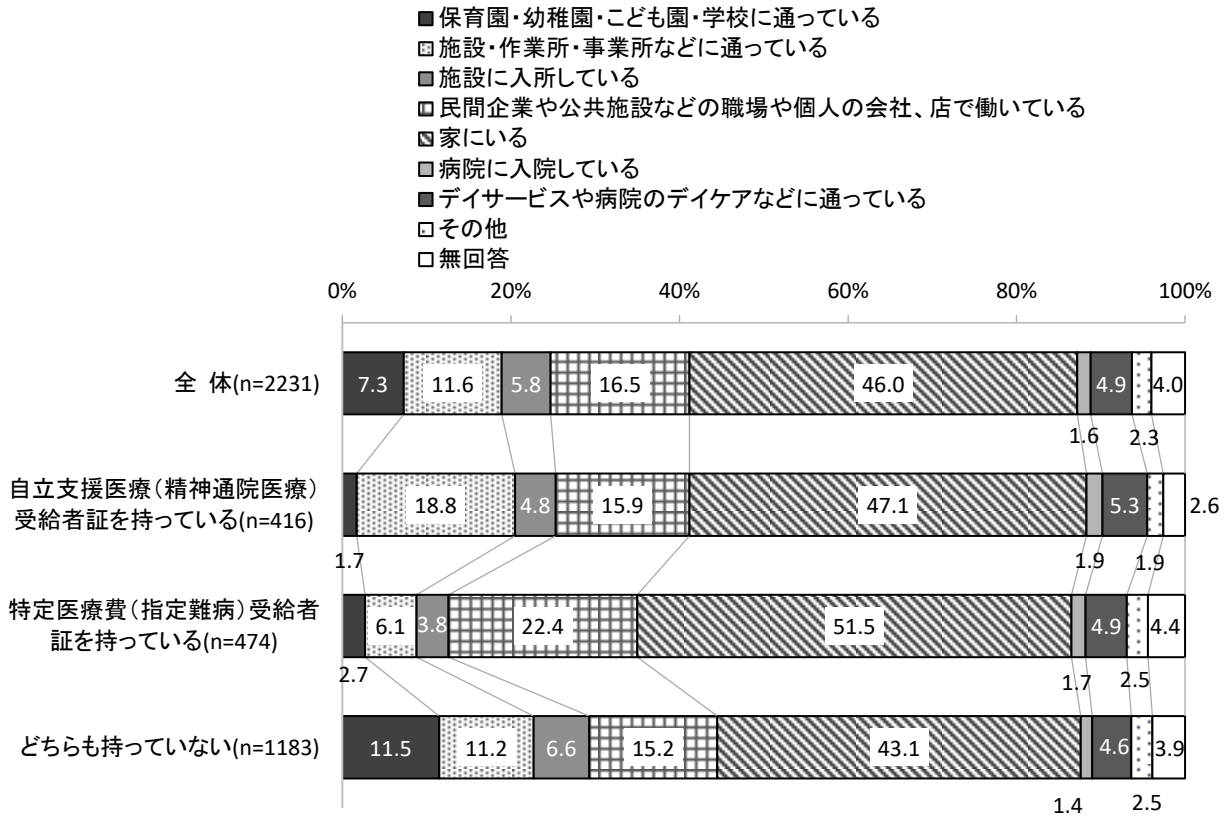
受給者証有無別でみると、特定医療費受給者証所有者は「家にいる」が51.5%と高くなっている。



(その他)

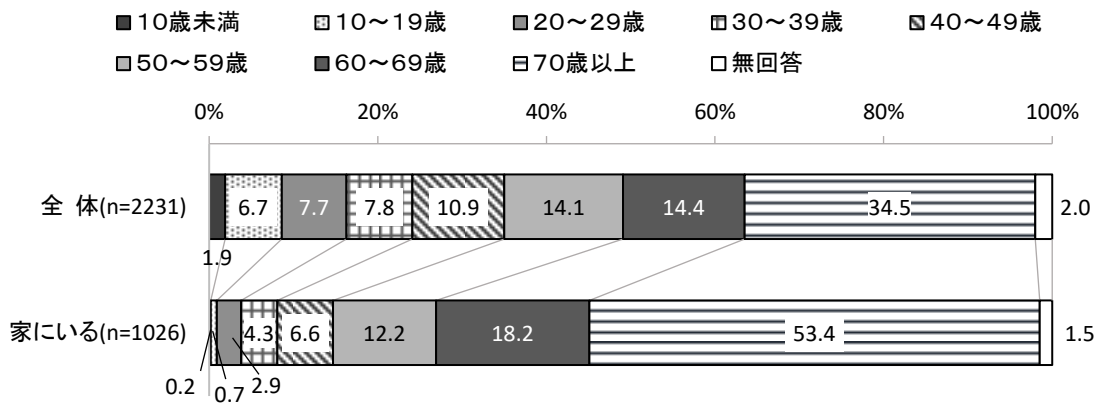
職場(19件)/家にいる(8件)/週3回透析(5件)/週2～3回デイサービス(5件)/児童発達支援(3件)/家又は外出(2件)/B型作業所(2件)/通所リハビリ(2件)/就労移行支援サービス(2件)/通所施設(2件)/通院(2件)/カフェでのんびりしている。街中に行きぶらぶらしている。/移動支援で外出する→必要な物を買う。行きたい場所へ行く。見物。/医療施設に入所/週2～4日在宅勤務/午前中グラウンドGG、午後仲間との麻雀、散歩/支援2、週2日/自家用車の中/週1回の介護保険の軽い運動を行う/畑仕事/週1手話サークル

<受給者証有無別>



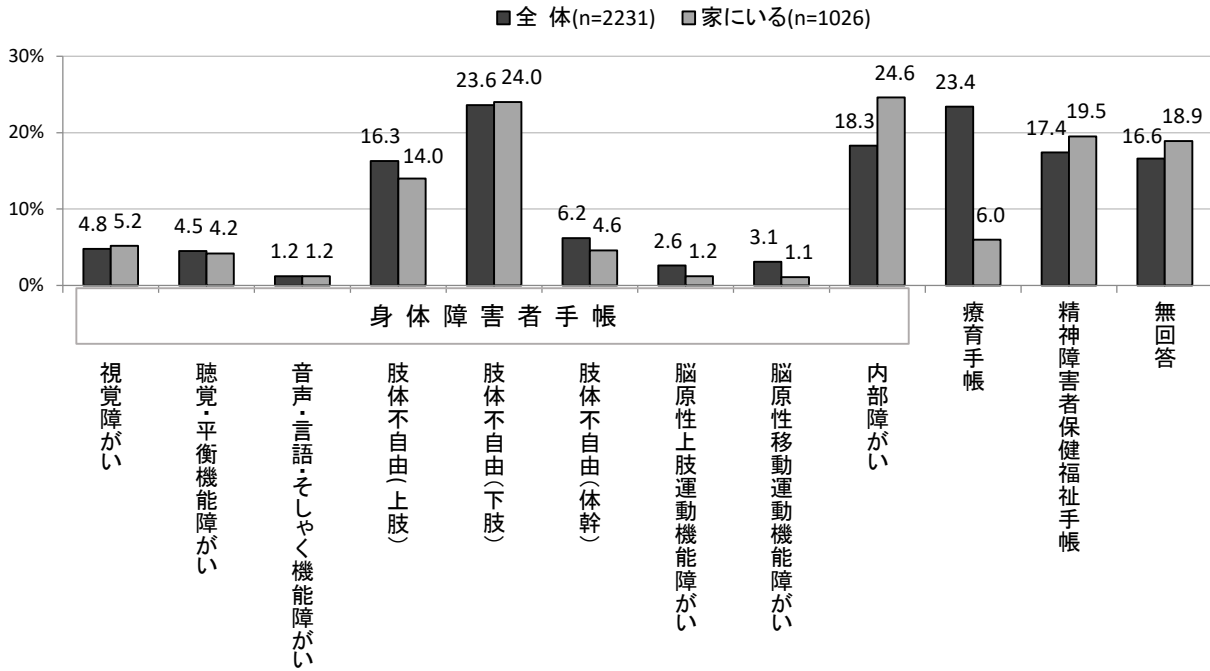
<「家にいる」と回答した人の年代構成>

日中「家にいる」人の年代構成は、60代以上で5割以上を占めている。



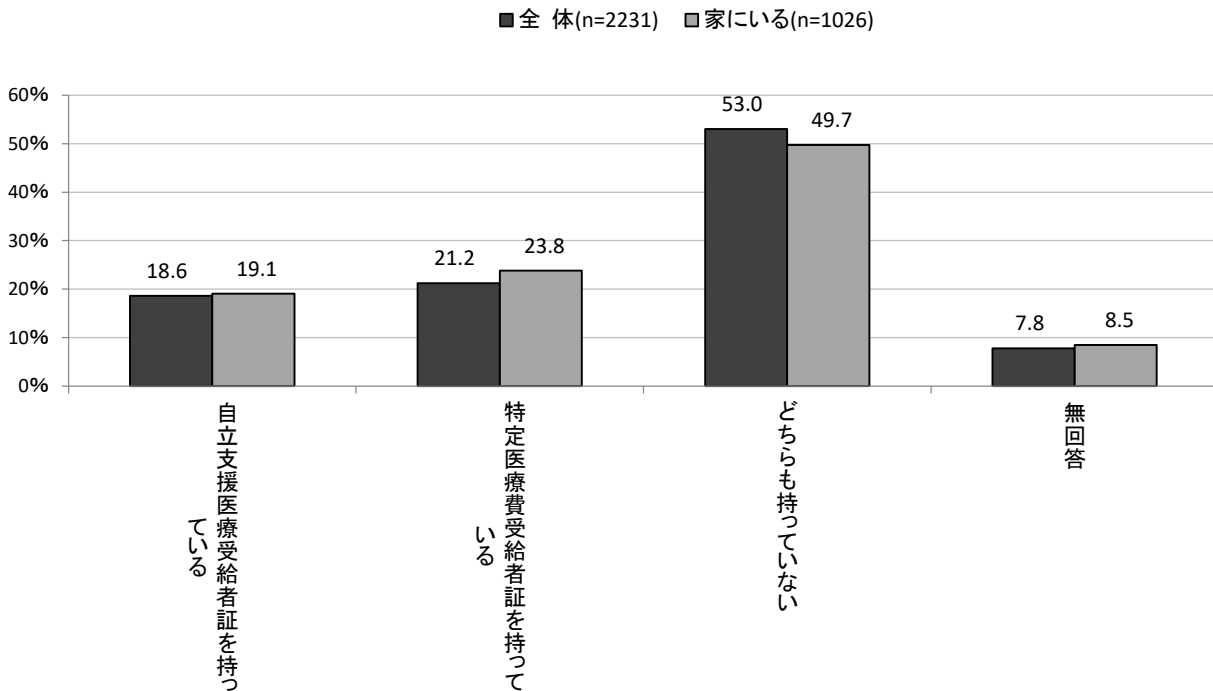
＜「家にいる」と回答した人の所有する手帳の種類＞

「家にいる」人では、療育手帳を持っている割合が全体より著しく低い。



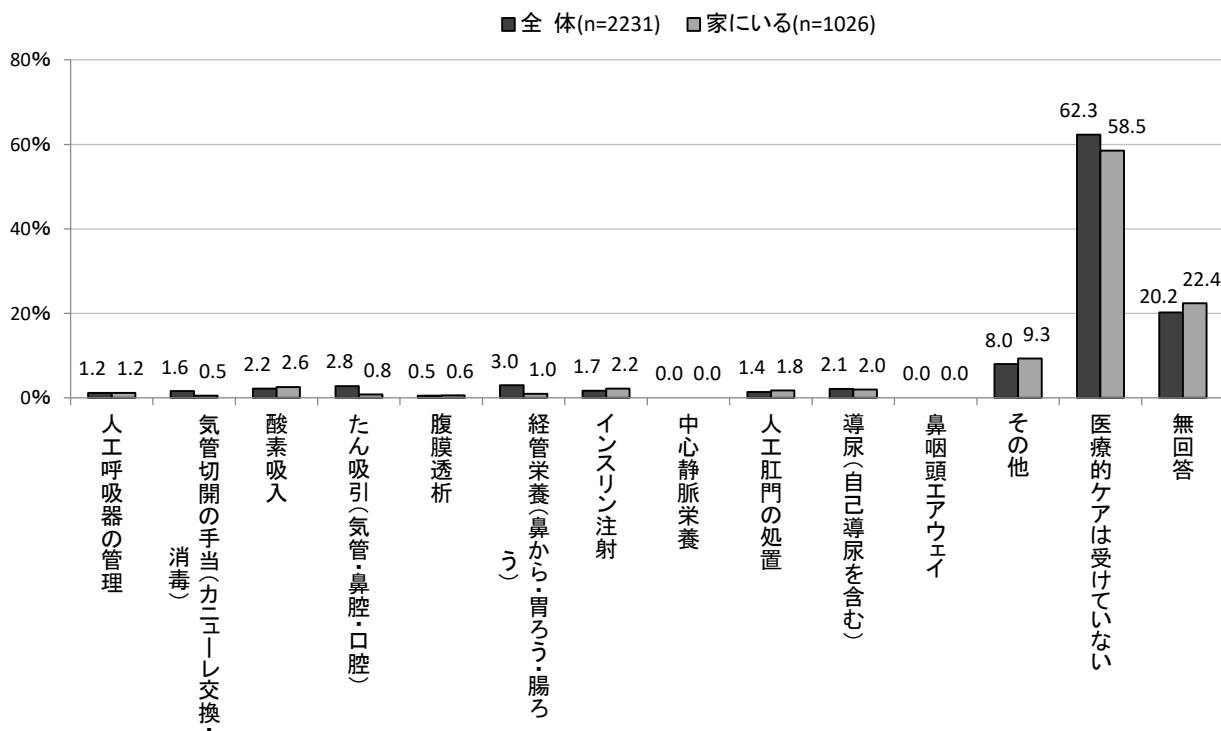
＜「家にいる」と回答した人の受給者証の所有状況＞

「家にいる」人では、いずれかの受給者証を持っている割合が全体よりやや高くなっている。



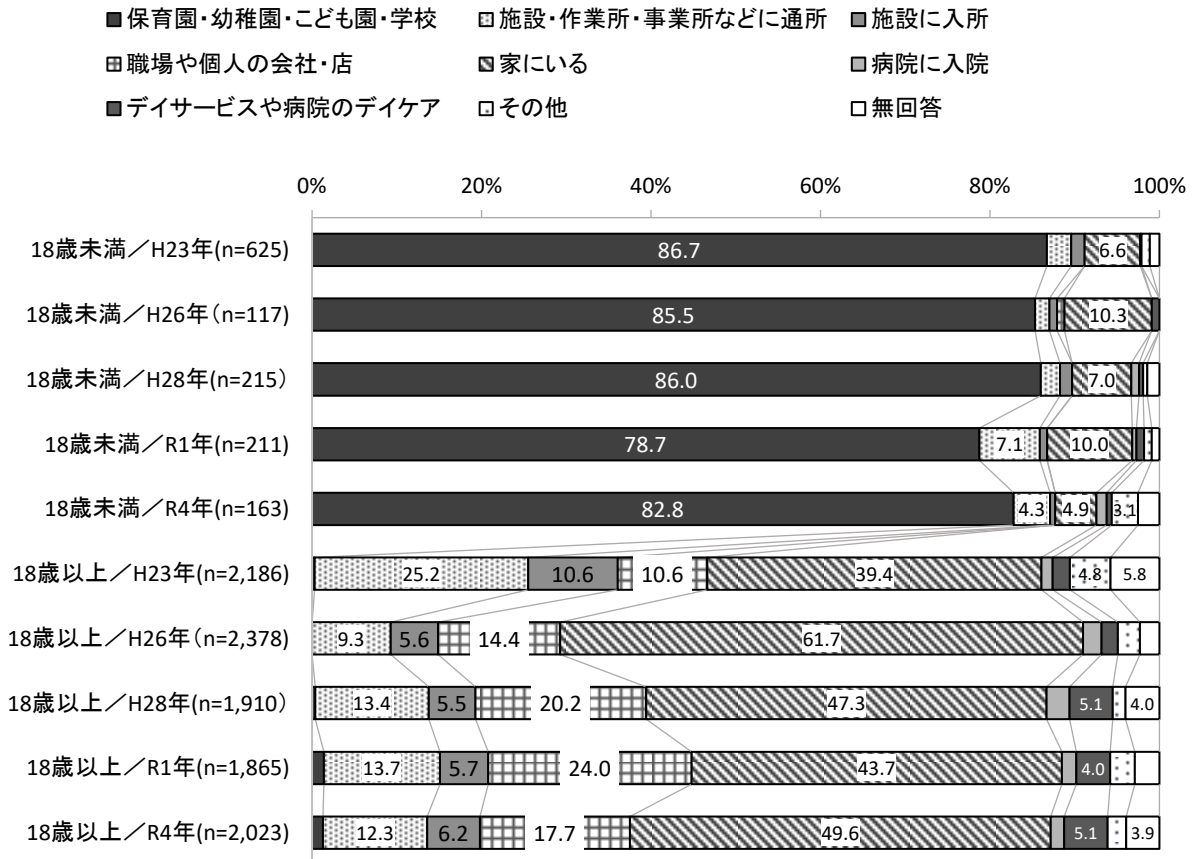
＜「家にいる」と回答した人の日常的に受けている医療的ケア＞

「家にいる」人では、「医療的ケアは受けていない」との回答がやや低くなっている。



<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、18歳未満において「家にいる」の割合が低くなっている。



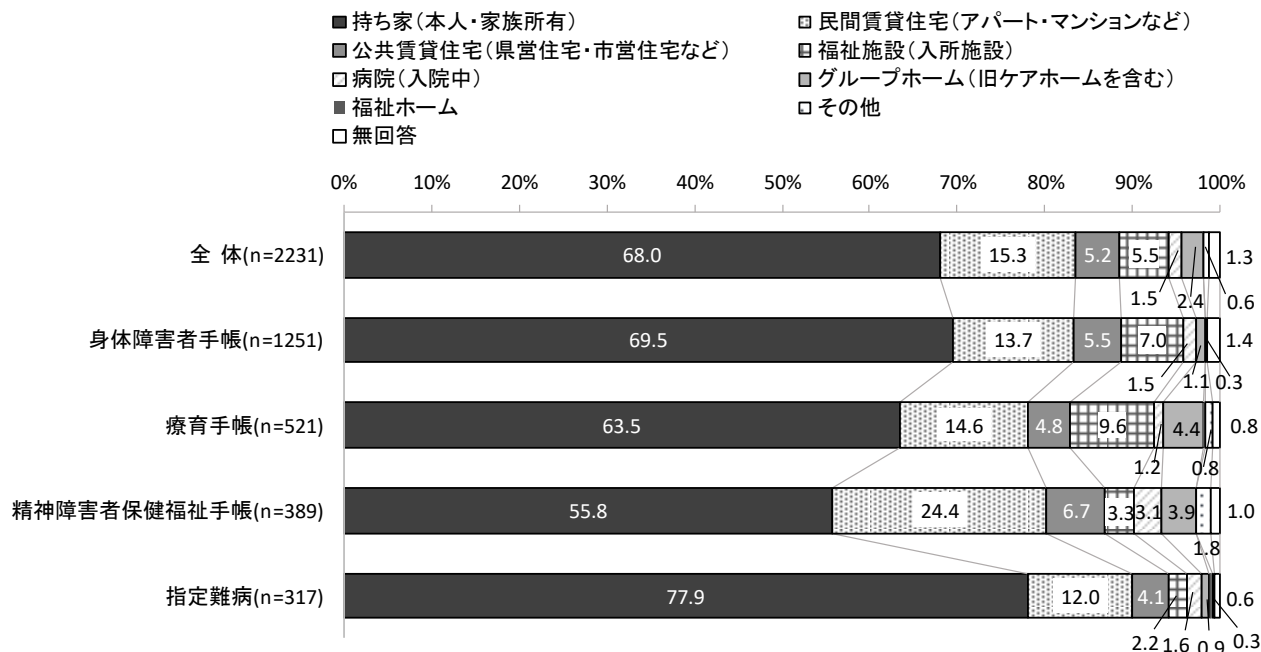
※グラフ内の3.0%未満の数値は下表を参照

		単位 %、()内実数									
		保育園・幼稚園・こども園・学校	施設・作業所・事業所などに通所	施設に入所	職場や個人の会社・店	家にいる	病院に入院	デイサービスや病院のデイケア	その他	無回答	
18歳未満	H23年 (625)	86.7	2.9	1.6	0.0	6.6	0.2	0.0	1.0	1.1	
	H26年 (117)	85.5	1.7	0.9	0.9	10.3	0.0	0.9	0.0	0.0	
	H28年 (215)	86.0	2.3	1.4	0.0	7.0	0.9	0.5	0.5	1.4	
	R1年 (211)	78.7	7.1	0.9	0.0	10.0	0.5	0.9	0.9	0.9	
	R4年 (163)	82.8	4.3	0.6	0.0	4.9	1.2	0.6	3.1	2.5	
18歳以上	H23年 (2186)	0.3	25.2	10.6	10.6	39.4	1.3	2.0	4.8	5.8	
	H26年 (2378)	0.0	9.3	5.6	14.4	61.7	2.2	1.9	2.6	2.3	
	H28年 (1910)	0.4	13.4	5.5	20.2	47.3	2.7	5.1	1.5	4.0	
	R1年 (1865)	1.4	13.7	5.7	24.0	43.7	1.7	4.0	2.9	2.9	
	R4年 (2023)	1.3	12.3	6.2	17.7	49.6	1.6	5.1	2.2	3.9	

(2) 住まいの種類

問 12 あなたの現在のお住まいの種類はどれですか。(○は1つ)

全体の68.0%が「持ち家」に住んでいる。「民営の借家」「公営の借家」と合わせて自宅に住んでいる人がおよそ9割となっている。



(その他)

サービス付高齢者住宅(2件)/シェアハウス(2件)/社宅(2件)/家族所有(2件)/有料老人ホーム/借家/●●●●/病院の寮/福祉系県住団地/平日はグループホームで過ごしている/5階エスカレーターなし

(3) 日常生活の悩み

問 13 あなたは、日常生活で困っていることはありますか。(○は3つまで)

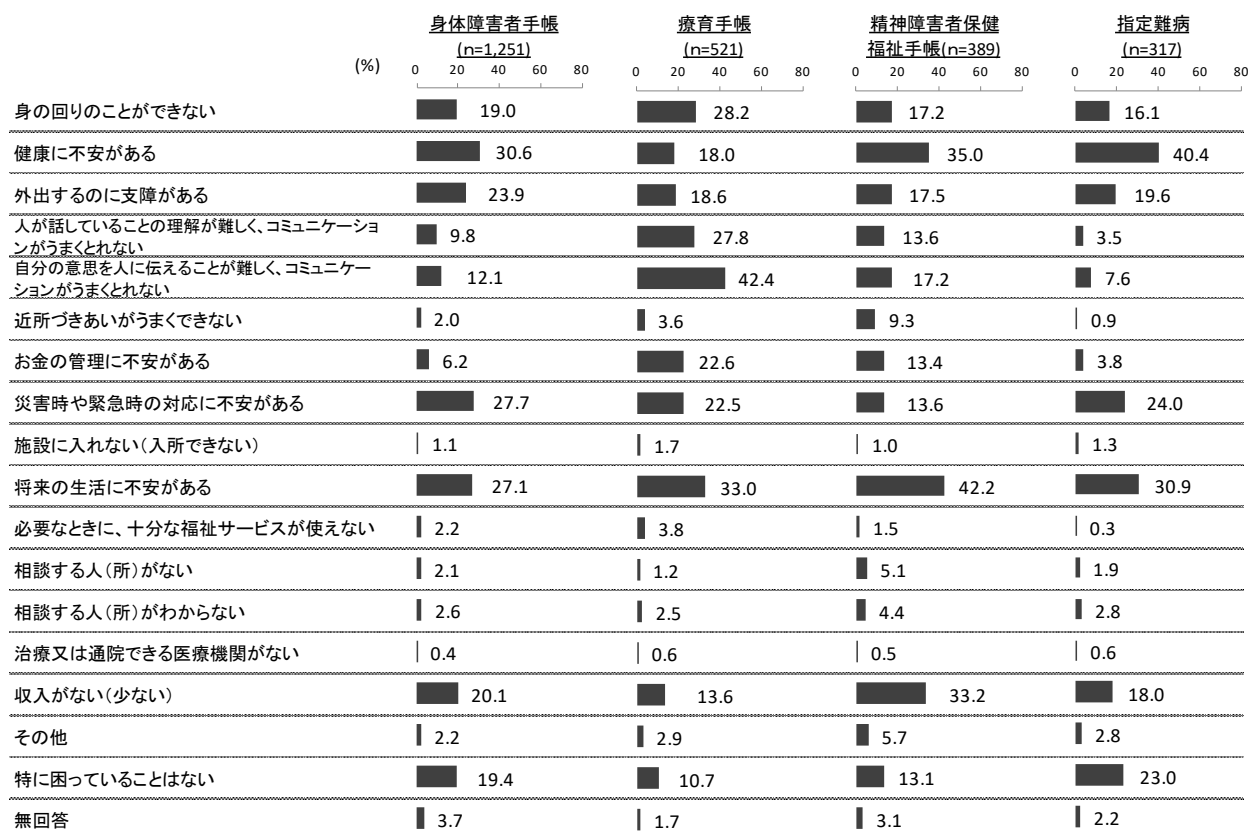
身体障害者手帳所有者においては、「健康に不安」が 30.6%でトップ。次いで「災害時や緊急時の対応に不安」が 27.7%、「将来の生活に不安」が 27.1%と僅差で続き、「外出に支障」23.9%、「収入がない」20.1%の順。療育手帳所有者では、「自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない」が 42.4%でトップ。次いで「将来の生活に不安」が 33.0%、「身の回りのことができない」が 28.2%。精神障害者保健福祉手帳所有者では「将来の生活に不安」が 42.2%でトップ。次いで「健康に不安がある」が 35.0%、「収入がない」が 33.2%。指定難病者では、「健康に不安がある」が 40.4%でトップ。次いで「将来の生活に不安」が 30.9%、「災害時や緊急時の対応に不安」が 24.0%。

年齢別でみると、20代～30代においては「将来の生活に不安」が4割以上と高い。10代以下においては「自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない」が4割以上と高い。40代以上になると年齢を追うごとに「将来の生活に不安」は低くなり、「健康に不安」の数値が高めの傾向にある。

「自立支援医療受給者証」の所有者についてみると、「将来の生活に不安」が高く 45.2%となっている。

発達障がい診断名別でみると、全般的に「自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない」が高くなっている。

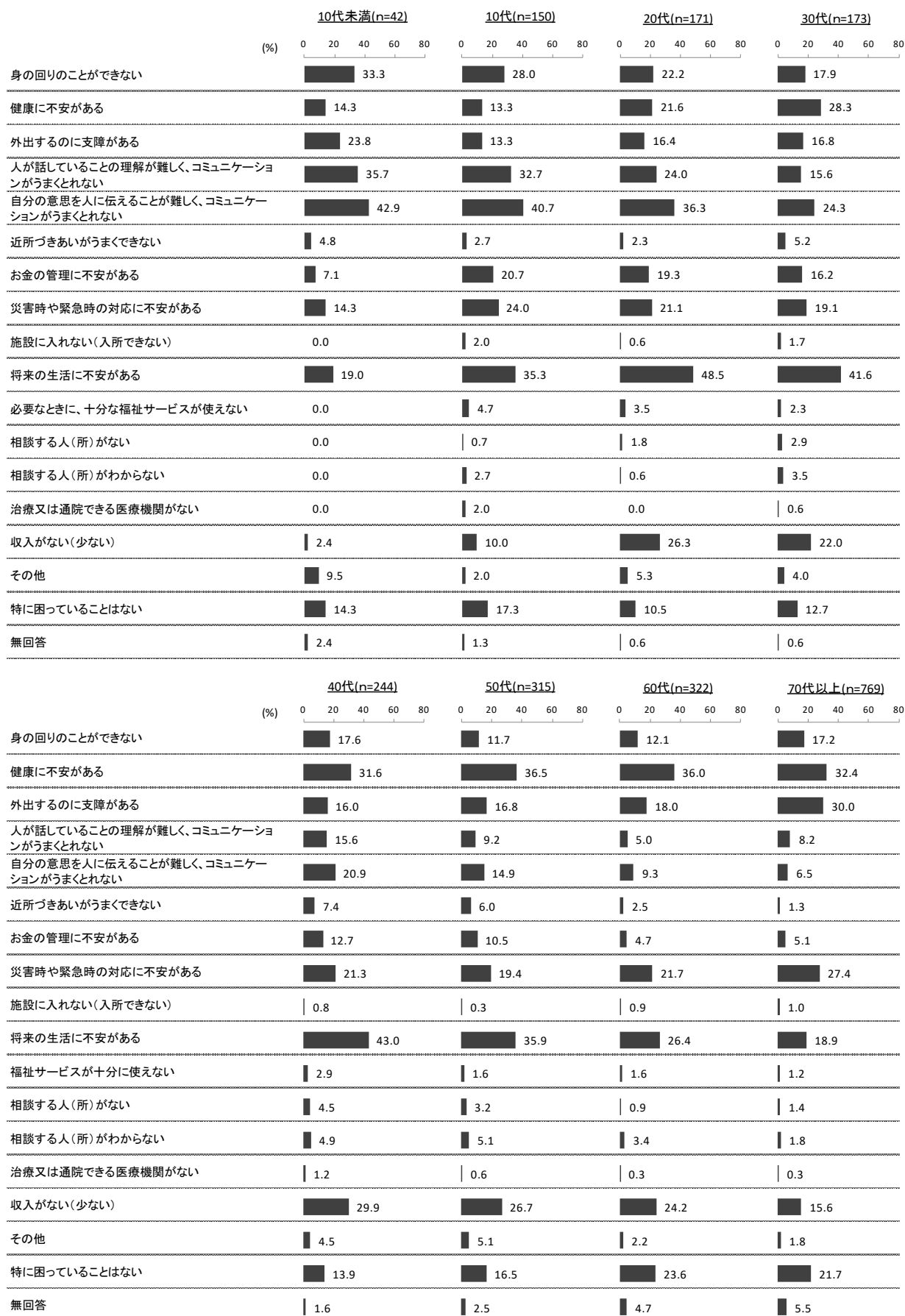
また、日常的に受けている医療ケア別では、「身の回りのことができない」や「健康に不安」が高くなっている。



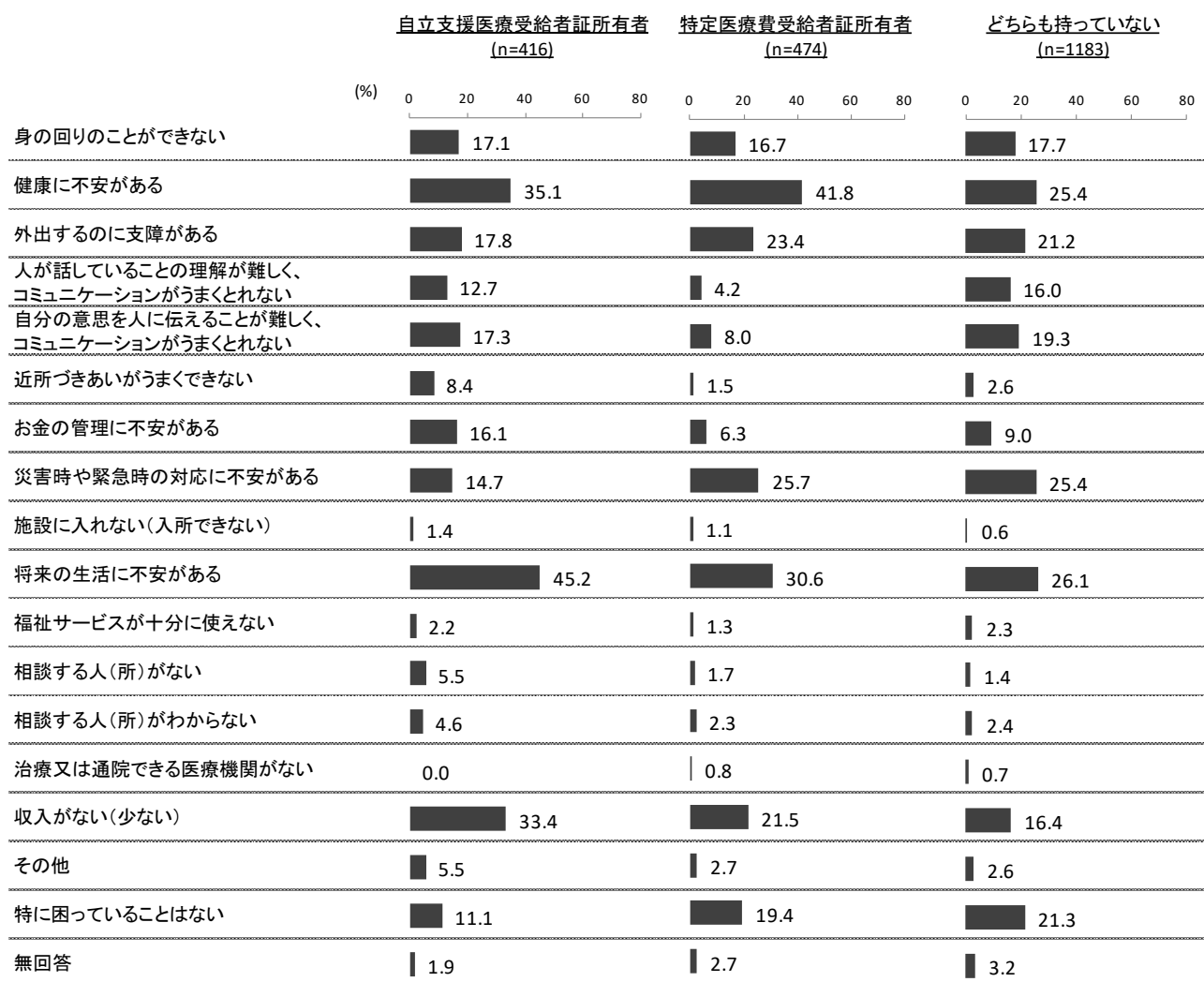
(その他)

- ・ 車の運転が出来ない(3件)
- ・ 収入面の不安(3件)
- ・ 障害に対する理解が得られないことがある。(2件)
- ・ 施設に入所または入院している為、コロナで面会できていない(2件)
- ・ 薬や注射の費用が少し高い(2件)
- ・ 4歳のため回答できない
- ・ かかりつけ病院を変えられない
- ・ こだわりが強い
- ・ つらい
- ・ ビンなどの蓋を開けるのが大変
- ・ マスクで口元が見えず言葉が聞き分けにくい。
- ・ まだわからない
- ・ 意思疎通が困難
- ・ 医療保険、住宅ローンが高くつく
- ・ 雨の日車椅子での買物が出来ない
- ・ 家に帰りたい
- ・ 家に帰ることが出来ない
- ・ 家の中での2階から1階への移動
- ・ 家事で出来ない事が多い。又、出来る事でもするのが大変
- ・ 計画の作成と実行を忘れやすい
- ・ 現在通院しているが、他の病院に転院したいと考えている。
- ・ 午前中は良いが午後は(特に午後3時過ぎ)は調子が悪い
- ・ 考えることができないし、本人が不安になるため、こういった内容は話さない
- ・ いずれ“家族”や任意後見人等の問題で困ると思います。
- ・ 左網膜閉塞し、左肩、左肘関節機能障害あり、転びやすいです
- ・ 細かい事がしづらい
- ・ 仕事、勤務先との関係づくり
- ・ 施設に入所している
- ・ 歯を治したいがまともな歯科医を見つけることが出来ない
- ・ 時々、痛みが出る
- ・ 耳からのみの情報が頭にのこらない(電話など)
- ・ 耳が遠い
- ・ 車がないので病院に行く時の介護タクシーを(タクシーではなく)親切なタクシーがあり使用できるようにしてもらいたい
- ・ 主人が理解ない(難聴に対して)
- ・ 主人の介護をしている(透析、片目のみコンタクトで4、50cm見える程度、両耳、補聴器)
- ・ 就学先のこと
- ・ 住居が古く住み替えたいが、経済的に非常に苦しくとも無理で困っている
- ・ 職場での困り事に対応して頂けない事
- ・ 親の介護
- ・ 精神的不安がぬぐいきれない不安
- ・ 接客を受けている時、マスクとアクリルがある為聞こえづらい。映画、日本語字幕の日は平日が多く観れないことが多い
- ・ 専門医が静岡にないので1年に2～3回は東京の病院に通っている
- ・ 体調が悪く寝ていても起きて家事をしないとならない
- ・ 体調悪化時や入院時に働けなくなる事が困っています。(収入や会社からの評価に影響が出る)
- ・ 体力面
- ・ 対人恐怖を感じてしまう
- ・ 朝起きることなど時間管理がうまくできない。忘れ物が多い。
- ・ 直腸(ストマ)が詰まって苦しくても施設で対応できず、大きな病院に家族が連れていく(夜中でも)
- ・ 電話や無線がうまく聞き取れない
- ・ 働きたいけど働く一歩が、ふみだせない。
- ・ 難しい言葉での会話が理解に乏しい。買物、自動精算機などが増えてきているため使用の仕方を覚えなれないといけない。
- ・ 避難指示が広報されても遠くて1人で行けない
- ・ 父が亡くなった影響で生活パターンが変わってしまった
- ・ 福祉施設では医療行為が増えると退所しなくてはいけなくなる
- ・ 便秘症、切れ痔になる出血処置、長時間歩けない
- ・ 歩行がスムーズに出来ないため、日常杖を使用
- ・ 本人が何に困っているのかわからない
- ・ 本人は困っている事が分かってない
- ・ 免許証や保険証をマイナンバーカードと一本化されると業務的に困るし、私は通院することが多いためとても不安だ
- ・ 老後の生活が不安

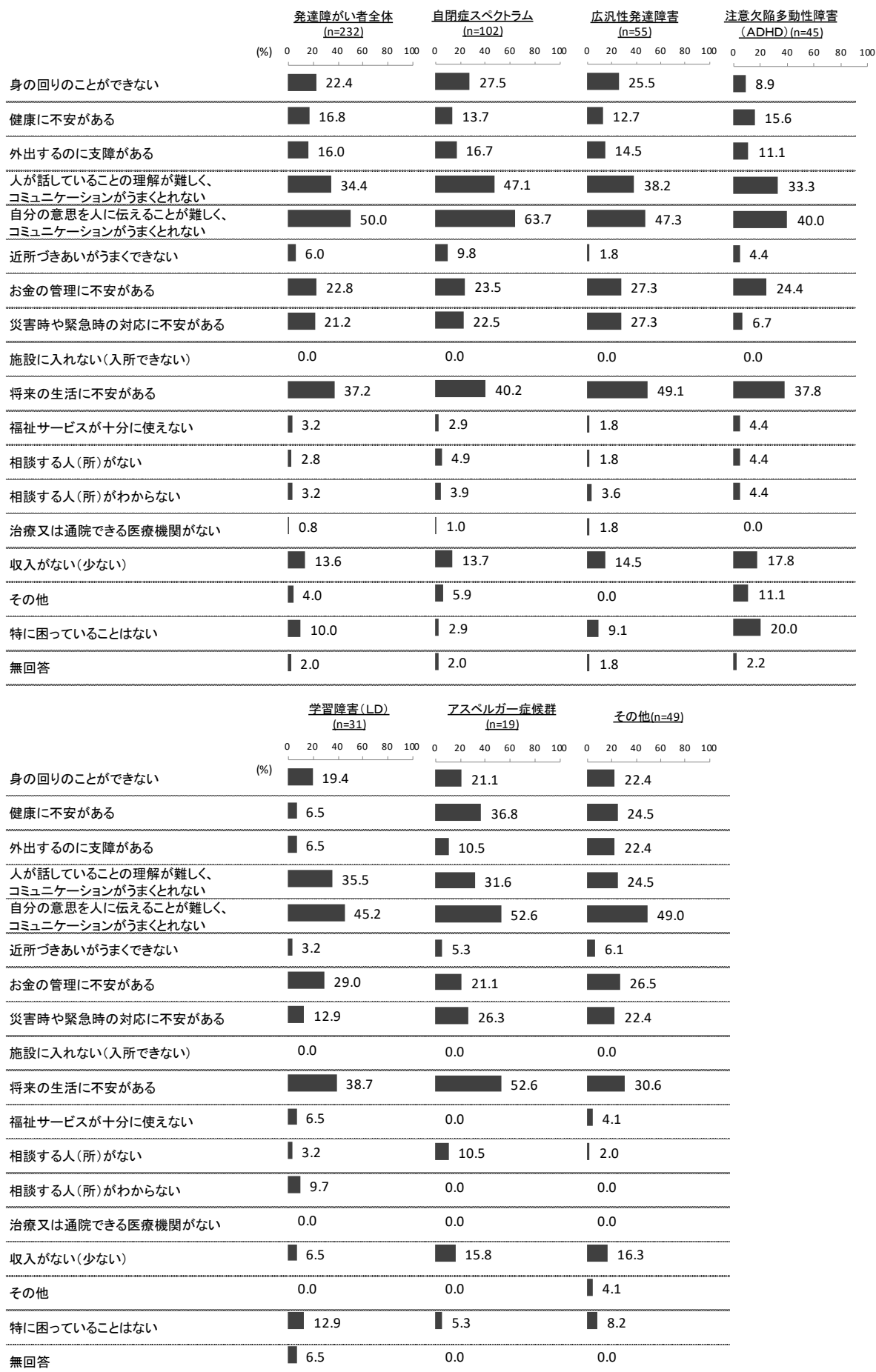
<年齢別>



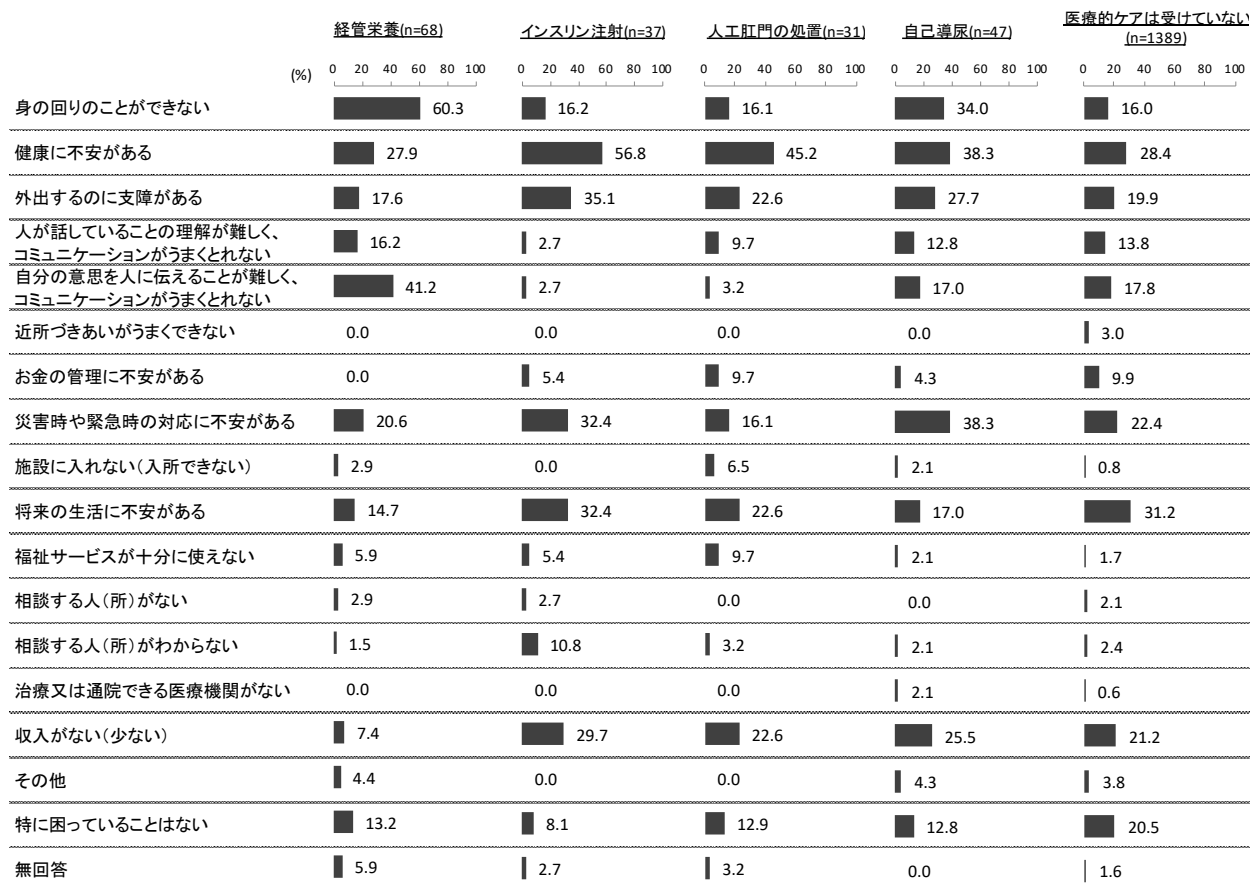
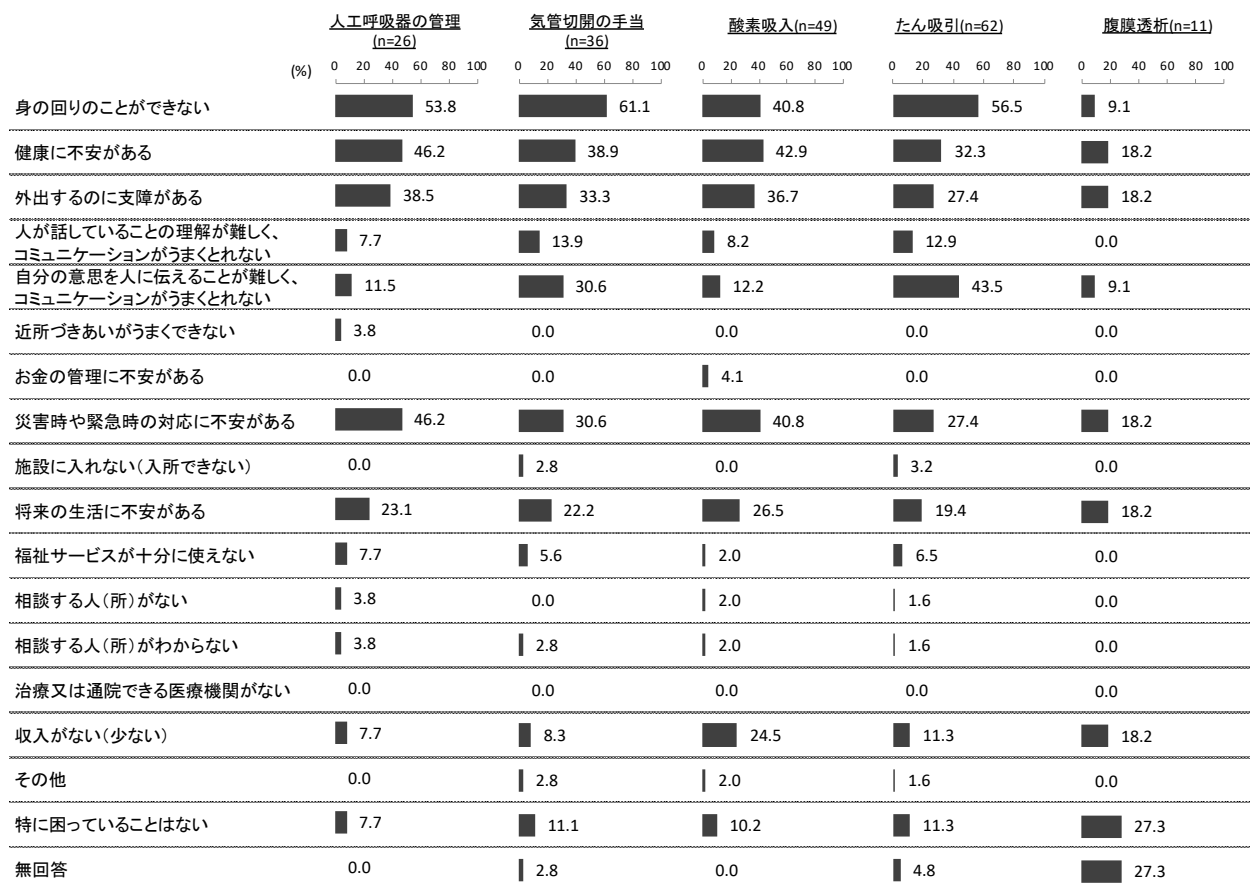
<受給者証有無別>



<発達障がいの診断名別>



<日常的に受けている医療ケア別>※「その他」省略



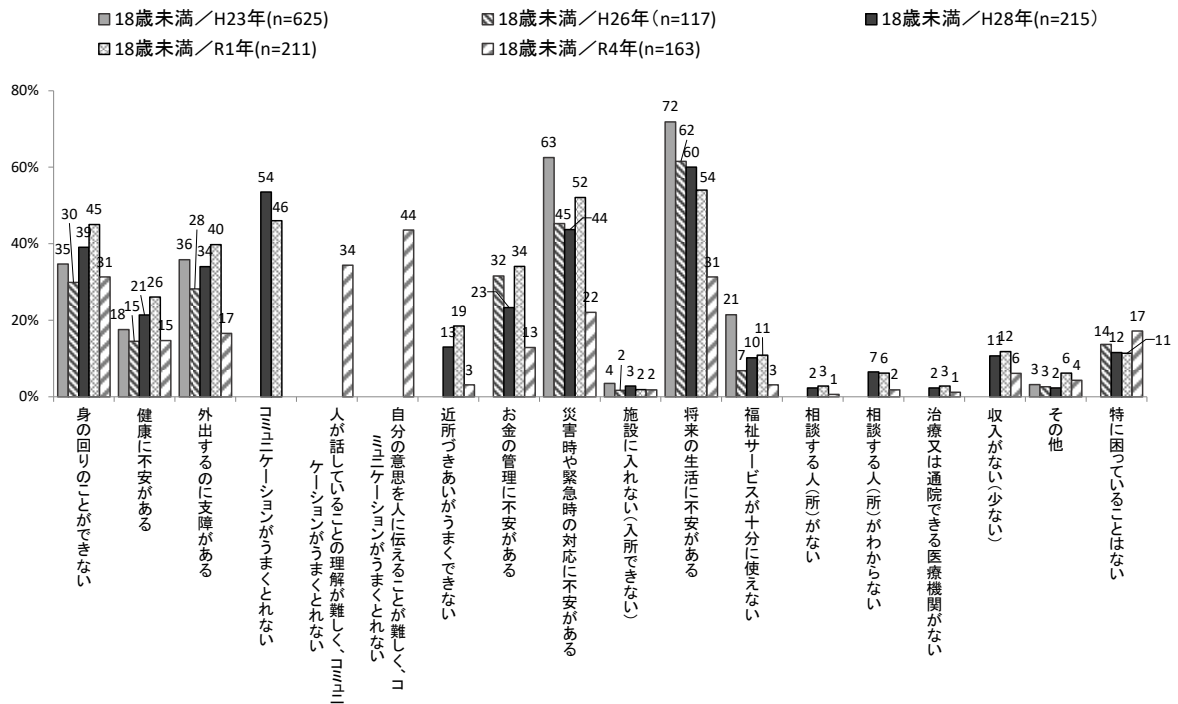
※「中心静脈栄養」と「鼻咽喉頭エアウェイ」は件数0のため省略

<経年変化>

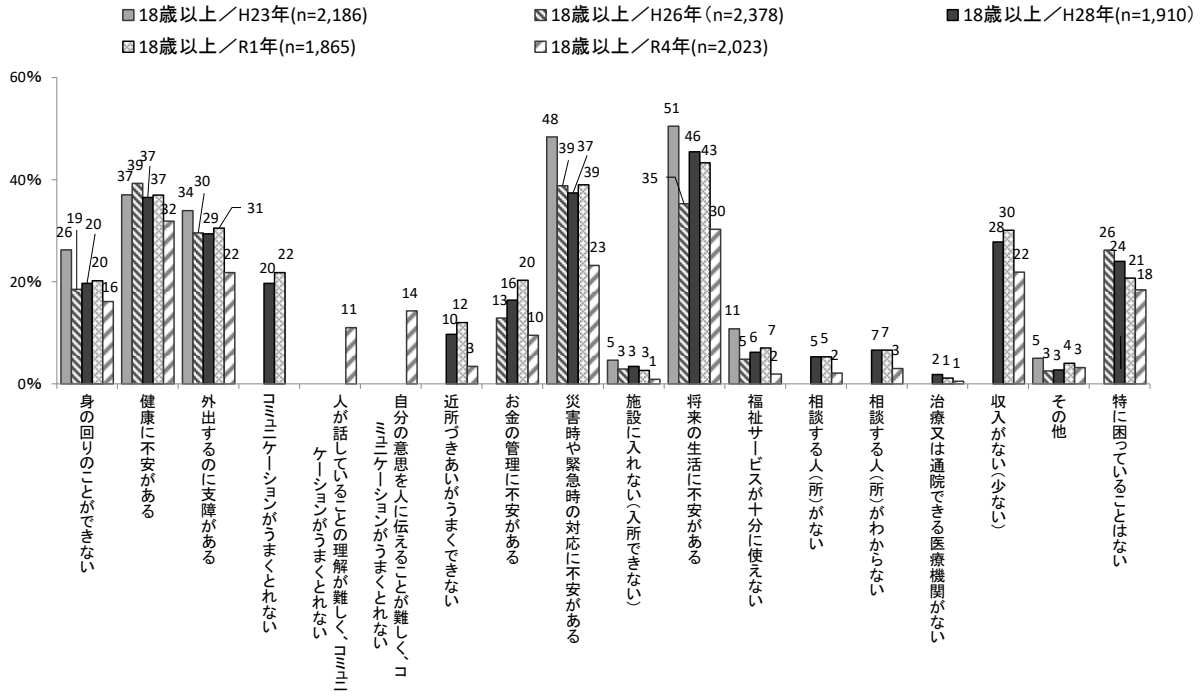
過去の調査結果と比較すると、18歳未満において「将来の生活に不安がある」の数値が年々低くなっており、「自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない」や「人が話していることの理解が難しく、コミュニケーションがうまくとれない」が高めとなっている。18歳以上においては大きな変化はみられない。

※「人が話していることの理解が難しく、コミュニケーションがうまくとれない」「自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない」は令和4年度調査で新設された選択肢。「コミュニケーションがうまくとれない」「近所づきあいがうまくできない」「相談する人(所)がない」「相談する人(所)がわからない」「治療または通院できる医療機関がない」「収入がない」は平成23年・平成26年度調査では選択肢に含まれていない。「お金の管理に不安がある」「特に困っていることはない」は平成23年度調査では選択肢に含まれていない。

※前回調査までは回答数に制限はなかったが、令和4年度調査では回答上限が3となっているため、数値の比較には注意が必要。



Ⅱ 調査結果



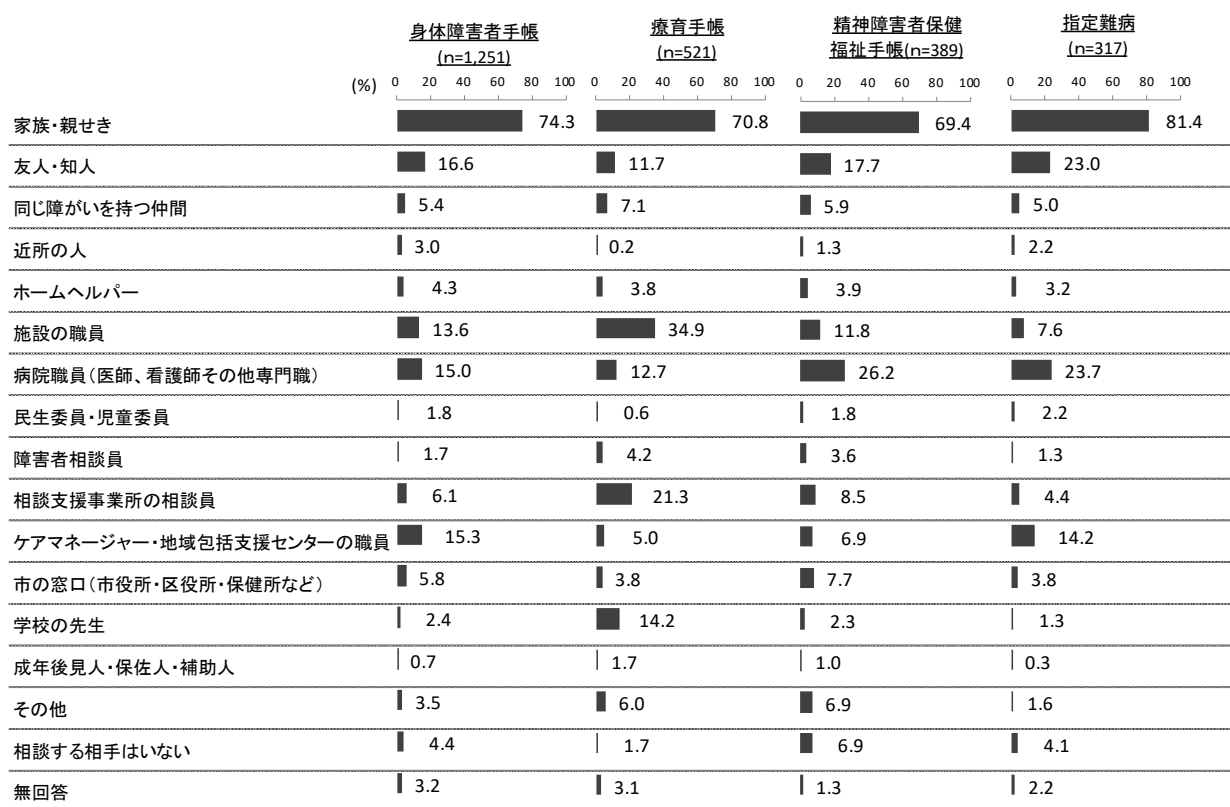
(4) 困ったときの相談先

問 14 あなたは、困った時は誰(どこ)に相談していますか。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれにおいても、「家族・親せき」が最も高い。また、神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者においては、「病院職員」が「家族・親せき」に次いで高く、2割程度となっている。療育手帳所有者では「施設職員」が34.9%と高い。

年齢別でみると、いずれの年代も「家族・親せき」が最も高くなっている。また、「病院職員」も年代を問わず高い。10歳未満及び10代では「学校の先生」に相談する割合も高くなっている。

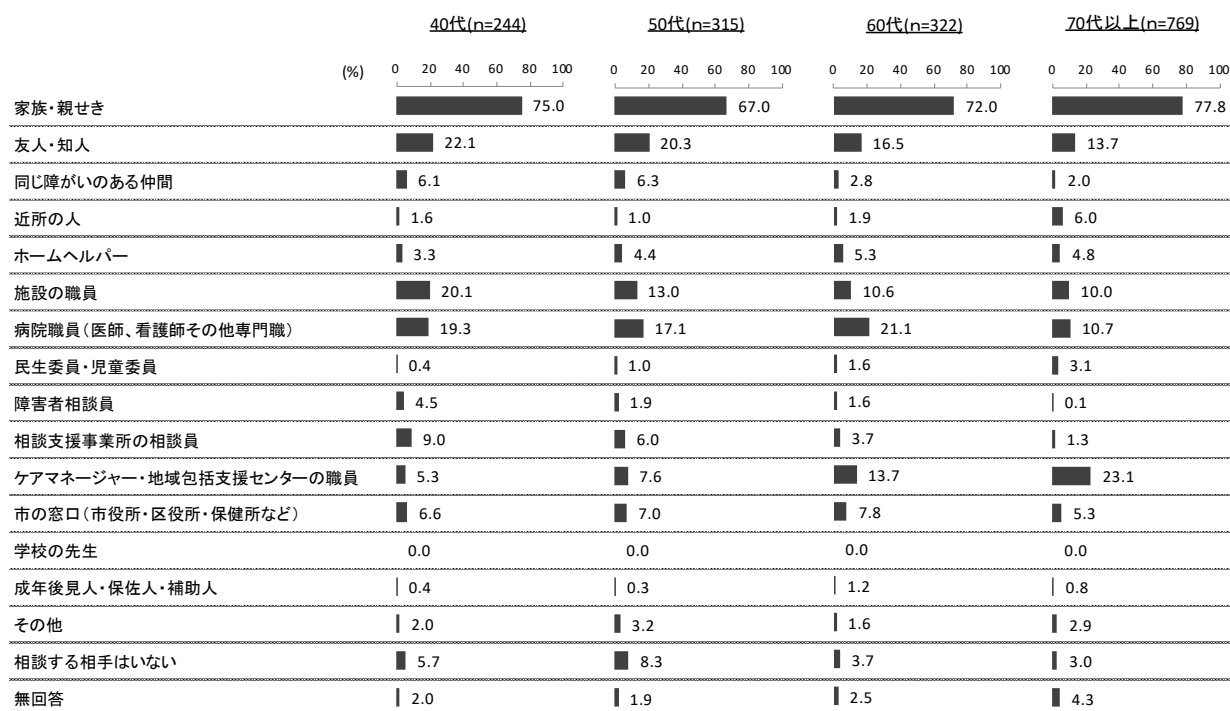
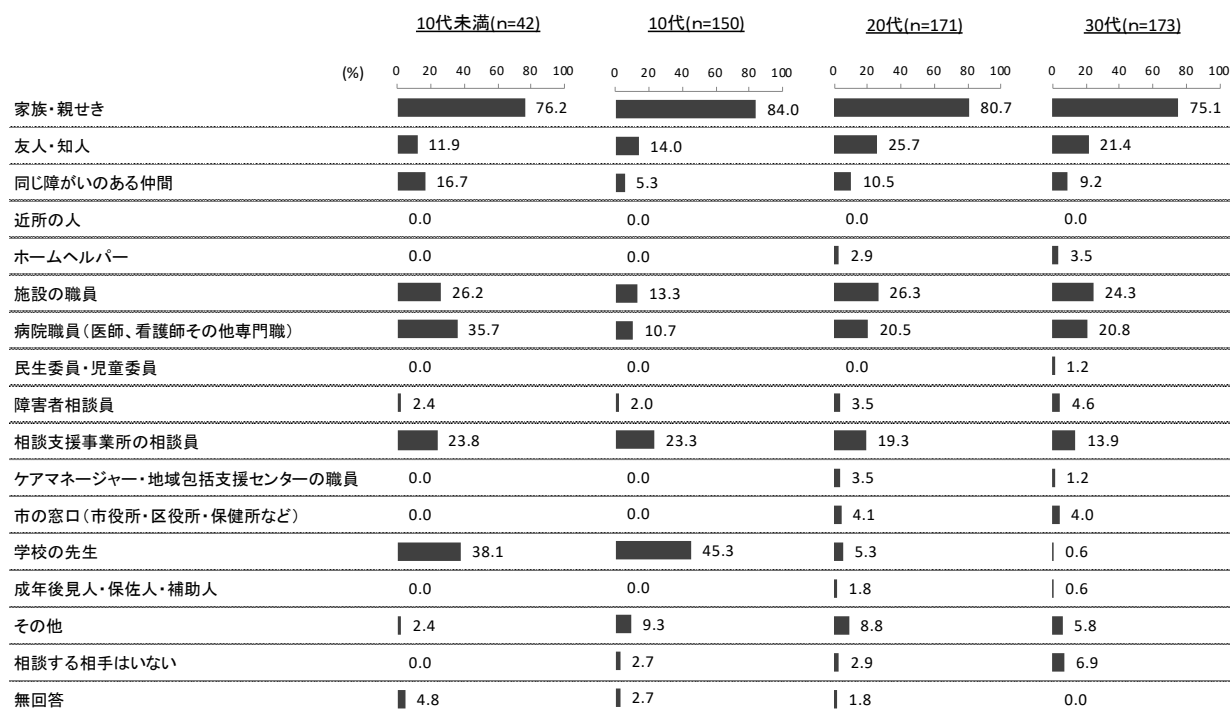
同居状況別では、一人暮らしの人は「家族・親せき」が59.2%と同居している人と比較して低く、「相談する相手はいない」が8.6%でやや高めになっている。グループホームや入所施設を利用している人では「施設の職員」が81.1%と最も高くなっている。



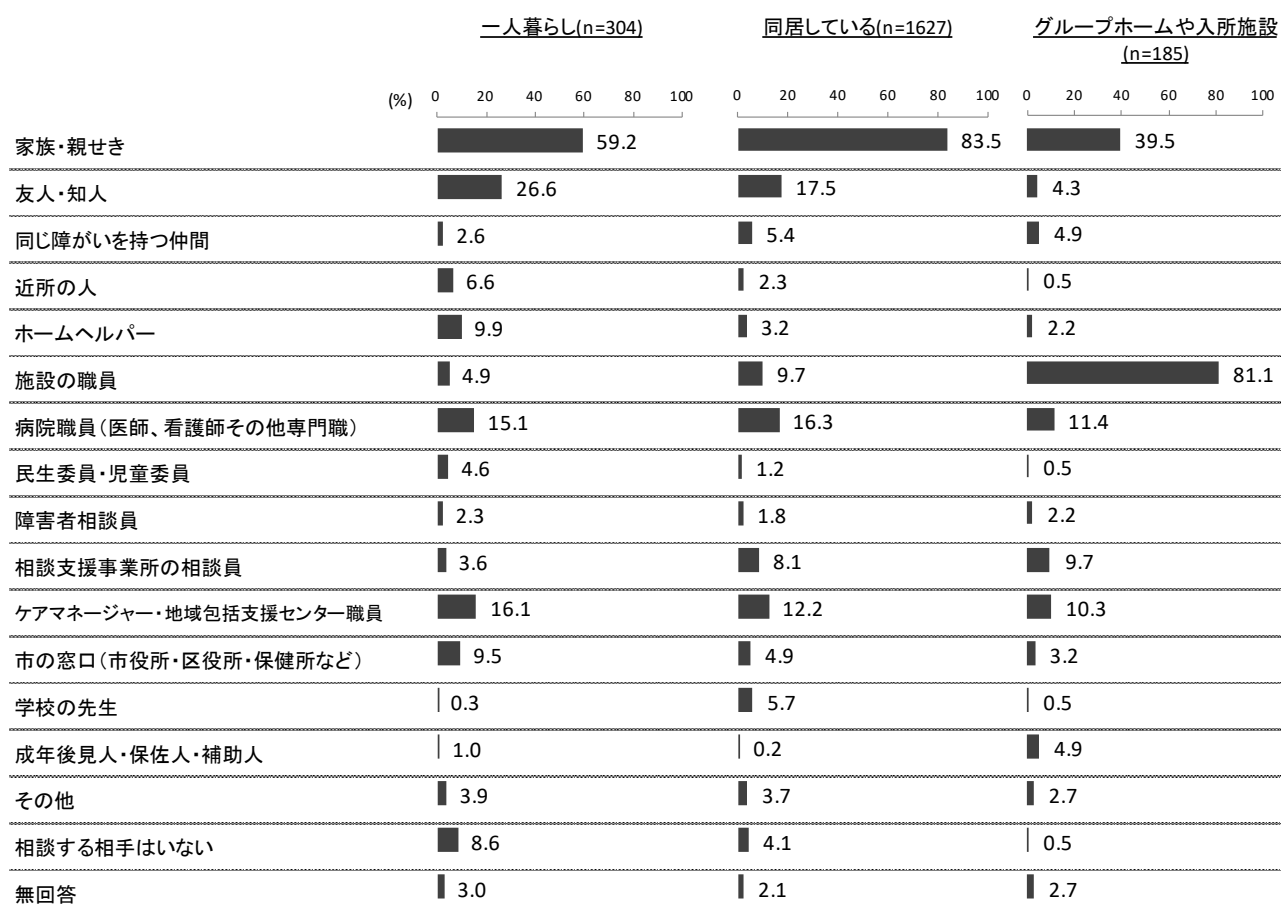
(その他)

家族・親戚(12件)/職場の人(10件)/放課後デイサービス(6件)/話せないなど相談できない(5件)/訪問看護師(5件)/インターネット・SNS(4件)/カウンセラー(3件)/デイサービスの職員(3件)/医師(3件)/かかりつけの薬剤師/サービス事業所(リハビリデイに通所中)/そのつど必要か、知っているかと考えられる者/高齢者の身元保証サービス(●●●●)/テレホン相談/ハローワーク等職業支援機関/リハビリの先生/意思疎通困難/一般社団法人/家政婦/学校の先パイのお母さんや同級生のお母さん/看護師/権利擁護職員/友人/施設職員/就労定着支援(●●●●)/障害者就業・生活支援センターの支援員/相談はめったにしない「自分で」/相談内容によって異なる/大学の障がい者支援センター/買い物は店の人がみたいに専門の人/彼女/保護観察の人/病院

<年齢別>



<同居状況別>

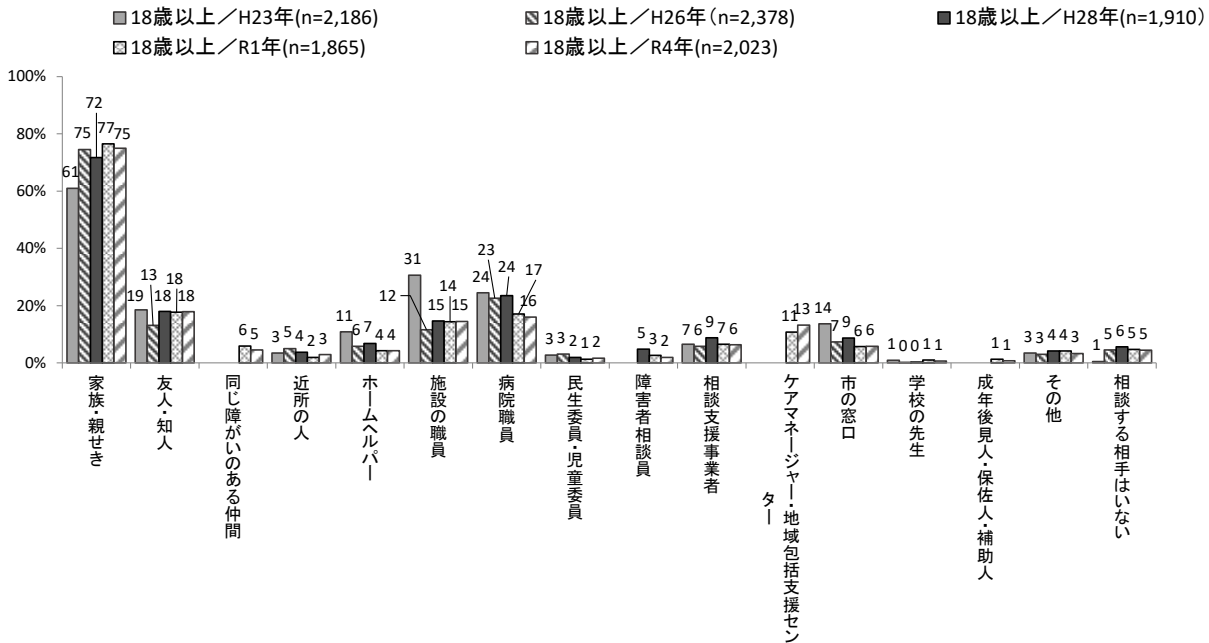
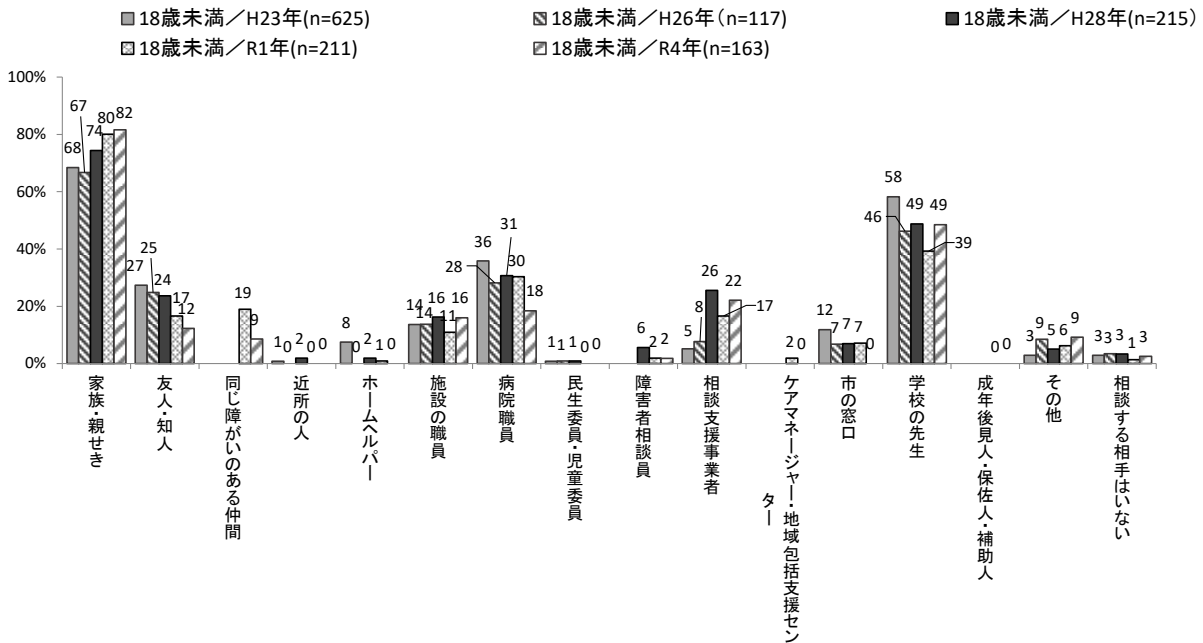


<経年変化>

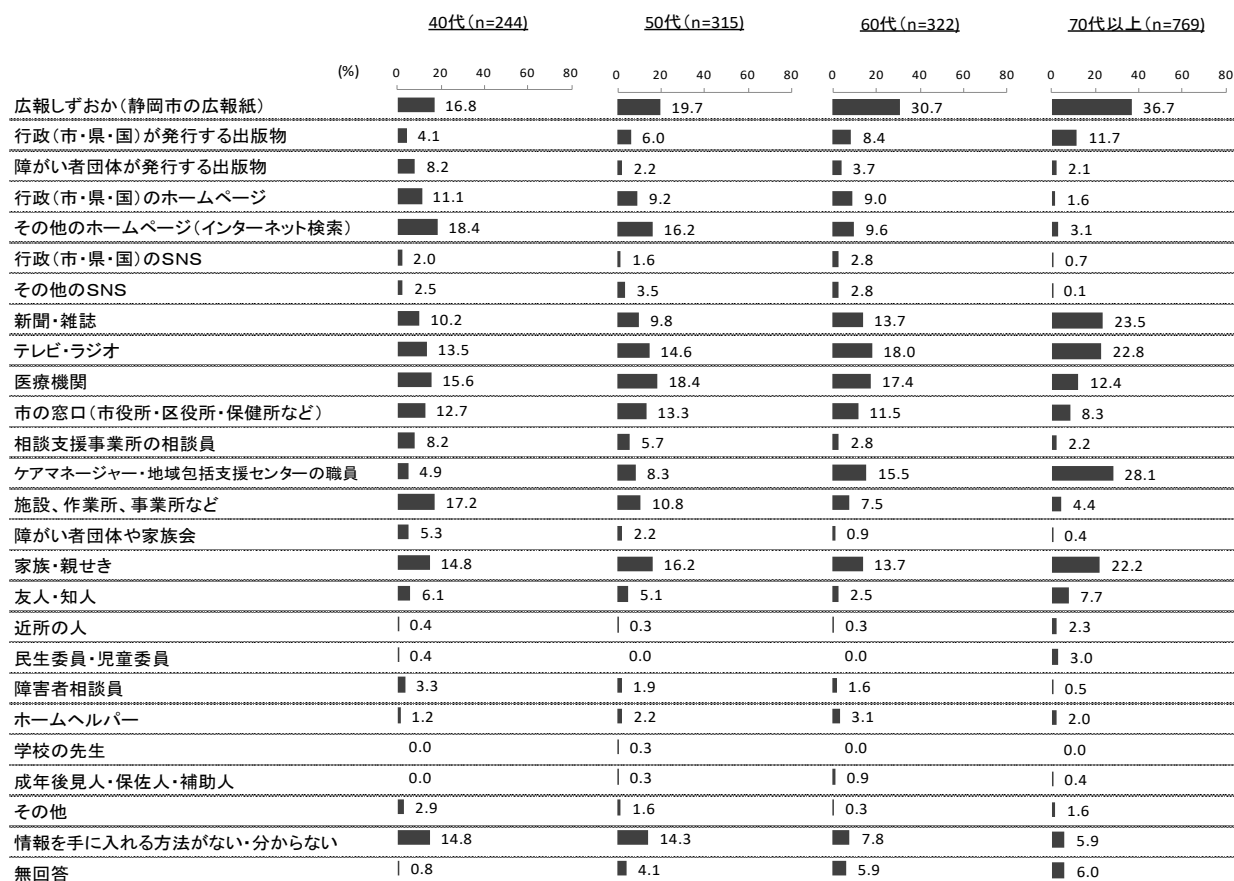
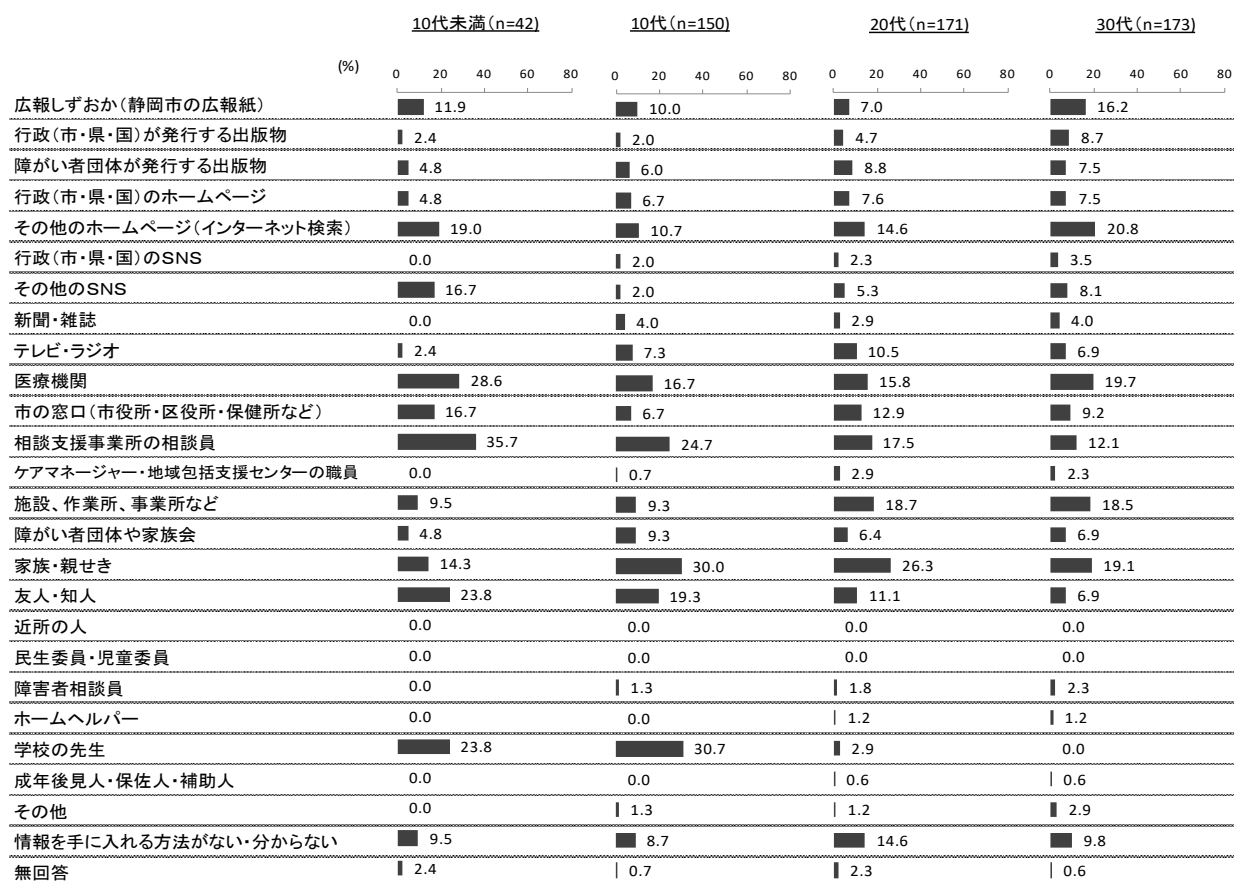
過去の調査結果と比べると、「家族・親せき」の割合が年々高くなる傾向があり、18歳未満においては「友人・知人」は低くなる傾向にある。

※「同じ障がいのある仲間」「ケアマネジャー・地域包括支援センターの職員」「成年後見人・保佐人・補助人」は平成23年・平成26年・平成28年調査では選択肢に含まれていない。「障害者相談員」は平成23年・平成26年調査では選択肢に含まれていない。

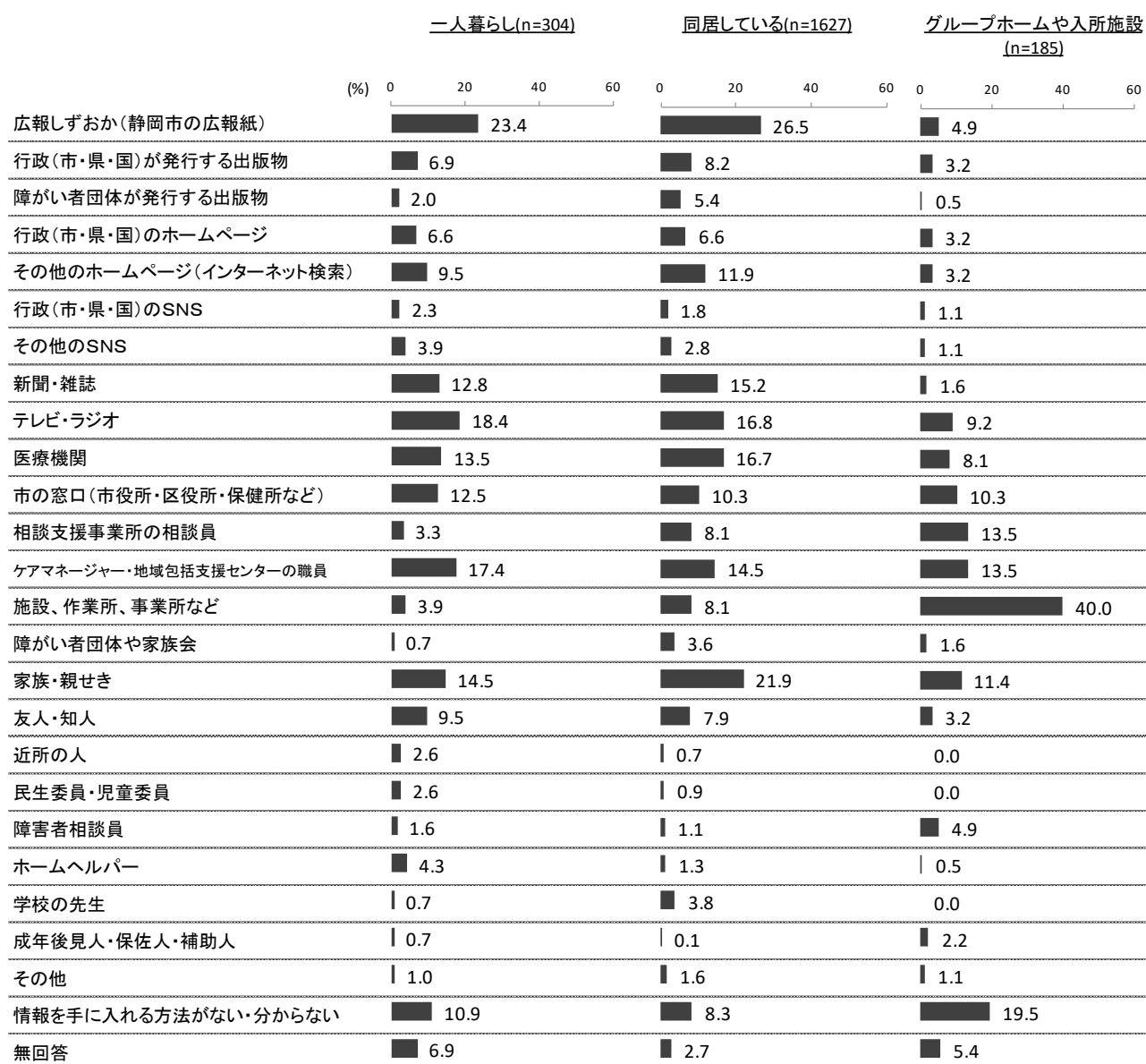
※「同じ障がいのある仲間」は令和元年調査では「同じ障がいを持つ仲間」としている。



<年齢別>



<同居状況別>



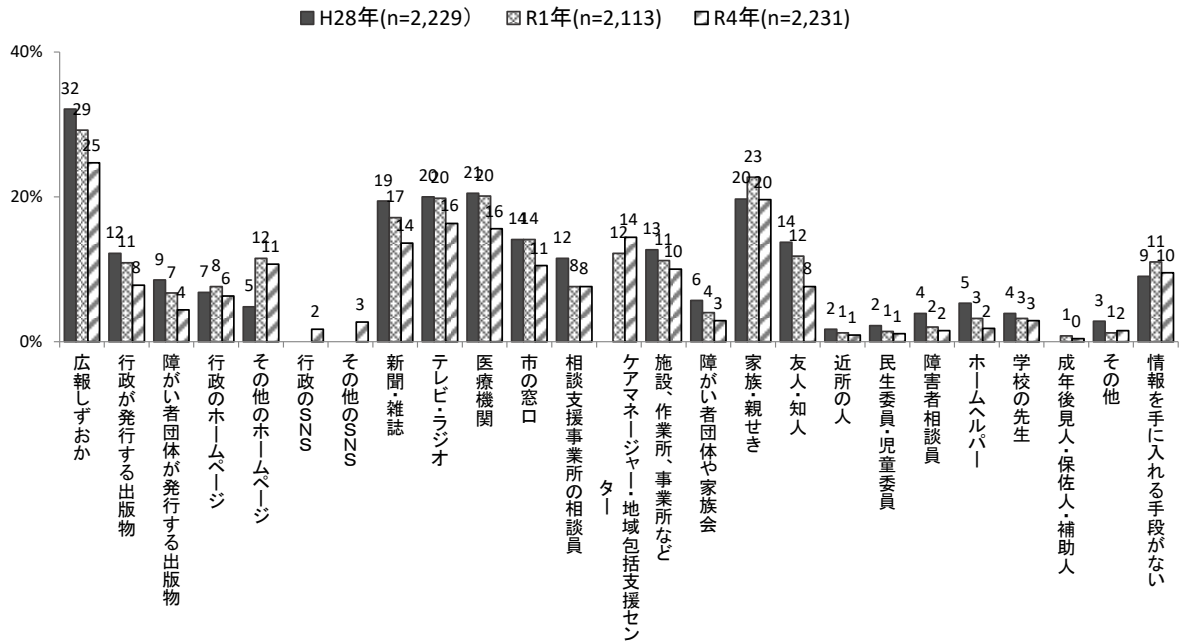
<経年変化>

令和元年の調査結果と比べると、回答数に制限がついたことが影響してか多くの選択肢で数値が下がっているが、「ケアマネジャー・地域包括支援センター」において数値が上がっている。

※令和元年調査では「行政のホームページ」は「市のホームページ」としている。

※令和元年調査では「行政のSNS」「その他のSNS」は選択肢にない。

※令和元年調査までは回答数に制限はなかったが、令和4年調査では回答数上限を3としていた。

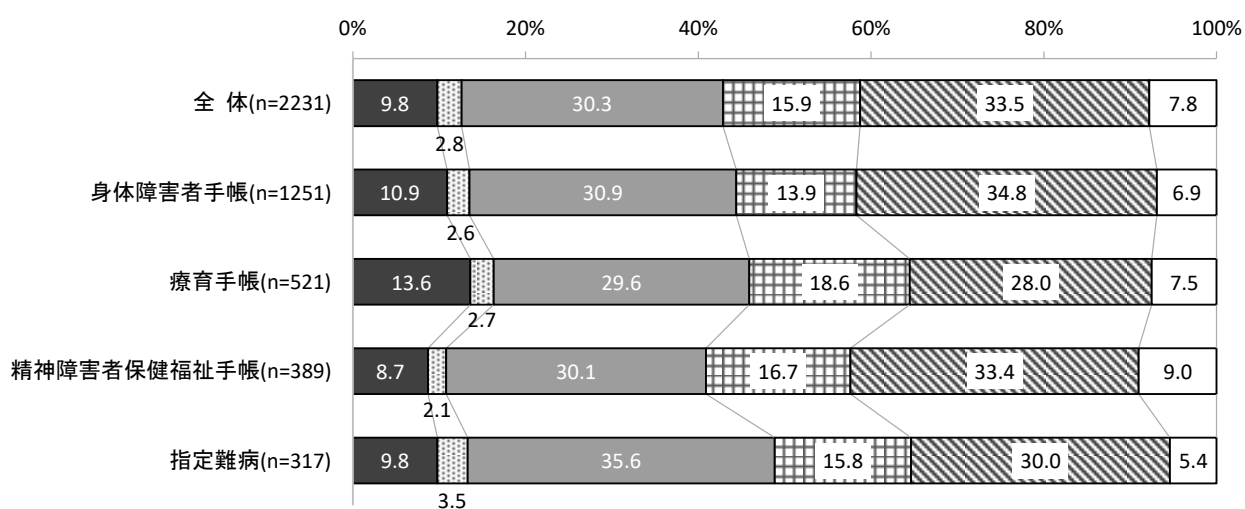


(6) ヘルプマークの認知

問 16 あなたは、「ヘルプマーク」(40 ページ参照)を知っていますか。(〇は1つ)

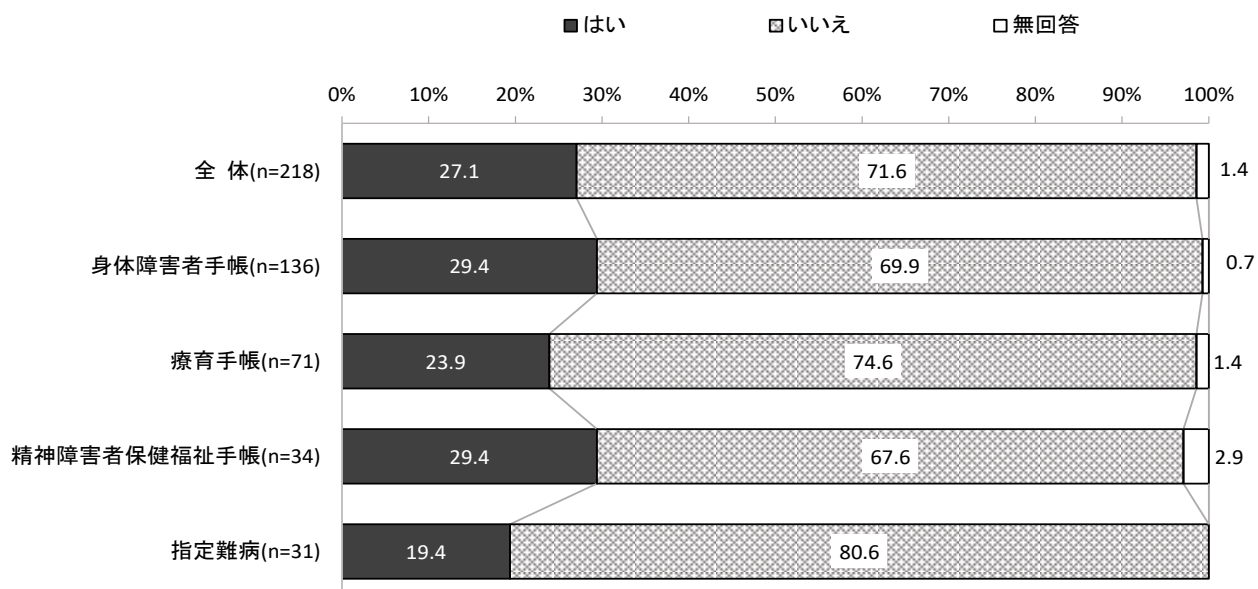
「聞きしかなかった」が「身体障害者手帳所有者」「精神障害保健福祉手帳所有者」においてトップでおよそ3割以上を占めている。療育手帳所有者では、「意味を知っており、使用している」が13.6%とやや高く、「聞きしかなかった」は28.0%と低めとなっている。

- 意味を知っており、使用している
- 意味を知っており、見聞きしたことがある
- ▣ 聞きしかなかった(はじめて知った)
- ▤ 意味を知っており、使用している人を支援したことがある
- ▥ 意味は知らないが、見聞きしたことがある
- 無回答

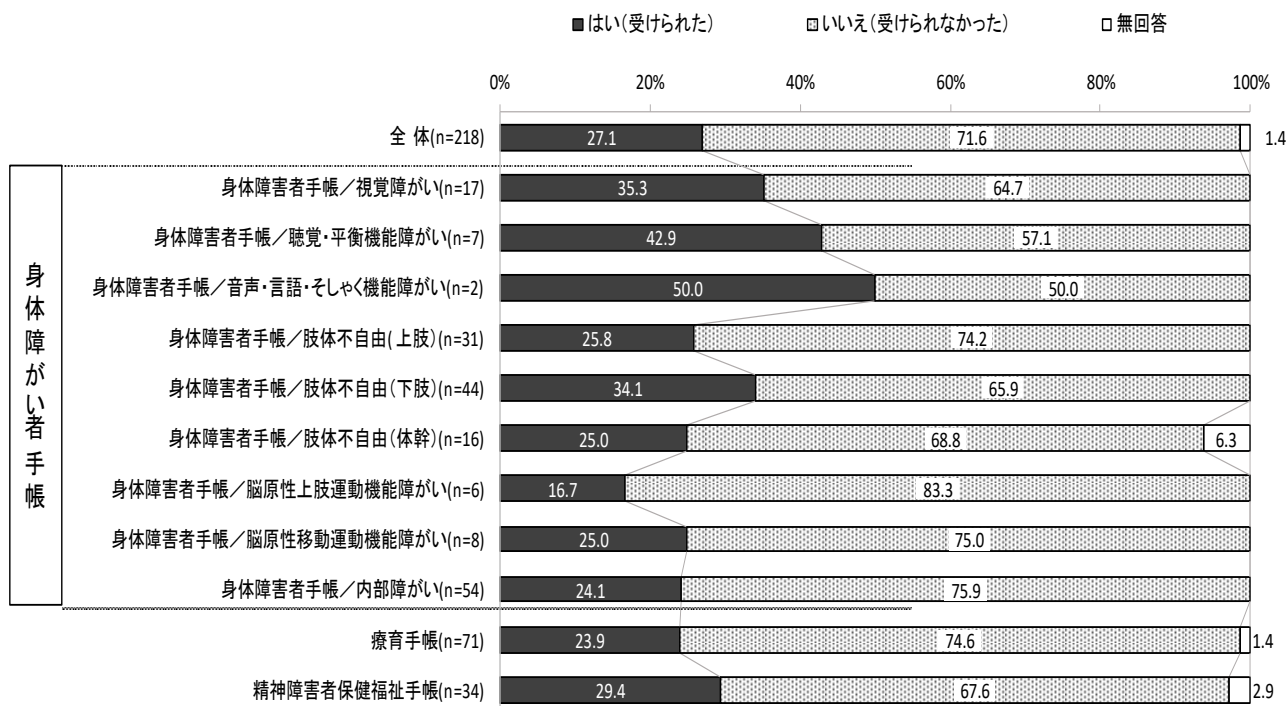


(問 16 で「1 意味を知っており、使用している」と答えた方にお伺いします)
 付問① ヘルプマークを使用しているときに支援を受けることができましたか。(〇は1つ)

「はい (支援を受けられた)」と回答したのは全体の 27.1% で、7 割以上が支援を受けられていない。
 障がいの詳細でみると、各サンプル数が少ないため参考程度ではあるが「視覚障がい」「聴覚・平衡機能障がい」「音声・言語・そしゃく機能障がい」「肢体不自由 (下肢)」のある人で「はい」との回答が高めとなっている。

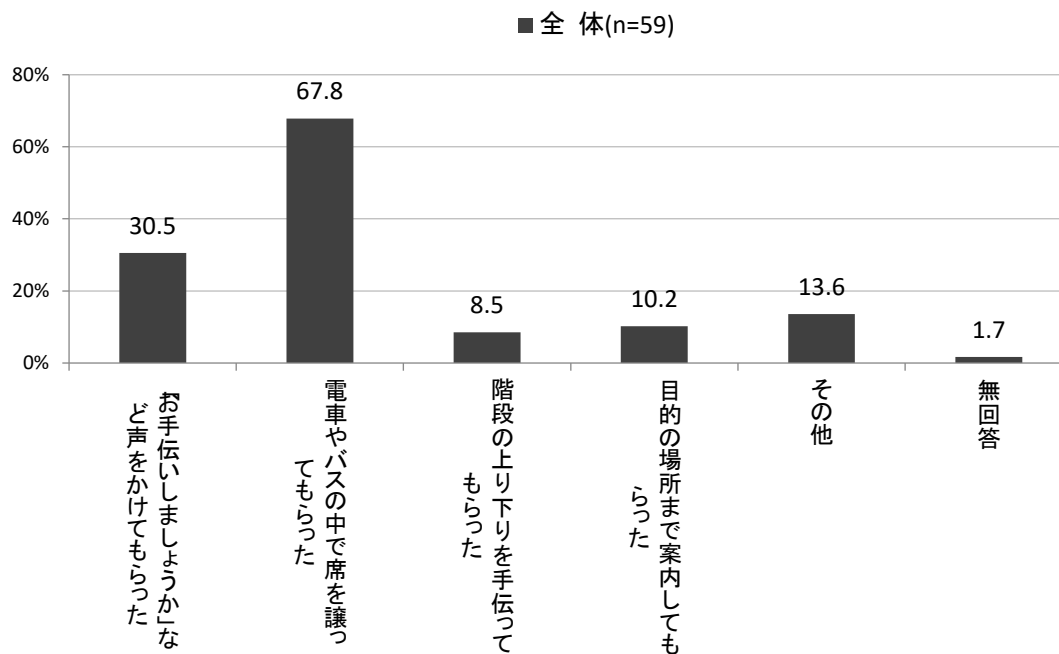


<手帳の種類 (詳細) 別>



(付問①で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
付問② どんな支援を受けることができましたか。(〇はいくつでも)

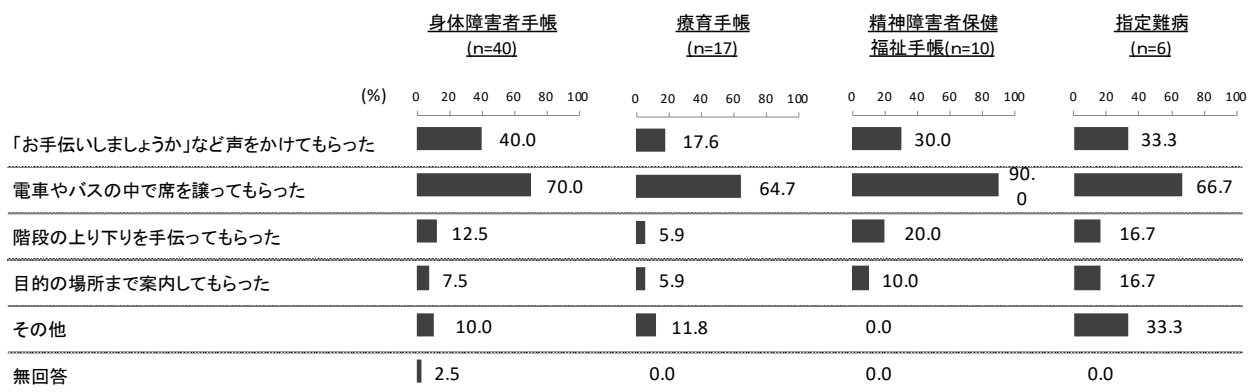
受けた支援の内容では「電車やバスの中で席を譲ってもらった」が67.8%で最も高かった。



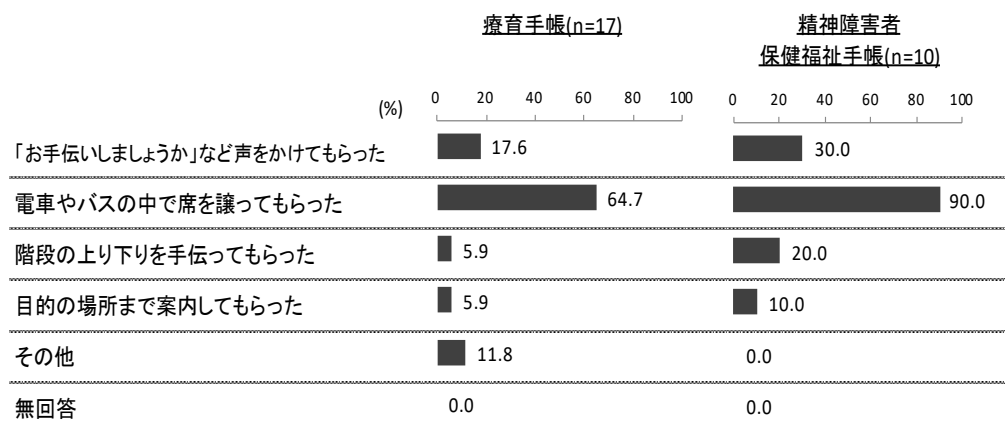
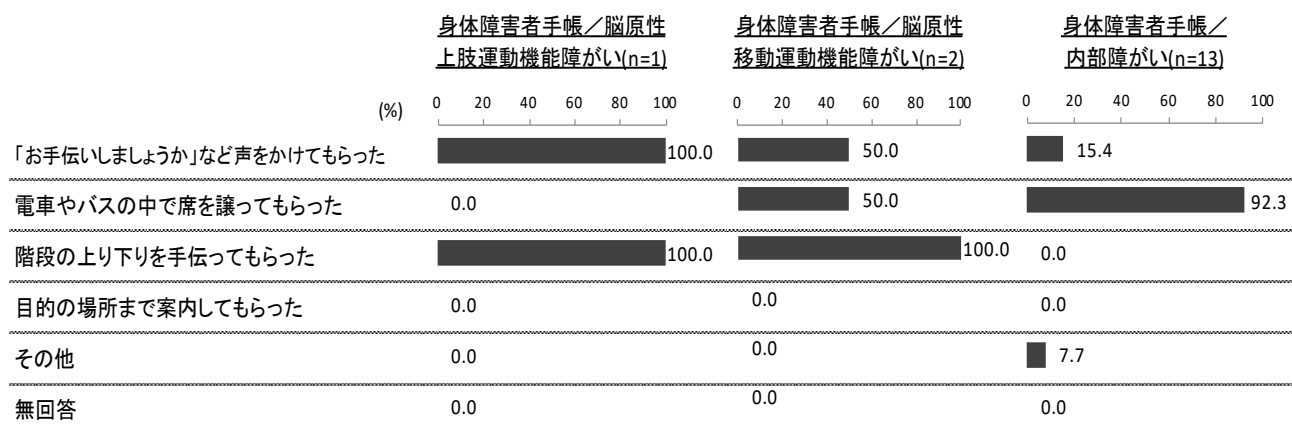
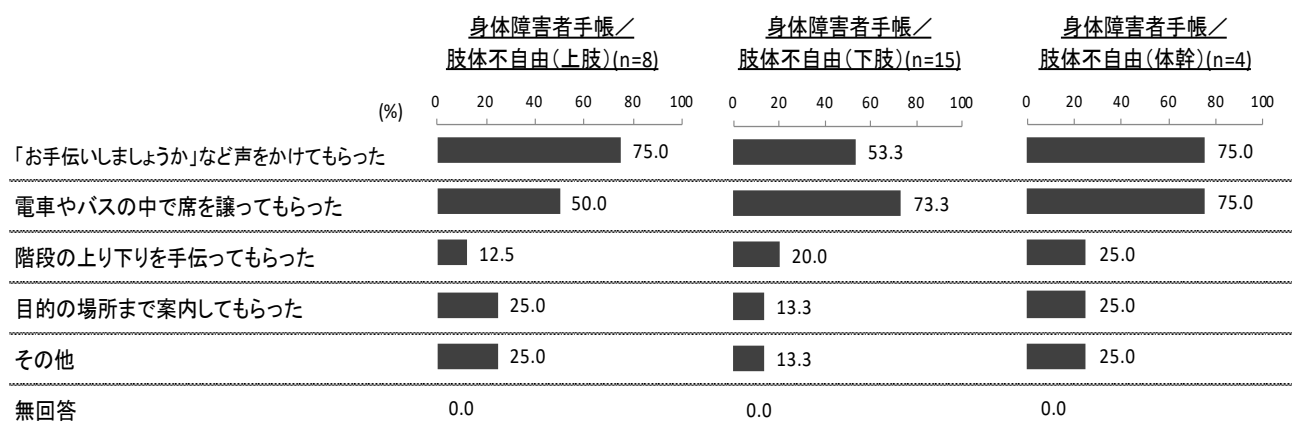
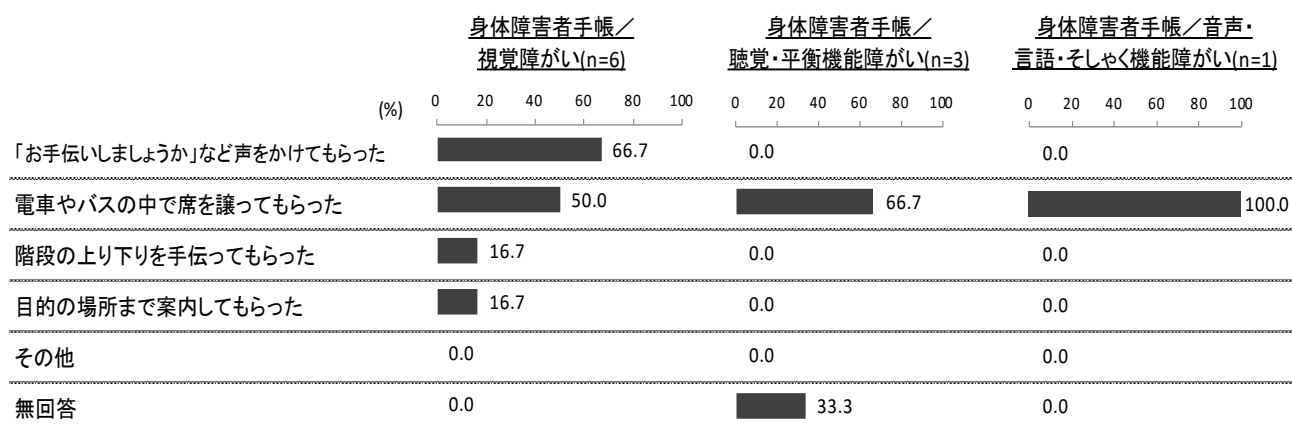
(その他)

横断歩道で止まってくれた/障害者トイレを使用する時/会計の時/重い荷物を持つのを手伝ってくれた/病院の椅子が足りなくて立っていたら青年が“どうぞ”と声かけてくれた/あまり声をかけられることがないため私が気づいていないだけでおそらく多くの人が私を支援してくれていると思う/声かけはなし/使用していない

<手帳の種類(詳細)別>



II 調査結果

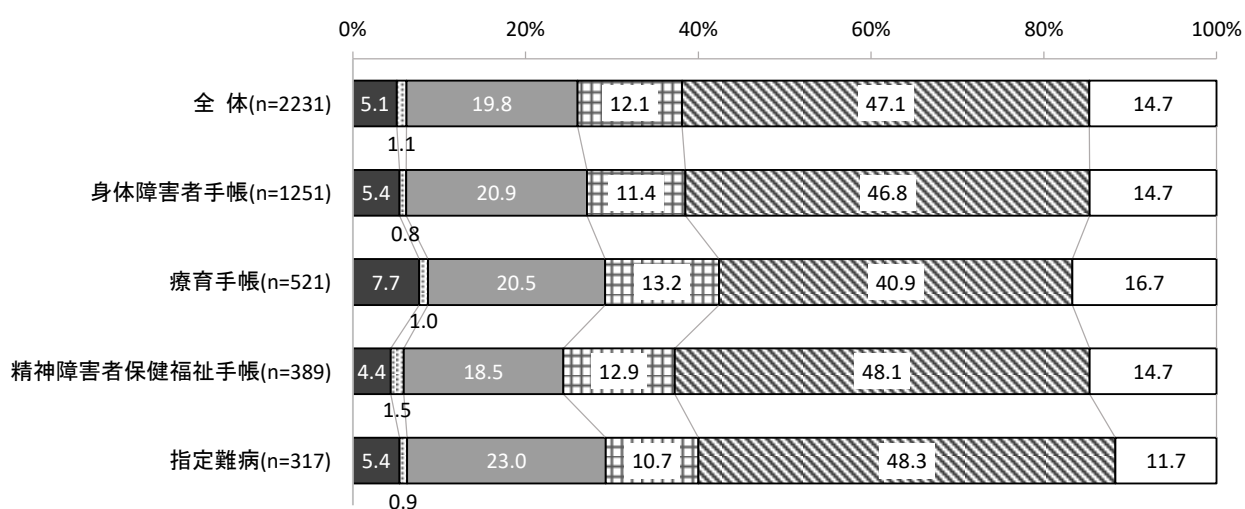


(7) ヘルプカードの認知

問 17 あなたは、「ヘルプカード」(40 ページ参照)を知っていますか。(○は1つ)

「見聞きしたことがない」が手帳の種別に関わらずトップで4割以上を占めている。療育手帳所有者では、「意味を知っており、使用している」が7.7%と他と比べてやや高くなっている。

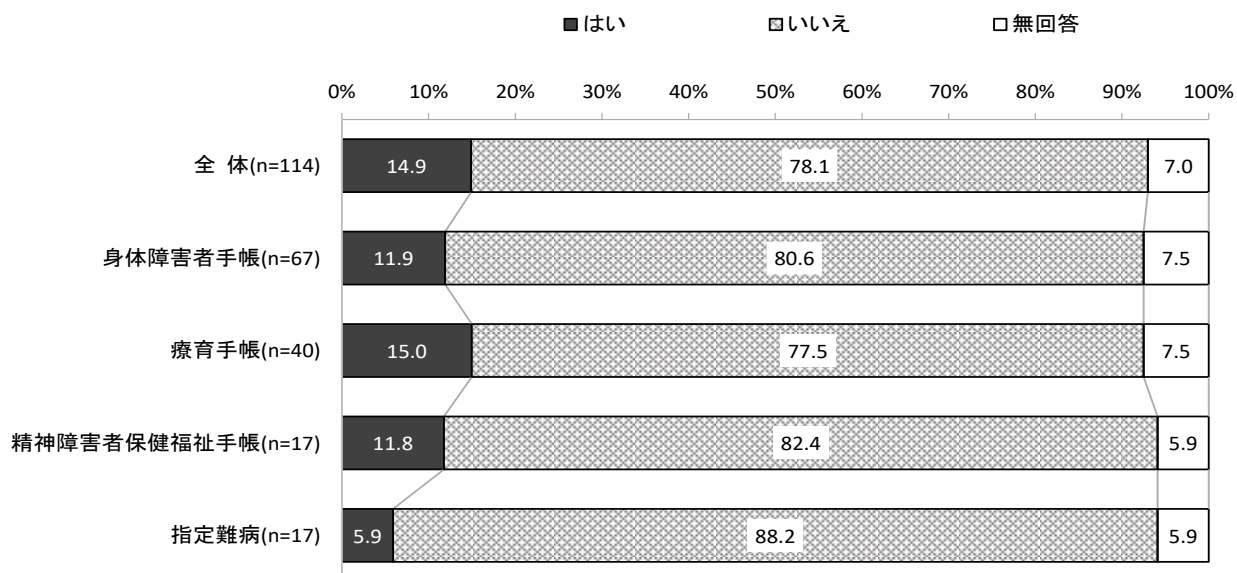
- 意味を知っており、使用している
- 意味を知っており、見聞きしたことがある
- ▨ 見聞きしたことがない(はじめて知った)
- ▩ 意味を知っており、使用している人を支援したことがある
- ▧ 意味は知らないが、見聞きしたことがある
- 無回答



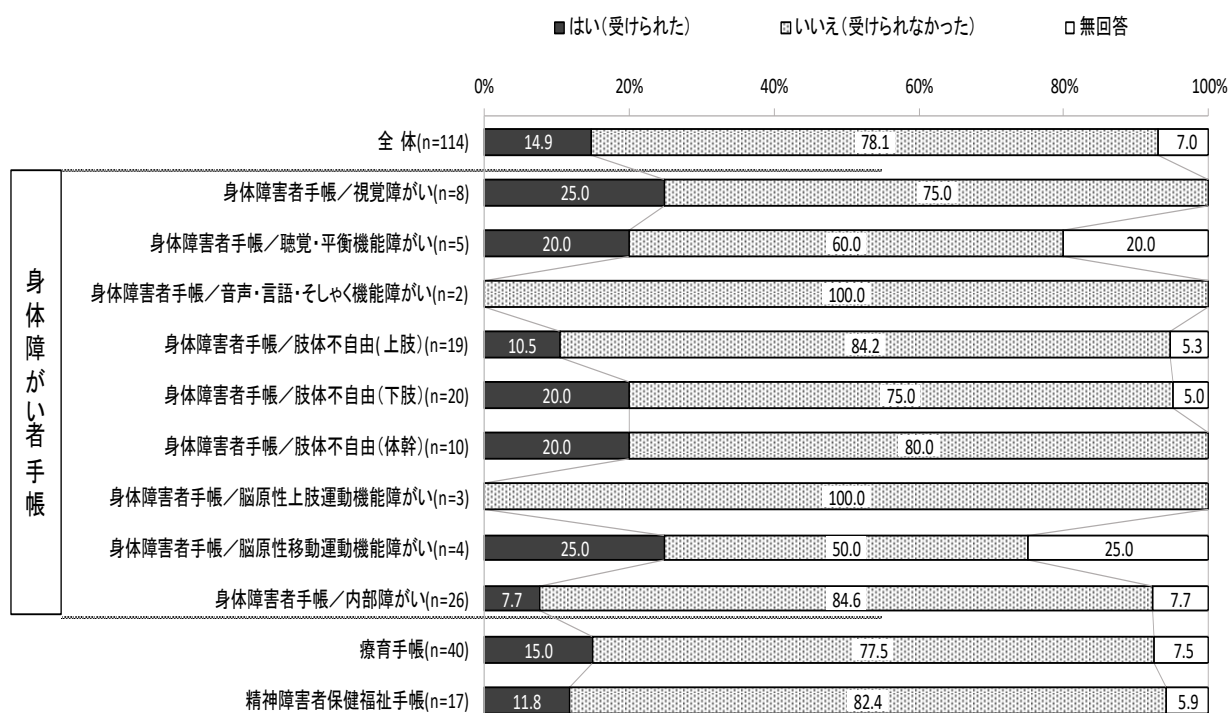
(問 17 で「1 意味を知っており、使用している」と答えた方にお伺いします)
 付問① ヘルプカードを使用しているときに支援を受けることができましたか。(○は1つ)

「はい(支援を受けられた)」と回答したのは全体の14.9%で、8割以上が支援を受けられていない。サンプル数が少ないため参考程度ではあるが、指定難病者は特に「はい」が5.9%と低い。

障がいの詳細でみると、各サンプル数が少ないためやはり参考程度ではあるが、視覚障がいのある人で「はい」との回答が高い。

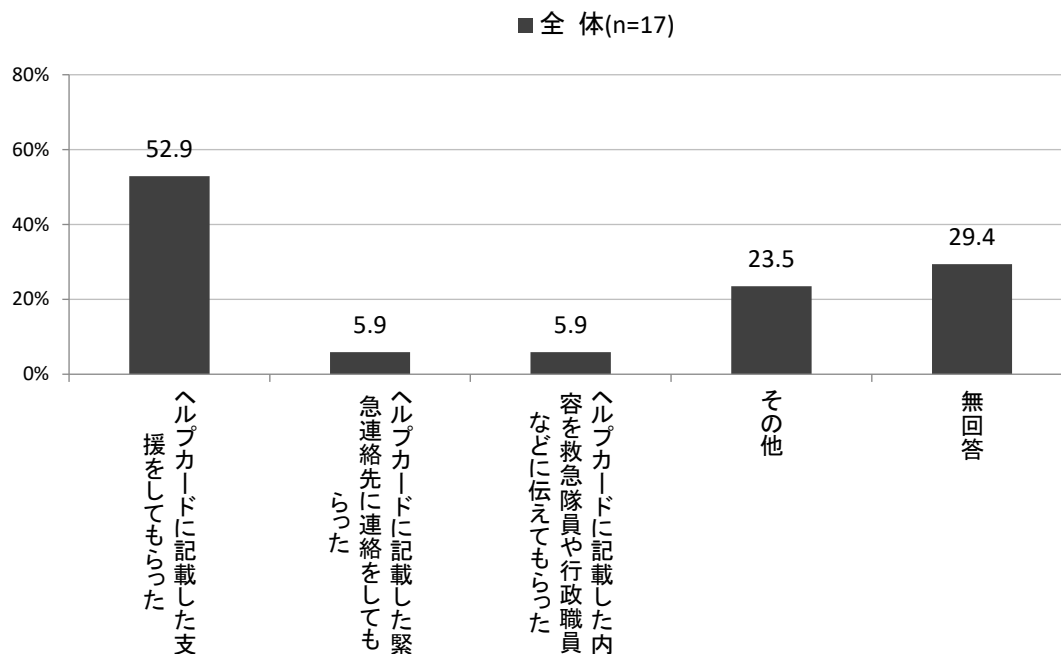


<手帳の種類(詳細)別>



(付問①で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
 付問② どんな支援を受けることができましたか。(〇はいくつでも)

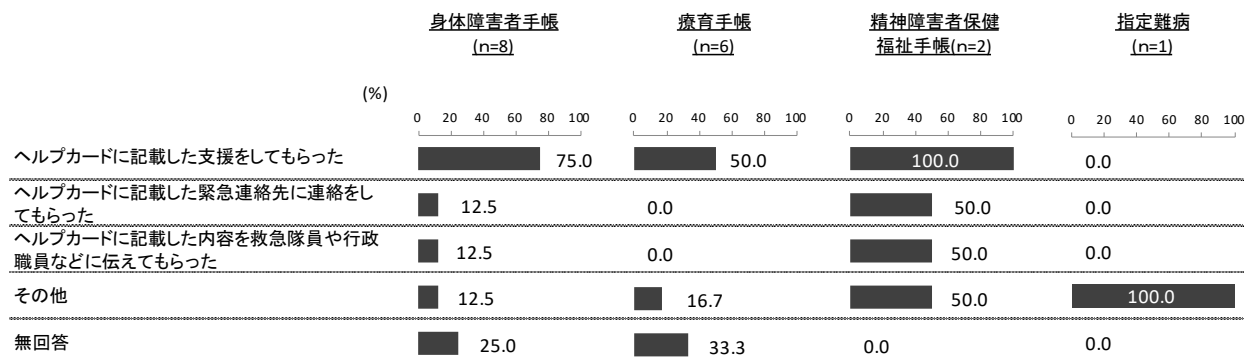
受けた支援の内容では「ヘルプカードに記載した支援をしてもらった」が52.9%で最も高かった。



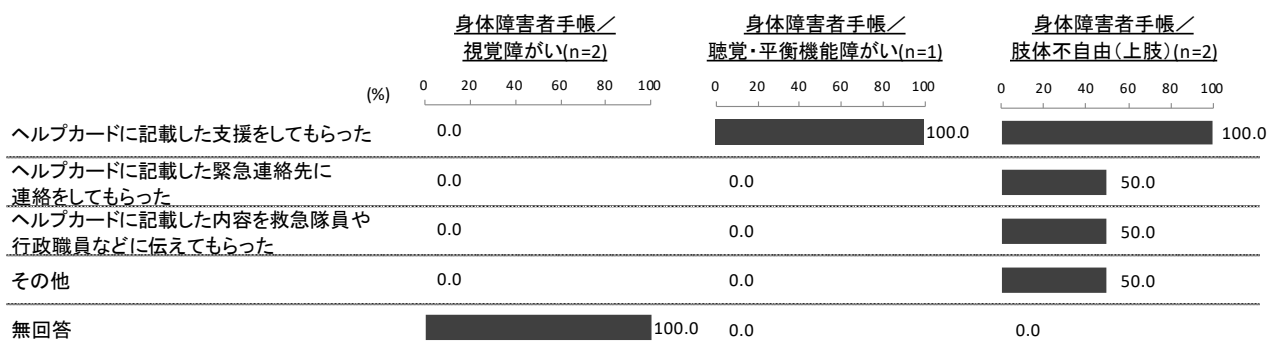
(その他)

使用していない(2件)/ヘルプカードを知る能力なし。施設職員の支援を受けている/病院で席を譲られた(待合室の椅子)/本人は自分には必要ない物だとの理解

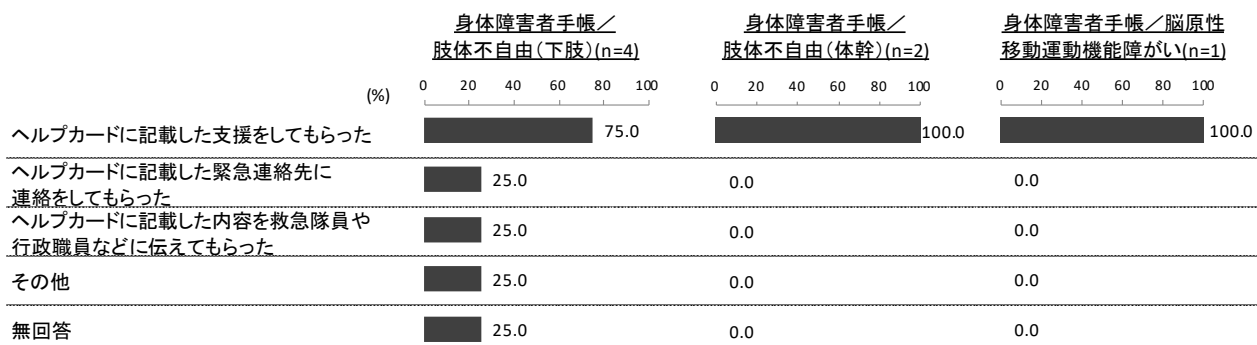
<手帳の種類(詳細)別>



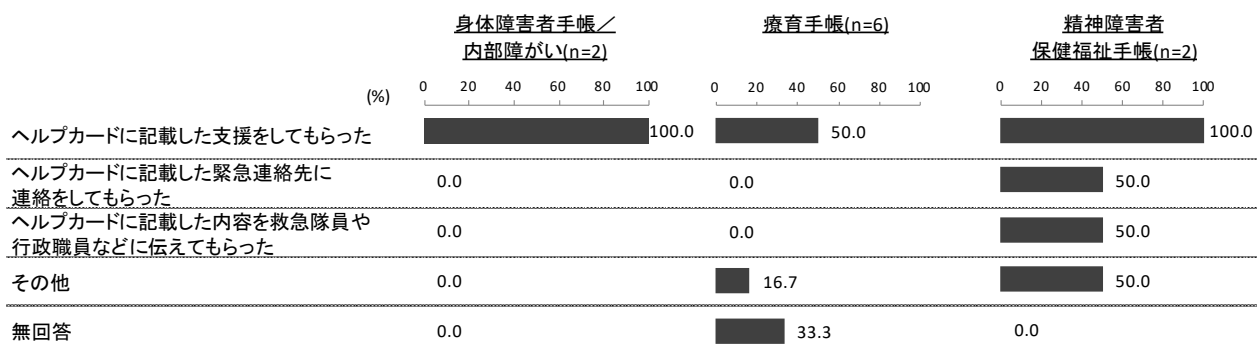
<手帳の種類（詳細）別>



※「身体障害者手帳／音声・言語・そしゃく機能障がい」は件数0のため省略



※「身体障害者手帳／脳原性上肢運動機能障がい」は件数0のため省略



4. 障害福祉サービス等の利用について

(1) 受給者証の有無

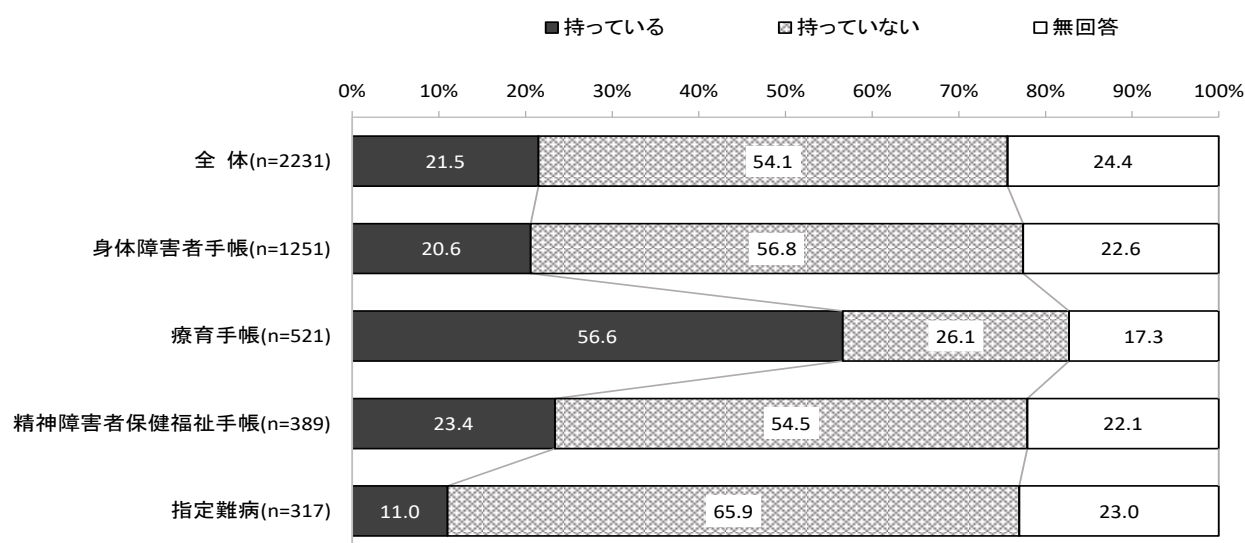
問 18 あなたの現在の障害福祉サービス等の利用状況をお伺いします。

(1) 障害福祉サービス受給者証又は通所受給者証(高校3年生以下の方のみ)をお持ちですか。また 18 歳以上の方は、障害支援区分についてもお答えください。

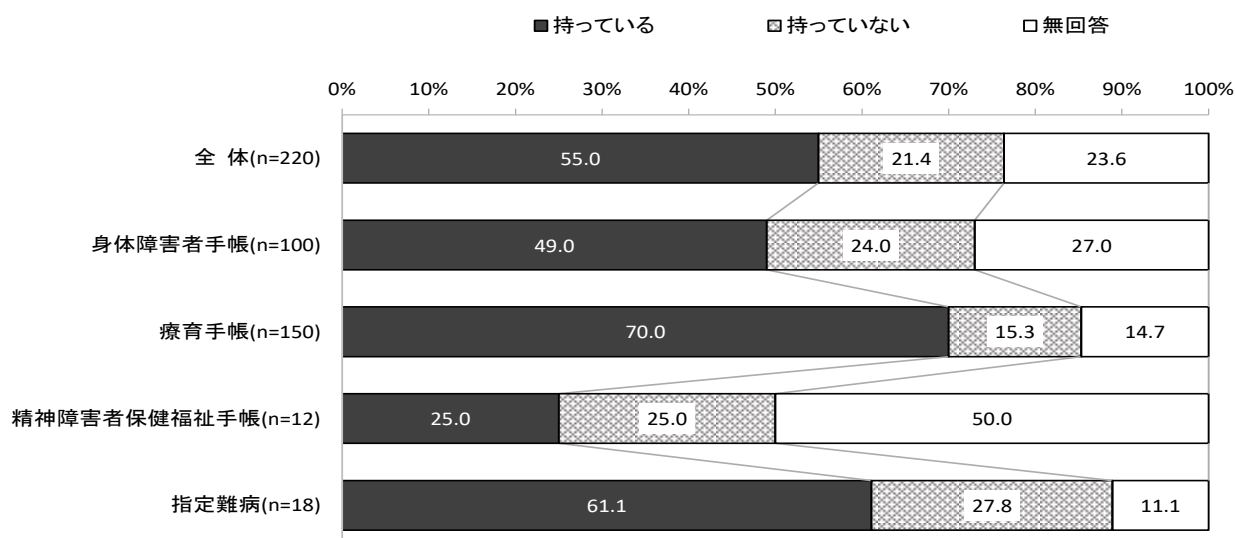
障害福祉サービス受給者証の所有者は、全体の 21.5% となっている。療育手帳所有者については、所有者が 6 割弱を占めている。

通所受給者証は全体でみると半数以上が所有している。

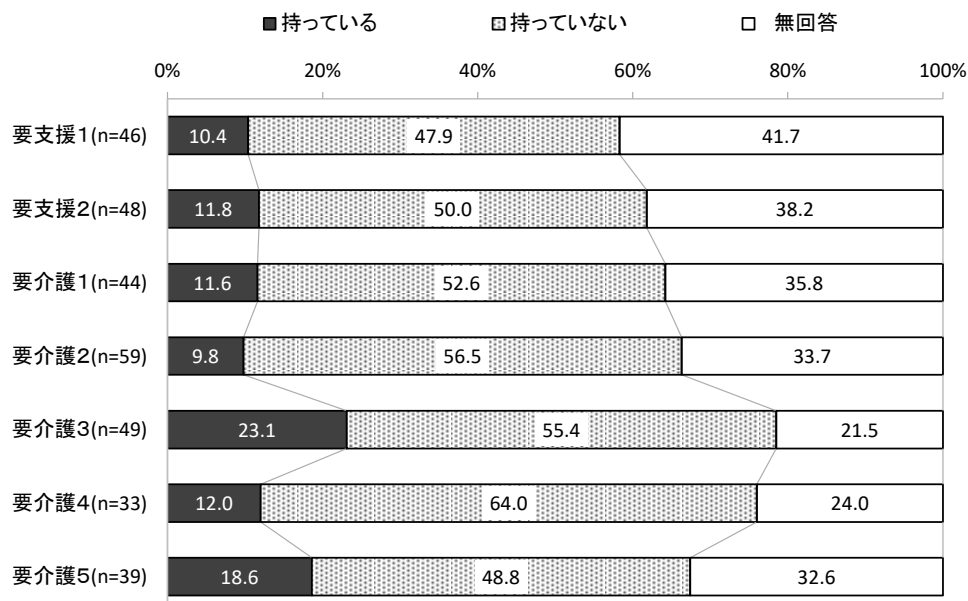
〈障害福祉サービス受給者証〉



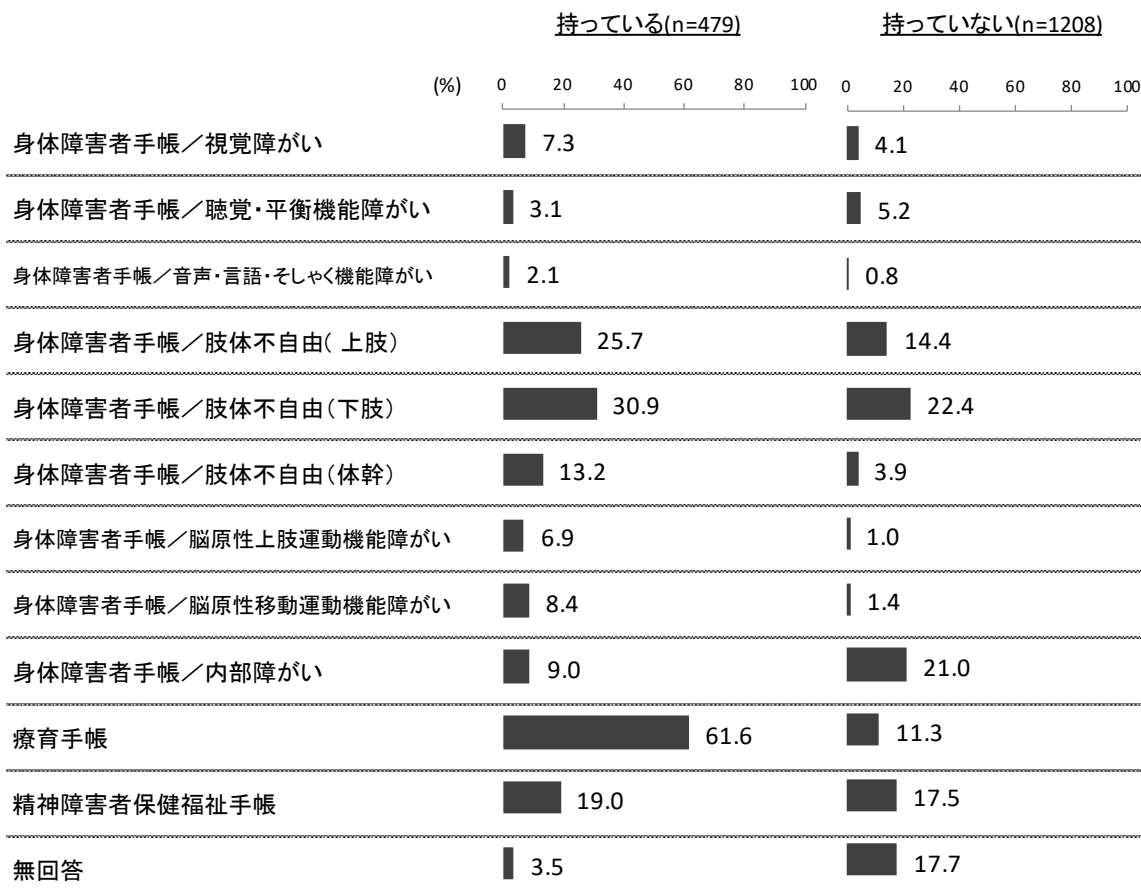
〈通所受給者証〉



<障害福祉サービス受給者証の所有 要支援・要介護認定の有無別>



<障害福祉サービス受給者証の有無 障害者手帳の種類（詳細）別>

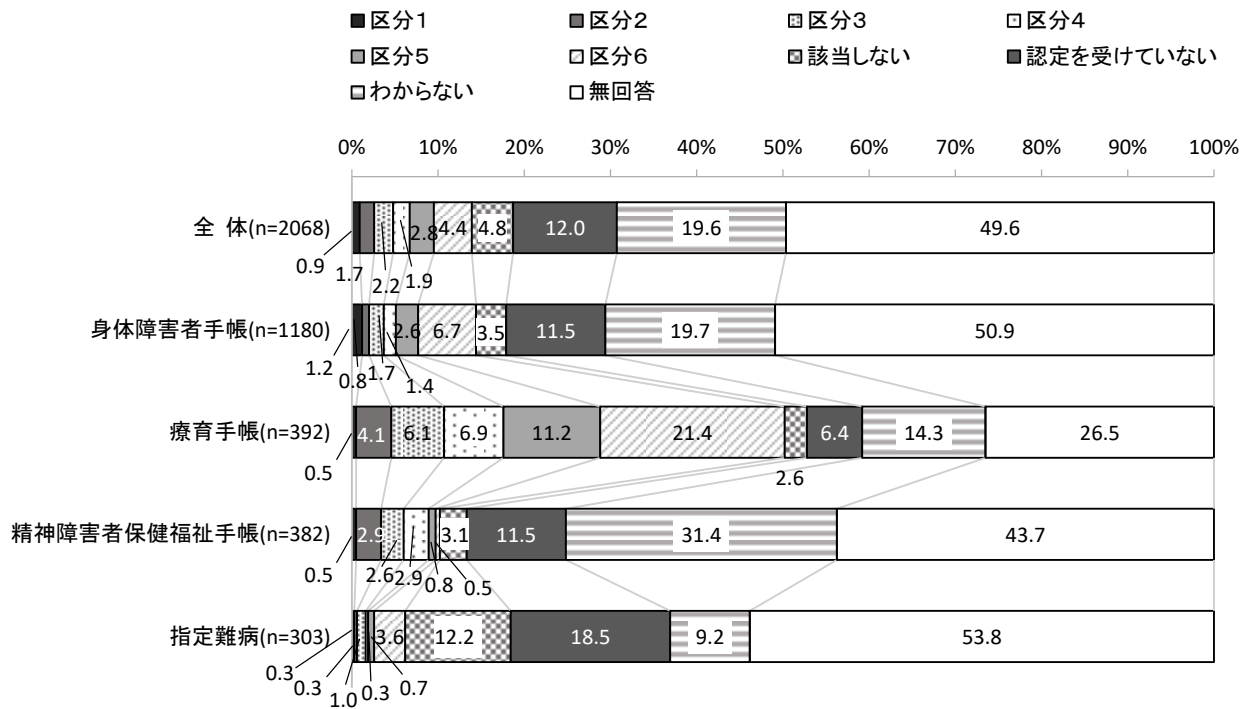


<障害支援区分>

問 18 あなたの現在の障害福祉サービス等の利用状況をお伺いします。

(1) 障害福祉サービス受給者証又は通所受給者証(高校3年生以下の方のみ)をお持ちですか。また 18 歳以上の方は、障害支援区分についてもお答えください。

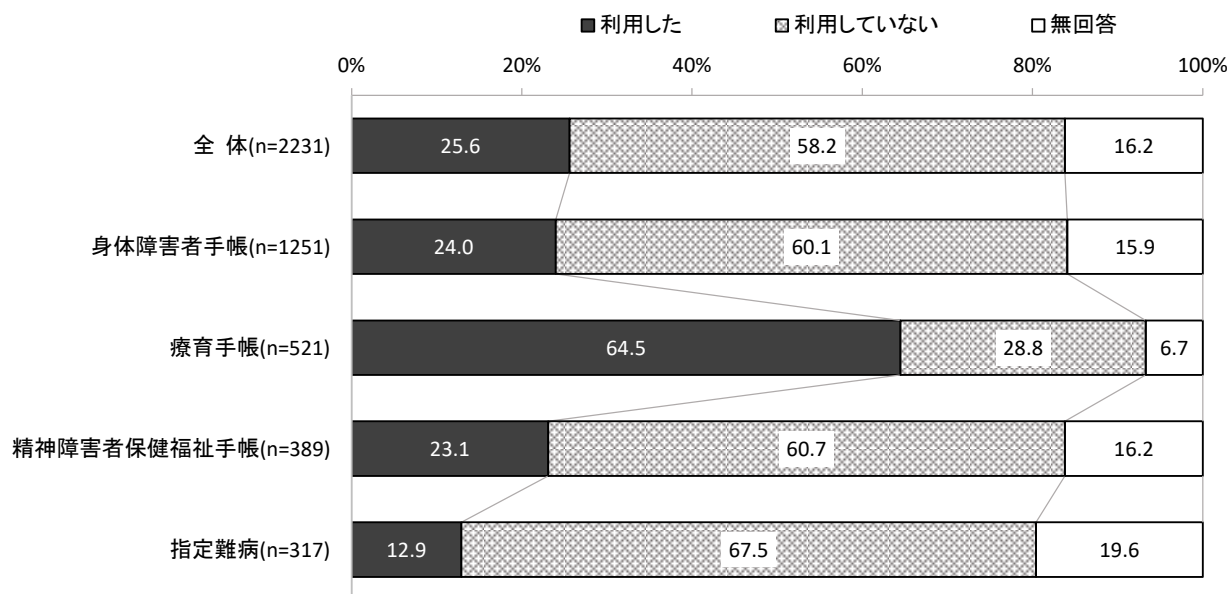
認定を受けている人は、全体の 13.9%。療育手帳所有者については認定を受けている人で 5 割を占めている。



(2) 福祉サービスの利用状況

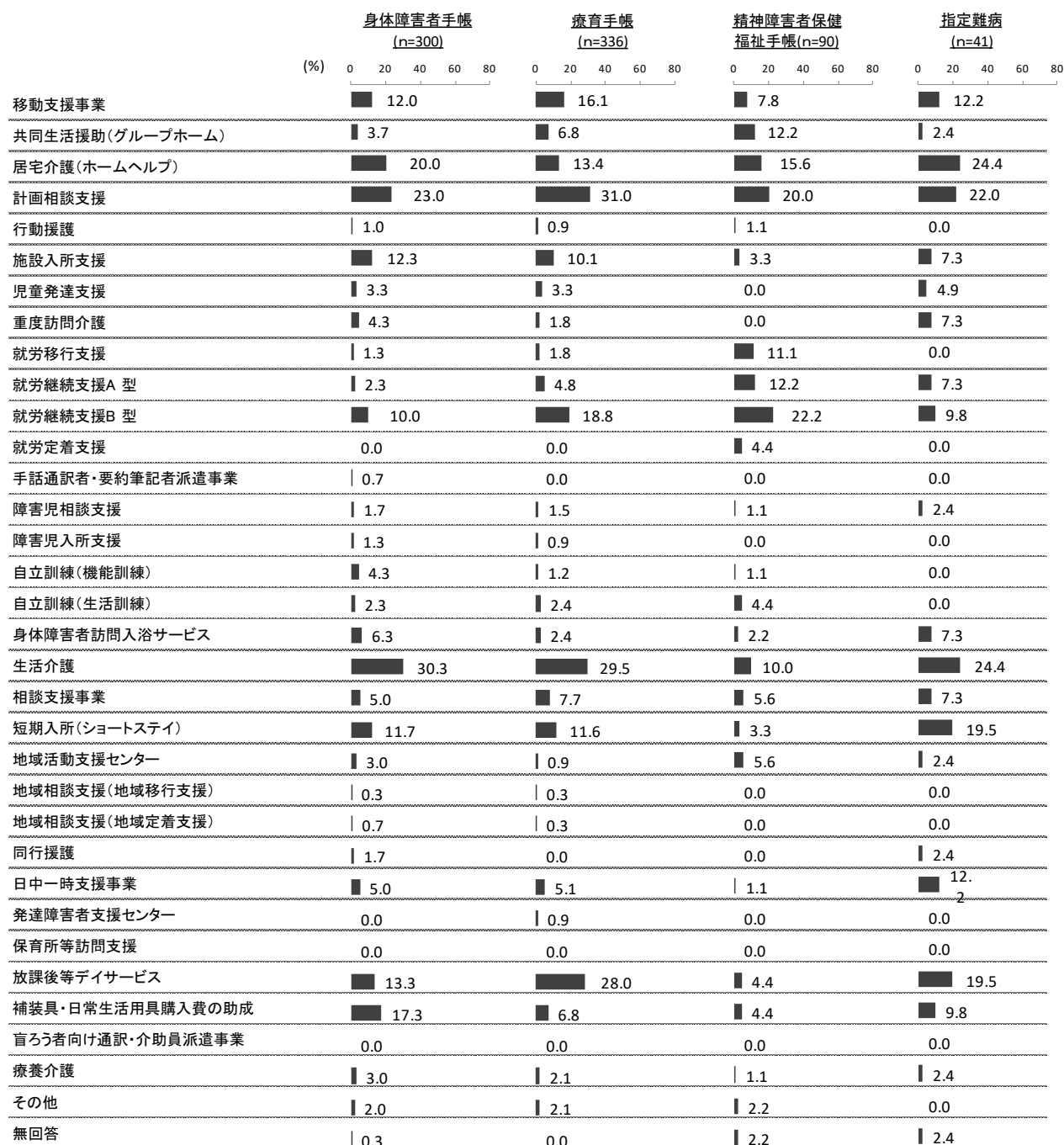
問 18 あなたの現在の障害福祉サービス等の利用状況をお伺いします。
 (2) あなたは、令和4年11月に障害福祉サービス等を利用しましたか。(○は1つ)

利用した人は、全体の3割未満。療育手帳所有者については6割以上が「利用した」と回答している。



(問 18(2)で「1 利用した」と回答した方にお伺いします)
付問① 利用したサービスをお答えください。(あてはまるもの全てに○)

身体障害者手帳所有者において、「生活介護」が 30.3%と最も高い。次いで「計画相談支援」23.0%、「居宅介護」20.0%と続く。療育手帳所有者では「計画相談支援」の 31.0%が最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者では「就労継続支援 B 型」が 22.2%、「計画相談支援」が 20.0%となっている。指定難病者については、「居宅介護」と「生活介護」24.4%が最も高くなっている。



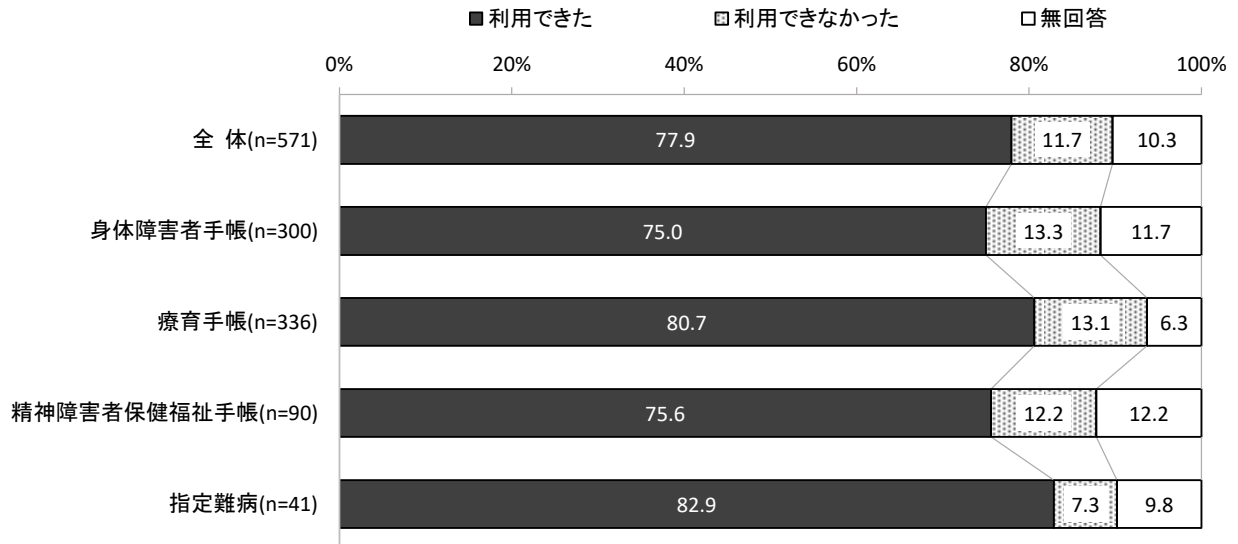
(その他)

タクシー、バス(3件)/デイサービス(3件)/保健福祉施設 歯と口の健康支援センター/放課後デイサービス /障害者就業、生活支援センター /IC
カードルカ /ホームヘルパー/病院通院介助/障害者就労生活支援センター●●●/居宅介護は自費

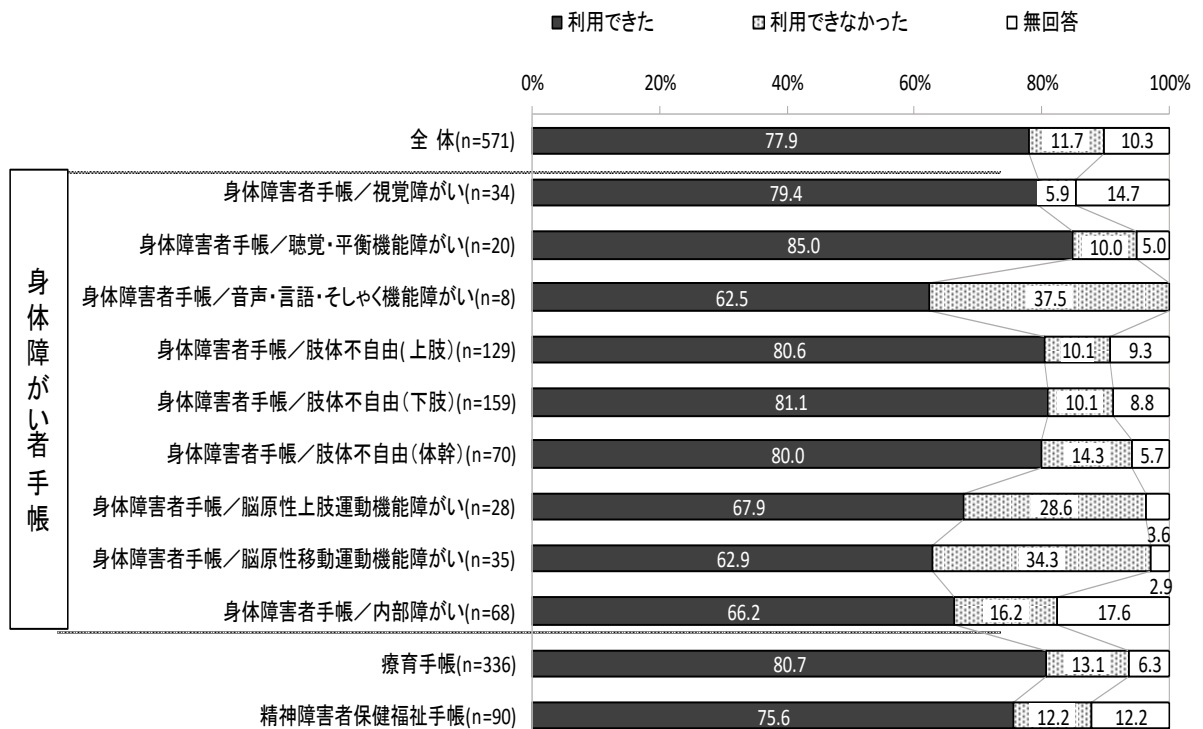
(3) 福祉サービスの利用実態

問 19 支給決定(契約)どおり利用できましたか。(○は1つ)

「利用できた」が約8割を占めている。

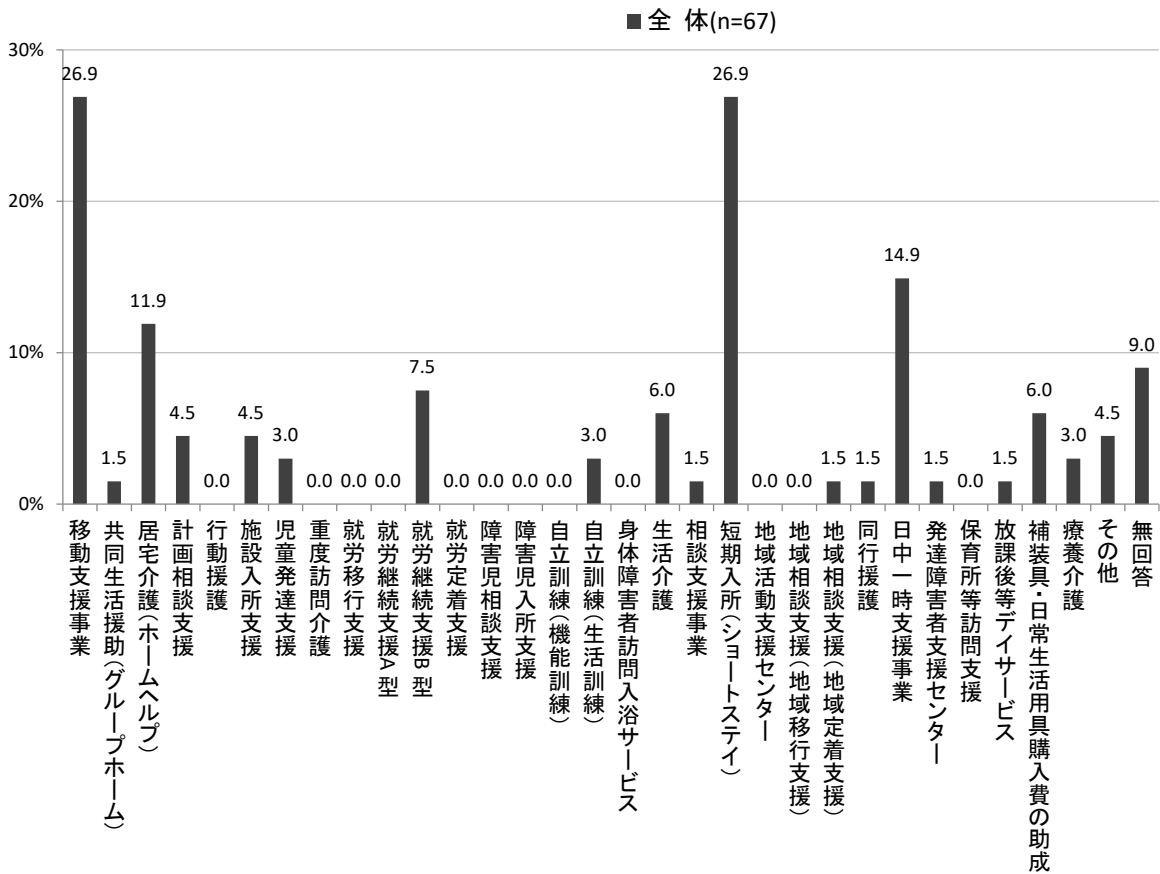


<障害者手帳の種類(詳細)別>



(問 19 で「2 利用できなかった」と回答した方にお伺いします)
 付問① 支給決定(契約)どおり利用できなかったのは、どのサービスですか。
 (ご本人・支援者の判断で利用しなかったものを除き、あてはまるもの全てに○)

利用できなかったサービスでは「移動支援事業」「短期入所」が 26.9%で特に高い。



(その他)

必要がない(15件)/受給者証がない(4件)/訪問介護(2件)/制度を知らない(2件)/●●●●、B型/全部/施設に入所しているので/歩行困難。お手洗いが激しい/デイサービス週に1回/リハビリセンター/地域包括支援センターのケアマネに毎月計画を作ってもらいデイサービスに週3回(うち1回は入浴)。他はリハビリをしたり、脳トレなどをする/使用したいものがない/家事介護支援/入浴。施設内での

<手帳の種類(詳細)別>

単位 %、()内実数

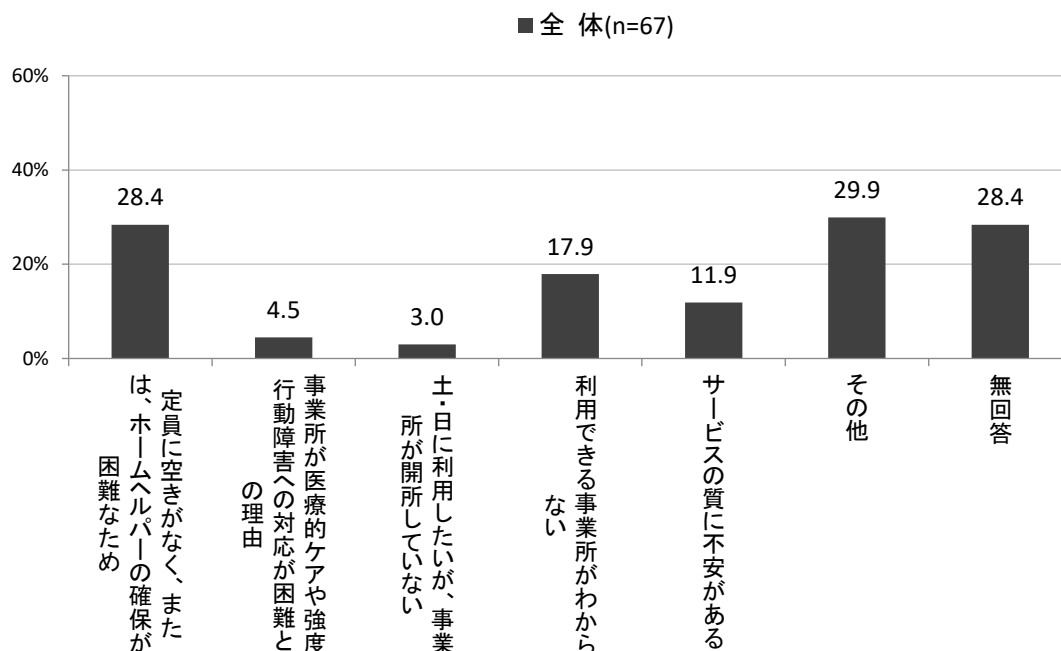
		移動支援 事業	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	居宅介護 (ホームヘルプ)	計画相談 支援	行動援護	施設入所 支援	児童発達 支援	重度訪問 介護	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
全体	(67)	26.9	1.5	11.9	4.5	0.0	4.5	3.0	0.0	0.0	0.0	7.5
身体障害者手帳	視覚障がい	(2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障がい	(2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障がい	(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肢体不自由(上肢)	(13)	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肢体不自由(下肢)	(16)	18.8	0.0	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肢体不自由(体幹)	(10)	10.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	脳原性上肢運動機能障がい	(8)	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	脳原性移動運動機能障がい	(12)	33.3	0.0	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障がい	(11)	9.1	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
療育手帳	(44)	34.1	2.3	9.1	4.5	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	4.5
精神障害者保健福祉手帳	(11)	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3

		就労定着 支援	障害児相 談支援	障害児入 所支援	自立訓練 (機能訓 練)	自立訓練 (生活訓 練)	身体障害 者訪問入 浴サービ ス	生活介護	相談支援 事業	短期入所 (ショート ステイ)	地域活動 支援セン ター	地域相談 支援(地域 移行支援)
全体	(67)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	6.0	1.5	26.9	0.0	0.0
身体障害者手帳	視覚障がい	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	聴覚・平衡機能障がい	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障がい	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	肢体不自由(上肢)	(13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	0.0	0.0
	肢体不自由(下肢)	(16)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	25.0	0.0	0.0
	肢体不自由(体幹)	(10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	0.0	0.0
	脳原性上肢運動機能障がい	(8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0
	脳原性移動運動機能障がい	(12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0	0.0
	内部障がい	(11)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0
療育手帳	(44)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	4.5	0.0	38.6	0.0	0.0	
精神障害者保健福祉手帳	(11)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	

		地域相談 支援(地域 定着支援)	同行援護	日中一時 支援事業	発達障害 者支援セ ンター	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサー ビス	補装具・日 常生活用 具購入費 の助成	療養介護	その他	無回答	
全体	(67)	1.5	1.5	14.9	1.5	0.0	1.5	6.0	3.0	4.5	9.0	
身体障害者手帳	視覚障がい	(2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	聴覚・平衡機能障がい	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	音声・言語・そしゃく機能障がい	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
	肢体不自由(上肢)	(13)	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7	15.4
	肢体不自由(下肢)	(16)	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	18.8	6.3	6.3	12.5
	肢体不自由(体幹)	(10)	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0
	脳原性上肢運動機能障がい	(8)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	脳原性移動運動機能障がい	(12)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	内部障がい	(11)	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	18.2
療育手帳	(44)	2.3	0.0	22.7	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3	4.5	6.8	
精神障害者保健福祉手帳	(11)	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	

(問 19 で「2 利用できなかった」と回答した方にお伺いします)
 付問② 支給決定(契約)どおり利用できなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

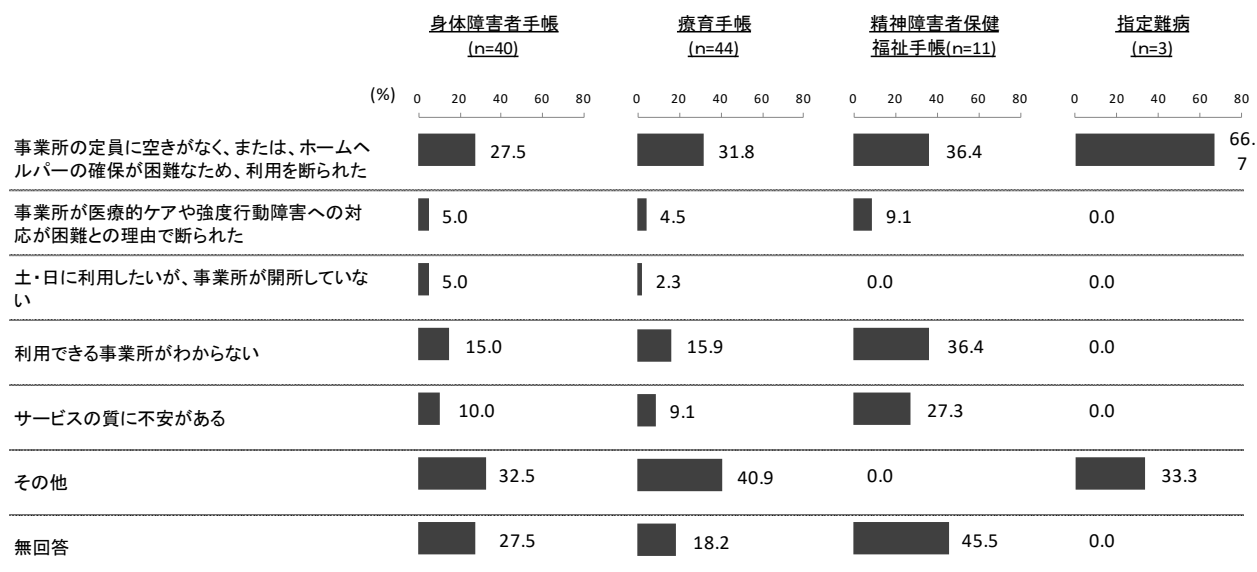
各サービスを利用できなかった理由は、「定員に空きがなく、またはホームヘルパーの確保が困難なため」が 28.4% で高かった。



(その他)

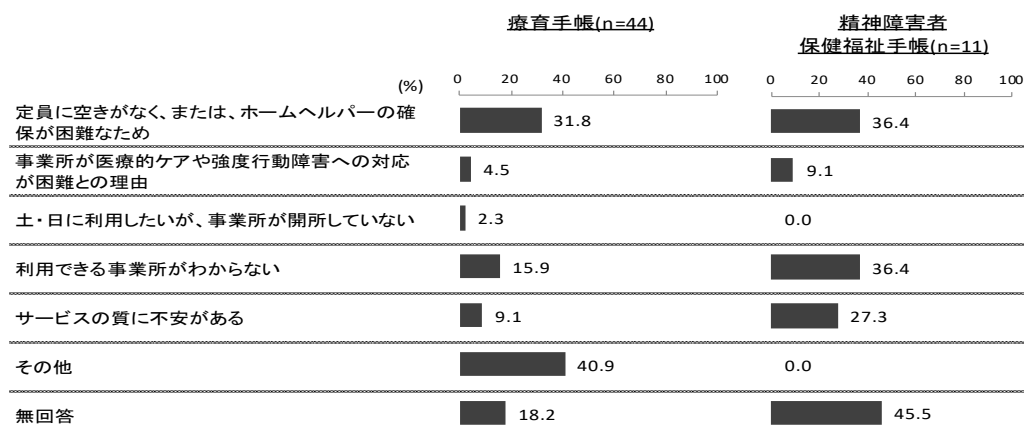
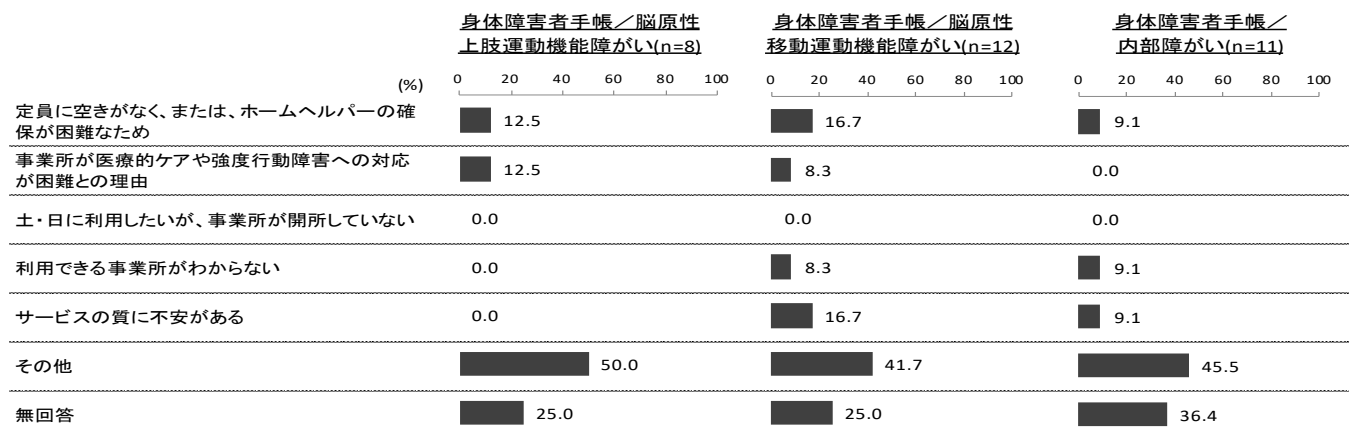
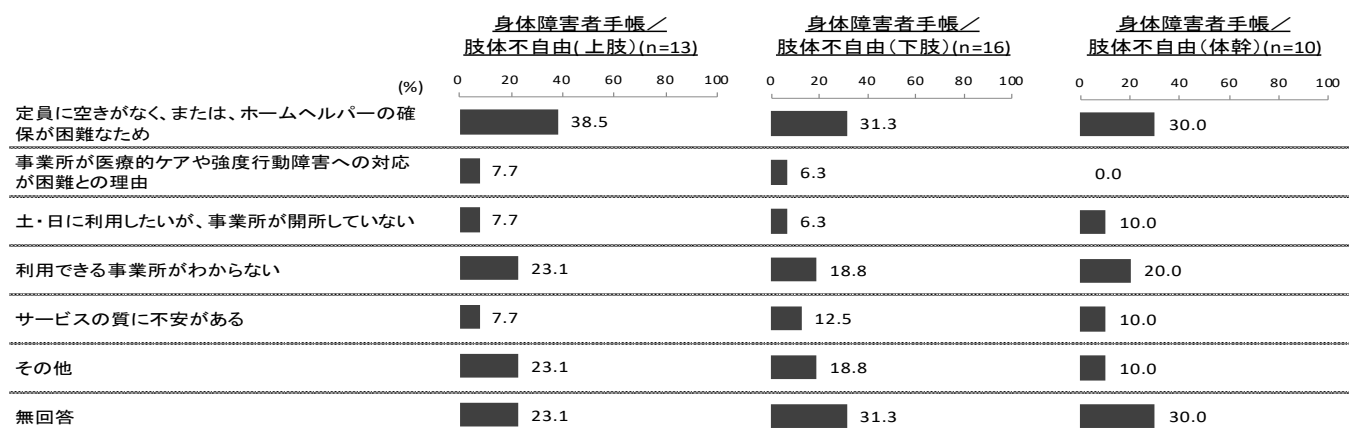
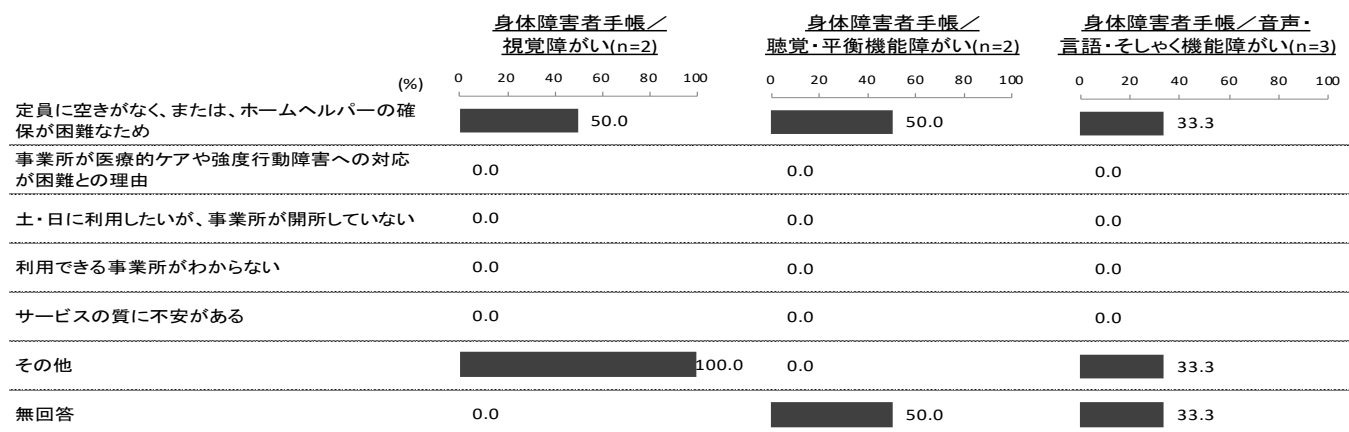
必要がなかった(25 件)/コロナ禍で利用しなかった(14 件)/ 対象者ではない(10 件)/制度を知らなかった(6 件)/分からない(3 件)/介護保険を利用(3 件)/体調不良(3 件)/自立できている(2 件)/就労した(2 件)/入院していた(2 件)/忙しい(2 件)/ CPAP 使用になった為医療行為に当たる為ショート利用できなくなった。/事業所の都合により同行・居宅ともに時間を削減された。同行については他事業所を探し契約することになった/入所可の連絡が来ない/家を出て仕事をしなくなった/お金が大変/契約していません/家から出る事が出来ない/紙おむつを頻繁に買うのでその為の助成金/本人が行きたがらない、行っても帰るといって鍵をあげる/6月ごとのモニタリングをしていない/通所できなくなった/ショート枠の問題で希望通りには使えない/頼んでいた人のピアサポート●●さんから、全てを私に任せてペット、車イス、福祉用具を一括させてほしいと言われ話を聞く度にリベart的な事や接待を受けていることを知り…ケンカ別れをしたのでその後の話も申請も進んではいけません/市役所まで遠い、時間がかかるので実費で払った。/移動(歩行)が長くできなくなった為/連絡待ち/認定外のため/通ってる時間がなくなったため

<手帳の種類別>



II 調査結果

<手帳の種類（詳細）別>



<利用できなかったサービス別>

単位 %、()内実数

		定員に空 きがなく、 または、 ホームヘル パーの 確保が困 難なため	事業所が 医療的ケ アや強度 行動障害 への対応 が困難と の理由	土・日に利 用したい が、事業 所が開所 していない	利用でき る事業所 がわから ない	サービスの 質に不安 がある	その他	無回答
全 体	(67)	28.4	4.5	3.0	17.9	11.9	29.9	28.4
移動支援事業	(18)	55.6	5.6	0.0	22.2	5.6	38.9	11.1
共同生活援助(グループホーム)	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
居宅介護(ホームヘルプ)	(8)	37.5	0.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5
計画相談支援	(3)	66.7	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
行動援護	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
施設入所支援	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
児童発達支援	(2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
重度訪問介護	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労継続支援A型	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労継続支援B型	(5)	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	80.0
就労定着支援	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児相談支援	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児入所支援	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立訓練(機能訓練)	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立訓練(生活訓練)	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
身体障害者訪問入浴サービス	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活介護	(4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0
相談支援事業	(1)	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
短期入所(ショートステイ)	(18)	33.3	5.6	0.0	22.2	5.6	50.0	0.0
地域活動支援センター	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域相談支援(地域移行支援)	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域相談支援(地域定着支援)	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
同行援護	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
日中一時支援事業	(10)	30.0	0.0	10.0	30.0	10.0	40.0	20.0
発達障害者支援センター	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
保育所等訪問支援	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
補装具・日常生活用具購入費の助成	(4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0
療養介護	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
その他	(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3

5. 地域での生活について

(1) 同居者の支援がなくなった場合や独居の将来の不安

問 20 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときや一緒に暮らしている方の支援が受けられなくなったときに、不安なことはありますか。また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、不安なことはありますか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「収入が足りない」が最も高い。療養手帳所有者では「今までの住まいで暮らし続けることが難しい」が32.2%と最も高い。

年齢別で見ると、20代～70代以上で「収入が足りない」が最も高く、10代未満と10代では「お金の管理がむずかしい」がトップとなっている。

自立支援医療受給者証所有者は、「収入が足りない」が44.5%と特に高い。

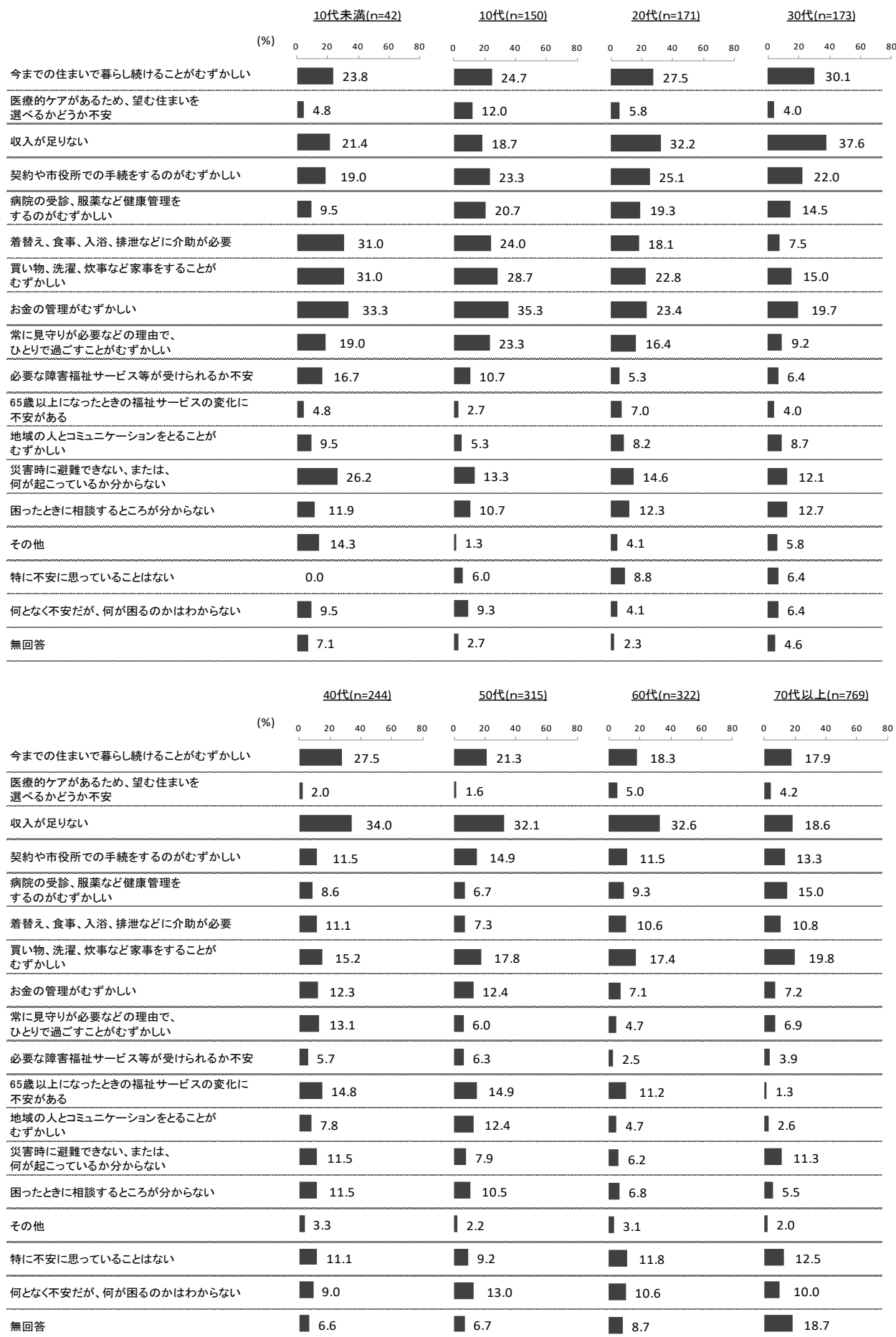
同居状況別では、一人暮らしの人と同居している人では「収入が足りない」が最も高く、グループホームや入所施設を利用している人では「契約や市役所での手続をするのがむずかしい」が高く、「収入が足りない」は低い。



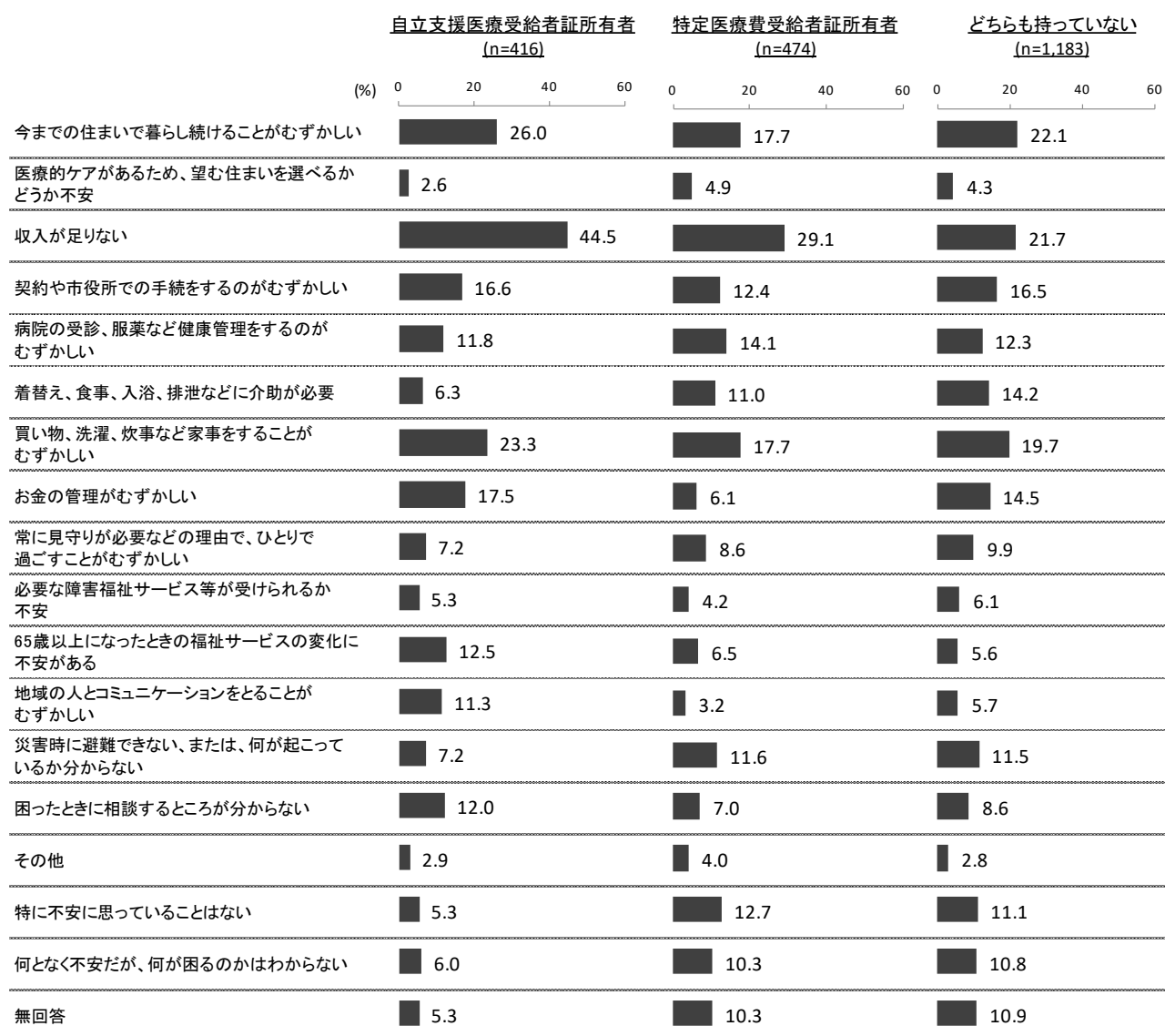
(その他)

全てが不安(4件)/施設に入所中(4件)/体調が悪化した時(3件)/生活全般(2件)/孤独死(2件)/施設に入所できるか(2件)/年金額で生活できるのか(2件)/3つ以上ある(2件)/一人での外出/入院中/一緒に暮らしていない/病状が進み、正社員として働けなくなった後からの生活がどうなるのか不安/子どもなので離れることの想像がしにくい/親と自由に会えない/日中夜間問わず1人である時に胸部や呼吸の苦しさが出現した時救急車を呼んだり救急外来に1人で受診できるのか不安/借金が有るので、返済に困っている/保証人や任意後見人、自分が動けなくなった時に色々不安/8才、ダウン、難聴の為、全て不安/高齢になった時の生活/まだ先のことはわからない/交付されていない/一人に成ったら不安はたくさんある/通院が難しい、山に住んでいてバスが少ない/自分が死ぬ際の手続き等を家族がいない場合、誰に委託すればいいのかわからない/スーパーなどの買い物が出来ない/1人で眠れるか、料理ができるか不安/電話や受信時のつきそい/手首(動かせるようにする)や、身のまわりの事ができるようになるリハビリを受けたいが、なかなか前に進まない/そもそも離れなくてはならない状況把握が難しい/症状が急変した時、自ら連絡がとれるか不安。救急要請/一人で生活が無理になった時、医療介助が必要なので入れる施設があるかどうか。/両親が高齢のため近い将来介護が必要になり、私が介護することが困難なため/住宅ローンの支払いと未就学児の育児を一人でできるか不安/医療費助成制度が続く間はよいが、将来の医療費負担や障害によって生活ができるか不安/4歳のため回答不明/先はないと思っているので何も考えたくないです/施設や病院でないと生活できない/自分と妻は一人暮らしをしたことがないので不安/眼精疲労が治らずオンラインでの手続きが難しい/いつ死んで楽になれるか/言語障害/仏壇、お寺との付き合い方等/民間賃貸住宅(アパート)に住んでいるが、近所付き合いがない。災害時など少し心配/上の住人が悪いことをしても対応できなくなる/今、夫と子供

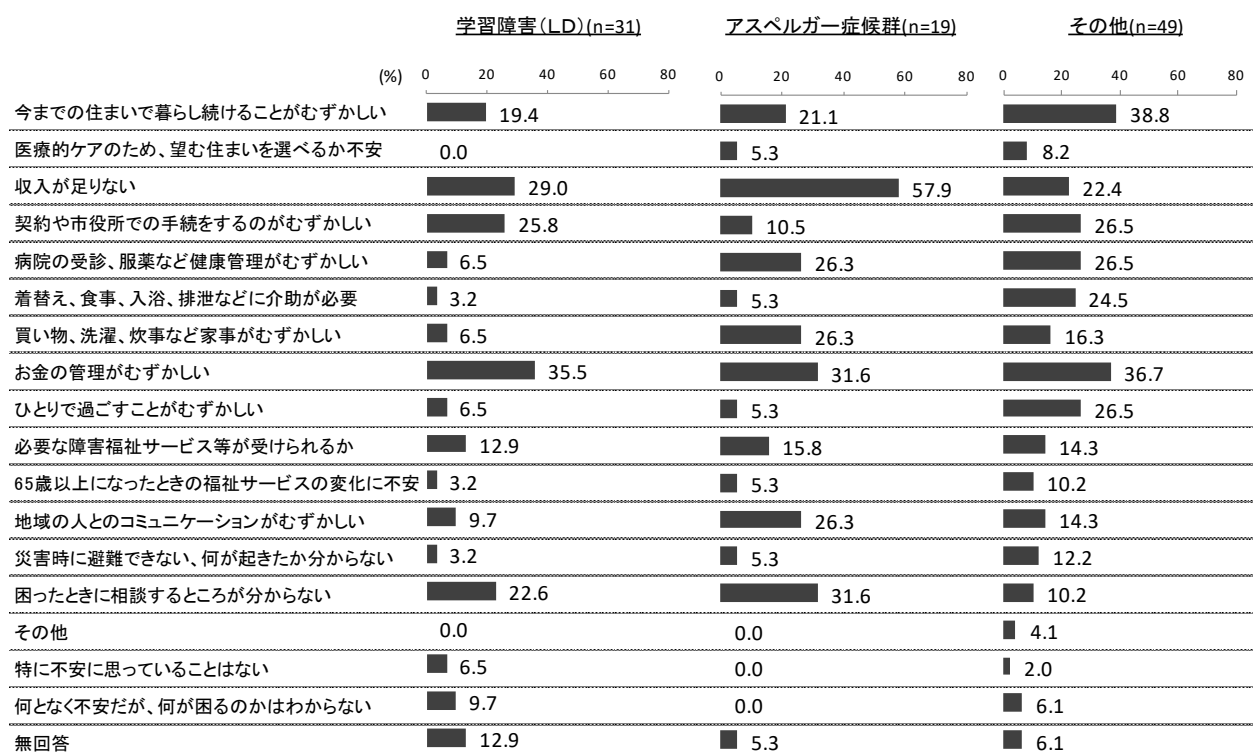
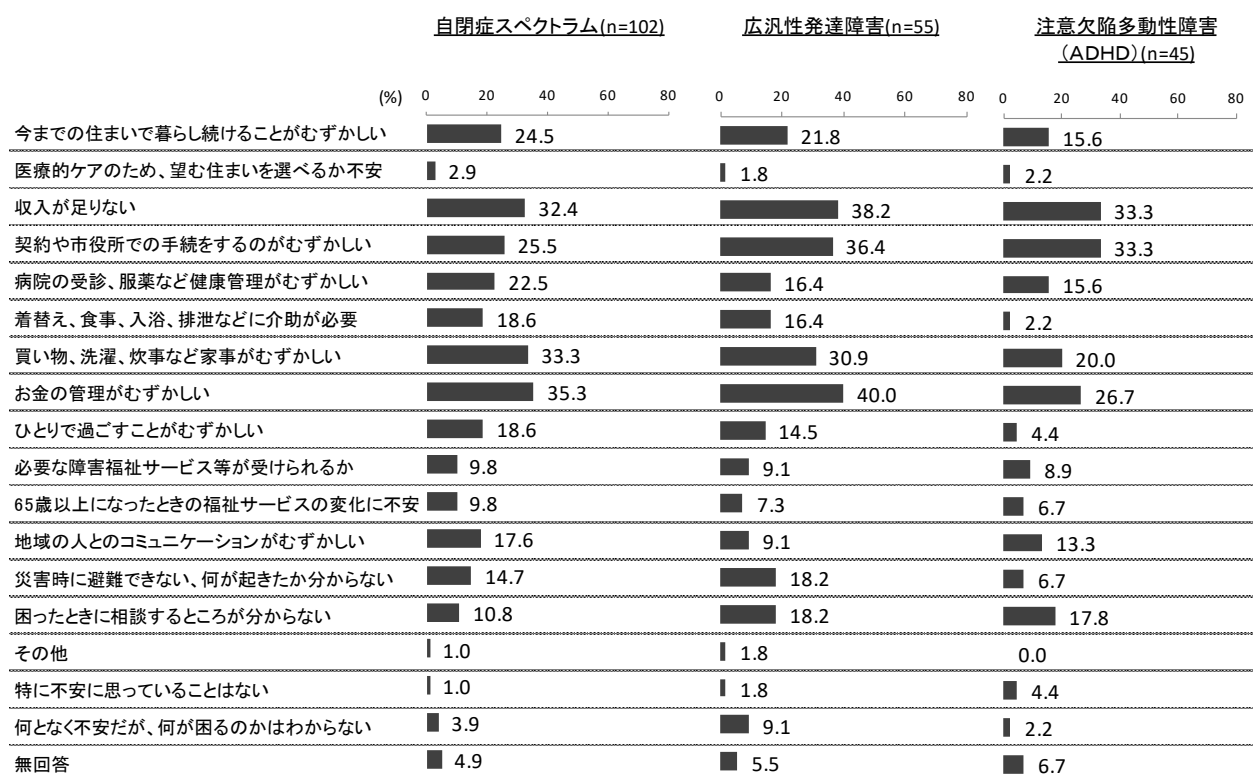
<年齢別>



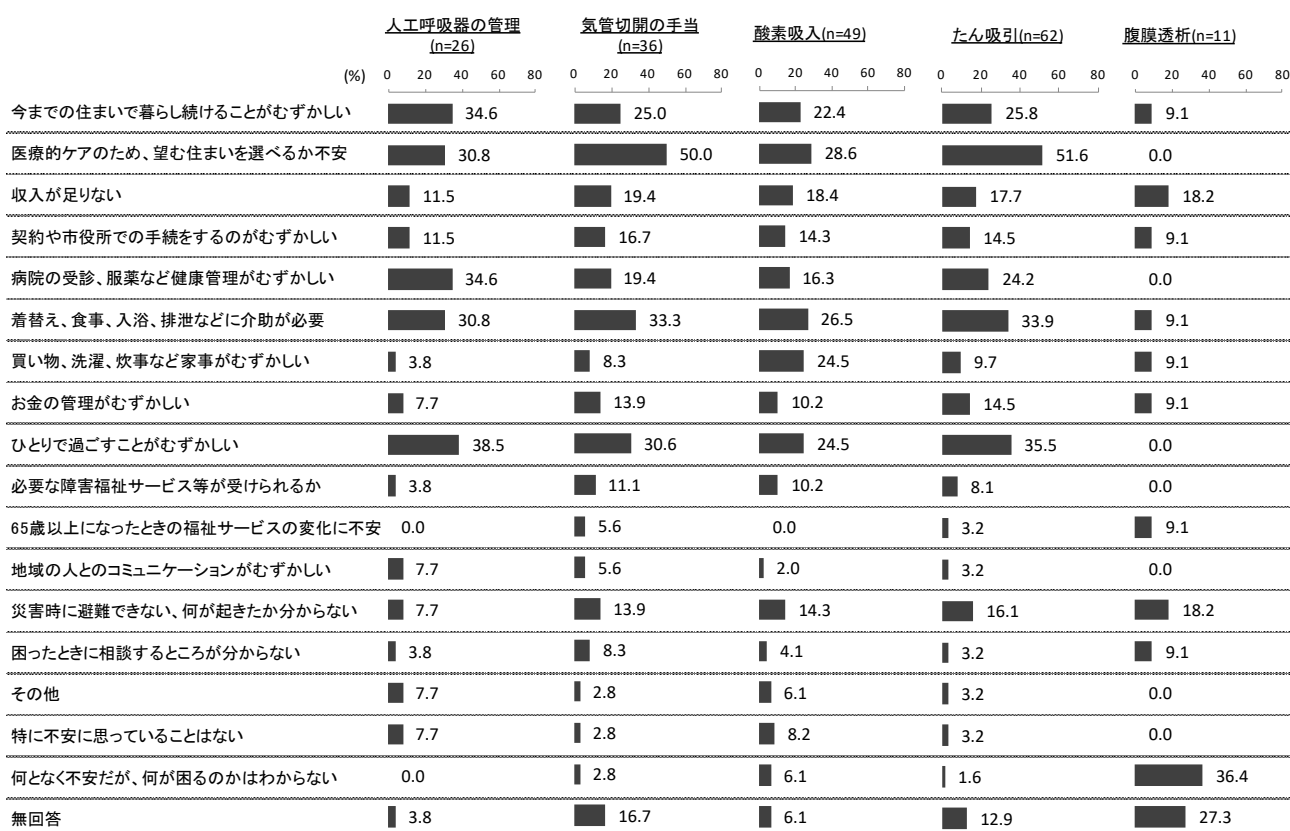
<受給者証有無別>



<発達障がいの診断名別>

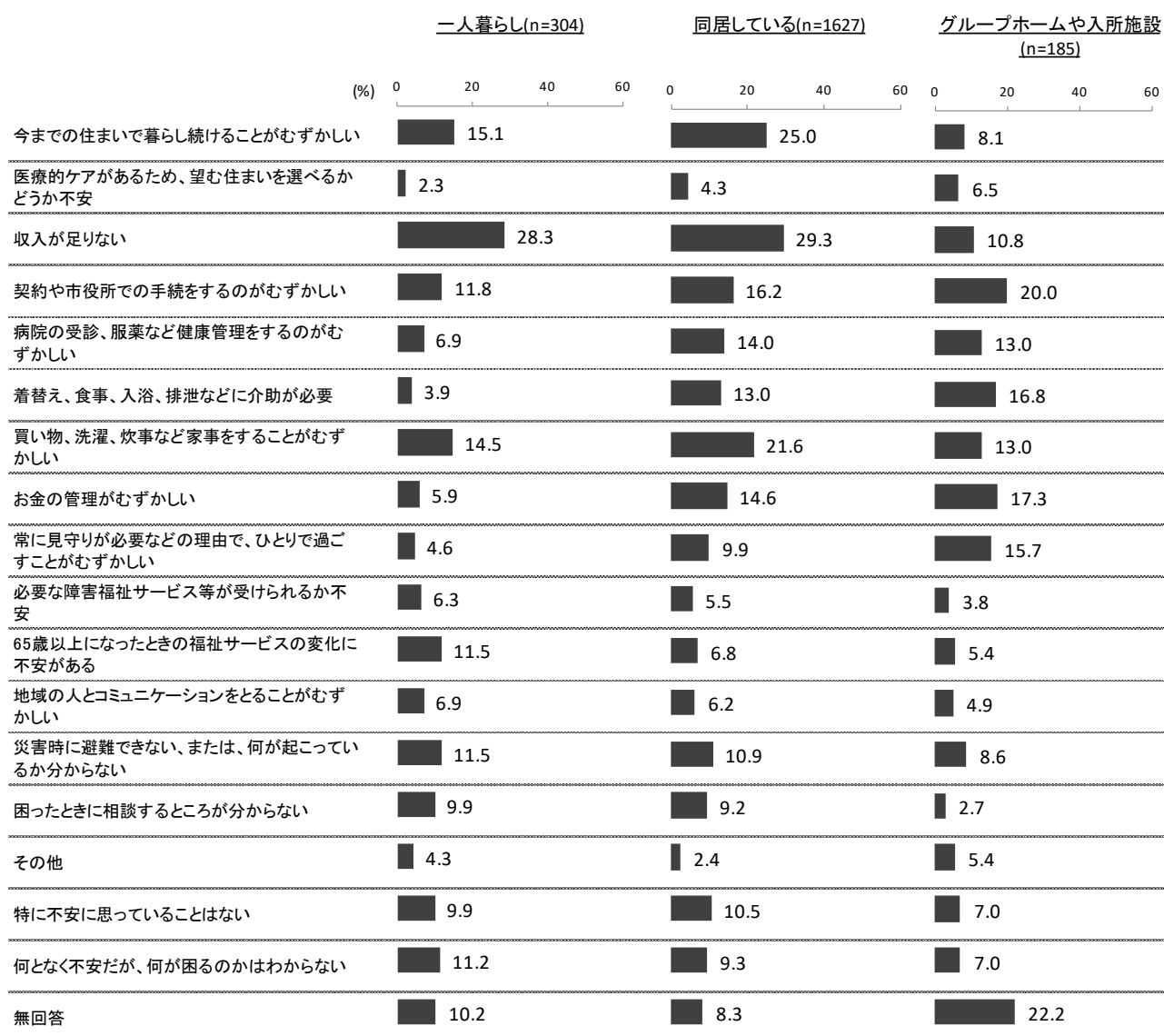


<日常的に受けている医療ケア別>※「その他」省略



※「中心静脈栄養」「鼻咽喉頭エアウェイ」は件数0のため省略

<同居状況別>



<主な介助者・支援者の年齢別>

単位 %、()内実数

	無回答	何となく不安だが、何が困るのか	はわからない	特に不安に思っていることはない	その他	困ったときに相談するところが分からない	災害時に避難できない、または、何が起きているか分からない	地域のひととコミュニケーションをとることがむずかしい	65歳以上になったときの福祉サービスの变化に不安がある	必要な障害福祉サービス等が受けられるか不安	常に見守りが必要などの理由で、ひとりで過ごすことがむずかしい	お金の管理がむずかしい	買い物、洗濯、炊事など家事をすることがむずかしい	着替え、食事、入浴、排泄などに介助が必要	病院の受診、服薬など健康管理をするのがむずかしい	契約や市役所での手続をするのがむずかしい	収入が足りない	医療的ケアがあるため、望む住まいを選べるかどうか不安	今までの住まいで暮らし続けることがむずかしい
全体 (559)	6.3	3.0	1.4	3.2	6.4	16.5	5.0	5.9	6.8	22.4	19.5	34.9	28.1	23.8	22.4	25.9	9.5	35.6	
20代未満 (5)	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	40.0	
20代 (4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	
30代 (29)	3.4	3.4	0.0	3.4	6.9	17.2	6.9	6.9	17.2	10.3	17.2	27.6	17.2	17.2	27.6	48.3	10.3	37.9	
40代 (76)	2.6	6.6	1.3	5.3	10.5	18.4	9.2	3.9	10.5	40.8	32.9	35.5	36.8	21.1	27.6	19.7	14.5	27.6	
50代 (144)	4.9	3.5	2.1	2.8	4.9	13.9	4.9	8.3	6.3	21.5	17.4	34.0	25.7	22.2	21.5	29.2	11.1	34.0	
60代 (123)	4.1	1.6	1.6	2.4	8.9	17.1	7.3	3.3	5.7	22.8	22.0	39.0	26.8	26.8	17.1	25.2	12.2	48.0	
70代 (106)	13.2	1.9	0.9	4.7	4.7	14.2	1.9	3.8	3.8	21.7	14.2	30.2	27.4	23.6	23.6	23.6	3.8	36.8	
80代以上 (66)	7.6	1.5	0.0	1.5	3.0	18.2	1.5	10.6	6.1	10.6	13.6	40.9	34.8	30.3	25.8	16.7	6.1	25.8	

<日常生活で困っていること別>

		単位%、()内実数																						
		とが むずかしい	今までの 住まいで暮らし 続けるこ とがむずかしい	医療的ケアがある ため、望む住ま いを選べるか どうか不安	収入が足りない	契約や市役所 での手続きを するのがむずかしい	病院の受診、服薬 など健康管理を するのがむずかしい	介護が必要	着替え、食事、入浴、 排泄などに 着替え、食事が むずかしい	買い物が洗濯、炊事 など家事をす ることがむずかしい	お金の管理がむずかしい	ひとりりで過ごす ことがむずかしい	常に見守りが必要 などの理由で、 常に見守りが 必要など	必要な障害福祉 サービス等が受 けられない不安	65歳以上になっ たときの福祉 サービスの変化 に不安がある	地域の人とコミュニ ケーションを とることがむずかしい	何が起こっている か分からない	災害時に避難でき ない、または、 からに	困ったときに相談 するところが分 からない	その他	特に不安に思っ ていることはな い	はわからない	何となく不安だ が、何が困るの か	無 回 答
全 体	(2231)	21.6	4.3	27.1	15.6	12.8	11.9	19.3	13.2	9.3	5.3	7.0	6.1	10.7	8.7	3.0	10.2	9.5	10.6					
身の回りのこ とができない	(378)	34.4	8.2	18.8	20.6	24.3	44.7	33.9	18.5	31.0	5.8	5.3	5.3	14.3	5.0	4.2	0.5	2.4	10.1					
健康に不安が ある	(685)	24.5	5.1	33.0	14.7	16.1	10.9	21.5	11.4	9.1	6.6	9.2	5.8	11.8	11.1	3.1	4.8	9.3	7.9					
外出するのに 支障がある	(475)	29.5	6.1	23.4	23.4	22.9	21.5	34.3	13.5	13.7	5.9	6.1	7.4	19.2	7.6	2.7	3.4	4.6	10.3					
人が話してい ることの理解 が難しく、 コミュニケー ションがうまく とれない	(281)	29.9	3.2	24.2	24.9	18.5	20.3	25.6	27.0	18.5	10.0	7.5	17.1	17.1	14.9	1.4	4.3	3.6	10.0					
自分の意思を 人に伝えるこ とが難しく、 コミュニケー ションがうまく とれない	(369)	29.8	6.8	21.7	27.1	22.2	22.5	26.6	29.3	23.0	7.3	6.5	13.8	16.3	13.6	3.0	3.3	2.7	7.3					
近所づきあい がうまくでき ない	(74)	39.2	1.4	45.9	27.0	23.0	10.8	23.0	18.9	10.8	10.8	20.3	36.5	17.6	21.6	4.1	4.1	2.7	5.4					
お金の管理に 不安がある	(219)	28.8	4.6	36.5	35.6	22.8	11.9	30.1	56.6	11.9	10.0	10.5	10.5	12.8	13.2	3.7	1.4	2.7	5.5					
災害時や緊急 時の対応に不 安がある	(512)	27.9	7.4	27.3	19.7	18.2	15.8	30.7	14.5	12.7	8.2	10.0	7.8	27.3	10.7	2.1	2.7	5.7	6.8					
施設に入れ ない(入所でき ない)	(21)	38.1	19.0	33.3	33.3	23.8	14.3	23.8	9.5	33.3	4.8	9.5	0.0	9.5	4.8	0.0	0.0	4.8	4.8					
将来の生活に 不安がある	(674)	29.8	4.7	42.6	17.8	14.2	11.0	24.8	18.1	8.9	7.9	13.5	8.6	10.8	14.5	3.7	1.6	5.9	5.8					
必要なときに 十分な福祉 サービスが使 えない	(43)	41.9	18.6	37.2	27.9	23.3	34.9	41.9	16.3	27.9	30.2	9.3	9.3	25.6	16.3	0.0	0.0	2.3	2.3					
相談する人 (所)がない	(47)	29.8	2.1	46.8	19.1	12.8	8.5	17.0	12.8	8.5	8.5	23.4	19.1	14.9	34.0	6.4	2.1	4.3	4.3					
相談する人 (所)がわから ない	(64)	23.4	3.1	35.9	31.3	15.6	3.1	17.2	12.5	4.7	12.5	17.2	17.2	6.3	39.1	3.1	1.6	7.8	7.8					
治療又は通院 できる医療機 関がない	(12)	8.3	25.0	33.3	25.0	33.3	8.3	8.3	16.7	8.3	33.3	16.7	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	16.7	0.0					
収入がない (少ない)	(464)	27.8	4.3	66.8	18.5	9.9	8.6	19.6	13.1	5.4	7.1	12.1	8.0	9.9	11.4	2.8	3.4	5.6	5.6					
その他	(72)	30.6	5.6	31.9	15.3	12.5	6.9	19.4	6.9	5.6	6.9	9.7	15.3	13.9	12.5	18.1	6.9	4.2	2.8					
特に困ってい ることはない	(409)	7.8	1.5	13.2	5.4	5.4	2.9	7.3	5.4	1.7	1.2	2.9	2.4	3.2	3.9	2.0	35.7	19.8	10.8					

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の手帳の種類（詳細） >

		単位 %、()内実数												
		覚 醒 障 害 者 手 帳 ／ 視	覚 醒 障 害 者 手 帳 ／ 聴	機 能 障 害 者 手 帳 ／ 音	身 体 障 害 者 手 帳 ／ 肢	身 体 障 害 者 手 帳 ／ 肢	身 体 障 害 者 手 帳 ／ 肢	身 体 障 害 者 手 帳 ／ 肢	原 身 性 上 肢 運 動 機 能 障 害	原 身 性 移 動 機 能 障 害	部 身 障 害 者 手 帳 ／ 内	療 育 手 帳	精 神 障 害 者 保 健 福 祉	無 回 答
全 体	(2231)	4.8	4.5	1.2	16.3	23.6	6.2	2.6	3.1	18.3	23.4	17.4	16.6	
特に不安に思っていることはない	(228)	2.2	5.3	1.3	13.2	21.1	2.6	0.9	0.9	25.9	8.3	8.8	24.1	

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の年代 >

		単位 %、()内実数								無 回 答
		1 0 歳 未 満	1 0 歳 ～ 1 9 歳	2 0 歳 ～ 2 9 歳	3 0 歳 ～ 3 9 歳	4 0 歳 ～ 4 9 歳	5 0 歳 ～ 5 9 歳	6 0 歳 ～ 6 9 歳	7 0 歳 以 上	
全 体	(2231)	1.9	6.7	7.7	7.8	10.9	14.1	14.4	34.5	2.0
特に不安に思っていることはない	(228)	0.0	3.9	6.6	4.8	11.8	12.7	16.7	42.1	1.3

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の医療受給者証所有状況 >

		単位 %、()内実数			無 回 答
		を 通 自 持 院 立 っ て 医 療 支 援 機 能 障 害 者 手 帳 ／ 精 神	て 病 特 い ～ 定 受 給 者 費 を 指 定 し て 持 っ て い な い	い ど ち ら も 持 っ て い な い	
全 体	(2231)	18.6	21.2	53.0	7.8
特に不安に思っていることはない	(228)	9.6	26.3	57.5	6.6

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の発達障がいの診断名 >

		単位 %、()内実数						
		自閉症スペクトラム	広汎性発達障害	(注意欠陥多動性障害 (ADHD))	学習障害 (LD)	アスペルガー症候群	その他	無回答
全体	(250)	40.8	22.0	18.0	12.4	7.6	19.6	7.2
特に不安に思っていることはない	(7)	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	14.3

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の日常的に受けている医療的ケア >

		単位 %、()内実数													
		人工呼吸器の管理	気管切開の手当 (カニューレ交換・消毒)	酸素吸入	たん吸引 (気管・鼻腔・口腔)	腹膜透析	経管栄養 (鼻から・胃ろう・腸ろう)	インスリン注射	中心静脈栄養	人工肛門の処置	導尿 (自己導尿を含む)	鼻咽喉エアウェイ	その他	ない医療的ケアは受けていない	無回答
全体	(2231)	1.2	1.6	2.2	2.8	0.5	3.0	1.7	0.0	1.4	2.1	0.0	8.0	62.3	20.2
特に不安に思っていることはない	(228)	0.9	0.4	1.8	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	0.4	1.8	0.0	10.5	74.6	9.6

< 「特に不安に思っていることはない」と回答した方の同居の状況 >

		単位 %、()内実数			
		一人暮らし	同居している	グループホームや入所施設	無回答
全体	(2231)	13.6	72.9	8.3	5.9
特に不安に思っていることはない	(228)	13.2	75.0	5.7	6.1

II 調査結果

<「特に不安に思っていることはない」と回答した方の主な介助者・支援者の年齢>

単位 %、()内実数

	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	無回答
全体 (559)	0.9	0.7	5.2	13.6	25.8	22.0	19.0	11.8	1.1
特に不安に思っていることはない (8)	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5

<「特に不安に思っていることはない」と回答した方の日常生活で困っていること>

単位 %、()内実数

	身の回りのことができない	健康に不安がある	外出するのに支障がある	人が話していることの理解が難しく、コミュニケーションがうまくとれない	自分の意思を人に伝えることが難しく、コミュニケーションがうまくとれない	近所づきあいがうまくできない	お金の管理に不安がある	災害時や緊急時の対応に不安がある	施設に入れない(入所できない)	将来の生活に不安がある	必要ときに、十分な福祉サービスが使えない	相談する人(所)がない	相談する人(所)がわからない	治療又は通院できる医療機関がない	収入がない(少ない)	その他	特に困っていることはない	無回答
全体 (2231)	16.9	30.7	21.3	12.6	16.5	3.3	9.8	22.9	0.9	30.2	1.9	2.1	2.9	0.5	20.8	3.2	18.3	3.5
特に不安に思っていることはない (228)	0.9	14.5	7.0	5.3	5.3	1.3	1.3	6.1	0.0	4.8	0.0	0.4	0.4	0.0	7.0	2.2	64.0	1.3

(2) 将来の居住場所についての希望

問 21 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときに、誰と、どこで暮らしたいですか。
また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、誰と、どこで暮らしたいですか。
(1) 誰と暮らしたいですか(○は1つ)

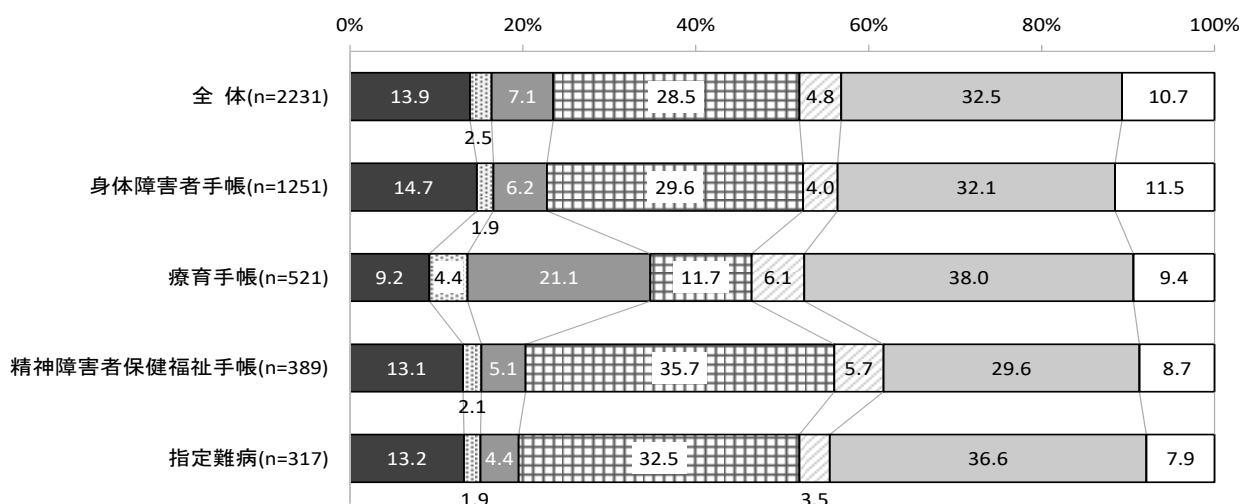
いずれも「わからない」が最も高く、約3割を占める。身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者では、「一人暮らし」が高く、次いで「現在、別居している家族」と続く。療育手帳所有者では、「同じ障がいを持つ仲間」が高く、次いで「一人暮らし」の順。

年齢別では、10代以下では「わからない」が約半数となっている。「同じ障がいを持つ仲間」は年齢を追うごとに低くなっている。

現在の住まい別では、自宅で暮らしている人は「一人暮らし」が30.8%で、グループホーム利用者では「同じ障がいを持つ仲間」が19.6%と高い。

また、主な介助者・支援者の年齢別でみると、介助者・支援者が40代で「わからない」が55.3%と他の年代と比べて高い。

■現在、別居している家族 □親せき □同じ障がいのある仲間 □一人暮らし □その他 □わからない □無回答



(続柄)

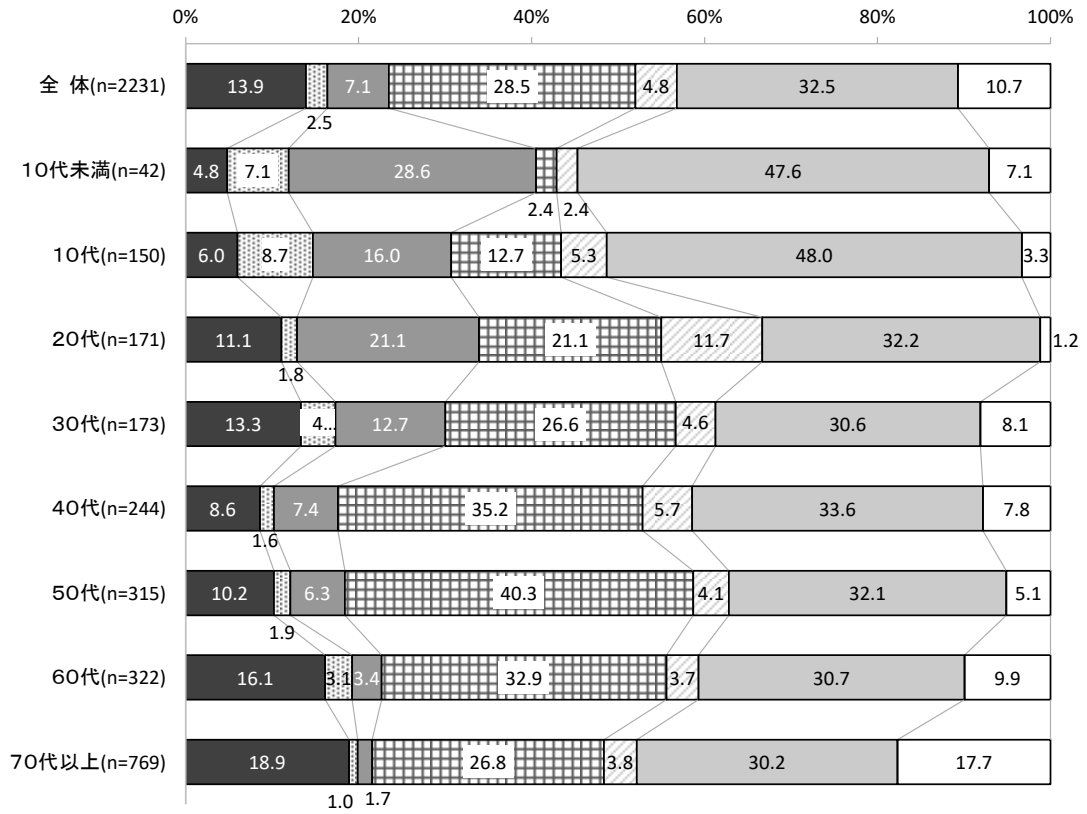
長男(38件)/長女(32件)/子(24件)/娘(24件)/姉(14件)/母(13件)/妹(8件)/兄(8件)/夫(7件)/両親(6件)/妻(6件)/次女(5件)/息子(4件)/父(4件)/長女、次女(3件)/弟(3件)/夫、子供(2件)/祖父母(2件)/次男(2件)/孫/子、孫/前妻/母、兄弟//実家に帰る/実父、実母、子/妹/家族/父、弟/娘夫婦/母、姉、めい/友人/娘の家族/母、兄弟/長女、長男/長男家族/長兄、二男/姉、甥っ子/母と弟/母、父、姉/母、妹/姉妹/祖父母、姉/

(その他)

施設に入所(20件)/家族(11件)/今のままがいい(5件)/子供(5件)/友人(4件)/パートナー(4件)/妹(4件)施設に入所中(3件)/家族(3件)/恋人(2件)/死(2件)/弟/妻/夫/孫/子供、現在の家/親/実家に帰る/実家に帰る/頼れる人が思い当たらない/暮らせるなら弟妹と一緒にいいが、それぞれの生活もあるので無理/夫、子ども/彼氏、同棲/もう少し便利な所で住りたい/同居家族、息子夫婦/結婚するだったら妻、独身の場合は母/病院なので一人/兄/婚約者/その時期にならないと分からない/子供・孫/ヘルパー/身寄りがなく一人暮らししかない/実弟家族/自分の事を理解して接してくれる支援の方や仲間家族と暮らせればい/痛みがひどくなったら緩和ケア病棟/同居の弟(知的障害あり)/自分の事をわかってくれる人/母の暮らしている県営住宅で暮らしたい/いない

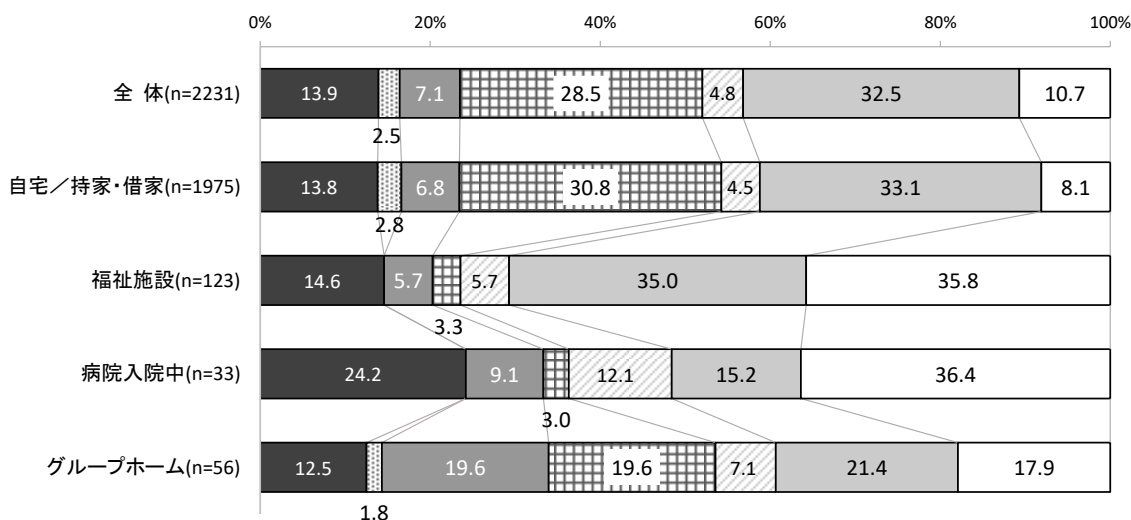
<年齢別>

■現在、別居している家族 □親せき ■同じ障がいのある仲間 □一人暮らし □その他 □わからない □無回答



<現在の住まい別>

■ 現在、別居している家族 □ 親せき ■ 同じ障がいのある仲間 □ 一人暮らし □ その他 □ わからない □ 無回答



<持っている受給者証別>

単位 %、()内実数

	現在、別居している家族	親せき	同じ障がいのある仲間	一人暮らし	その他	わからない	無回答
全体 (2231)	13.9	2.5	7.1	28.5	4.8	32.5	10.7
自立支援医療受給者証所有者 (416)	10.3	2.2	7.2	37.3	6.0	30.0	7.0
特定医療費受給者証所有者 (474)	16.5	1.3	3.6	28.7	4.0	37.1	8.9
どちらも持っていない (1183)	14.3	3.0	8.2	26.2	4.9	32.8	10.7

<発達障がいの診断名別>

単位 %、()内実数

	現在、別居している家族	親せき	同じ障がいのある仲間	一人暮らし	その他	わからない	無回答
全体 (250)	10.0	6.0	16.8	16.8	5.6	38.8	6.0
自閉症スペクトラム (102)	7.8	5.9	19.6	15.7	2.9	43.1	4.9
広汎性発達障害 (55)	5.5	3.6	16.4	23.6	10.9	34.5	5.5
注意欠陥多動性障害(ADHD) (45)	6.7	6.7	15.6	31.1	2.2	33.3	4.4
学習障害(LD) (31)	3.2	12.9	6.5	19.4	12.9	32.3	12.9
アスペルガー症候群 (19)	15.8	0.0	0.0	36.8	0.0	47.4	0.0
その他 (49)	16.3	2.0	16.3	6.1	2.0	49.0	8.2

II 調査結果

<日常的に受けている医療的ケア別>

単位 %、()内実数

		現在、別居している家族	親せき	同じ障がいのある仲間	一人暮らし	その他	わからない	無回答
全 体	(2231)	13.9	2.5	7.1	28.5	4.8	32.5	10.7
人工呼吸器の管理	(26)	0.0	0.0	7.7	15.4	19.2	42.3	15.4
気管切開の手当	(36)	11.1	5.6	16.7	8.3	11.1	27.8	19.4
酸素吸入	(49)	20.4	0.0	6.1	16.3	6.1	34.7	16.3
たん吸引	(62)	9.7	3.2	16.1	3.2	11.3	38.7	17.7
腹膜透析	(11)	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	54.5	18.2
経管栄養	(68)	11.8	1.5	13.2	4.4	8.8	35.3	25.0
インスリン注射	(37)	13.5	0.0	0.0	24.3	10.8	29.7	21.6
中心静脈栄養	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工肛門の処置	(31)	12.9	6.5	3.2	22.6	12.9	32.3	9.7
導尿(自己導尿を含む)	(47)	14.9	2.1	4.3	23.4	8.5	40.4	6.4
鼻咽頭エアウェイ	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	(178)	13.5	2.2	4.5	31.5	5.6	32.6	10.1
医療的ケアは受けていない	(1389)	14.0	2.3	7.8	31.0	4.4	33.5	7.1

<同居の状況別>

単位 %、()内実数

		現在、別居している家族	親せき	同じ障がいのある仲間	一人暮らし	その他	わからない	無回答
全 体	(2231)	13.9	2.5	7.1	28.5	4.8	32.5	10.7
一人暮らし	(304)	15.8	1.3	2.0	46.7	2.0	20.4	11.8
同居している	(1627)	13.8	3.1	8.1	27.4	4.9	35.3	7.5
グループホーム や入所施設	(185)	14.1	0.5	11.9	9.2	6.5	27.6	30.3

<主な介助者・支援者の年齢別>

単位 %、()内実数

		現在、別居している家族	親せき	同じ障がいのある仲間	一人暮らし	その他	わからない	無回答
全 体	(559)	17.2	3.0	14.0	15.9	4.8	38.5	6.6
20代未満	(5)	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0
20代	(4)	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
30代	(29)	24.1	3.4	20.7	10.3	3.4	31.0	6.9
40代	(76)	5.3	3.9	19.7	13.2	1.3	55.3	1.3
50代	(144)	11.1	3.5	16.7	14.6	7.6	41.7	4.9
60代	(123)	18.7	2.4	13.0	18.7	4.9	38.2	4.1
70代	(106)	19.8	4.7	12.3	14.2	2.8	30.2	16.0
80代以上	(66)	28.8	0.0	4.5	21.2	6.1	33.3	6.1

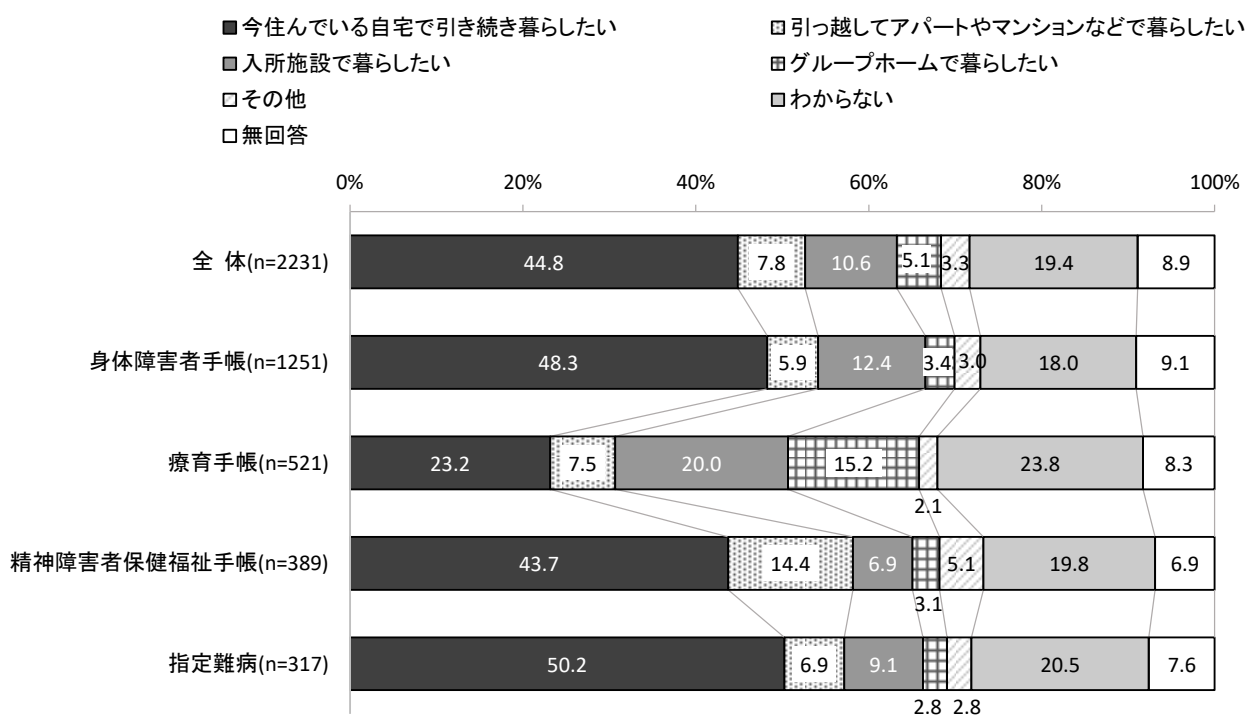
問 21 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときに、誰と、どこで暮らしたいですか。
 また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、誰と、どこで暮らしたいですか。
 (2) どこで暮らしたいですか(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者では、「今住んでいる自宅」が最も高く、4割～5割となっている。療育手帳所有者でも「今住んでいる自宅」23.2%が最も高いが、「入所施設」も同じく2割台となっており、「グループホーム」も15.2%と高い。

年齢別では「今住んでいる自宅」が年齢を追うごとに高くなっている。

現在の住まい別にみると、自宅居住者は「自宅」、福祉施設入居者では「入所施設」、グループホーム居住者では「グループホーム」と、現在住んでいる場所が高い。

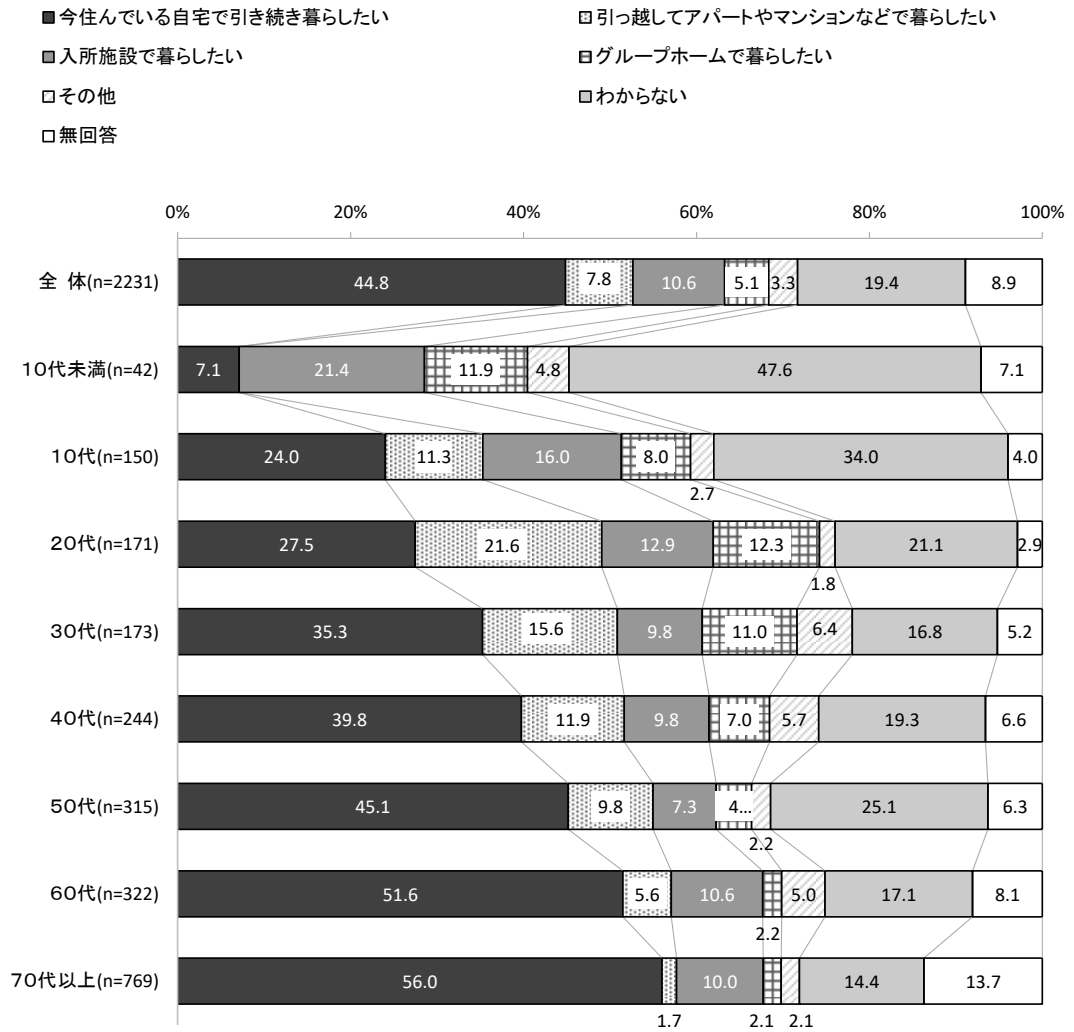
また、主な介助者・支援者の年齢別でも本人の年齢と同様に、「今住んでいる自宅」が年齢を追うごとに高い傾向にある。



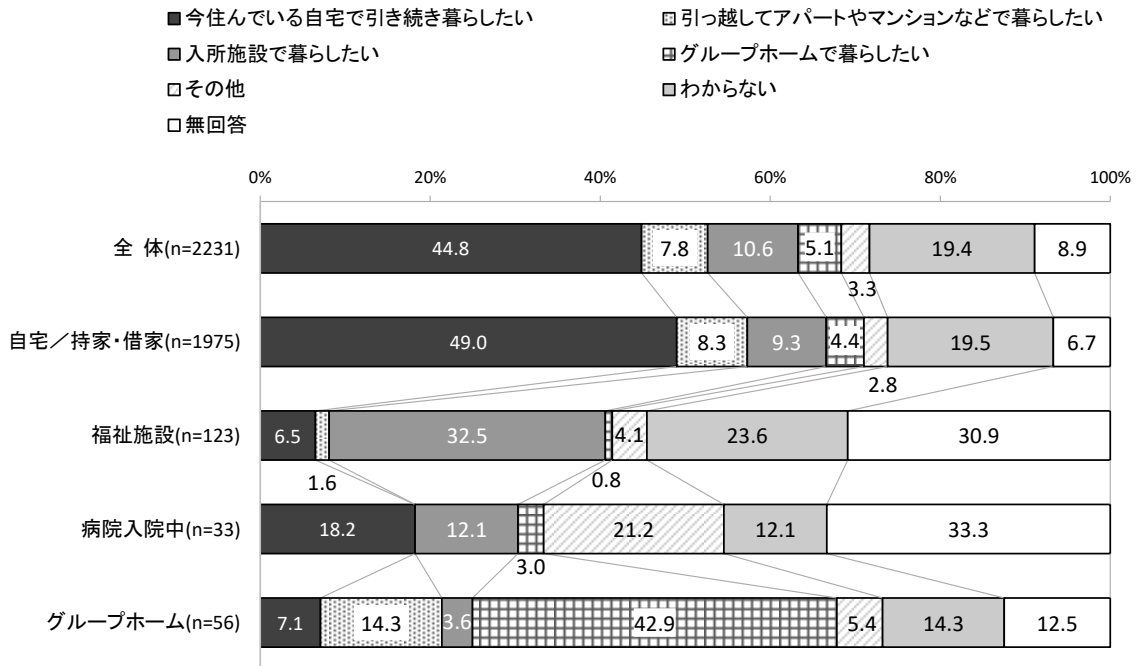
(その他)

実家(8件)/今住んでいるところ(6件)/施設に入所(5件)/グループホームに入所(4件)/入院(4件)/県営住宅(3件)/娘の家(3件)/次女の家(3件)/姉の家(2件)/自然豊かな場所(2件)/長男の家(2件)/次男の家/長女の家/兄の家/出生地/今住んでいる場所とあまり遠くない所で暮らしたい、生活圏を変えたくない/家庭を築きたい/祖父母の自宅/清水区/自分の持ち家があれば良いと思う/一緒に暮らしてくれる人の希望に沿う/近所づきあいをやめたい(理解ないから)/妹の家/入所しているが家族への想いは大きい/新築一戸建て/星/東京やヨーロッパなど障害者に理解ある人たちが住んでいる地域。/親戚の家

<年齢別>



<現在の住まい別>



<持っている受給者証別>

単位 %、()内実数

	今住んでいる自宅で引き続き暮らしたい	引っ越してアパートやマンションなどで暮らしたい	入所施設で暮らしたい	グループホームで暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体 (2231)	44.8	7.8	10.6	5.1	3.3	19.4	8.9
自立支援医療受給者証所有者 (416)	41.1	15.1	7.7	6.3	3.8	19.5	6.5
特定医療費受給者証所有者 (474)	49.8	6.8	8.0	2.5	4.2	19.4	9.3
どちらも持っていない (1183)	45.0	6.5	11.7	5.5	2.9	20.0	8.5

<発達障がいの診断名別>

単位 %、()内実数

	今住んでいる自宅で引き続き暮らしたい	引っ越してアパートやマンションなどで暮らしたい	入所施設で暮らしたい	グループホームで暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体 (250)	24.8	15.6	14.0	11.6	1.2	26.8	6.0
自閉症スペクトラム (102)	23.5	9.8	11.8	16.7	2.0	29.4	6.9
広汎性発達障害 (55)	29.1	14.5	9.1	14.5	1.8	27.3	3.6
注意欠陥多動性障害 (ADHD) (45)	31.1	24.4	8.9	8.9	0.0	22.2	4.4
学習障害 (LD) (31)	25.8	29.0	9.7	0.0	0.0	25.8	9.7
アスペルガー症候群 (19)	36.8	21.1	0.0	5.3	5.3	26.3	5.3
その他 (49)	22.4	10.2	22.4	12.2	0.0	24.5	8.2

II 調査結果

<日常的に受けている医療的ケア別>

単位 %、()内実数

		今住んでいる 自宅で引き続き 暮らしたい	引っ越してア パートやマン ションなどで 暮らしたい	入所施設で 暮らしたい	グループホー ムで暮らした い	その他	わからない	無回答
全 体	(2231)	44.8	7.8	10.6	5.1	3.3	19.4	8.9
人工呼吸器の管理	(26)	30.8	3.8	26.9	7.7	7.7	15.4	7.7
気管切開の手当	(36)	22.2	2.8	27.8	2.8	5.6	19.4	19.4
酸素吸入	(49)	46.9	4.1	12.2	6.1	4.1	16.3	10.2
たん吸引	(62)	17.7	1.6	35.5	1.6	3.2	24.2	16.1
腹膜透析	(11)	54.5	0.0	0.0	9.1	0.0	36.4	0.0
経管栄養	(68)	19.1	0.0	32.4	2.9	2.9	20.6	22.1
インスリン注射	(37)	51.4	0.0	8.1	5.4	5.4	13.5	16.2
中心静脈栄養	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工肛門の処置	(31)	64.5	0.0	9.7	3.2	0.0	16.1	6.5
導尿(自己導尿を含む)	(47)	42.6	2.1	21.3	6.4	4.3	17.0	6.4
鼻咽頭エアウェイ	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	(178)	51.1	5.1	13.5	2.2	4.5	15.7	7.9
医療的ケアは受けていない	(1389)	45.8	9.0	9.4	5.2	3.6	20.7	6.3

<同居の状況別>

単位 %、()内実数

		今住んでいる 自宅で引き続き 暮らしたい	引っ越してア パートやマン ションなどで 暮らしたい	入所施設で 暮らしたい	グループホー ムで暮らした い	その他	わからない	無回答
全 体	(2231)	44.8	7.8	10.6	5.1	3.3	19.4	8.9
一人暮らし	(304)	51.0	8.6	4.6	2.6	4.6	18.8	9.9
同居している	(1627)	48.2	8.2	10.4	5.0	2.6	19.8	5.8
グループホーム や入所施設	(185)	7.6	5.9	22.7	14.1	4.3	19.5	25.9

<主な介助者・支援者の年齢別>

単位 %、()内実数

		今住んでいる 自宅で引き続き 暮らしたい	引っ越してア パートやマン ションなどで 暮らしたい	入所施設で 暮らしたい	グループホー ムで暮らした い	その他	わからない	無回答
全 体	(559)	41.5	5.0	17.2	7.7	3.4	20.6	4.7
20代未満	(5)	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0
20代	(4)	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
30代	(29)	44.8	6.9	17.2	6.9	3.4	13.8	6.9
40代	(76)	23.7	7.9	22.4	11.8	2.6	31.6	0.0
50代	(144)	38.2	3.5	16.0	10.4	3.5	24.3	4.2
60代	(123)	43.1	6.5	22.0	5.7	2.4	19.5	0.8
70代	(106)	44.3	2.8	15.1	8.5	2.8	15.1	11.3
80代以上	(66)	62.1	3.0	10.6	1.5	4.5	12.1	6.1

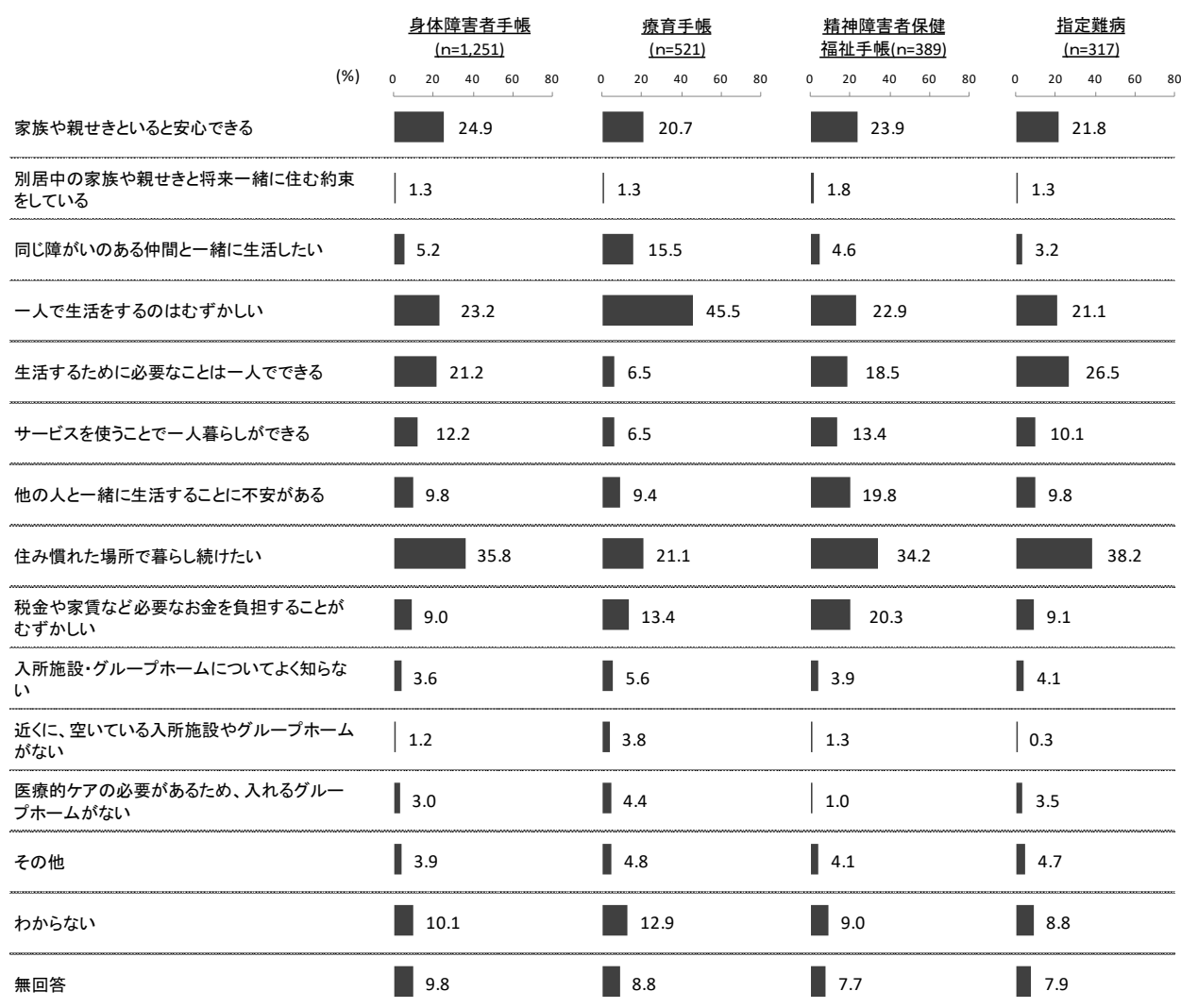
(3) 将来、一緒に暮らしたい人、居住場所を選んだ理由

問 22 問 21 の回答を選んだ理由を教えてください。(○は3つまで)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者で、「住み慣れた場所で暮らし続けたい」が最も高い。療育手帳所有者では「一人で生活するのはむずかしい」45.5%が最も高く、次いで「住み慣れた場所で暮らし続けたい」が21.1%となっている。

年齢別では「一人で生活するのはむずかしい」が20代の40.9%をピークとして年齢を追うごとに低下していくが、70代以上で再び増加している。「住み慣れた場所で暮らしたい」は年齢とともに高くなっている。

入所施設やグループホームで暮らしたいとの回答理由では、「一人で生活するのはむずかしい」が6割台と特に高かった。



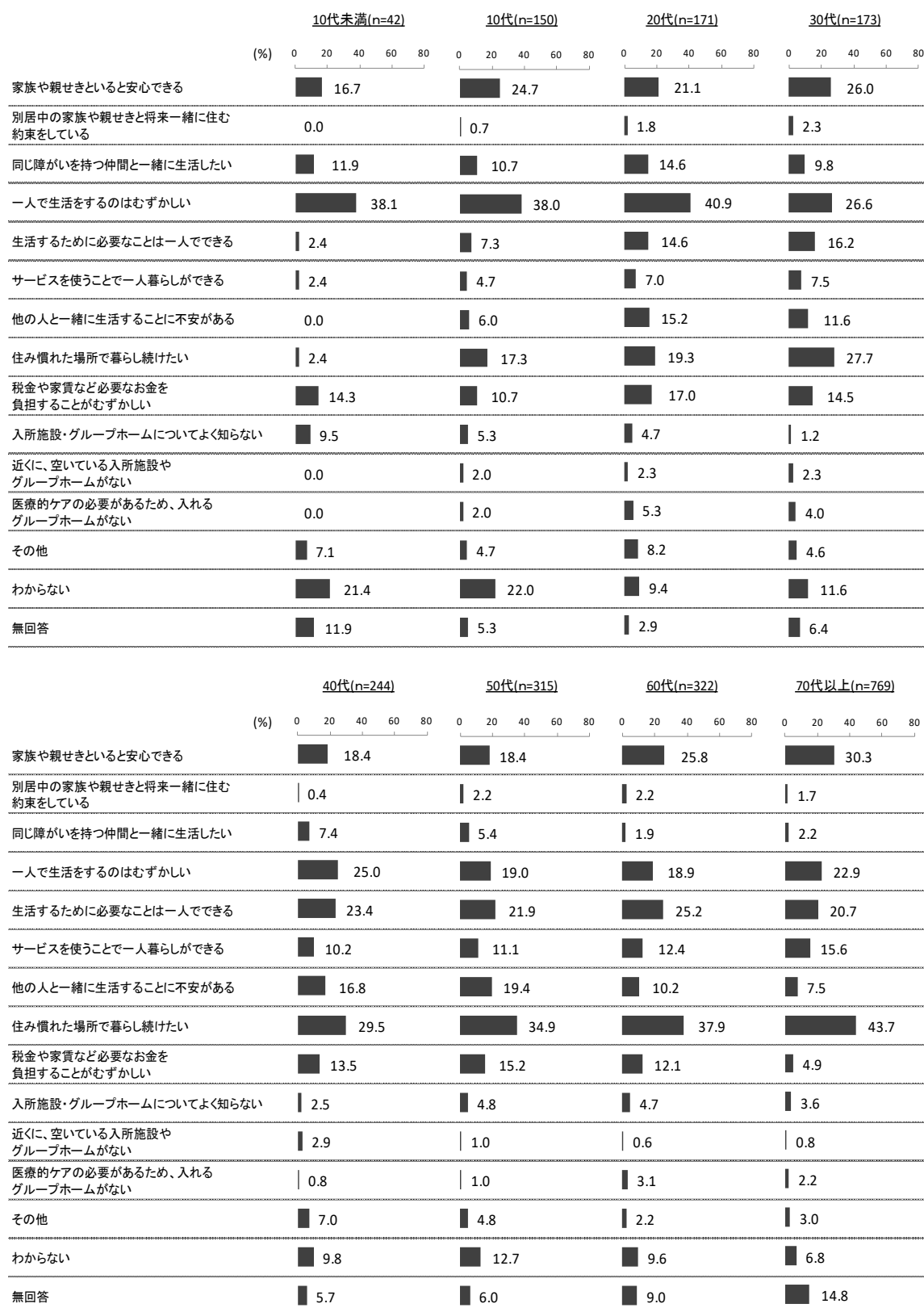
(その他)

- ・ 迷惑や負担をかけたくない(5 件)
- ・ 一人でいたい(4 件)
- ・ グループホームに入所している(3 件)
- ・ 施設に入所している(3 件)
- ・ 将来のことは分からない、考えられない(3 件)
- ・ 入院を継続(3 件)
- ・ 家族と暮らしたくない(2 件)

II 調査結果

- ・ 入所施設、グループホームでの人間関係に不安がある
- ・ 自然がたくさんあるから
- ・ 障がいの子供とずっと暮らす
- ・ 独身成人男性としての普通の生活が出来れば良い
- ・ 生活するための収入面
- ・ 気がやすまる
- ・ 留学生であるため
- ・ 自分の希望はあるが静岡には少ないようで難しい
- ・ 通院しやすくする
- ・ 虐待を受けている
- ・ 運転が難しくなったとき、徒歩での行動になるだろうから
- ・ 特別な心配は感じていないが、漠然とした将来の不安はある
- ・ 身内がいらないため
- ・ 一人で生活できるうちは一人でいたいと思う
- ・ 一人しかいないから
- ・ ペット(犬や猫)と暮らしたい
- ・ 他人の悪い所を見たくない
- ・ 外出し易い、グループホームがよいが、医療的ケアが必要で希望が持てない
- ・ 団地に住んでいる為、金銭的な面で離れられない。金銭面の事を考えなければ今、通っている病院の近くに住みたい。(便もいいので)
- ・ 介助が必要になったら家族より施設の方にお世話になる方が気楽と思う。
- ・ 必要がない
- ・ 祖父母が高齢
- ・ 一人で生活できなくなった時、社会の環境がどのようになっているかわからないから
- ・ 近年虐待等のニュースや個人情報取扱いの問題を考えると家族以外は考えられない。
- ・ 母子で入れるシェアハウスのような所があるといい。
- ・ 夢と希望が私にはある
- ・ 本人の意志を確認することができない
- ・ 専門的な支援が必須であるため
- ・ 重度心身障害なので、3しか選択肢はない。本人が居心地の良いグループホームがあればそこを望むが難しければ病院等の入所になると思う
- ・ 本人の為施設入所がよいか、グループホームがよいかわからない
- ・ 自分の友だちと呼べる仲間と良く知る人たちとくらししていくのが安心で落ちつく
- ・ 入所施設で生活することが一番安全だと考えたから
- ・ 2階の夫の画材、衣類の手入れ、処分、清掃etc
- ・ 常に支援や見守りが必要である
- ・ 入りたいと思える施設があるかどうかわからない
- ・ 現在暮らしているのは娘夫婦の持家のため
- ・ 困った時間ける人がいない

<年齢別>



Ⅱ 調査結果

<将来誰と暮らしたいか別>

単位 %、()内実数

		家族や親せきといると安心できる	別居中の家族や親せきと将来一緒に住む約束をしている	活したい	同じ障がいのある仲間と一緒に生活したい	一人で生活するのはむずかしい	生活するために必要なことは一人でできる	サービスを使うことで一人暮らしができる	他の人と一緒に生活することに不安がある	住み慣れた場所で暮らし続けたい	税金や家賃など必要なお金を負担することがむずかしい	入所施設・グループホームについてよく知らない	近くに、空いている入所施設やグループホームがない	医療的ケアの必要があるため、入れるグループホームがない	その他	わからない	無回答
全体	(2231)	24.8	1.7	5.6	25.1	19.7	11.4	11.3	34.0	10.7	3.9	1.3	2.3	4.2	10.1	9.8	
現在、別居している家族	(310)	82.9	9.7	1.0	42.3	8.7	3.2	7.4	43.9	9.4	1.9	0.6	1.9	2.9	0.3	0.6	
親せき	(56)	92.9	5.4	1.8	44.6	5.4	3.6	16.1	42.9	7.1	0.0	1.8	3.6	1.8	0.0	0.0	
同じ障がいのある仲間	(159)	5.0	0.0	61.6	74.2	1.3	4.4	5.0	10.7	23.3	5.0	6.3	6.9	6.3	0.0	0.0	
一人暮らし	(635)	7.4	0.3	1.1	4.1	50.4	28.0	20.3	49.6	9.0	3.3	0.3	0.9	4.1	3.9	1.7	
その他	(107)	34.6	0.0	2.8	42.1	7.5	5.6	4.7	28.0	12.1	0.9	0.9	3.7	19.6	2.8	3.7	
わからない	(725)	17.1	0.1	1.1	26.3	9.5	6.1	10.2	28.4	12.7	7.0	1.7	2.8	3.2	26.8	5.1	

<どこで暮らしたいか別>

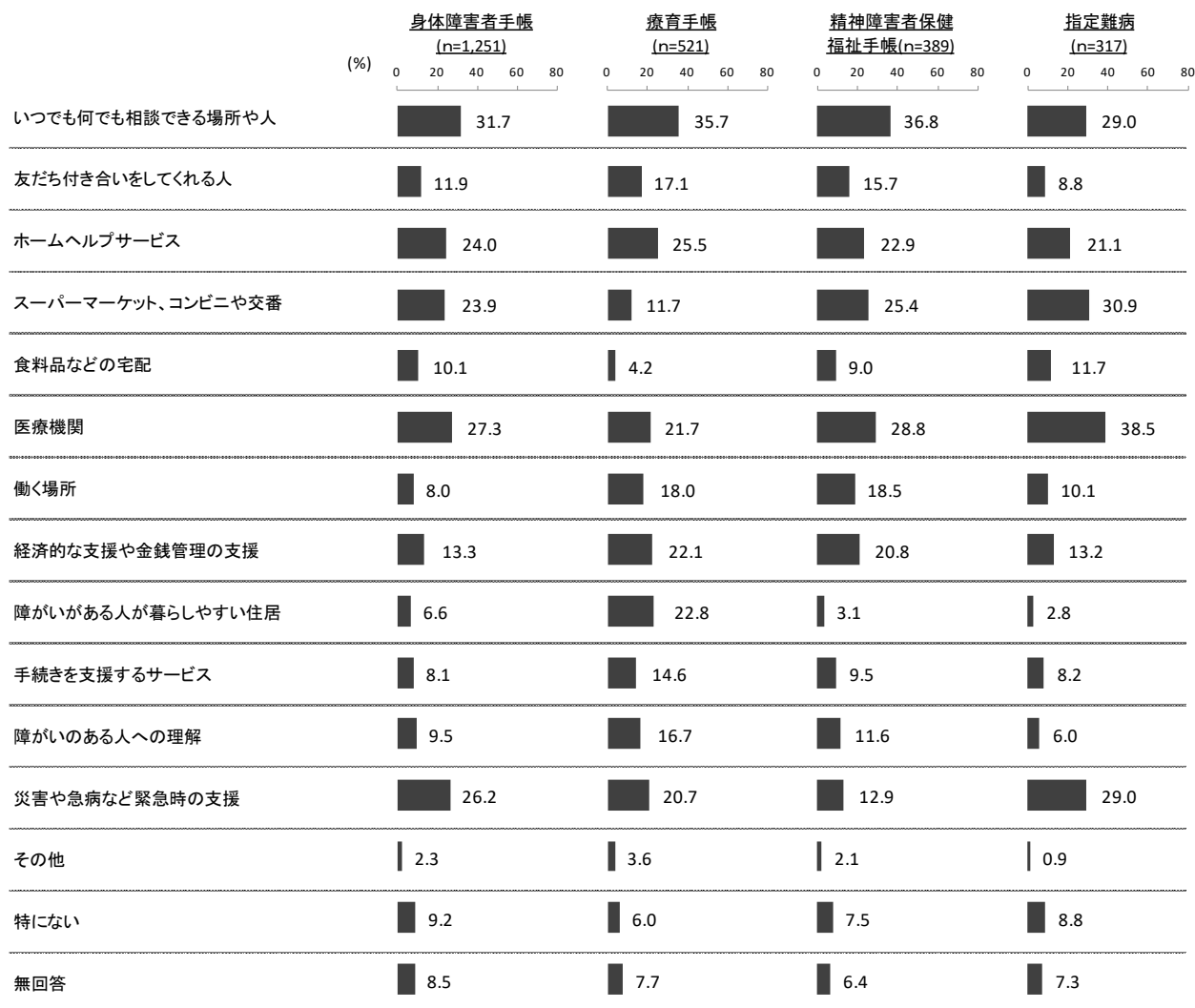
単位 %、()内実数

		家族や親せきといると安心できる	別居中の家族や親せきと将来一緒に住む約束をしている	活したい	同じ障がいのある仲間と一緒に生活したい	一人で生活するのはむずかしい	生活するために必要なことは一人でできる	サービスを使うことで一人暮らしができる	他の人と一緒に生活することに不安がある	住み慣れた場所で暮らし続けたい	税金や家賃など必要なお金を負担することがむずかしい	入所施設・グループホームについてよく知らない	近くに、空いている入所施設やグループホームがない	医療的ケアの必要があるため、入れるグループホームがない	その他	わからない	無回答
全体	(2231)	24.8	1.7	5.6	25.1	19.7	11.4	11.3	34.0	10.7	3.9	1.3	2.3	4.2	10.1	9.8	
今住んでいる自宅で引き続き暮らしたい	(1000)	38.4	1.8	0.9	18.2	27.8	14.7	13.8	64.7	7.1	2.4	0.8	1.3	2.4	2.4	1.9	
引っ越してアパートやマンションなどで暮らしたい	(175)	21.7	2.9	1.1	12.0	44.0	20.6	20.0	8.6	15.4	1.7	0.0	1.1	5.1	7.4	1.1	
入所施設で暮らしたい	(236)	8.5	1.3	22.9	64.8	3.4	11.0	4.2	5.9	16.1	7.2	5.1	9.3	4.7	3.4	5.5	
グループホームで暮らしたい	(114)	3.5	0.0	45.6	67.5	6.1	13.2	3.5	14.9	27.2	5.3	5.3	2.6	8.8	2.6	1.8	
その他	(74)	45.9	5.4	1.4	40.5	9.5	12.2	12.2	14.9	18.9	2.7	0.0	2.7	24.3	0.0	1.4	
わからない	(433)	13.2	0.9	1.4	20.3	11.3	3.7	11.3	9.2	12.7	7.4	0.9	2.1	4.8	40.4	5.8	

(4) 地域で生活するために必要なこと

問 23 あなたは、お住まいの地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者で「何でも相談できる場所や人」がトップ項目となっている。そのほか「医療機関」「ホームヘルプサービス」「障がいのある人への理解」「経済的な支援や金銭管理の支援」なども高く、指定難病者では「医療機関」がトップ。



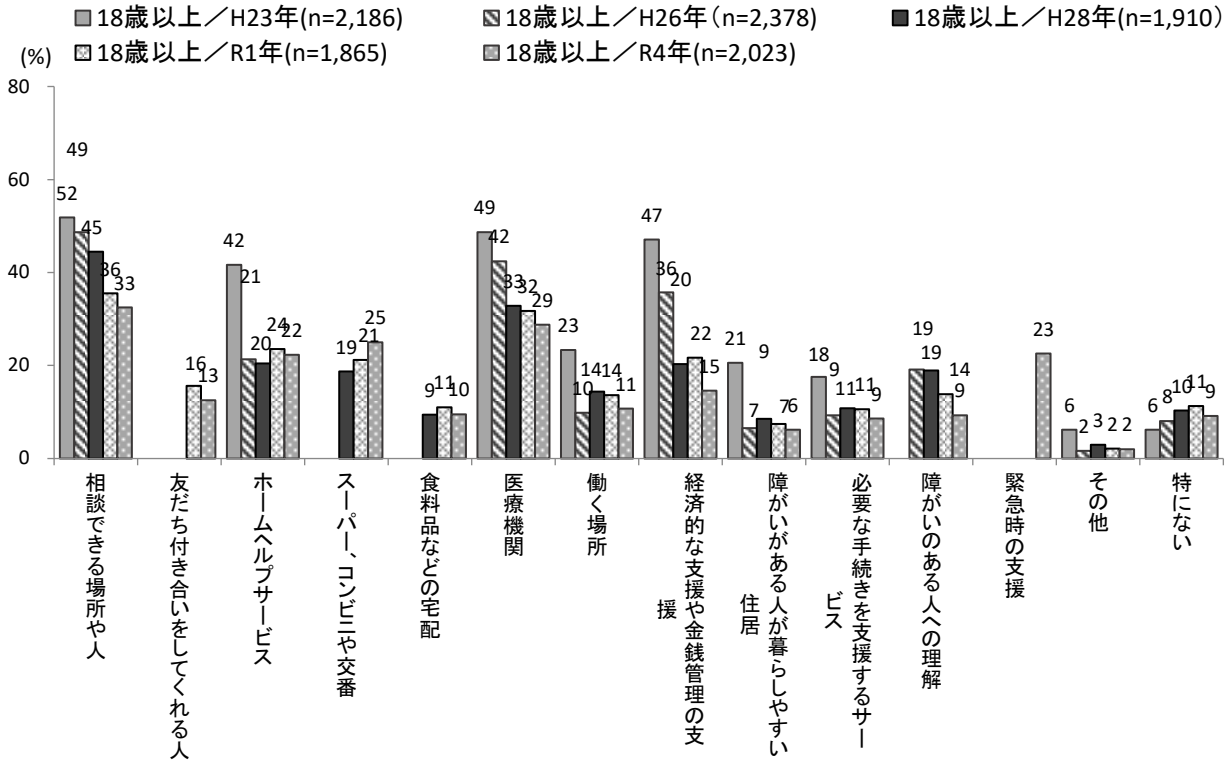
(その他)

一人で生活できない(7件)/全て(4件)/施設に入所している(3件)/放課後等デイサービスは増えたが、生活介護が足りない。放デイからグループホームに入るまでの期間つなぐ施設がほしい/借金があるので、返済に困っている/交通の便がよい所/医療的ケアがあっても、安心して暮らせる環境やスタッフ/衣、食、住/家族がいるいない関係なしに、自分の住居が親の持家だったとしても一人暮らしをする場合、経済的に苦しかったら生活保護の受給を認めてほしい/車イスにやさしい道作り/お金/脳血管型認知症で左麻痺あり。身体的自立が困難/将来的に！今は大丈夫/本人はわからない/医ケアに対応できる施設(グループホーム)、就労場所/経済的支援(医療費助成)の継続/全ての権利・財産を持ってかれる成年後見制度から身を守る支援/急に心臓が苦しくなる(夜中)/医療ケアと健康管理のある日常生活支援があること/痴呆症の人とのおつきあい会話、お返事/近隣のスーパーへの運転/入院継続が必要/24時間医療的ケアを支えてくれるサービス。移動支援も/経済的な支援はほしいですが“管理”はよくわからないのでこわいです

<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、「相談できる場所や人」「医療機関」の割合が低くなっている。

※平成23年・平成26年・平成28年調査では「友だち付き合いをしてくれる人」は選択肢に含まれていない。平成23年・平成26年調査では「食料品などの宅配」は選択肢に含まれていない。平成23年調査では「障がいがある人への理解」は選択肢に含まれていない。平成23年・平成26年・平成28年・令和元年調査では「緊急時の支援」は選択肢に含まれていない。

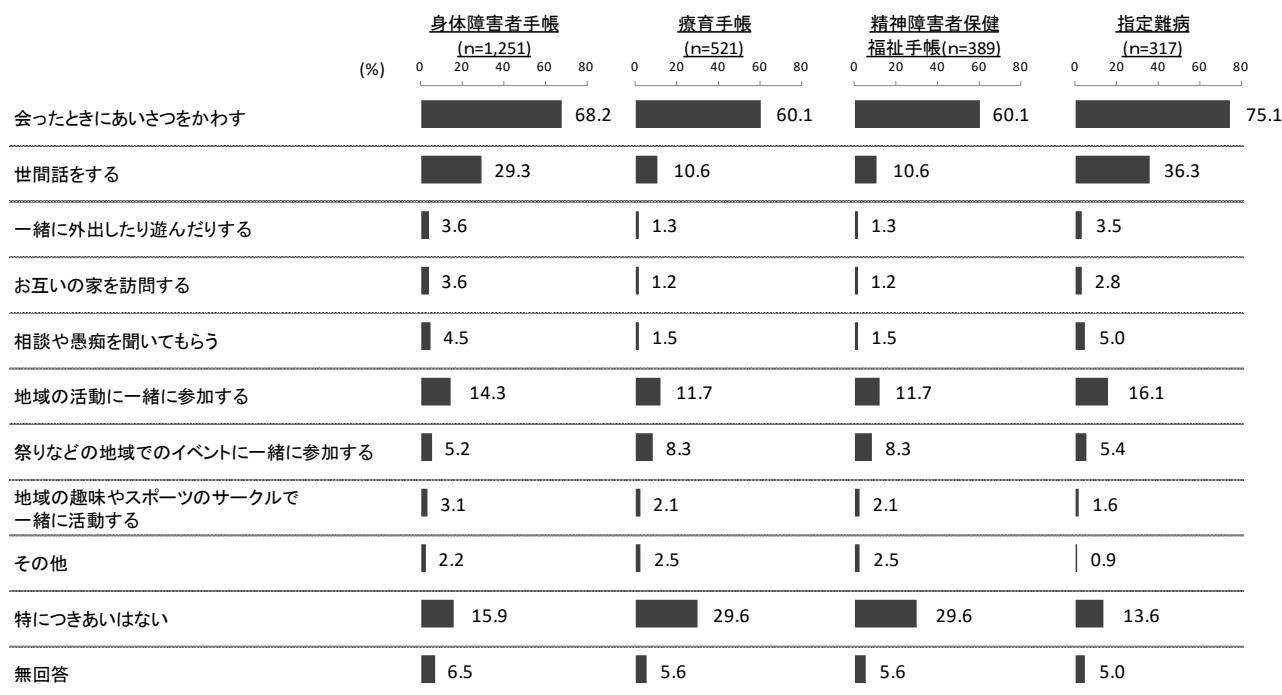


(5) 近隣・地域の人との関わり方について

問 24 あなたは、近隣・地域の人との程度のつきあいをしていますか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「会ったときにあいさつをかわす」が6割以上と高くなっている。身体障害者手帳所有者、指定難病者においては、「世間話をする」が2割以上と高いが、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では1割となっている。

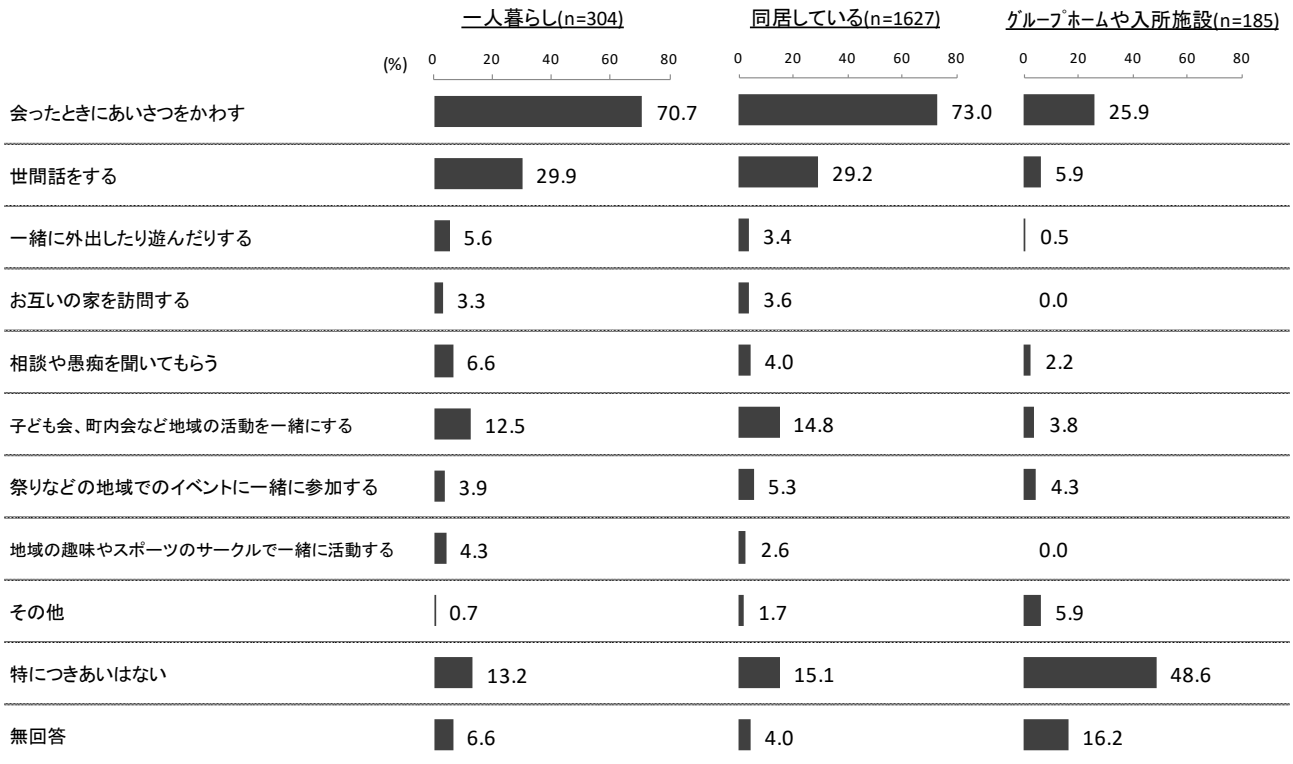
同居の状況別では、一人暮らしの人は「会ったときにあいさつをかわす」が70.7%と高くなっており、次いで「世間話をする」29.9%となっている。家族や親せきと同居している人についても「会ったときにあいさつをかわす」が73.0%と高く、次いで「世間話をする」が29.2%、となっている。一方、グループホームや入所施設を利用している人では「特につきあいはない」が48.6%と高くなっている。



(その他)

施設入居中(4件)/近所の人・自治会等(4件)/デイサービスに行っている(3件)/会釈するくらい(2件)/S型に参加月2回/現在は入院中/祖母、おじさん/地域猫の世話を手伝っている、毎日ではない/家庭菜園仲間/年が多くなり友人がいない/向かいの家の人に嫌われている/以前はあったが今はできなくなった/メールできる人とメールやりとりをしている/つき合いがない/外出しないので、話をしない/頭はしっかりしてても全身麻痺に失語症があるので、何らかの方法での意思疎通手段が必要/家にきた人と話す/静岡の事がまだわからない、何もかも/自分では動けないので言語は理解できても自分で言葉で伝えるのはむずかしい/コロナ渦でもあり外出は難しいです/外に出られないので無理です/近所の方をほとんど知らない/ヘルパーさんたちが橋渡し役をしてくれている/組合の式には出る

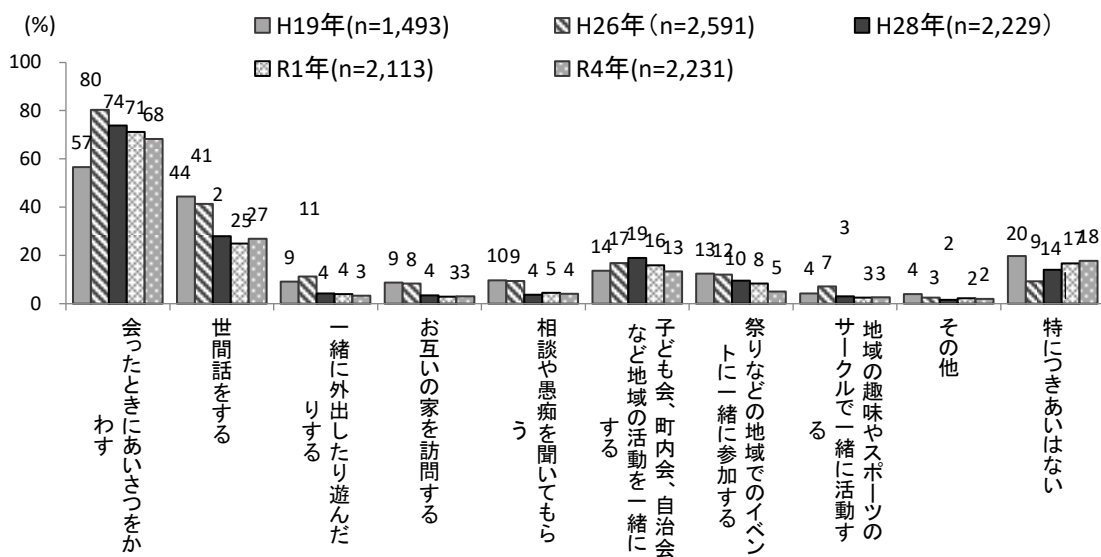
<同居の状況別>



<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、「会ったときにあいさつをかわす」「世間話をする」は徐々に低くなっている傾向にある。

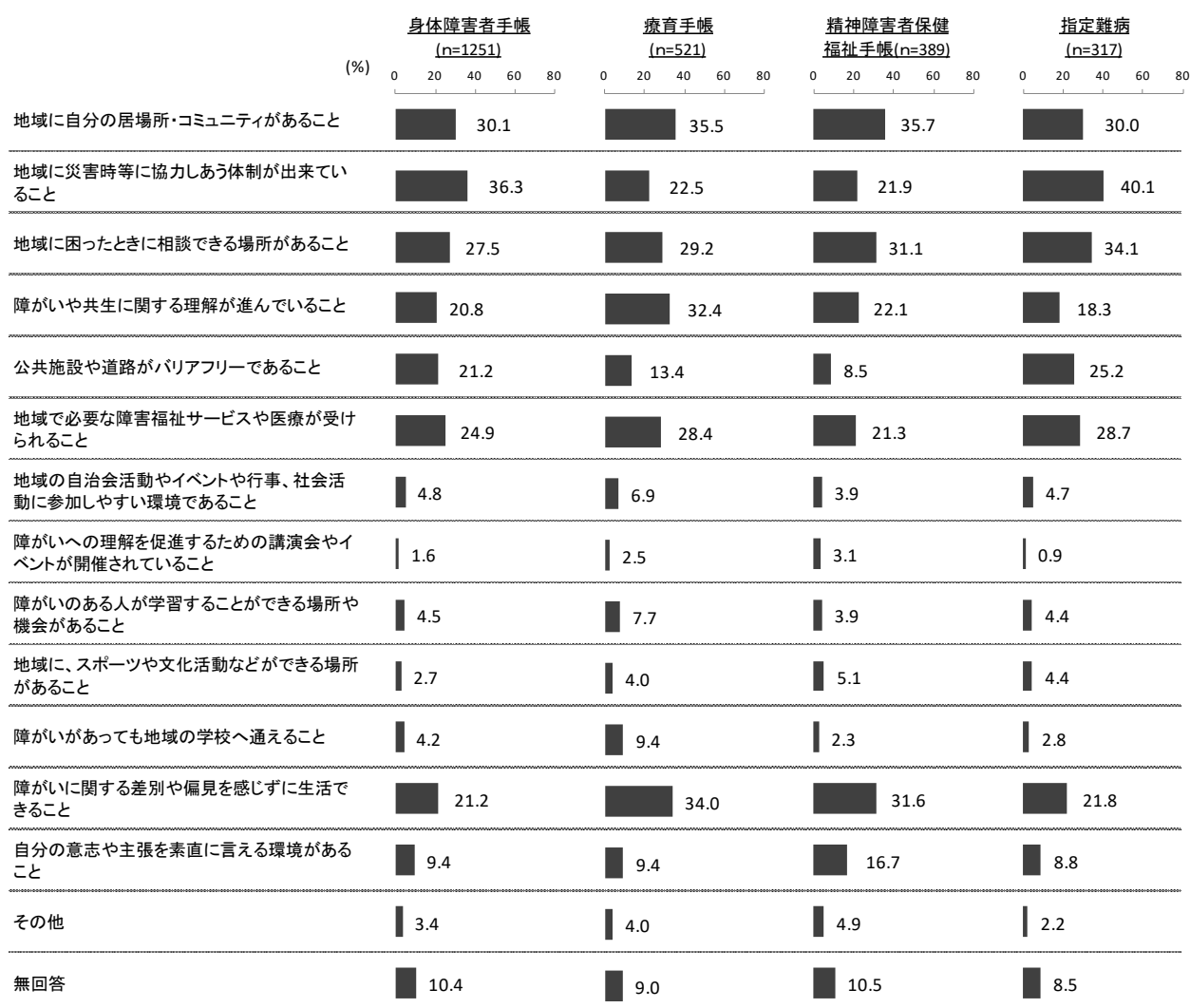
※平成19年調査では「会ったときにあいさつをかわす」は「挨拶をする程度」で、「世間話をする」は「時々話をする」で表現されている。



(6) 「地域における共生」を進める上での重要事項

問 25 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、お互いに大切に、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)」ができる都市を目指しています。あなたにとって、「地域における共生」を進める上で、特に重要だと思うことはなんですか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、指定難病者では「地域に災害時等に協力し合う体制ができていること」がトップ項目となっており、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者で「地域に自分の居場所・コミュニティがあること」がトップ項目となっている。そのほか「地域に困ったときに相談できる場所があること」「地域に必要な障害福祉サービスや医療が受けられること」「障がいに関する差別や偏見を感じずに生活できること」なども高くなっている。



(その他)

- ・ 全て(3件)
- ・ 他人とかかわりたくない(2件)
- ・ 移動交通手段がない(2件)
- ・ 必要ない
- ・ 障害者が地域に入って参加することは大切だが、それを見守ってくれる人を明確にってもらえると、地域の人が困ったときに対応してくれると思うことで受け入れやすくなる。(子どもは親がついてきてくれるが、成人は1人で来られると思うので)

Ⅱ 調査結果

- ・ 日本人の収入が増えれば生活が豊かに成り、心に余裕が生まれ他者に優しく成れる。法的根拠が無い外国人への各種支給を全て止め日本人の為に使うべき
- ・ 引越して3ヶ月なので、これから勉強していくつもりです/生活保護の身なのであまり大きく言えないけど、自分は1人でいるのがすきなので
- ・ 精神障害に対し、差別、無知が全く改善されない
- ・ 寝たきりで夫と2人暮らして行きたい
- ・ 暮らせるだけの収入が確保できること
- ・ 将来の不安がなくなる環境と情報があること
- ・ 趣味を通じての人とのふれあい
- ・ 障がい者への制度等の小冊子を配布
- ・ 障害の種類、程度は千差万別ですが、それぞれに合った施設(グループホーム)が必要
- ・ 企業、接客のある仕事・障がいの方への対応方法。例えば、聴覚障がいであれば可視化する。袋いりますか、おはしはどうしますか等を可視化する。障がいあるなし関係なく助かると思う。今マスクがほとんどの為、接客対応はとても大変さを感じる。補聴器を知らない人がほとんど。もっと広まったら良いなど
- ・ 機能していない
- ・ 共生することはとてもむずかしいと思っています
- ・ 市(県)ろうあ青年部と共に活動している
- ・ 施設に入所している
- ・ 認知であるとも判断不可
- ・ ペースメーカーなので他の障害と関係性がないので
- ・ 共生は無理、地域等の理解はない
- ・ 「障がい」だけではなく「難病」に関する理解が進み、制度が充実すること
- ・ 介助なしでは移動出来ないので、内向的になる
- ・ 理解しないと交流が難しい
- ・ 移動手段
- ・ 存在を知ってもらうこと
- ・ ふざけるな！何が共生だ。文句あればこい
- ・ 福祉施設が足りない
- ・ 窓口はあっても、実際相談に行ってもその先がない。中身がない形だけ公務員の実績の為のものだと思われたいよう活動してもらいたい
- ・ 地域の人、行政の窓口の人の優しさが欠ける、相談しにくい
- ・ 本人の意思を受けける方法を行政で取り入れてほしい
- ・ お金に対する不安がなくせる職場があること
- ・ 現在、働いていますが…将来の年金が心配。手帳4級でも医療費無料になると嬉しいです
- ・ 障がいとか健常とか LGBTQ とか…全て人間の個性を受け入れる世の中
- ・ 転入してまもないので良くわからない
- ・ 地域に受け入れる基盤があることは絶対必要ですが、一人で地域で暮らしているのは無理です
- ・ 子どもの頃からずっと教育に障害児(者)と関わる機会を増やす。年に1～2回交流があってもわかりあえることはない
- ・ 自治会の中で障がい者の存在をしっかりと把握されていること。民生委員が一度も訪問してきたことがない
- ・ 25才未満の方も参加できる婚活(●●●●●●等)
- ・ 興味がない
- ・ 当てはまる回答が無い

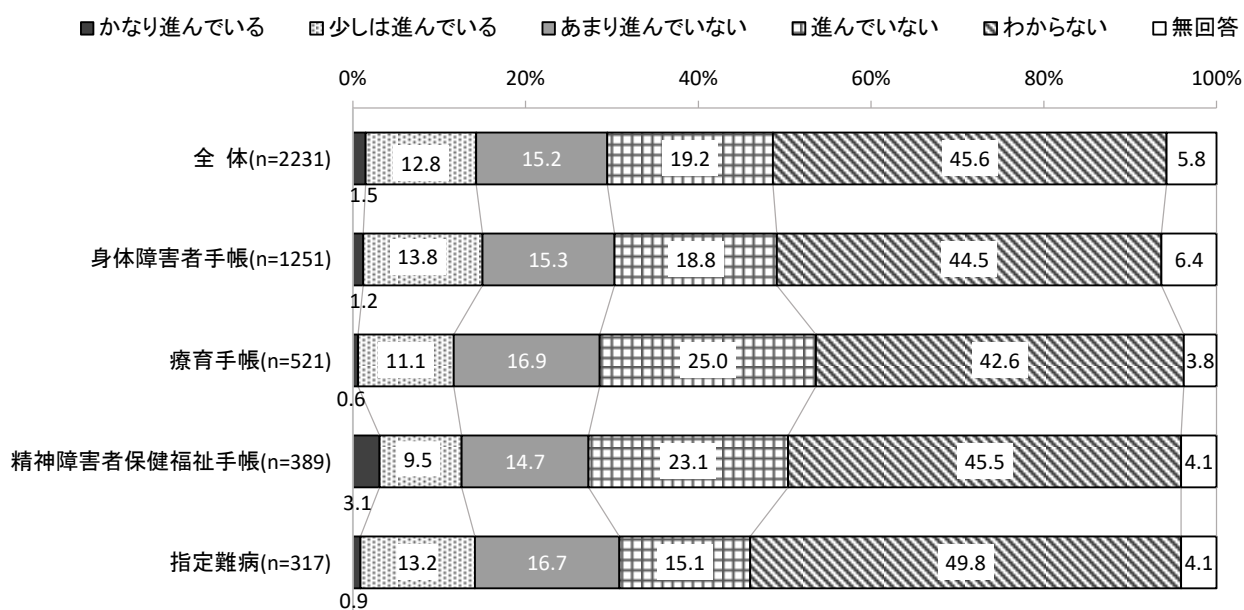
(7) 「地域における共生」の進捗状況

問 26 あなたの身近では「地域における共生」が進んでいると思いますか。「地域における共生」の具体的な例は、問 25 の選択肢を参考にお答えください。(〇は1つ)

全体では、「かなり進んでいる」1.5%、「少しは進んでいる」12.8%、「あまり進んでいない」15.2%、「進んでいない」19.2%、「わからない」45.6%で、共生が進んでいる人は少数派となっている。手帳の種類別・指定難病者で大きな差はみられない。

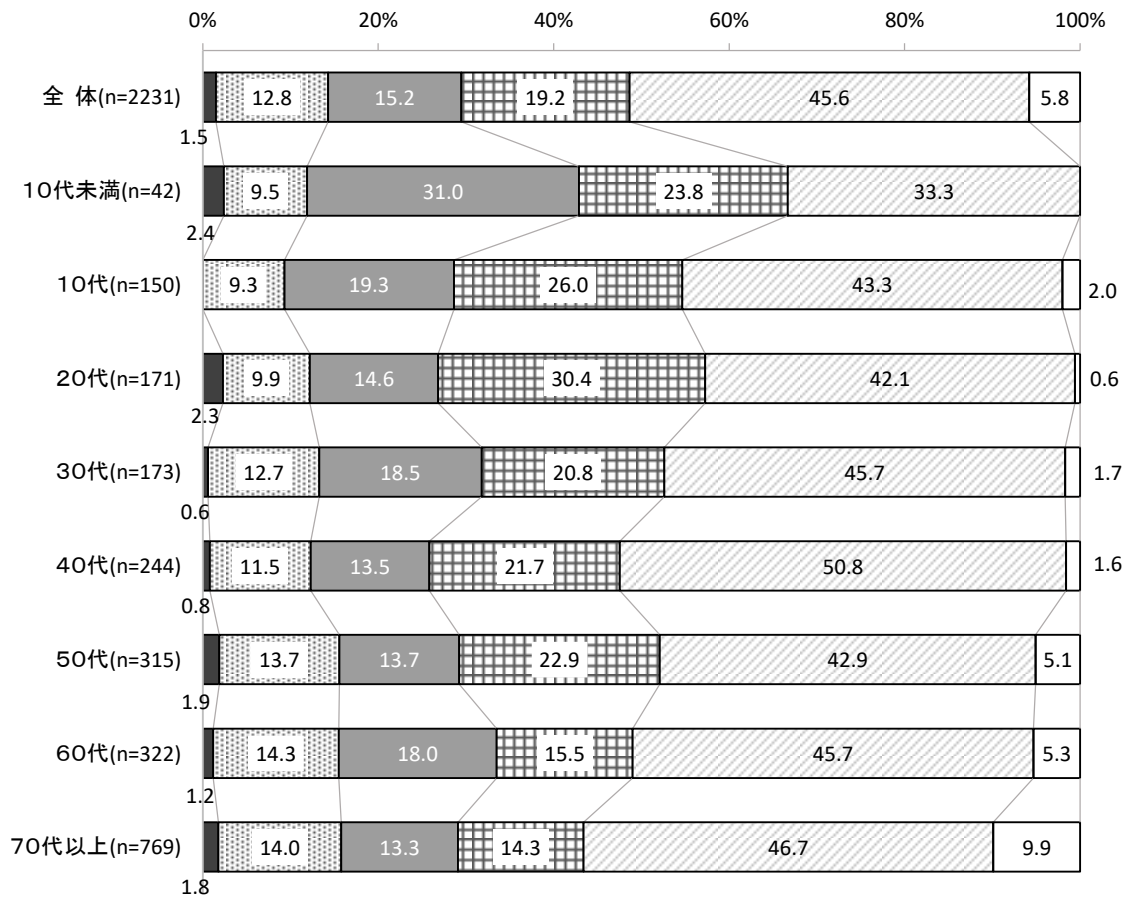
年齢別でみると、若い年齢で「あまり進んでない」「進んでいない」と感じている割合が高い。

近隣・地域の人との付き合い状況別では、つきあいのない人と比べると、つきあいがある人の方が進んでいると感じている人の割合が高くなっている。

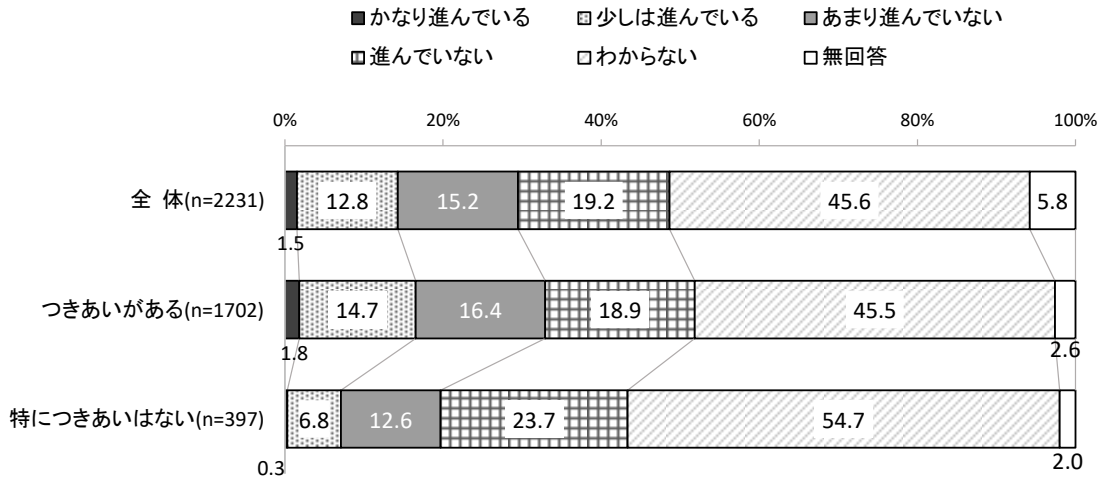


<年齢別>

■かなり進んでいる □少しは進んでいる ▨あまり進んでいない □進んでいない □わからない □無回答

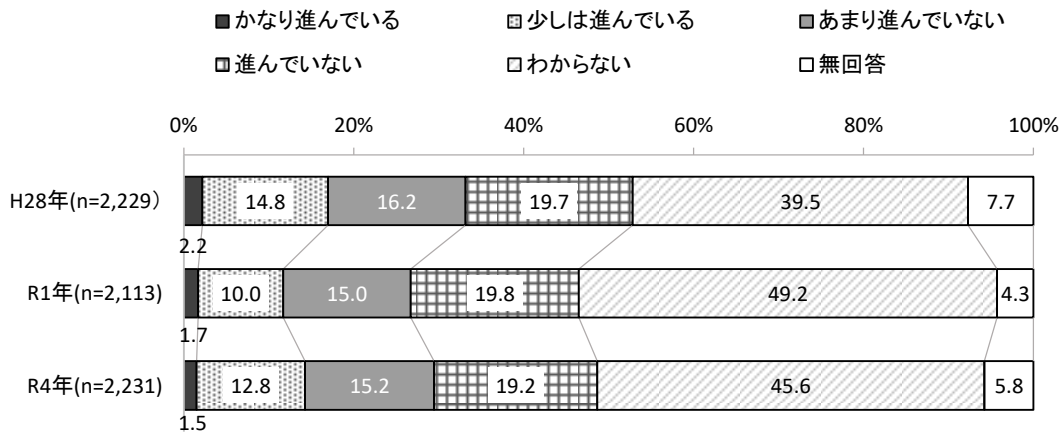


<近隣・地域の人との付き合い状況別>



<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、「かなり進んでいる」「少しは進んでいる」が少数派である傾向に変化はない。



6. 災害対策について

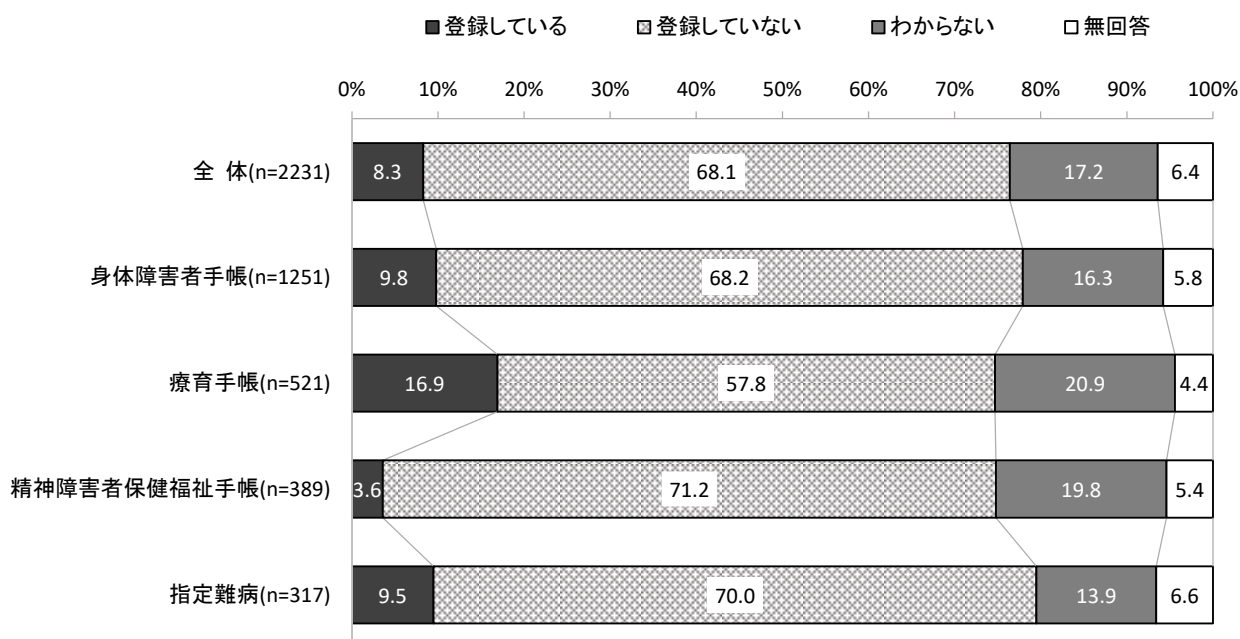
(1) 「静岡市避難行動要支援者避難支援制度」の登録状況

問 27 あなたは、市が実施している「静岡市避難行動要支援者避難支援制度(旧称:静岡市災害時要援護者避難支援制度)(41 ページ参照)」に登録していますか。登録していない場合は、その理由もお答えください。

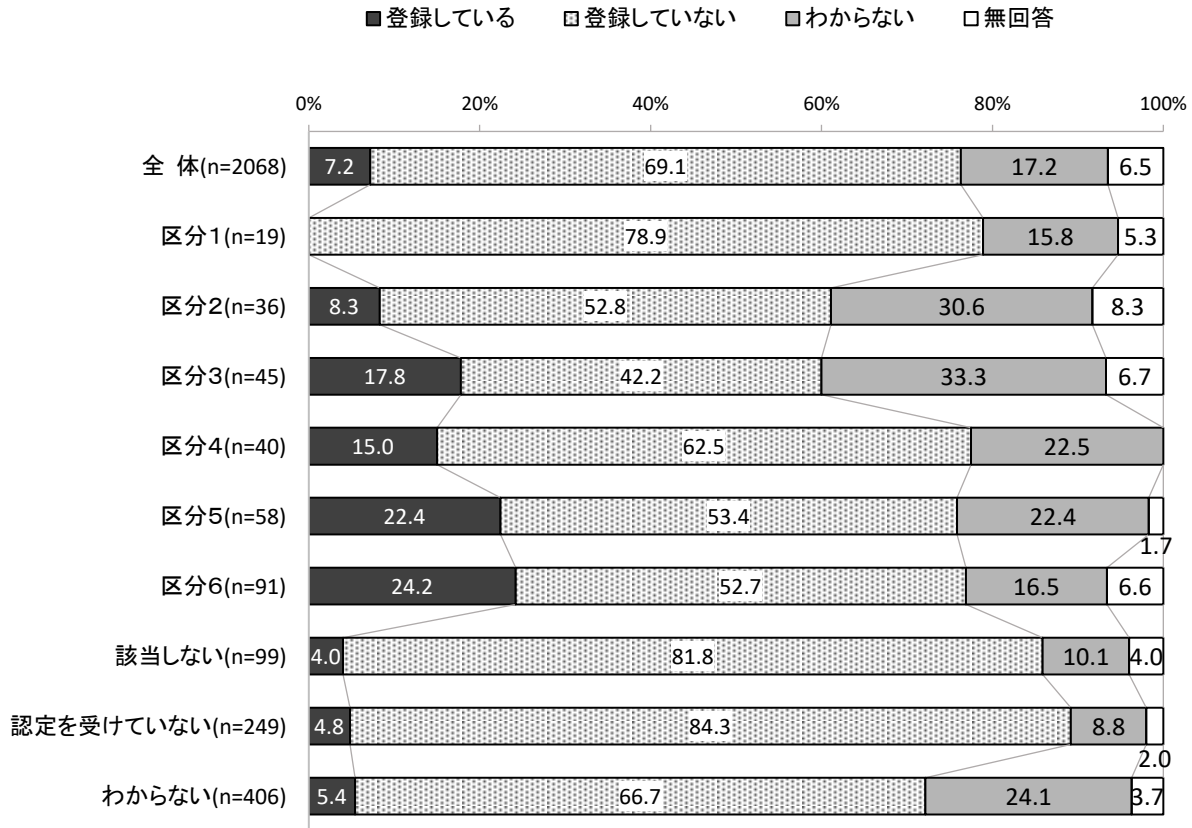
「静岡市避難行動要支援者非難支援制度」への登録者は、身体障害者手帳所有者で 9.8%、療育手帳所有者で 16.9%、精神障害者保健福祉手帳所有者で 3.6%、指定難病者で 9.5%となっている。

障害支援区分別でみると、区分 1 をのぞき、区分 2 から区分 6 までの認定を受けている人で、登録割合が高くなっている。

<登録状況>

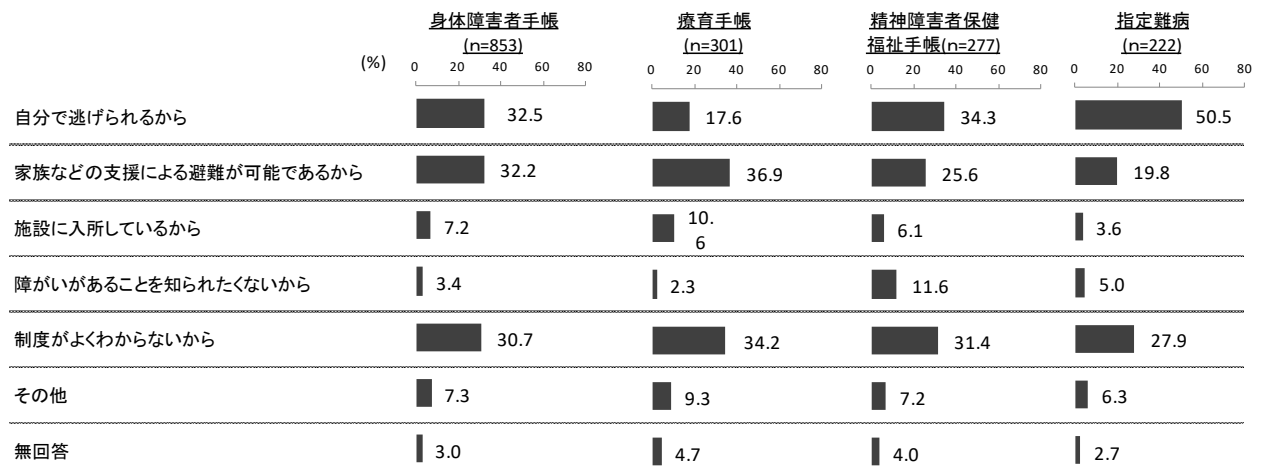


<障害支援区分別>



付問① 「2 登録していない」の理由(○はいくつでも)

未登録理由としては、「自分で逃げられるから」「家族などの支援による避難が可能であるから」の2項目が高い数値となっているほか、「制度がよくわからない」が高い。



Ⅱ 調査結果

(その他)

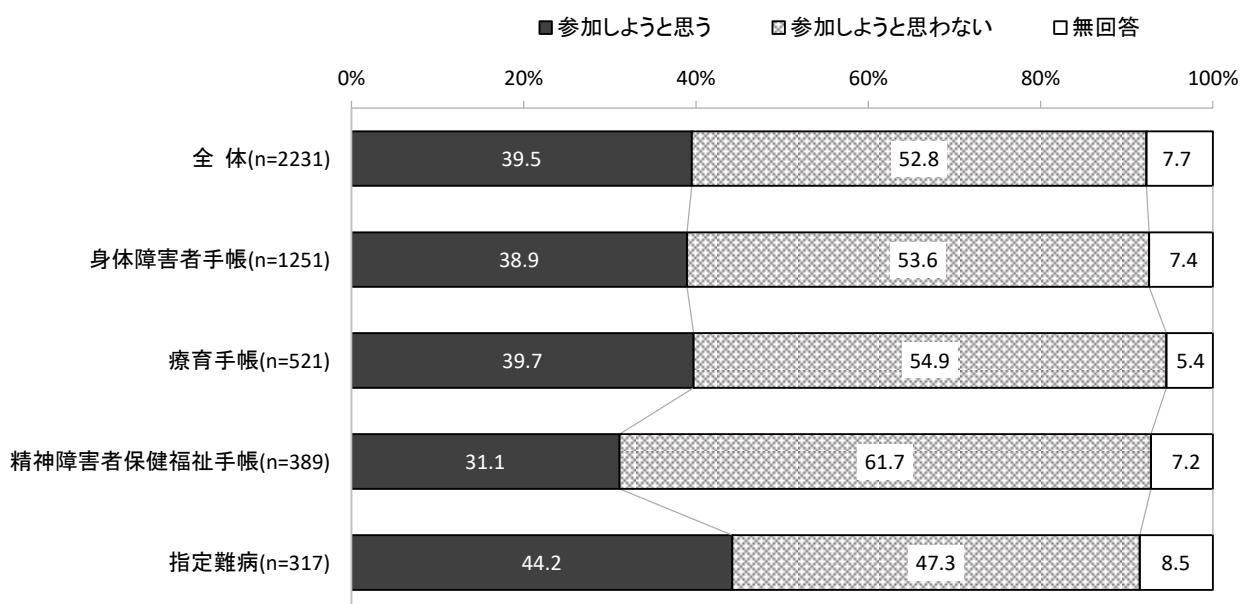
制度を知らなかった(19件)/制度を知らない(8件)/入院中(7件)/逃げられない(6件)/引越して来たから(4件)/グループホーム・施設に入所(3件)/以前登録していた(2件)/これから登録するつもり(2件)/制度が家にこない/ダメな時は諦める/行動が遅い/災害時に他人の支援を期待できない/小学校が近くにある/自治会に避難支援制度有り/逃げる必要がないから/必要以上に個人情報を出したくない/自分では動けない/以前したが意味がないと言われたから役所の人に/登録するとわずらわしさが発生する/訪問を断っているため/一度も声を掛けてもらった事がない/住居が避難場所だから/諦めている/静岡市以外に居る事が多いため/職場で訓練した/行政は混乱するだけで結局何もしてくれない。今まで何度地震災害があっても同じ。ただ予算がついたからやっているだけ。混乱と後手後手の対応ばかり/以前は登録していたが引越しをした/法と実際のニーズにみぞがある/迷惑をあまりかけたくないから/今までは大丈夫と思っていた/避難所の開設がおそい/皆大変だからできないと言われた/自宅が避難場所になっている。団地5F/家族と同居/家族と逃げればいから/動くことが急に出来なくなる/知らない人だと難しいところがある為/支援者が高齢だったから/お父さんが元気だから主人は、私耳が悪いから大きな声が出るので良くわかる/セキュリティの問題/情報がない/他人が苦手/自宅にいるつもりです/ご近所と日頃親しいので

(2) 避難訓練の参加意向

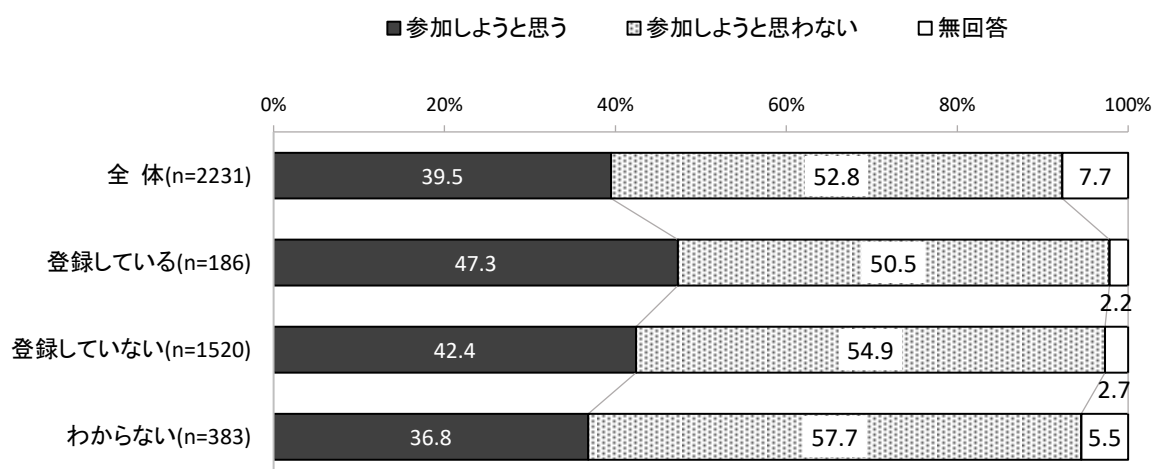
問 28 あなたは、地域で実施している避難訓練に参加しようと思いますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者においては、避難訓練に「参加しようと思う」はおよそ4割となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者は、31.1%に留まっている。

「静岡市避難行動要支援者避難支援制度」の登録状況別では、登録しているかわからない人で「参加しようと思う」が低くなっている。

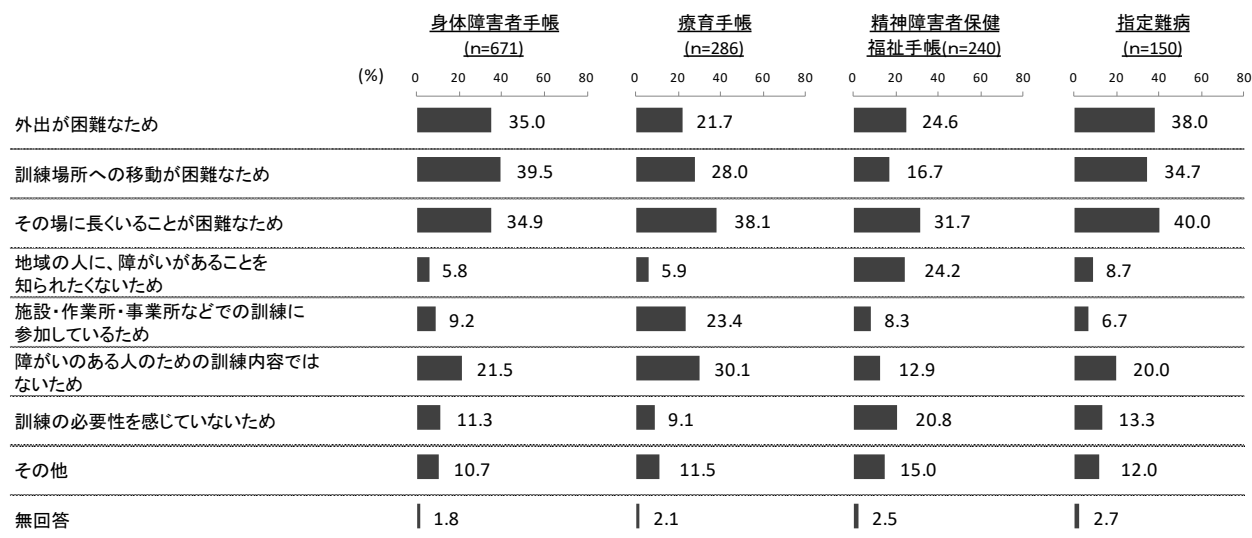


< 「静岡市避難行動要支援者避難支援制度」の登録状況別 >



付問①（「2 参加しようと思わない」と答えた方にお伺いします）
参加しようと思わない理由は何ですか。（○は1つ）

療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者では、「その場に長くいることが困難なため」が最も高い。身体障害者手帳所有者では「訓練場所への移動が困難なため」が最も高く、次いで「外出が困難なため」「その場に長くいることが困難なため」と続く。療育手帳所有者は、「障がいのある人のための訓練内容ではないため」「施設・作業所・事業所などでの訓練に参加しているため」が高い。精神障害者保健福祉手帳所有者は、他と比べて「地域の人に、障がいがあることを知られたくないため」が高くなっている。



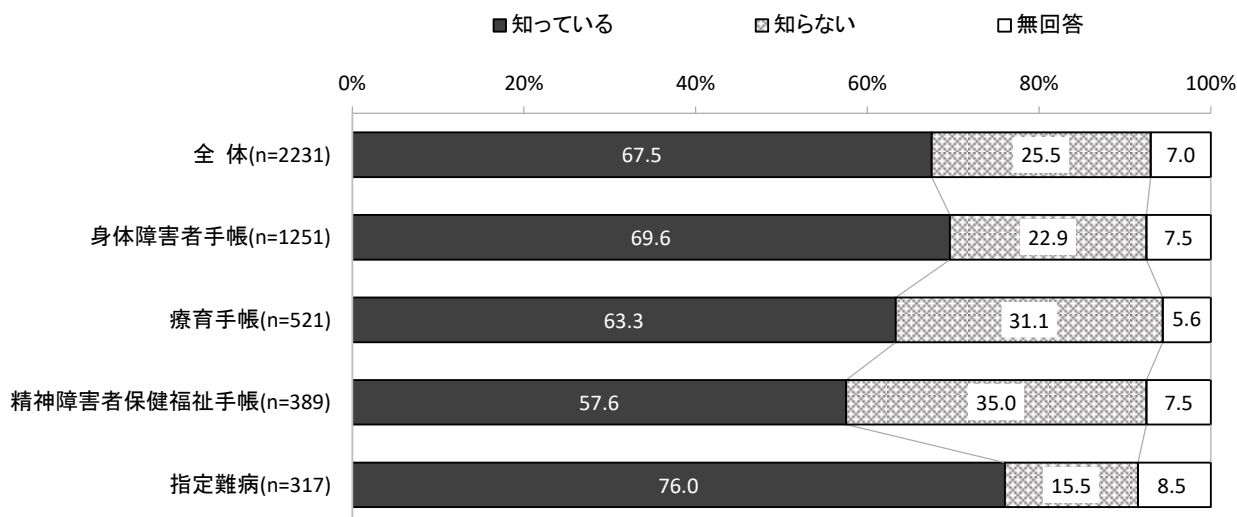
（その他）

体調不良(15 件)/仕事の為(13 件)/人に会いたくない(13 件)/避難訓練がいつあるのか知らない(13 件)/面倒だから(8 件)/外出予定(6 件)/施設入所中(6 件)/外出が困難なため(4 件)/乳幼児の為(4 件)/入院中(4 件)/朝が苦手(4 件)/避難訓練していない(3 件)/家にいる・家が安全(3 件)/時間が合わない・取れない(3 件)/家族が参加(2 件)/興味がない、関心がない(2 件)/疲れるため/最近訓練ない/訓練内容がわからない/以前参加した事があり、スピード差が無くならやらせていたから/地域の一員としての義務と思う/自分の身は自分でしまつたいから/本人の理解が無い/障害に関する偏見を大変感じた。以前参加した時に/訓練する時間がないから/行きたくない/私の親戚で私に嫌がらせする人が、毎回避難訓練に出席しているから/訓練とは名ばかりで何一つ実を結んでいない。ただ予算がついたからやっただけ。今まで何度地震災害があっても同じ、混乱と後手後手の対応ばかり/外に出るまでに死ぬ/参加した先で仮に嫌な事があった場合、その後の関係が嫌になりそうだから/地域の人には感じの悪い人が多いため/無駄な訓練だから/何をすべきか、何を言われているのかまったくわからない為/参加しなければと思いますが、組長だけ出ればいいとの事でしたので/その時になってみないと分からない/見た目でも障害がわからないため、わざわざ説明したくない。理解してもらえない/学校の訓練に参加しているため/防災訓練はいつも 12 月で寒い為/失語障の為、話が出来ない/体調が悪くなった時のことを考えると無理して参加する必要がないと考えている/周りの人が参加していないから/面倒であるが、参加はしている/土、日が休日でないため+高校生までは参加していたため/近くの集合場所までは行けるが、その後町内全体の集合場所まではむずかしい/集合するだけなので、行っても気まずい/私の障害の大変さは他人にはわからない/知能がない

(3) 避難所の認知状況

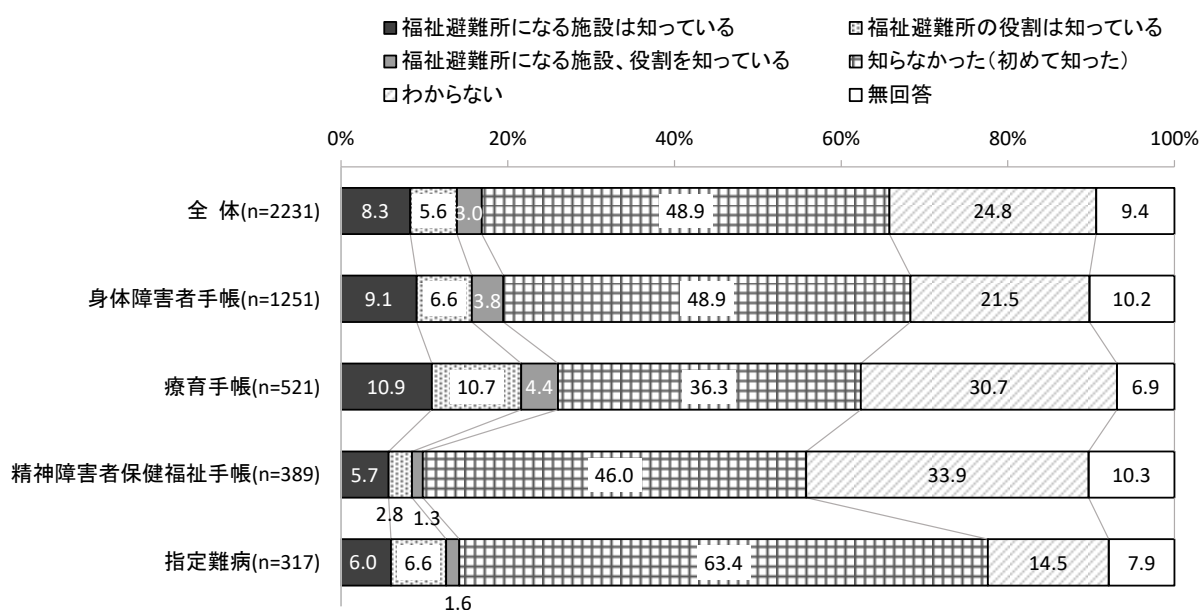
問 29 災害時の避難所についてそれぞれお答えください。
 (1) あなたは自分の住んでいる地域の避難所の場所を知っていますか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者においては、避難所の場所を「知っている」は6割以上。精神障害者保健福祉手帳所有者は5割台となっている。



問 29 災害時の避難所についてそれぞれお答えください。
 (2) 「福祉避難所(41 ページ参照)」がどのようなところか知っていますか。(〇は1つ)

療育手帳所有者は、「福祉避難所になる施設は知っている」が10.9%となり、他と比べて若干高くなっているほか、精神障害者保健福祉手帳所有者は「知っている」が全般的に低い。

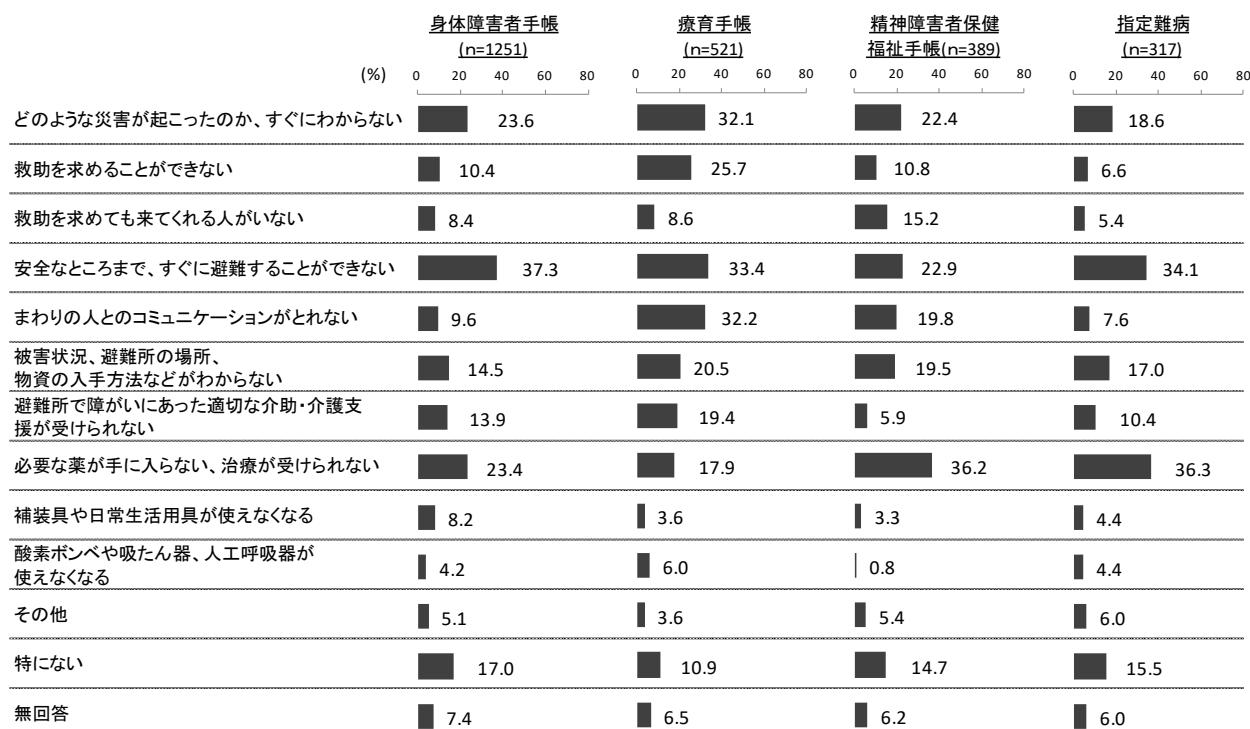


(4) 災害時に困ること

問 30 あなたが、地震や台風などの災害のときに特に困ることはなんですか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者は、「すぐに避難できない」が最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は、「薬が手に入らない、治療が受けられない」が最も高くなっている。

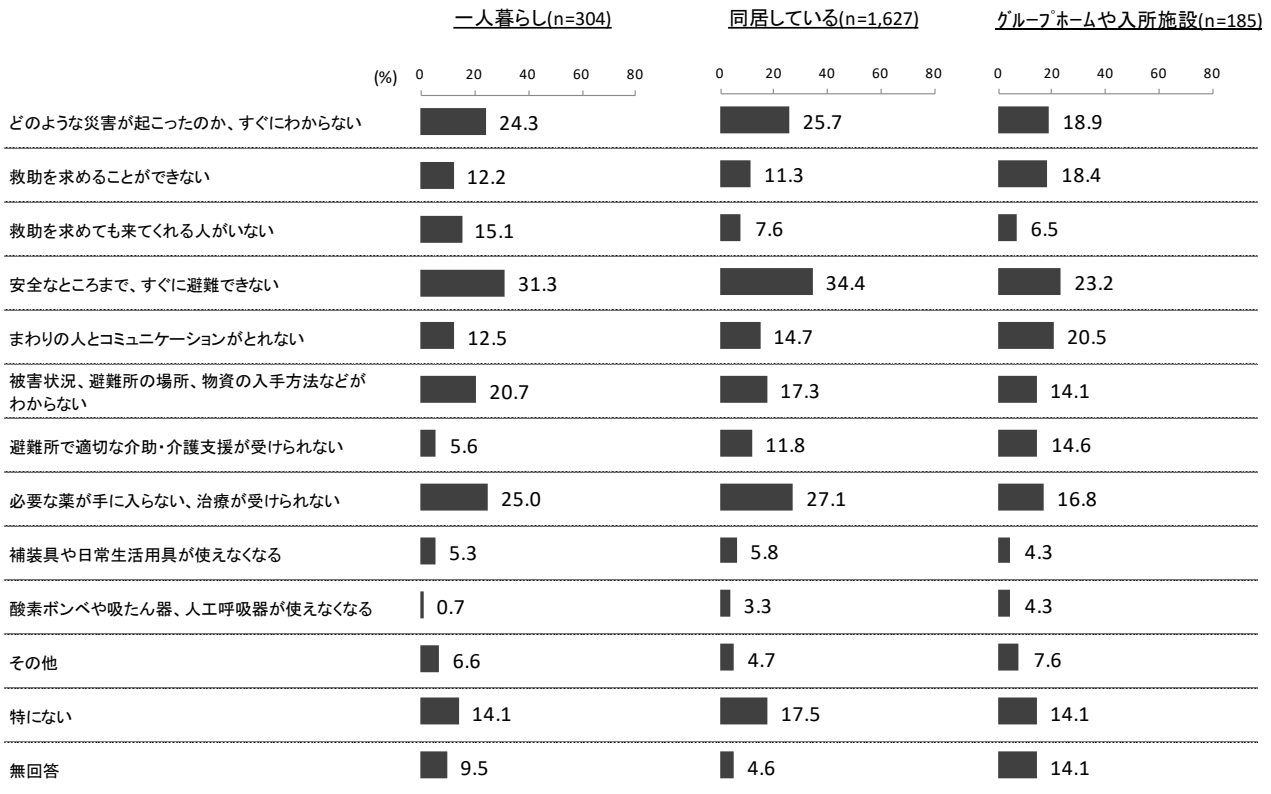
同居の状況別では、一人暮らしの人は「救助を求めても来てくれる人がいない」が15.1%と、他より高くなっている。



(その他)

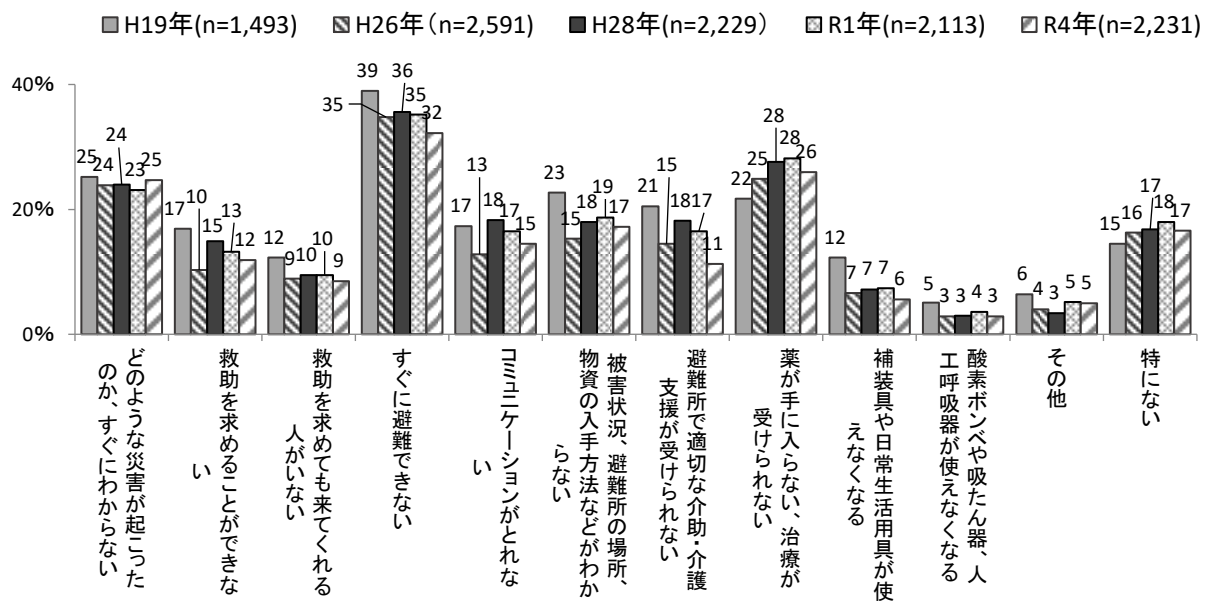
ライフライン(水・電気等)が困る(16件)/避難所の場所や生活への不安(14件)/トイレが困難(9件)/人工透析ができるか(8件)/車イスの移動などの不安(3件)/施設に入所(4件)/入院中(2件)/家族が外出していたら何もできない(2件)/ペットがいる/9、10、12以外全部です/普通の人と同じ事を不安に思う/走って逃げる、階段を駆け上がることが早くできないので逃げ遅れる可能性がある/正直に言うと早く死にたい/どのように困るか分からない/意思の疎通が難しい/ふだんの暮らしと変化するのでストレスが強くなる/お互いに助け合いたいとは思いつつもその時になってみないと分かりません/他人の手を借りなければならぬ/避難後、帰宅してからの片付けなどが心配/日常的に地方に行くことが多く、その場の救助や避難場所を把握していない/①母親が高齢で、自分も車の運転免許を持っていないため、避難所に母親を連れて行く事がおそらく困難だと予想できる。②住居が築60年以上たっているため、倒壊の心配と、もしそうってしまったら住居の確保ができるか不安である/災害後の片付けをする体力がない/子供達だけの留守番時①⑥/お金/情報が入らない(耳が不自由のため)/聴覚障がい者向けの手話通訳者がいないと情報が取れない。(筆談者を含む)/装具が入手困難/自宅が古い為安全性に不安/口から食事が出来ない為必要な医ケアの道具ないと命にかかわる/物資がなくなること/家の身のまわりの避難準備してくれる人/病気のせいで寒い所にいると、手足の血行がものすごく悪くなり、痛みが出てしまう。血流障害です。夏はやはり病気のせいで、他の人よりも虫に刺されやすく、また刺された所が大きく腫れてしまい、かゆみや腫れがおさまるまで一週間以上かかります。私はどちらも苦痛です。しかし避難所に行った時に、それらを伝えてもただのわがままだと思われそうで、それが怖いです/自治会の色々な放送が、ほとんど住民に聞こえにくい/一人になること/自宅以外での帰宅方法に不安/荷物の持ち出し復旧など体力が心配/薬が無くなると頻尿、多飲になる。災害時に飲料水が人一倍必要になる。トイレも近くなりただでさえ物資が少ない中、他人に迷惑をかけるのではないかと。物資が少ない中、生きていけるか不安/食料/災害の状況による/山のすぐ横に自宅があるため、土砂崩れが怖い。※9月の大雨で一部崩壊/川の水が道路に流れ避難ができない。(牧ヶ谷公民館前の川)/台風(雨)が不穏要因となり激しい自傷をしてしまう/言語障害/避難することが正しい選択なのかよくわからない/アレルギーがあるため必要な食糧が手に入らない/職場に招集されるため家族(母)と離れられなくなってしまう/どこになにがあるか知っている。どろぼうがおしよせてくる/町内も高齢者、単身者が多く大変だと思う

<同居の状況別>



<経年変化>

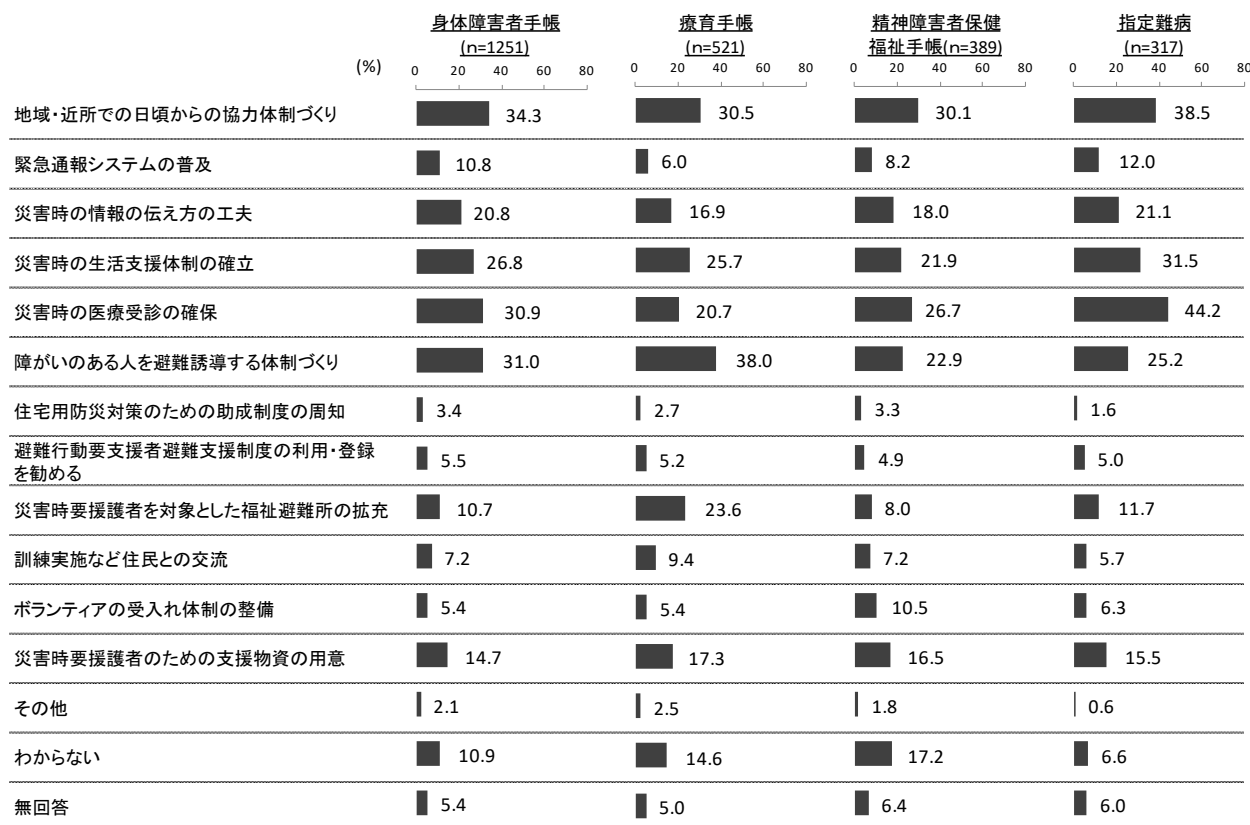
過去の調査結果と比較して、特に大きな変化はない。



(5) 災害時の備えとして取り組むべきこと

問 31 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、障がいのある人に対し、必要な取組はどれだと思いますか。
(○は3つまで)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者は「地域・近所での日頃からの協力的体制づくり」が最も高い。療育手帳所有者は「障がいのある人を避難誘導する体制づくり」が最も高く、指定難病者は「災害時の医療受診の確保」の期待が最も高くなっている。



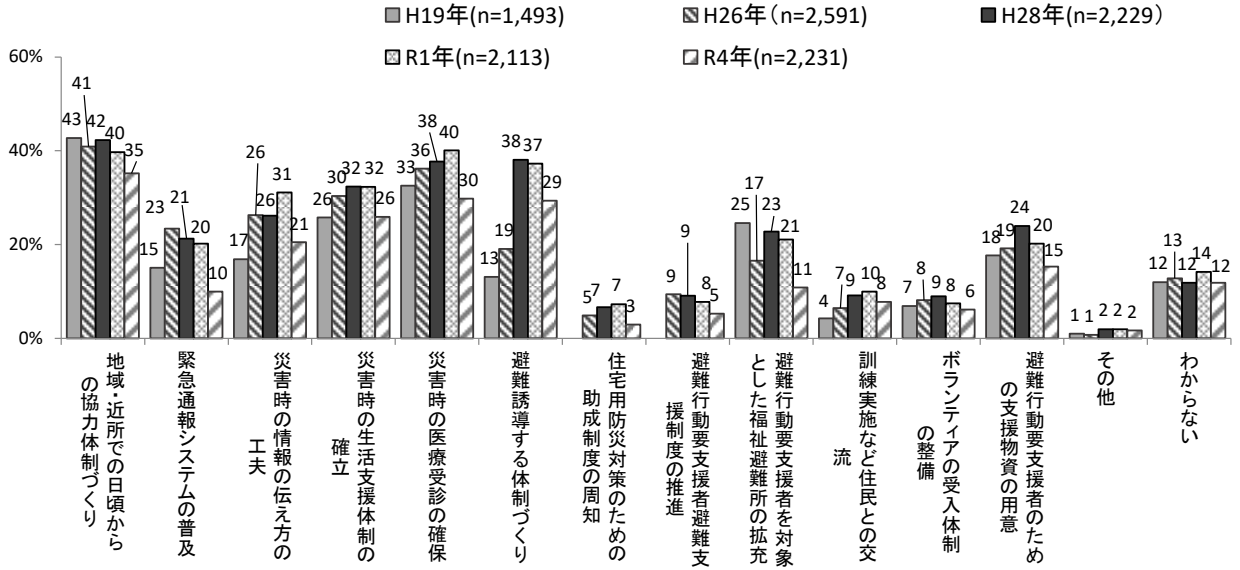
(その他)

避難場所の増設やバリアフリー化、指針や周知(6件)/薬、用具、かかりつけ、医療薬の確保(3件)/高齢で避難支援が出来ない(2件)/入所施設職員
の災害時に障害者に対する対応等々専門家に指導してほしい/水、簡易トイレの優先/施設に入所してるので/万が一の時は日頃の支援に感謝
しつつ諦める教育。東北の教訓。津波でんで/早めに退避させる。ホテルに移動しました/1人では何も出来ない/台風で断水の時、民生委員も自分の事で
いっぱい誰も来てくれなかった。皆自分が一番ですべてで後まわしになると感じた/避難する事自体、難しいので、家から離れずにごせる体制が必要/家
族に頼るのみ/他人を危険に巻き込みたくない/ライフラインの強化/町内の人、どのような障害を持っている人がいるか知らなければ、なんの訓練実施なん
でしようか? 個人情報なので知ることも難しい。障害者として又は障害をかかえた人という人が、災害時必要とすることを知らうことからは
ないでしょうか。障害者は自分からは迷惑と思っかなか言えませぬ。程度により力や手を、アドバイスなどしてくれる人がいるのでしょうか? /雨の中の移動は困難/人
と一緒にいられない/障害者への理解と配慮、気づかい/自分の事で、他人を見れませぬ/ご近所付き合い、お互いを知ること、プライベートなど難しいかもし
れないが.../1+6が普通に出来れば和やかに行動も順調になるのでは/同報無線が聞き取れないので(別の方法で)分かるようにして欲しい/お互いに
知っていること/雨の日は水門をすぐ開けて頂きたい/自宅、車等で過ごす場合の支援物資の入手が分からない/一人で落ち着ける場の用意(発作時)/家
族(が不在だった時)以外の人から(近所に住む支援者)の安否確認/現金支給

<経年変化>

過去の調査結果と同様に、「日頃からの協力体制づくり」「災害時の生活支援体制の確立」「災害時の医療受診の確保」が高くなっている。

※平成19年は「住宅用防災対策のための助成制度の周知」「避難行動要支援者避難支援制度の推進」は選択肢に含まれていない。
 ※「避難行動要支援者避難支援制度」は平成19年・26年・28年では「災害時要援護者避難支援制度」と表現されている（旧制度）。
 ※令和4年調査から回答数の上限を3としているため、全体的な数値の減少が見られる（令和元年以前は回答数の上限は4）。



7. 療育・教育について

(1) 通っている学校・学級・施設

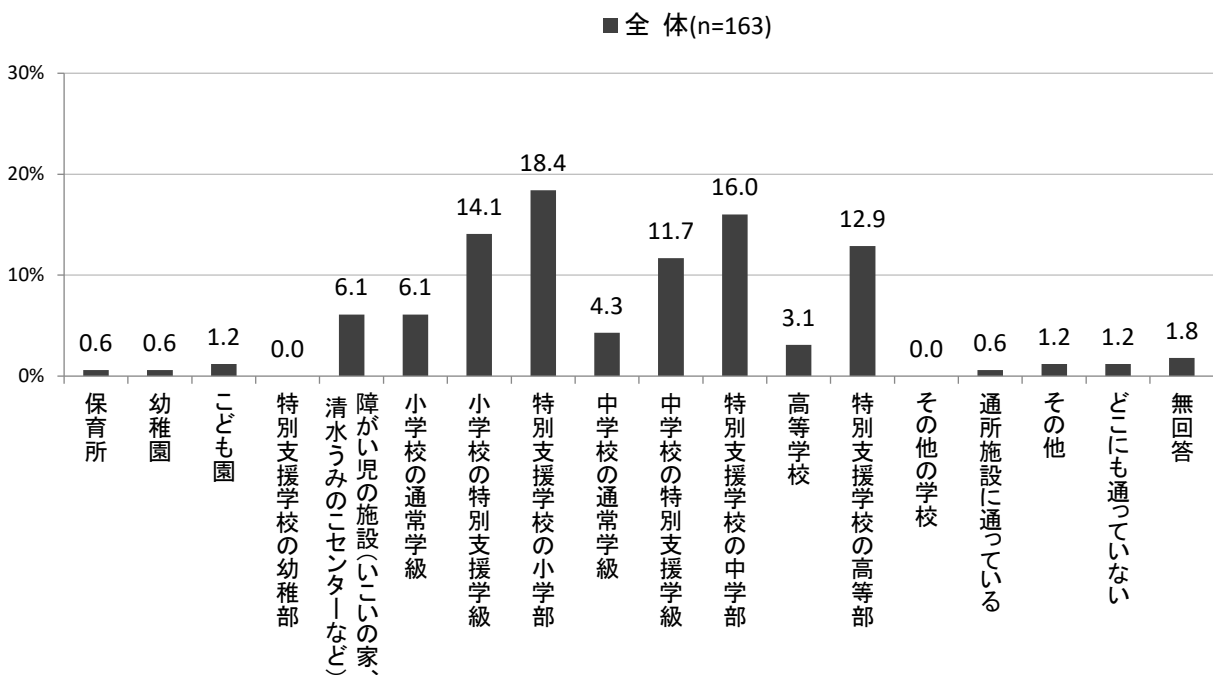
(あなたが18歳未満の場合にお答えください[18歳以上の方は問34へ])

問32 現在通っているところをお答えください。(○は1つ)

※複数通っている方は、主に通っているところをお答えください。

全体では、「特別支援学校の小学部」が18.4%と最も高く、次いで「特別支援学校の中学部」が16.0%となっている。

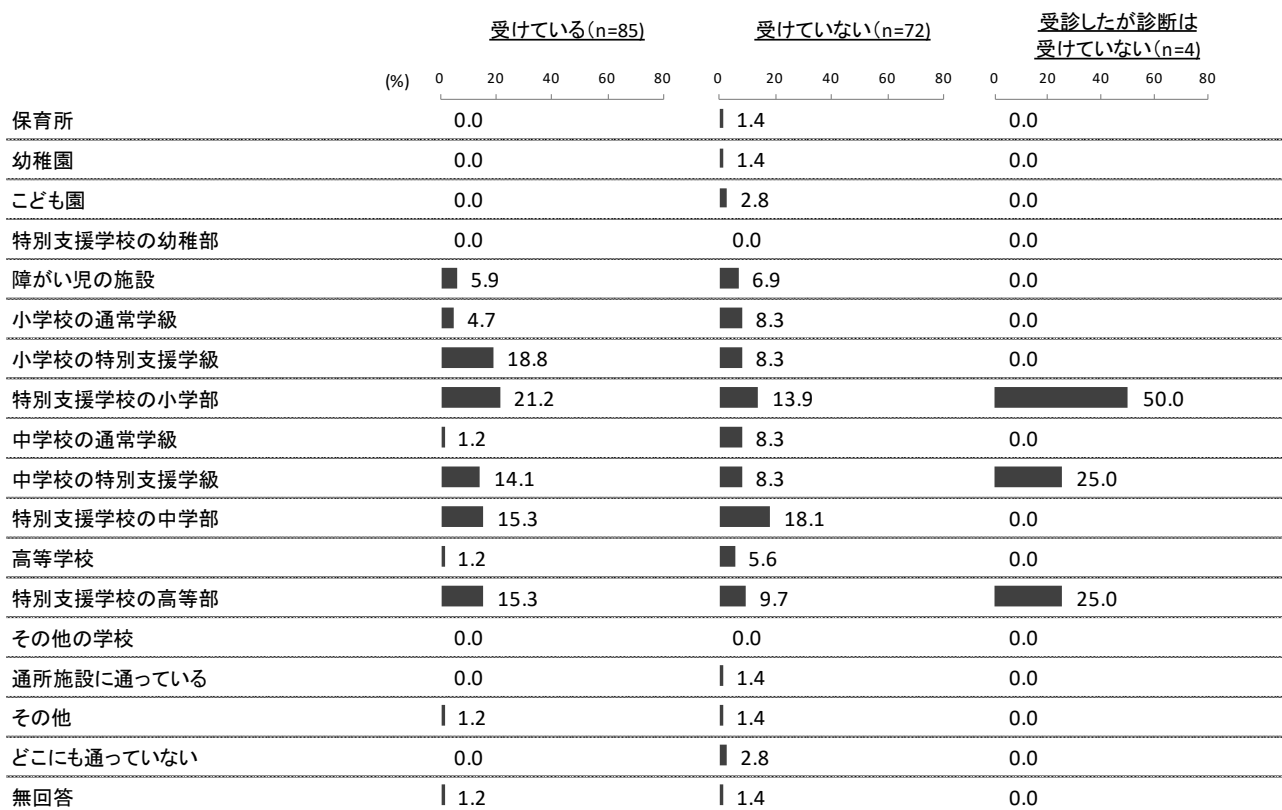
発達障がい診断別でみると、「受けている」では「特別支援学校の小学部」と並んで「小学校の特別支援学級」が高く、「受診したが診断は受けていない」では「特別支援学校の小学部」が特に高くなっている。



(その他)

GH・介護施設に入所中(2件)/授産所/B型作業所へ通っている/手話通訳者と一緒に協力して頂きたいので施設して欲しい/大学/●●●●●●●●/仕事場

<発達障がいの診断有無別>



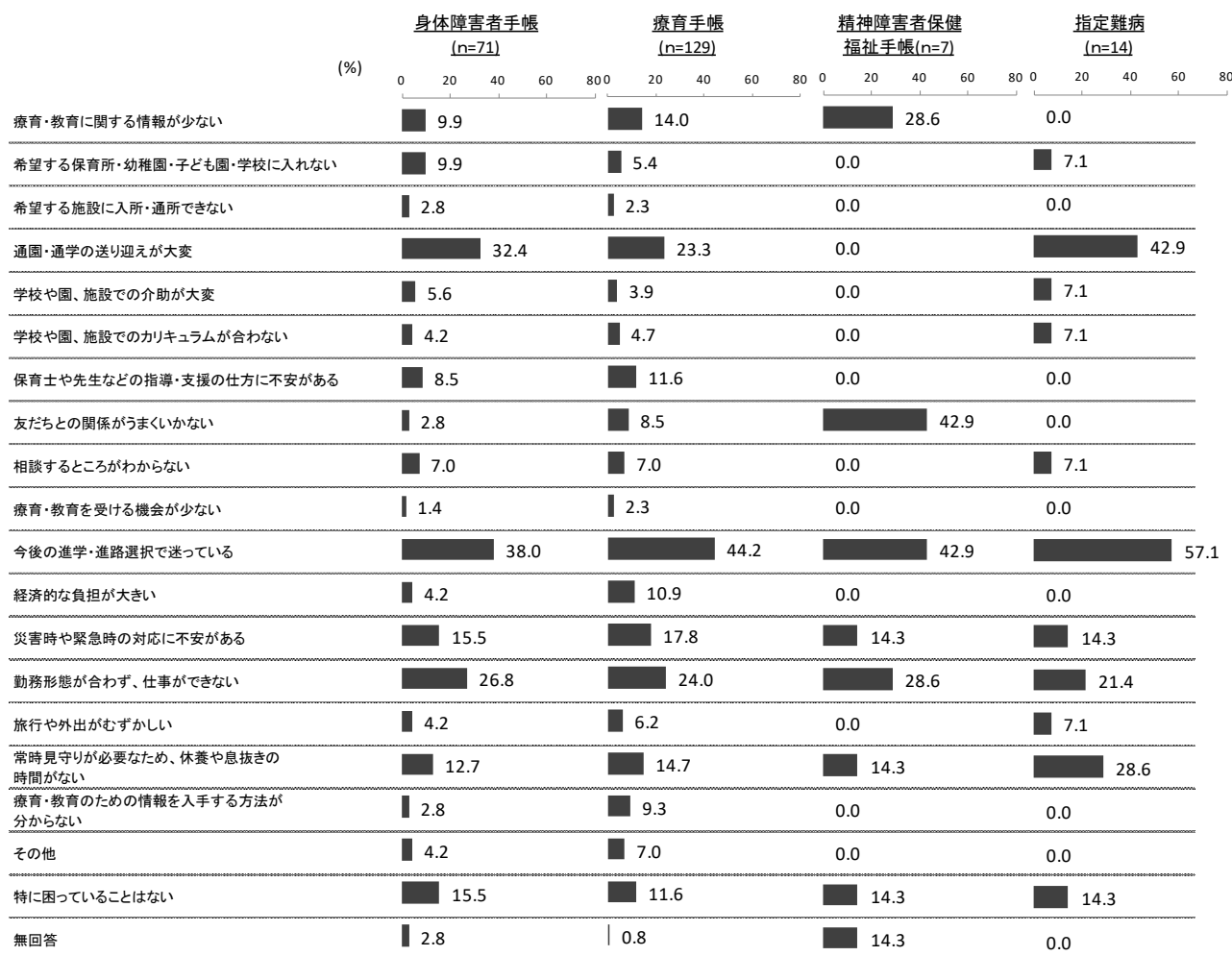
※「受診を勧められているが未受診」は件数0のため省略

(2) 療育・教育で困っていること

(あなたが18歳未満の場合に、保護者の方にお聞きします)
 問33 お子様の療育・教育について困っていることはありますか。(〇は3つまで)

手帳の種類に関わらず「今後の進学・進路選択で迷っている」が最も高くなっているほか、精神障害者保健福祉手帳所有者は「友だちとの関係がうまくいかない」もトップ項目となっている。通っている学校・学級別でみると、いずれも「今後の進学・進路選択で迷っている」がトップ。発達障がい診断の有無別でみると、「受けている」人は「療育・教育に関する情報が少ない」が21.2%と他と比べて高い。居住区別でみると、清水区では「療育・教育に関する情報が少ない」が58.3%と他と比べて高くなっている。

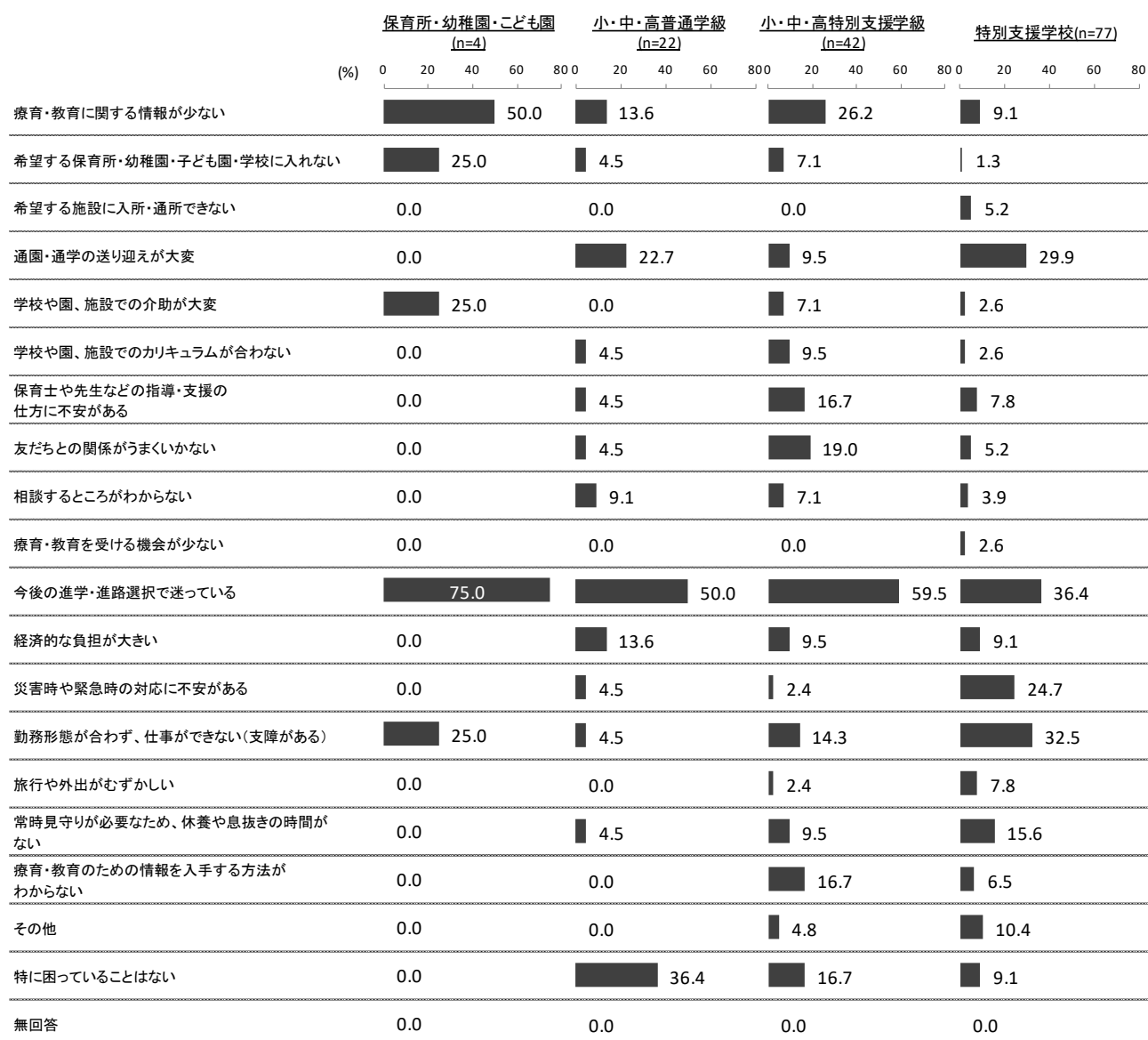
※「精神障害者保健福祉手帳所有者」「指定難病」についてはサンプル数が少ないため注意。



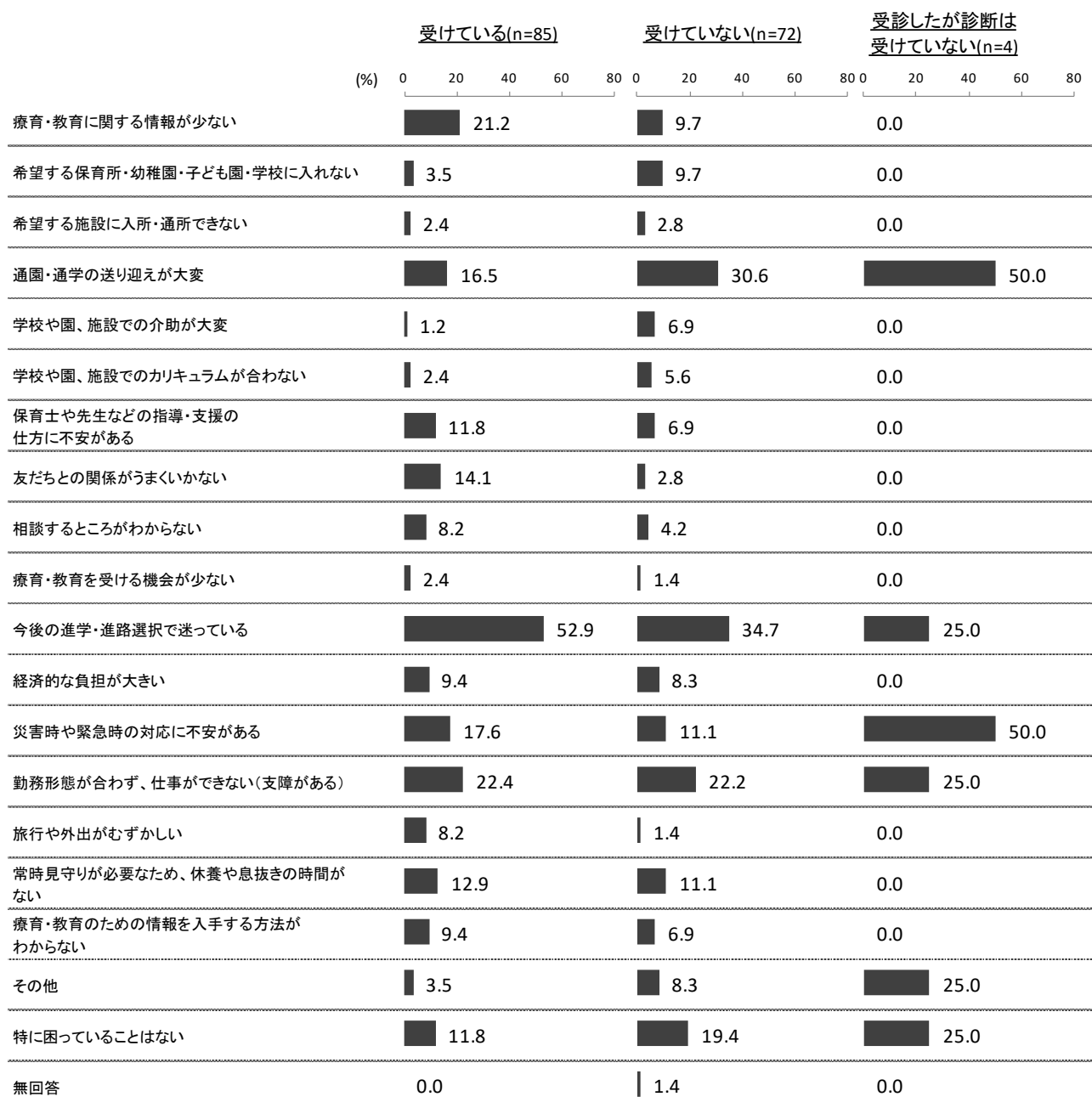
(その他)

コロナによりはっきりしません/手話通訳の配慮/人と話したくない/発達障害だけで高校入学が大変/見守りが必要だが、休養や息抜きの時間がないわけではない/就職について困っている/支援級と普通クラスの交流が全くない。全ての学校可能であれば、積極的に授業例えば体育や音楽等交流をもらいたい。学校によってちがうのはなぜ?地域における共生を目指しているのでは?/医ケアがあるので年度が変わるたび4、5月と毎日学校での付き添いがあり、負担になっている/学校が遠い。通学バス(高校)がなくなると自力登校が困難なため、親の送迎が必要となり仕事をやめざるをえなくなる/健康状態が悪化している/家での過ごし方、あそび方

<通っている学校・学級別>

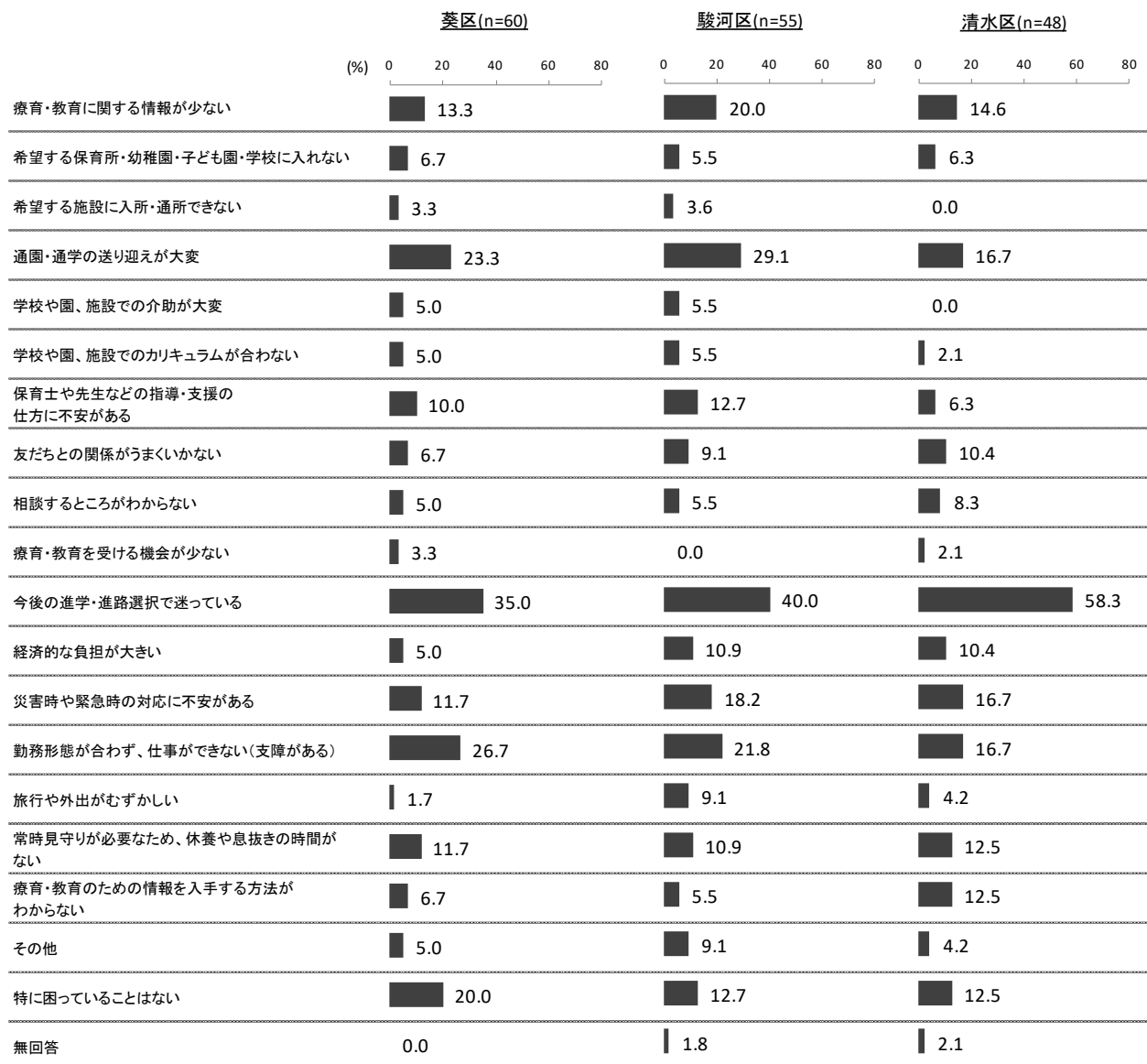


<発達障がいの診断有無別>



※「受診を勧められているが未受診」は件数0のため省略

<居住区別>



※「その他」は件数0のため省略

<経年変化>

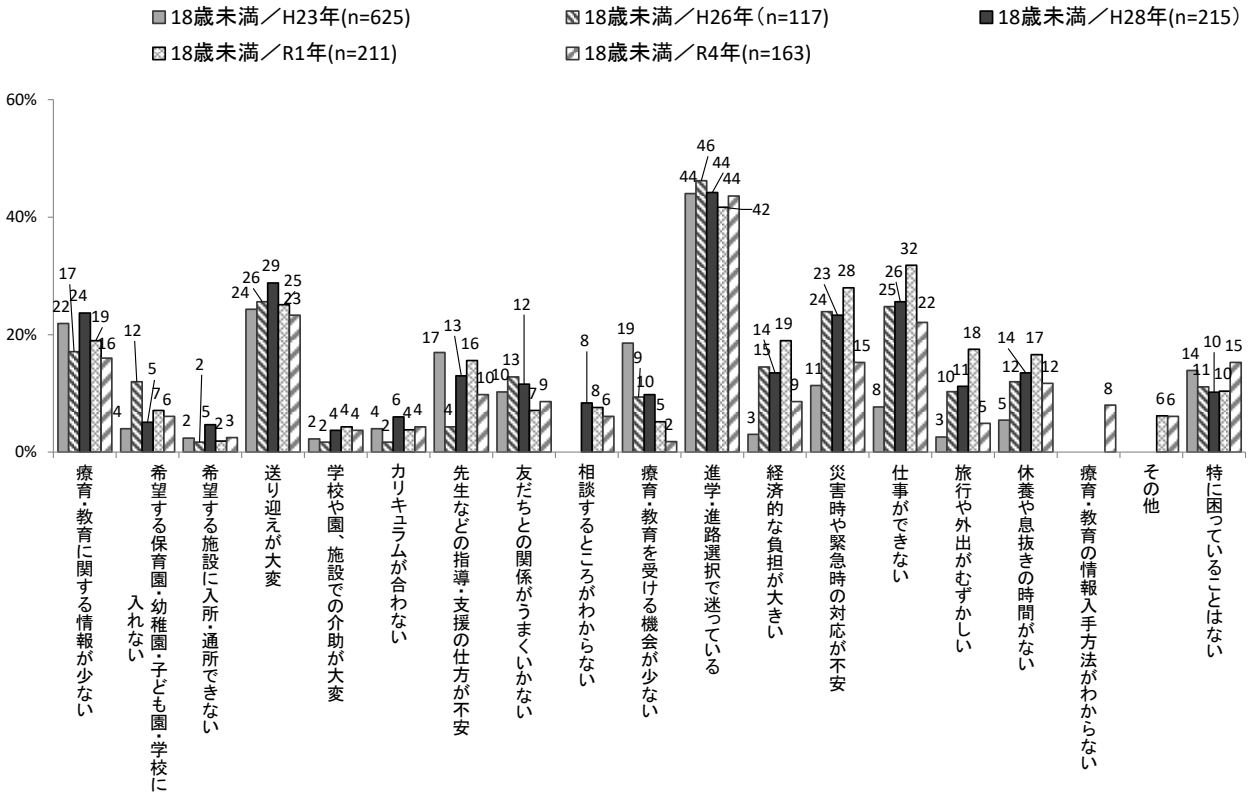
過去の調査結果と同様に、「進学・進路選択で迷っている」が最も高くなっている。

※平成23年・平成26年の調査では「相談するところがわからない」は選択肢にない。

※令和元年以前の調査では「療育・教育の情報入手方法がわからない」は選択肢にない。

※平成23年・平成26年・平成28年の調査では「その他」は選択肢にない。

※令和4年調査から回答数の上限を3としているため、全体的な数値の減少が見られる（令和元年以前は回答数の上限は4）。



あああ

8. 雇用・就労について

(1) 就労の有無

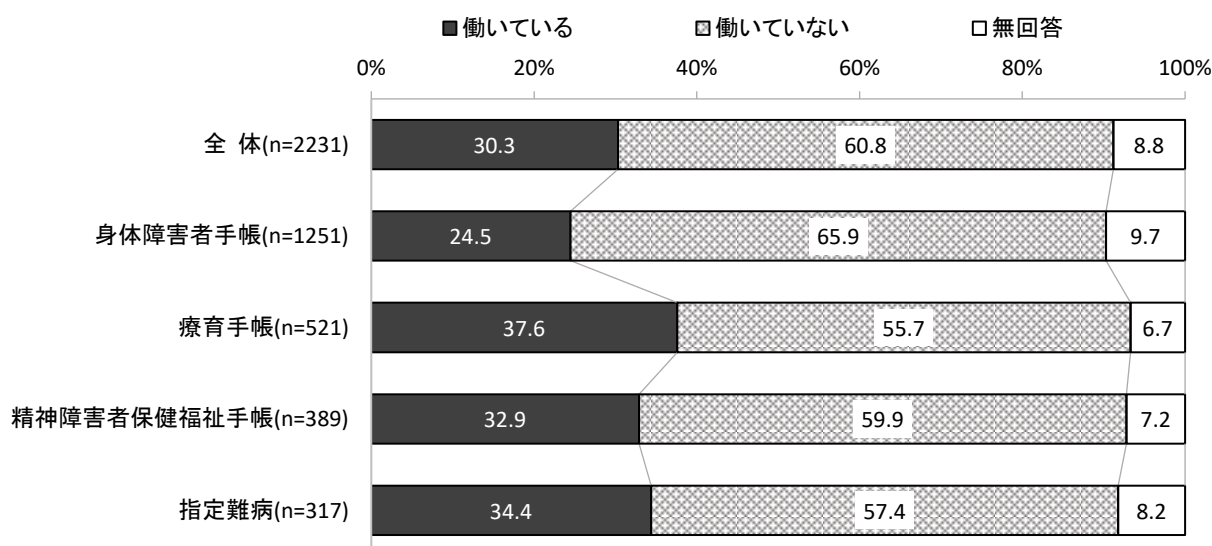
問 34 あなたは現在、働いていますか。通所施設（就労移行支援・就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護事業所など）での就労も含まれます。（○は1つ）

働いている人の割合は、身体障害者手帳所有者は24.5%、療育手帳所有者は37.6%、精神障害者保健福祉手帳所有者は32.9%。指定難病者は34.4%となっている。

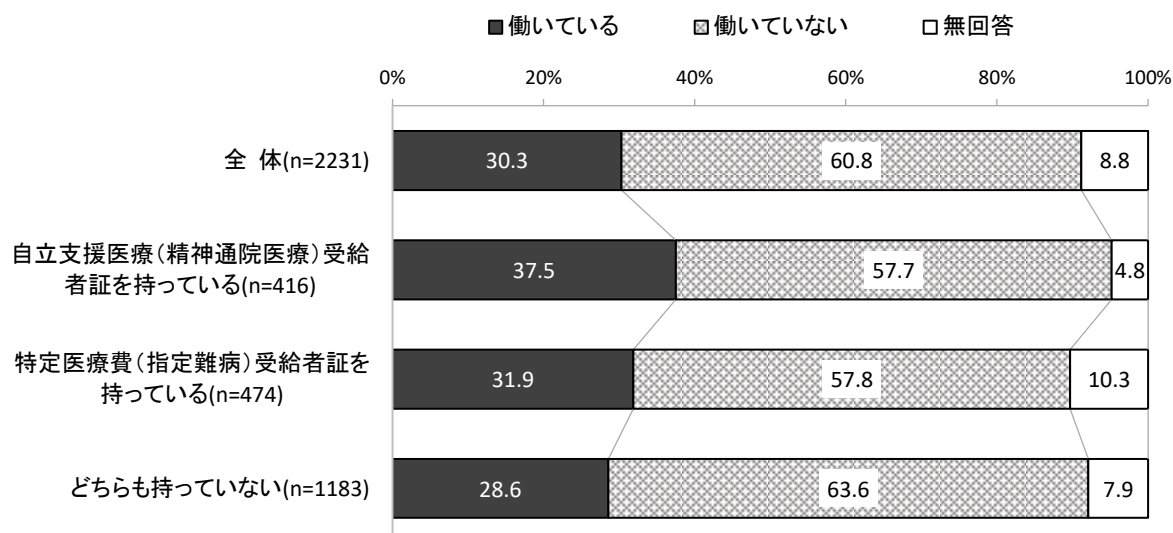
受給者証の有無別でみると、自立支援医療受給者証所有者は37.5%、特定医療費受給者証所有者は31.9%となっている。

高次脳機能障がい診断別でみると、「診断されている」では18.3%。

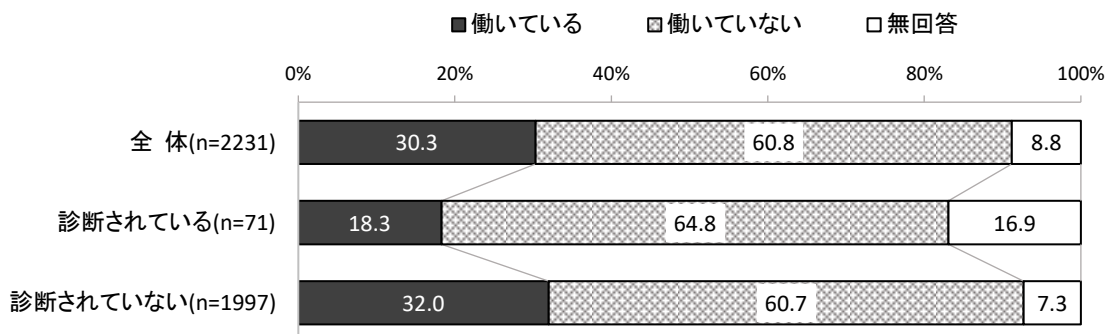
発達障がい診断別でみると、「受けている」では38.8%となっている。



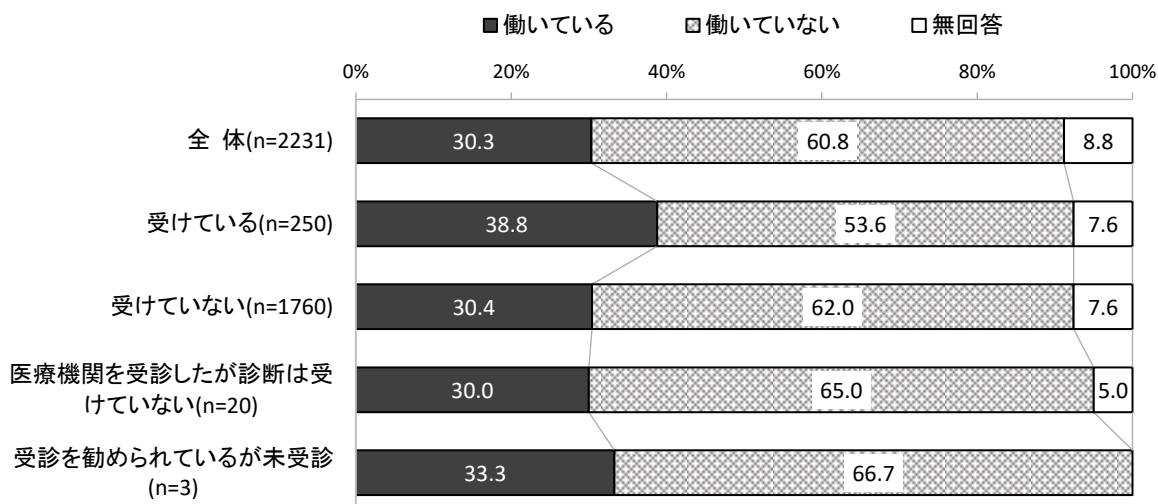
<受給者証有無別>



<高次脳機能障がい診断別>

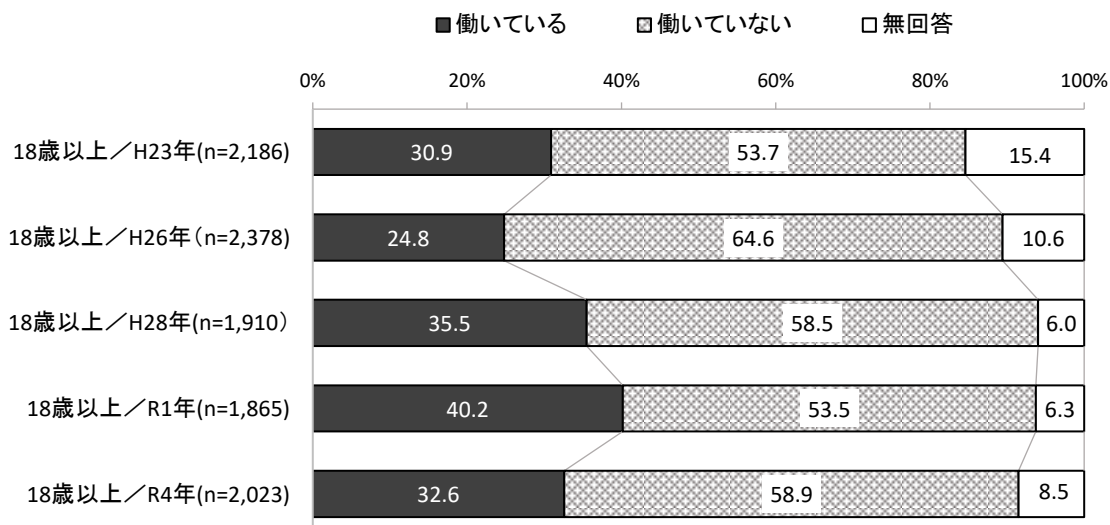


<発達障がい診断別>



<経年変化>

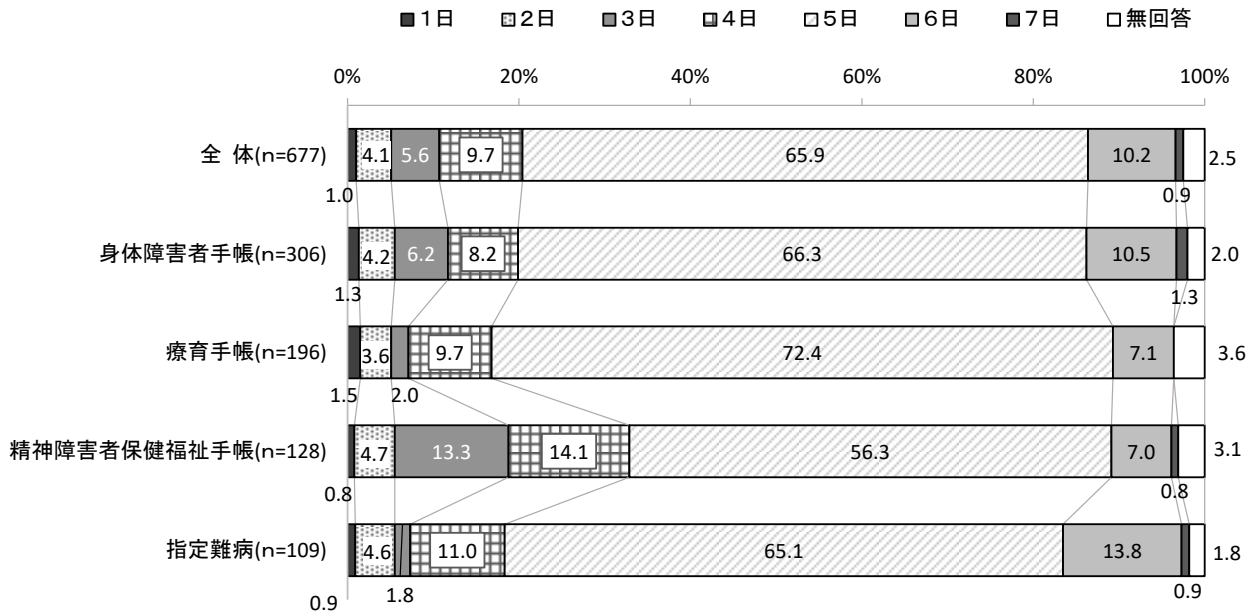
過去の調査結果と比較すると、平成26年から増加傾向だった「働いている」割合は、今回の調査では低くなっている。



(2) 週あたりの就労日数

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
 問 35 週に何日働いていますか。

いずれの手帳所有者、指定難病者ともに、「5日」が5割以上を占めている。次いで高いのは身体障害者手帳所有者と指定難病者では「6日」、療育手帳所有者と精神障害者保健福祉手帳所有者では「4日」となっている。

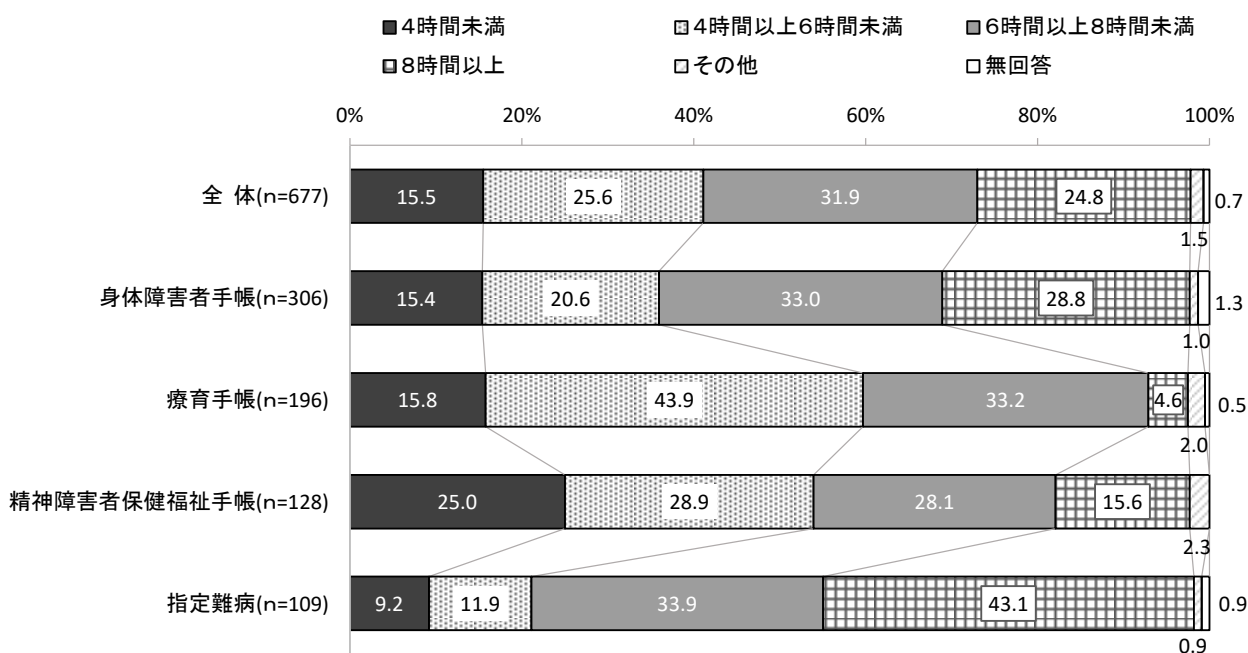


(3) 1日あたりの就労時間

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)

問 36 1日何時間くらい働いていますか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者では「6時間以上8時間未満」が33.0%と最も高い。次いで「8時間以上」が28.8%となっている。療育手帳所有者では「4時間以上6時間未満」が最も高く、次いで「6時間以上8時間未満」となっており、「8時間以上」働いている人は、身体障害者手帳所有者と比べて低い割合となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「4時間未満」が25.0%で他より高くなっており、「4時間以上6時間未満」と「6時間以上8時間未満」も28%台と、均等に近い割合となっている。指定難病者では「8時間以上」が43.1%と高くなってきている。



(その他)

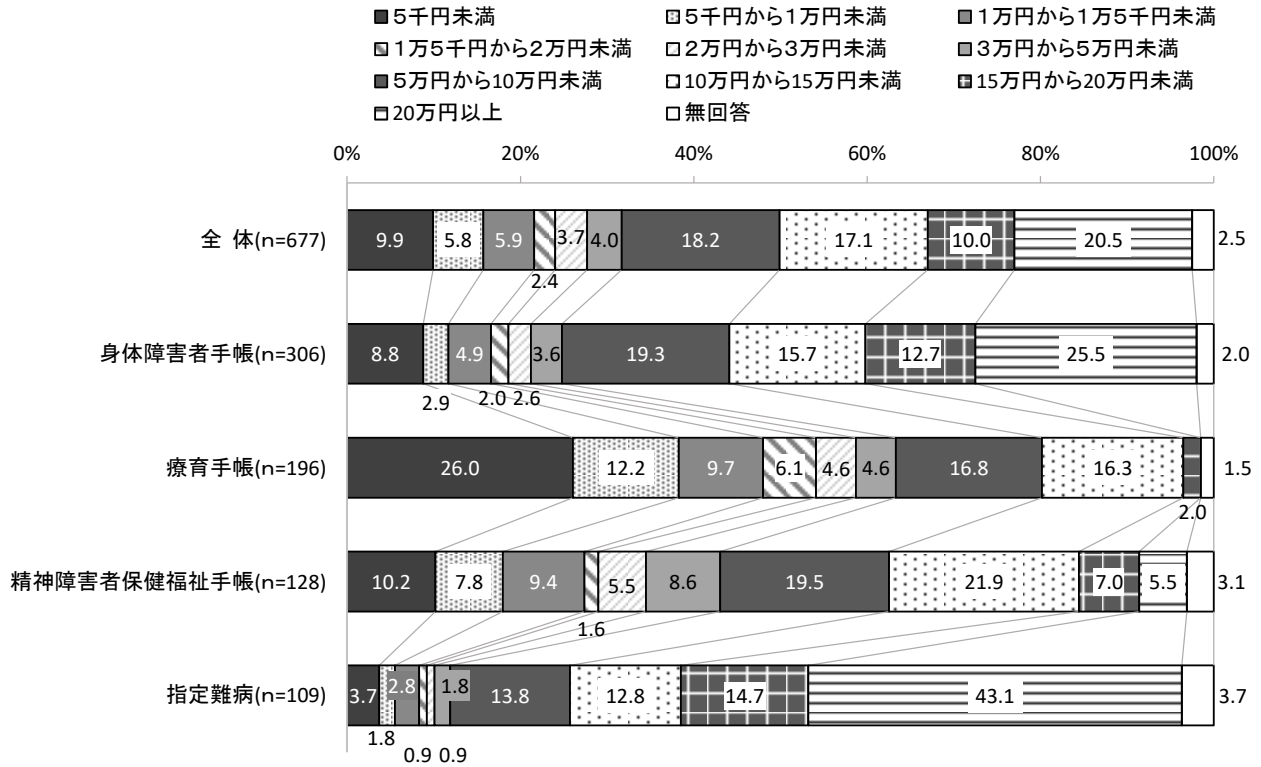
2時間位、多くて3時間/4時間 45分/2時間位/2時/バラバラ/その時で違う/2時間/夫の看病/サービス業のため混雑具合により変化あり

(4) 1か月あたりの平均給与額

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
 問 37 1か月の平均給与・賞金・工賃はどのくらいですか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、指定難病者は、「20 万円以上」が最も高い。療育手帳所有者は1万5千円未満が5割弱を占める。精神障害者保健福祉手帳所有者は、「10 万円から 15 万円未満」が21.9%と最も高く、「5 万円から 10 万円未満」が19.5%と続く。

就労場所別でみると、通所施設においては1万5千円未満が6割を占める。



<就労場所別>

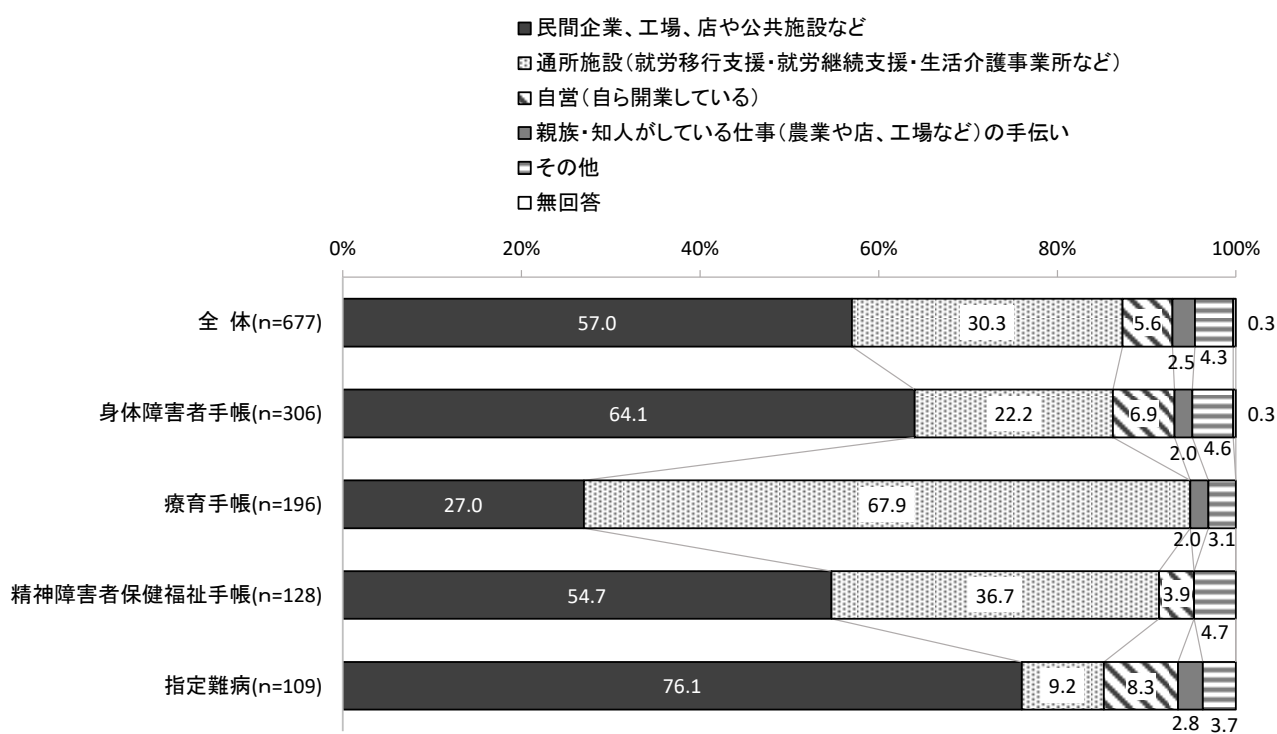
	実数	単位 %、()内 実数										
		5千円未満	5千円から1万円未満	1万5千円未満	1万5千円から2万円未満	2万円未満	2万円から3万円未満	3万円未満	3万円から5万円未満	5万円未満	5万円から10万円未満	10万円以上
全体	(677)	9.9	5.8	5.9	2.4	3.7	4.0	18.2	17.1	10.0	20.5	2.5
民間企業、工場、店や公共施設など	(386)	0.0	1.3	0.8	0.3	0.5	3.1	20.7	25.6	15.5	30.8	1.3
通所施設	(205)	28.8	15.1	17.1	7.3	8.3	4.9	12.7	2.9	0.5	0.5	2.0
自営(自ら開業している)	(38)	13.2	0.0	2.6	0.0	5.3	7.9	7.9	10.5	7.9	31.6	13.2
家族の人がしている仕事(農業や店、工場など)の手伝い	(17)	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	47.1	11.8	11.8	0.0	0.0
その他	(29)	3.4	10.3	3.4	0.0	10.3	0.0	20.7	17.2	6.9	24.1	3.4

(5) 就労場所

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
 問 38 どんなところで働いていますか。(○は1つ)

「民間企業、工場、店や公共施設など」は身体障害者手帳所有者が 64.1%、指定難病者が 76.1%と高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「民間企業、工場、店や公共施設など」が 54.7%、「通所施設」が 36.7%となっている。療育手帳所有者では、「通所施設」が 67.9%と高くなっている。

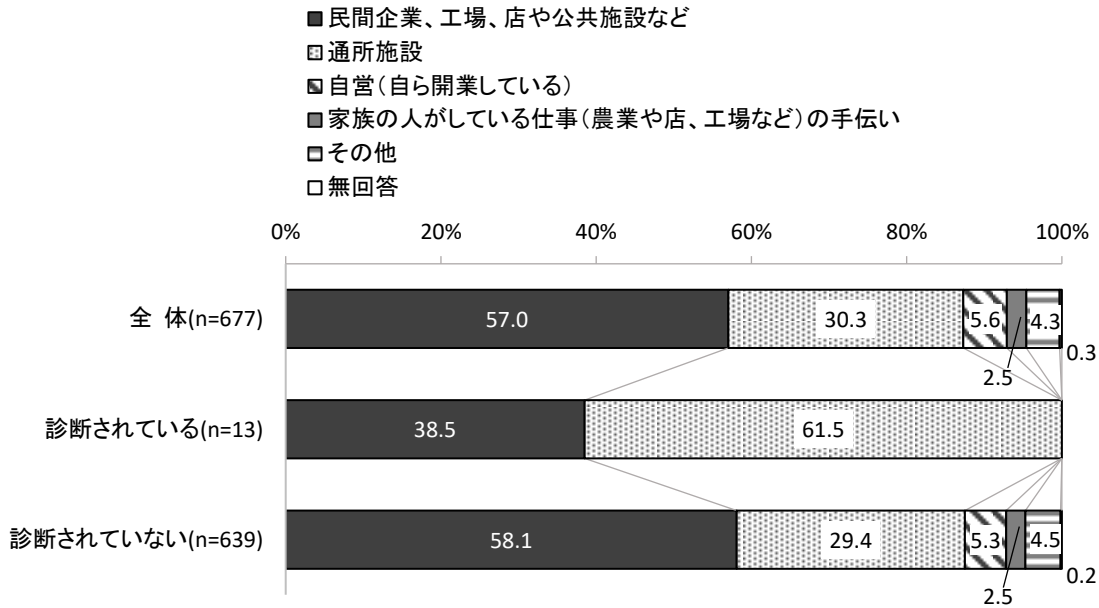
発達障がい診断を「受けている」人は、「通所施設」が 50.5%と高くなっている。



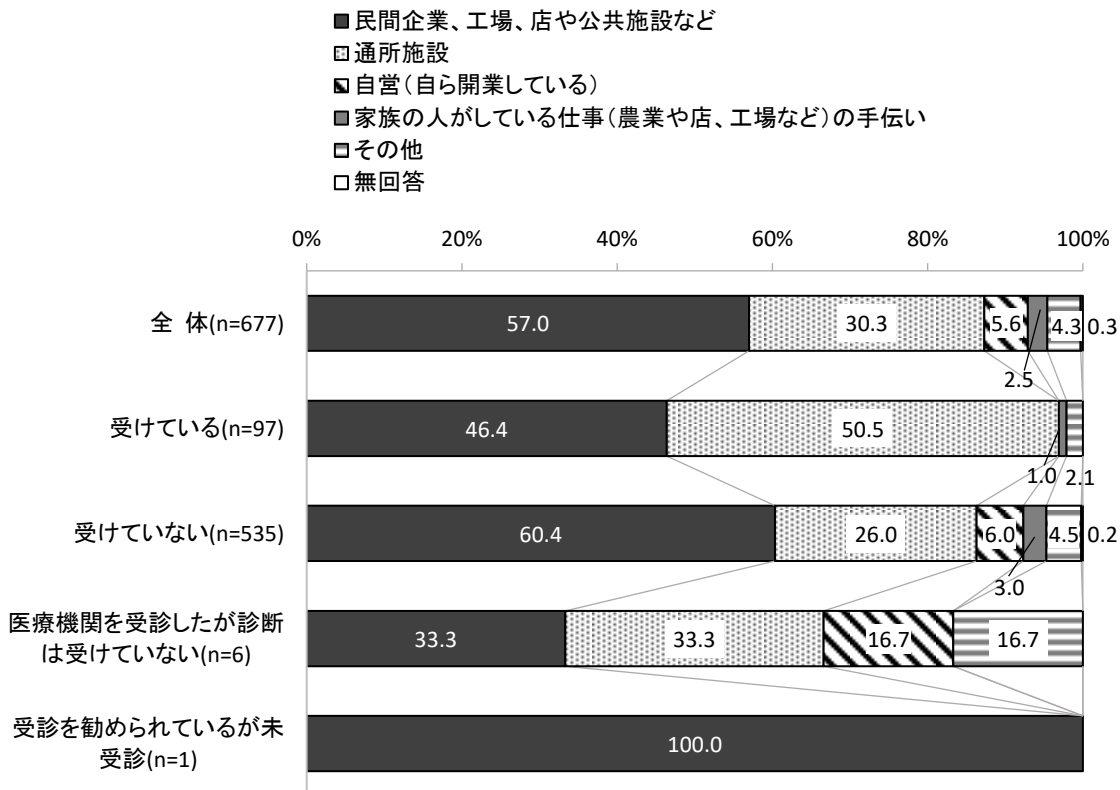
(その他)

●●●●B型/家事手伝い/品出し

<高次脳機能障がい診断別>



<発達障がいの診断有無別>

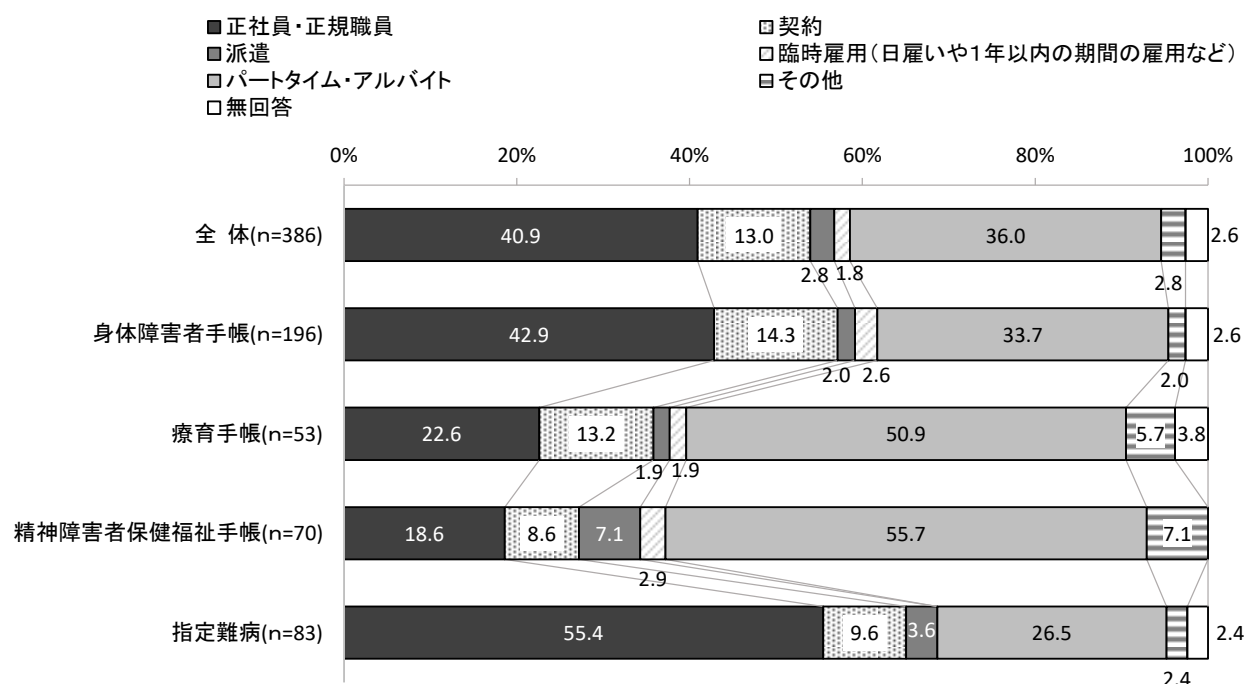


(問 38 で「1 民間企業、工場、店や公共施設など」と答えた方にお伺いします)
付問① どのような雇用形態で働いていますか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者では「正社員・正規職員」が 42.9%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」が 33.7%。療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者は「パートタイム・アルバイト」が 5割、「正社員・正規職員」2割となっている。

高次脳機能障がい診断の有無別では、「診断されている」人は「正社員・正規職員」が 20.0%と低い。

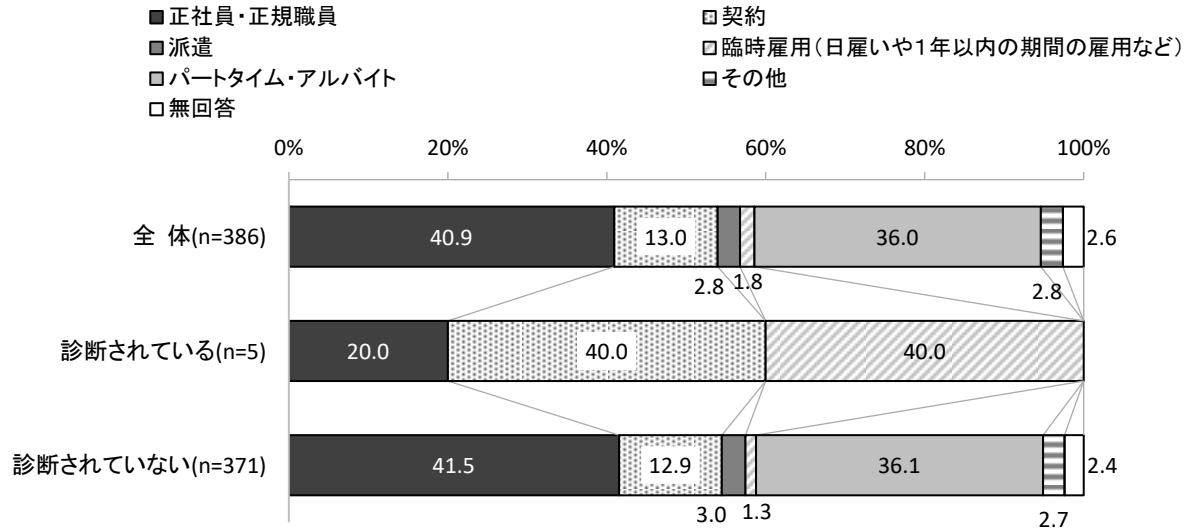
発達障がいの診断の有無別では、「受けている」人は「正社員・正規職員」が 26.7%にとどまる。



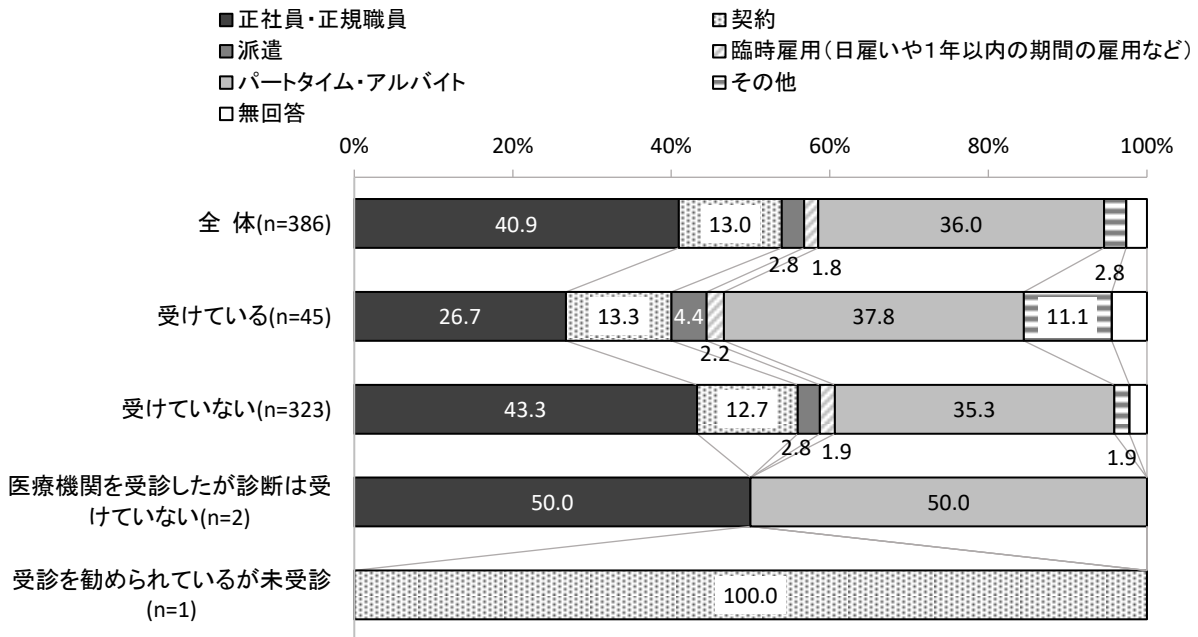
(その他)

B 型(4 件)/障害者雇用(3 件)/自営(2 件)/準社員(2 件)/個人事業/●●●●●/専従者/散歩・手作業による訓練、室内清掃/工賃/内職/電子書籍の執筆/専従者/介護の食事介助とシーツ交換と清掃(老人ホーム)/内職/ステップアップのための職場/うけおい/無期雇用/教員(非常勤講師)/就労継続 B 型(時給)/通所/●/非常勤講師/通所施設/パートタイムのロング/役員/無職/福祉サービス

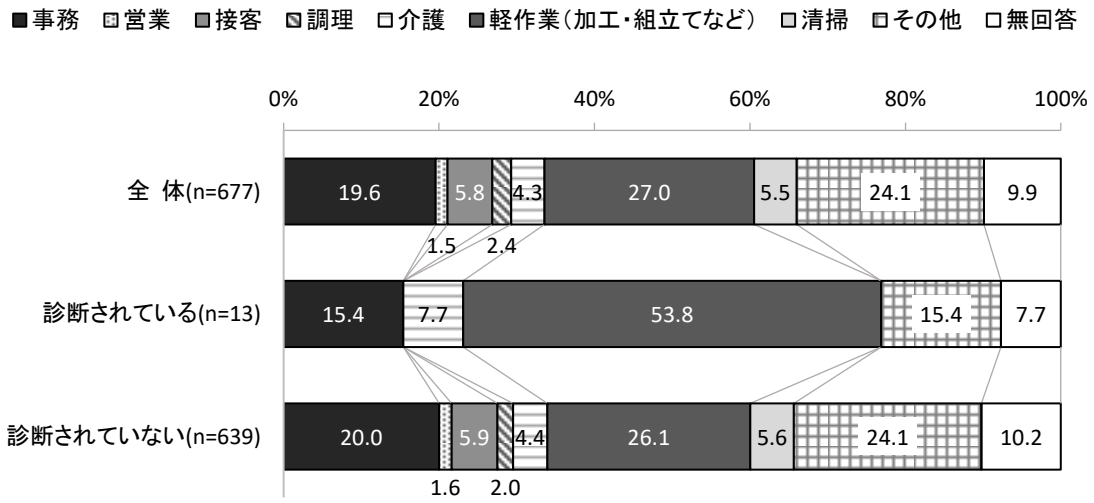
<高次脳機能障がい診断別>



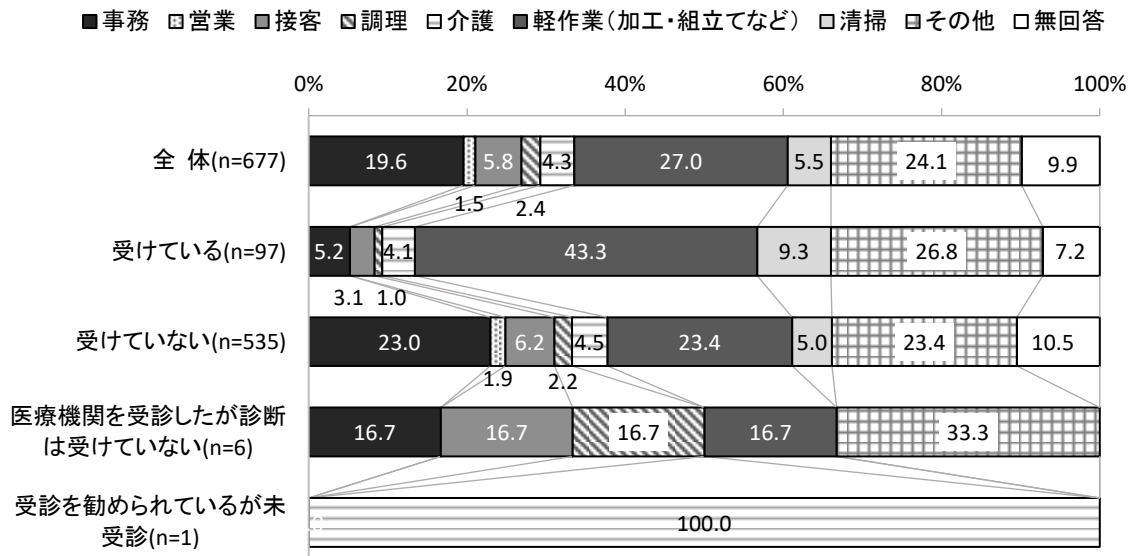
<発達障がいの診断有無別>



< 高次脳機能障がい診断別 >



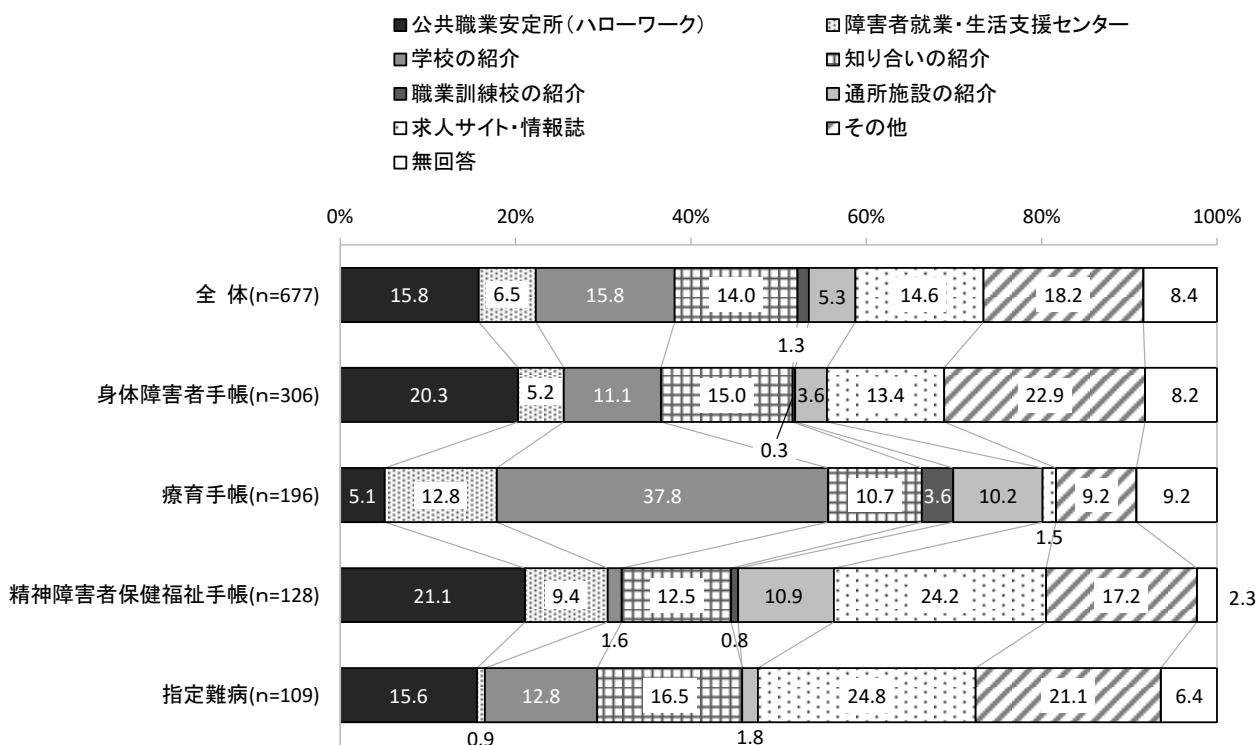
< 発達障がいの診断有無別 >



(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
 付問③ 今の仕事は、どのような方法で見つめましたか。(○は1つ)

「その他」を除くと、身体障害者手帳所有者は「公共職業安定所（ハローワーク）」が最も高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者療育手帳所有者は「求人サイト・情報誌」が24%と高い。

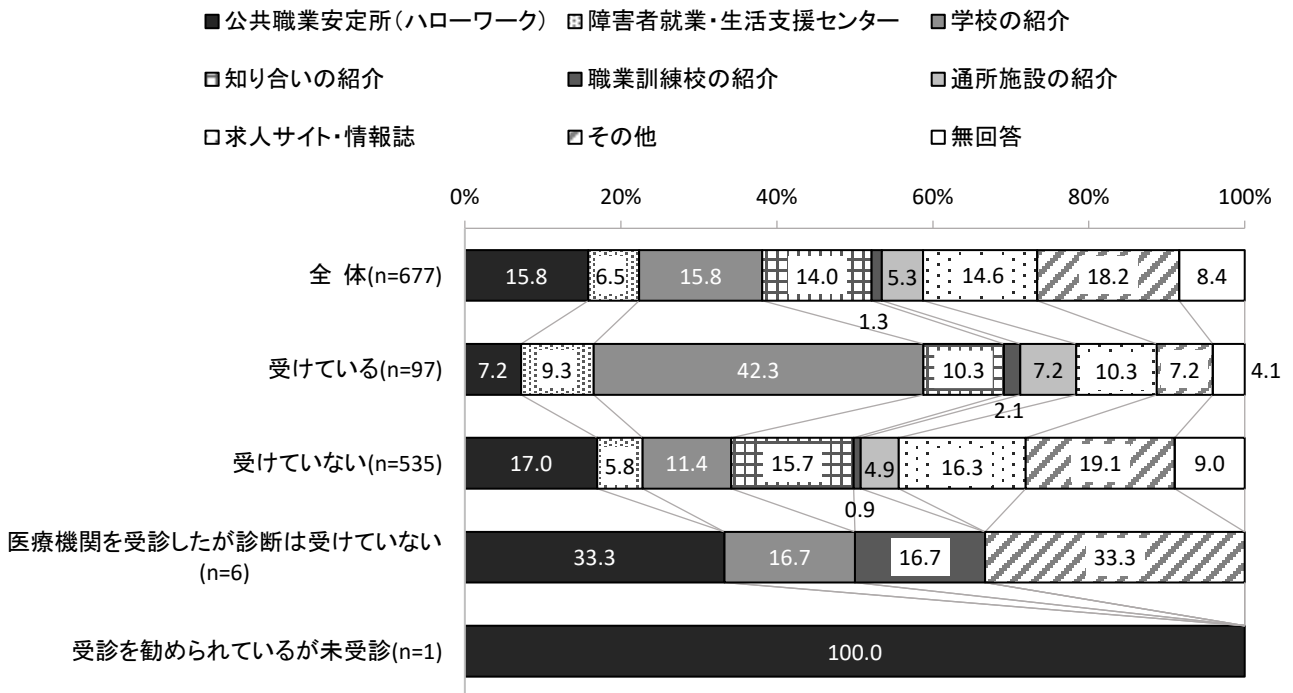
発達障がいの診断有無別でみると、「受けている」人は「学校の紹介」が42.3%と高くなっている。



(その他)

元の職場(20件)/相談支援事務所(7件)/インターネットで検索(7件)/家族・親族紹介(7件)/家族の会社(6件)/自営(5件)/自分(4件)/知人紹介(3件)/病院紹介(3件)/就活(3件)/新聞(2件)/相談員(2件)/シルバー人材センター/公務員試験/●●●●●/外に仕事に行かないので家事を手伝っている/チラン/18才で入社、65才まで就労可/薬剤師/●●●●●の下請会社の製造業/●●●●●/派遣元の会社/アルバイトから/生活保護の方から/中途障害ですので最初は普通の就職活動/新卒入社後パートへ変更/デイケア/店頭告知/社会福祉人材センター/指定特定相談支援事業所の紹介

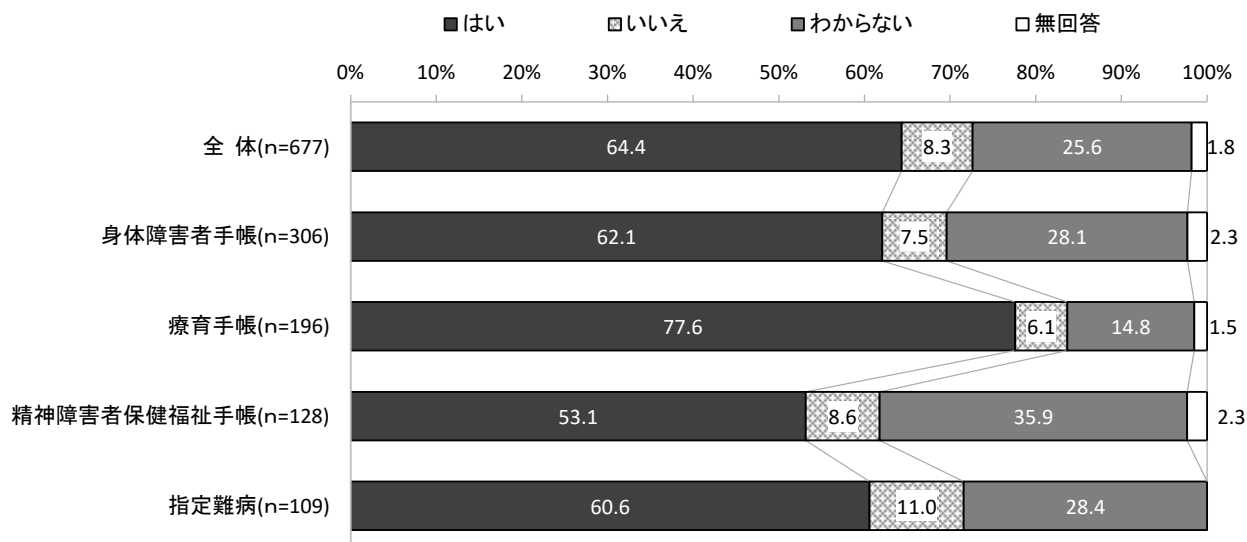
<発達障がい診断の有無別>



(6) 就労先の合致度

問 39 あなたは、今の職場・働き方が自分に合っていると思いますか。(○は1つ)

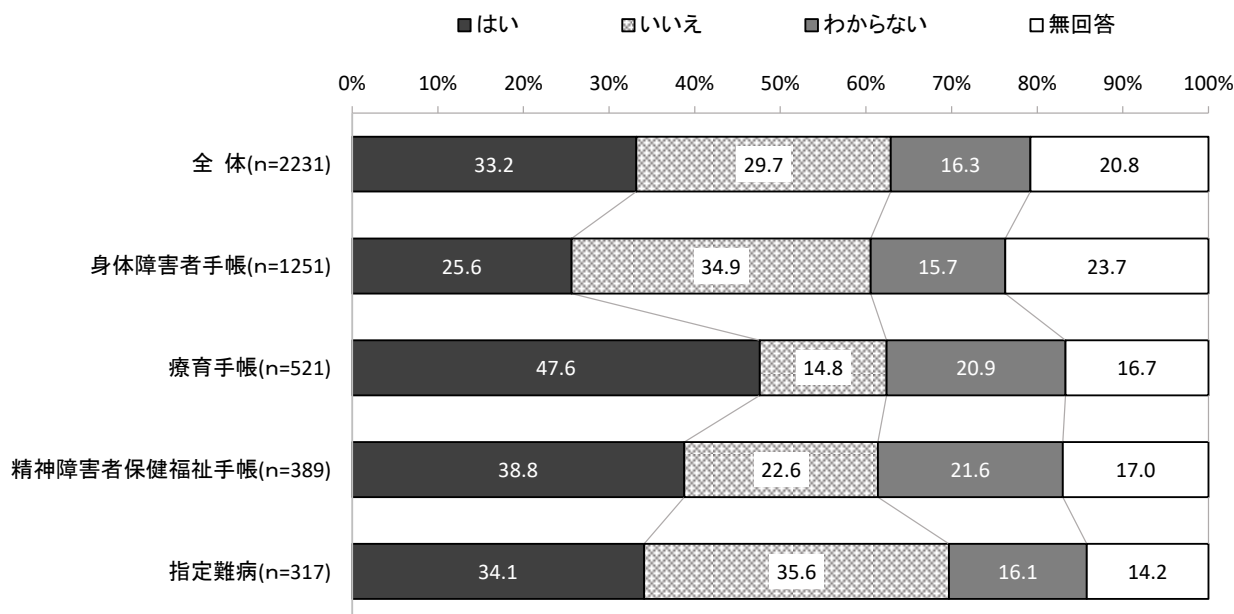
今の職場・働き方が自分に合っていると思う人は、身体障害者手帳所有者で62.1%、療育手帳所有者で77.6%、精神障害者保健福祉手帳所有者で53.1%、指定難病者で60.6%となっている。



(7) 今後の就労意向

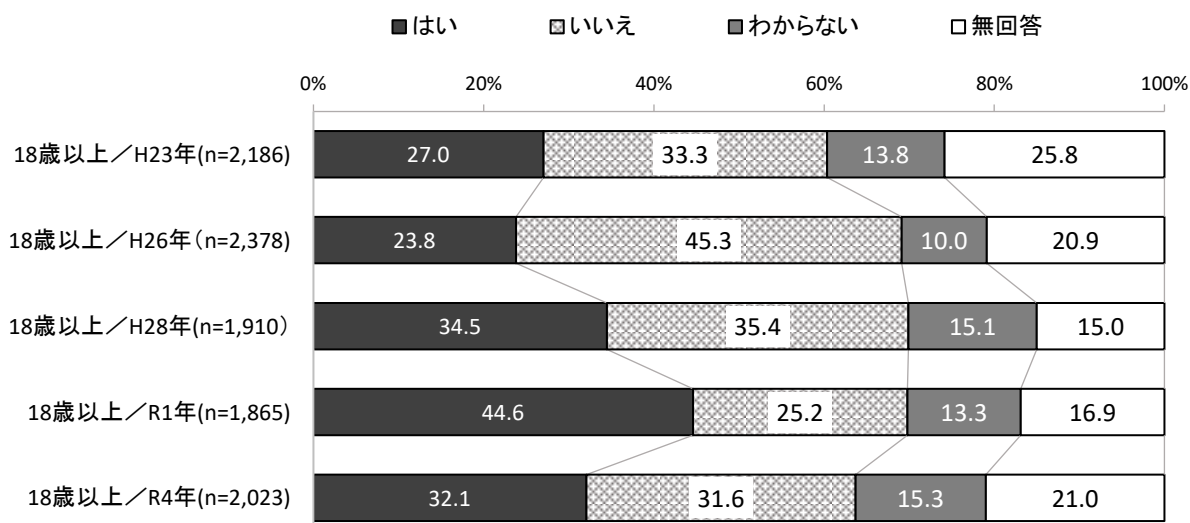
問 40 今後又は引き続き、働きたいと思えますか。(○は1つ)

引き続き就労を希望する人は、身体障害者手帳所有者で 25.6%、療育手帳所有者で 47.6%、精神障害者保健福祉手帳所有者で 38.8%、指定難病者で 34.1%となっている。



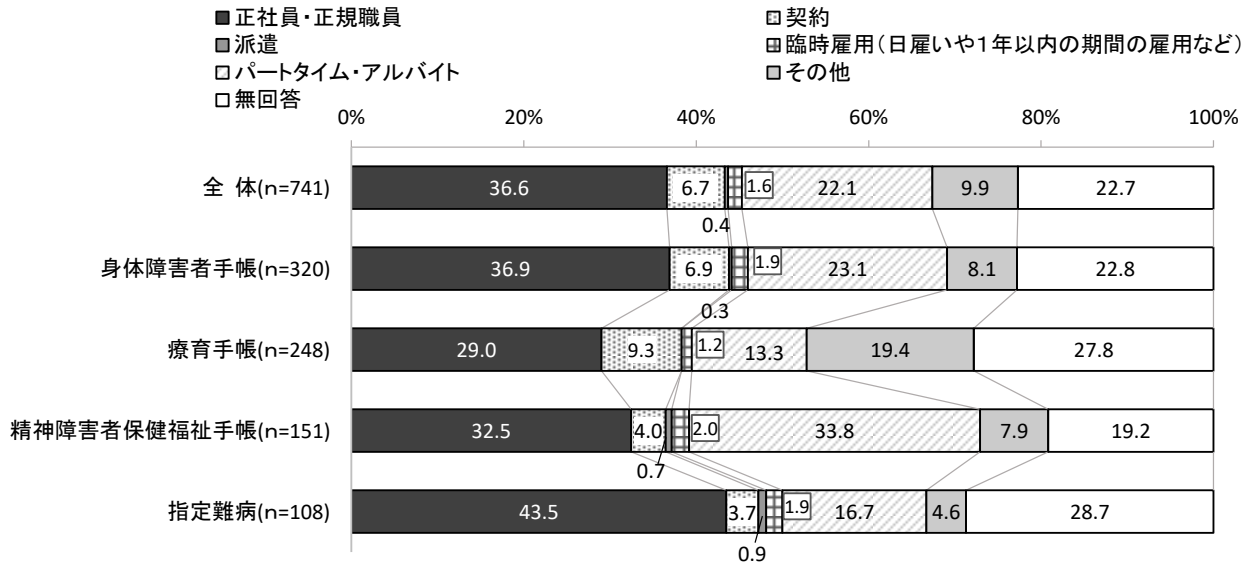
<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、引き続き就労を希望する人の割合は、前回まで増加傾向だったが、今回の調査で 32.1%に減少している。



(問 40 で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
 付問① 今後どのような雇用形態で働きたいですか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者では「正社員・正規職員」が最も高く、3～4割を占めている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「パートタイム・アルバイト」がわずかに「正社員・正規職員」を上回っている。



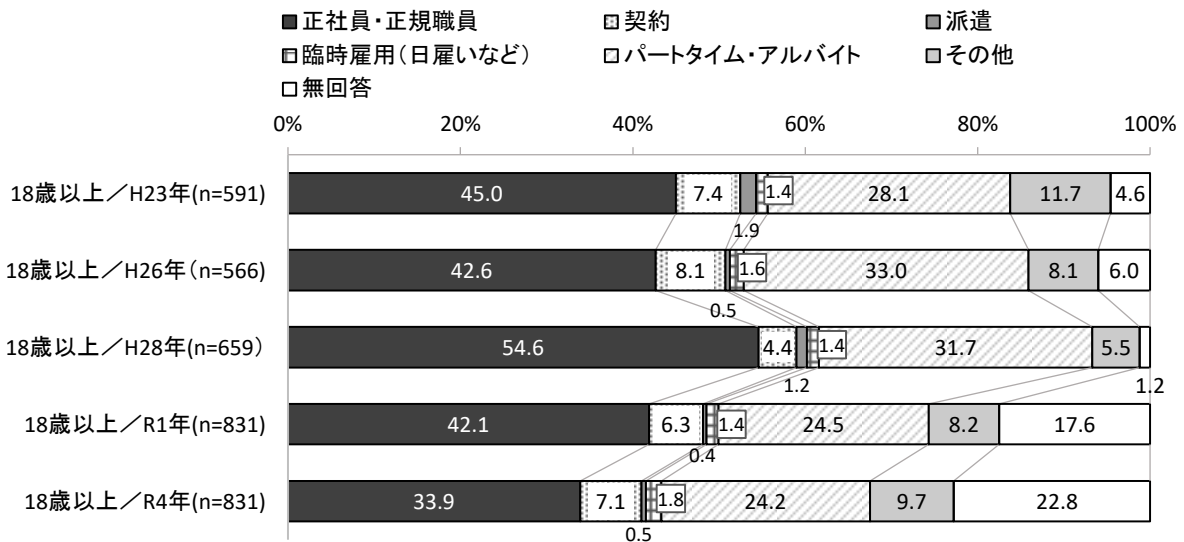
(その他)

現状のまま(8件)/就労継続支援 B 型事業所(5件)/個人事業主(3件)/内職(3件)/福祉サービスの利用(2件)/生活介護(2件)/就労継続支援A型/使ってくれないから仕方がない/体に負担がなく理解してもらえる所/はっきりしていません/仕事を続ける自信がない/フリーランス/雇用されない自分で仕事を開拓する働き方/自宅で作家生活/必要ない/仕事が出来ない/65才以上のため/たのまれた時など/通所・入所/75才/2時間働いている/準社員/福祉就労/短時間週3日くらいで/慣れるまでパート、アルバイト。慣れたら、正社員になったら

<経年変化>

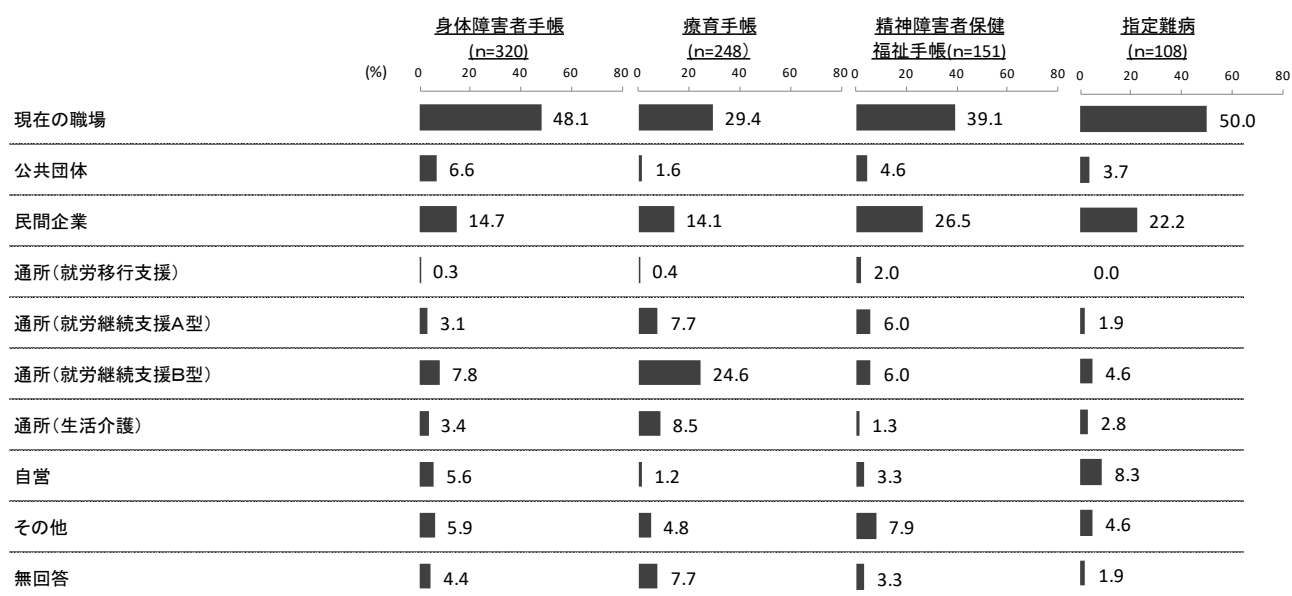
いずれの年も「正社員・正規職員」が最も高く、「パート・アルバイト」が続く。

※平成 28 年調査までは「正社員・正規職員」を「正規雇用」、「契約」を「契約・嘱託」としていた。



(問 40 で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
付問② 今後、どのようなところで働きたいですか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「現在の職場」が最も高く、3～5割を占めている。療育手帳所有者では「通所（就労継続支援B型）」も高い。

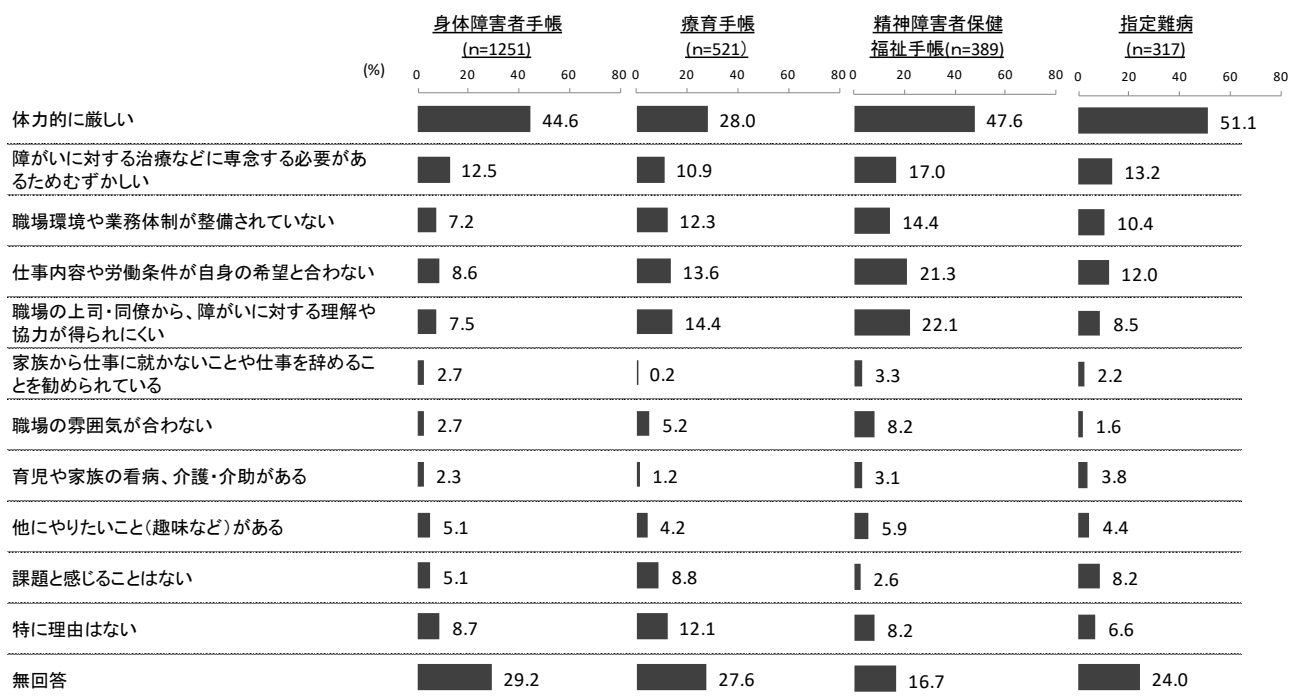


(その他)

自宅、在宅(4件)/内職(3件)/どこでも(3件)/わからない(2件)/働くことができない(2件)/昼間は透析のため、夜間の仕事をさがしている/学校に通っている/一般就職/障害に理解がある。一人親に理解がある/年がくるといや/他機関へ移籍予定/家事手伝い/良い環境の会社があれば転職したい/短時間のところ/縁があったところ/自給自足や株NISA等、写真やアートをネット販売、自分のスキルを売る/生活介護●●●/必要ない/体力的負担の少ない所/障害に理解のある公共団体又は民間企業/土木/独立/デイサービス/症状により通所から働き良くなったら民間企業で働きたい

付問③ 今後、働くことを考えた時に、課題を感じることは何ですか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「体力的に厳しい」が最も高く、3～5割を占めている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「上司・同僚から理解や協力が得られにくい」「仕事内容や労働条件が希望と合わない」も高い。

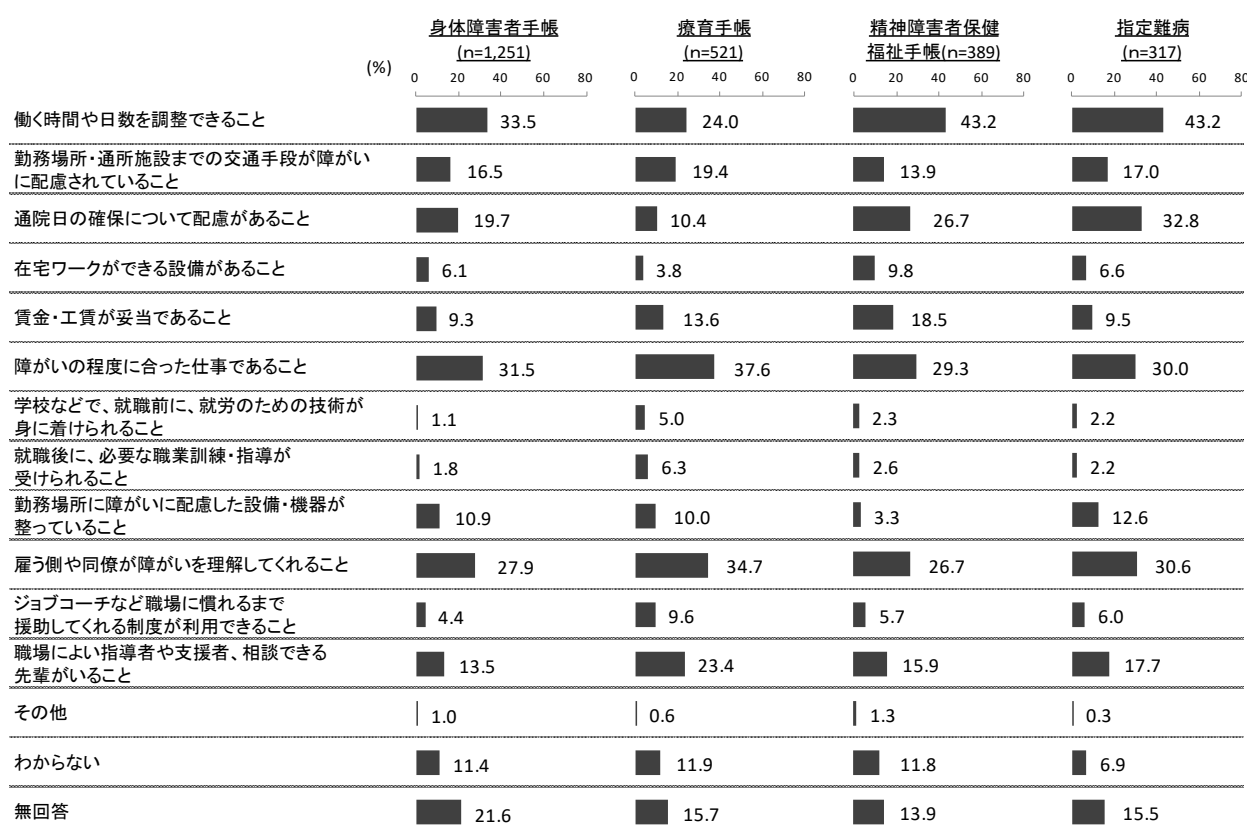


(8) 働くために必要な環境整備

問 41 あなたは、障がいのある人と障がいのない人が一緒に働く為には、主にどのような環境(配慮)が整っていることが大切だと思いますか。(〇は3つまで)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「働く時間や日数を調整できること」が3～4割以上と最も高く、「障がいの程度に合った仕事であること」「雇う側や同僚が障害を理解してくれること」が上位に挙がっている。精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「通院日の確保に配慮がある」も高い。療育手帳所有者では「障がいの程度にあった仕事であること」37.6%、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」34.7%の順。

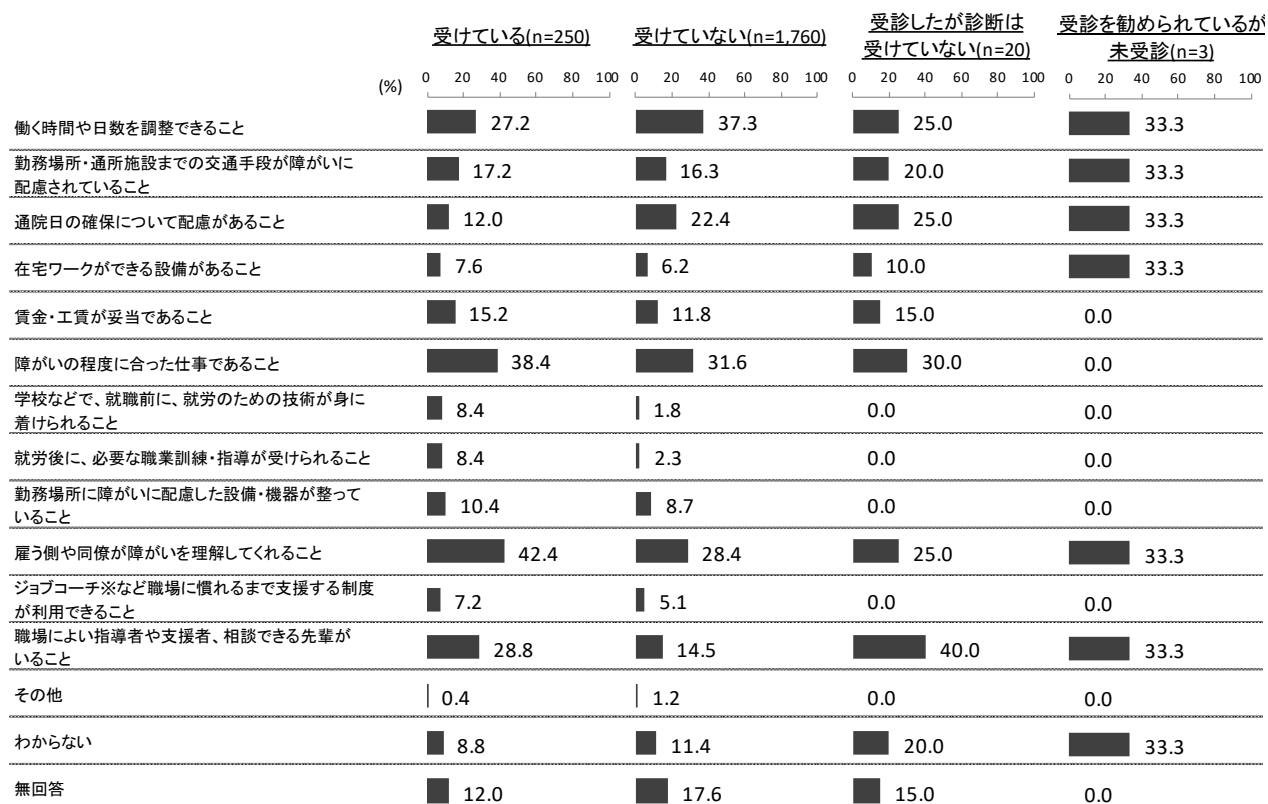
発達障がいの診断を「受けている」人についてみると、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」が42.4%で最も高く、次いで「障がいの程度に合った仕事であること」38.4%。



(その他)

働けない(3件)/全て(2件)/障害がある人ない人、人それぞれ/無理(残業)を前提とした業務量にしない/手話通訳に対する理解、派遣申請を会社がしてくれること/福利厚生を受けられること/障害のない人が差別的に見たり、無視したりしない事。障害の程度がわからないから難しいのですが、必要以上にかかわらない方がいいという態度をとらない方がいいと思う。どちらも心をもっているから/全ての人間に良心と他に対する気配り、気遣いの精神が必要。障害がある者もない者も/障害のあるなしにかかわらず、互いに思い合える環境/障害者本人が当たり前の態度をしない/スキルアップ、昇進、昇給の制度、機会/ジョブコーチの支援を受けたことがあるが、支援の通りにできなかったのでやめたことがある。軽度知的障害と自閉気味の場合、難しかった/体調が悪くなった時、休む場所があること/通院(用)休暇、通勤路に手すりやガードレール、街灯の設置/55才まで厳しい世界で仕事してきて、その後にやっと障害者認定となった。65才の今年年退職者でもある

<発達障がいの診断有無別>

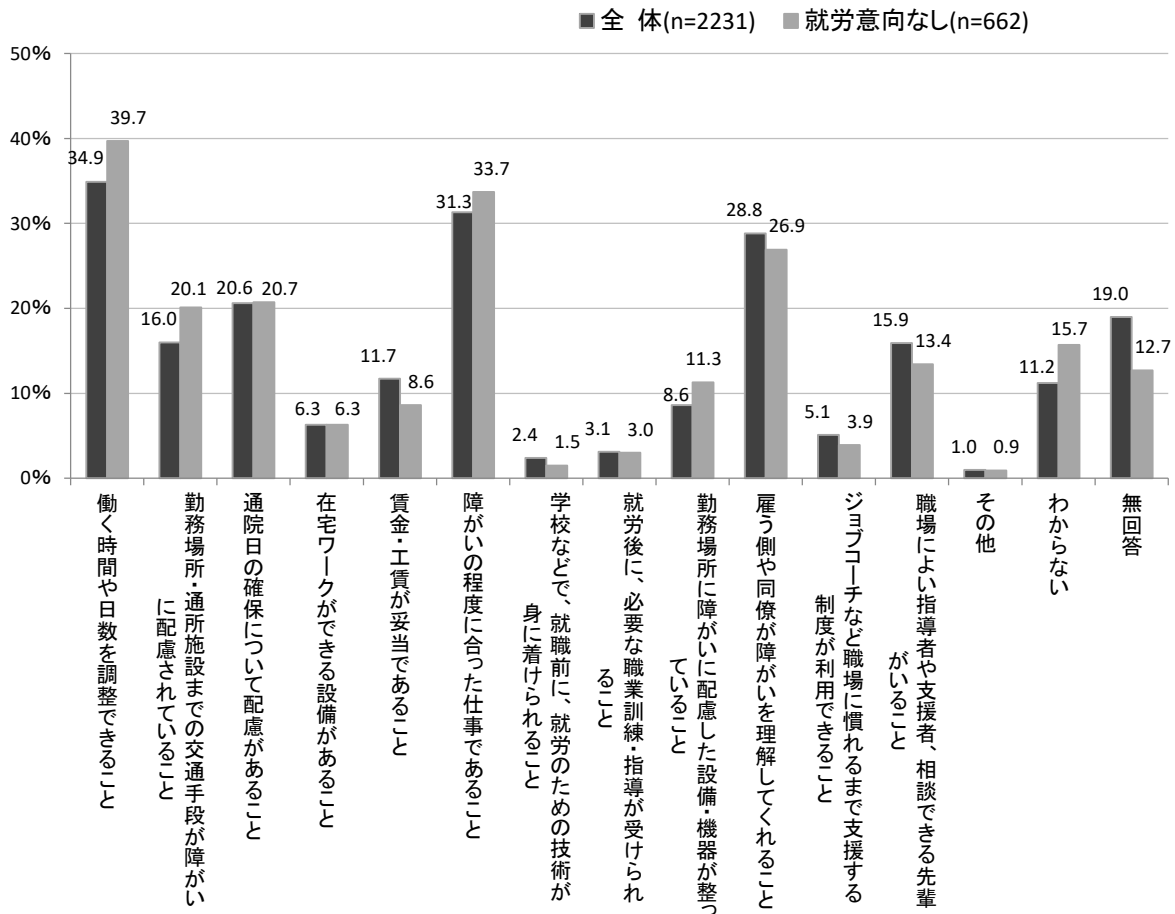


<今後の就労意向の有無別>

就労意向がない人では、就労意向がある人と比較して「通勤・通所の交通手段が障がい配慮されていること」の希望が高くなっている。全体的な傾向としては、就労意向がある人と就労意向のない人とで大きな差はない。

単位 %、()内実数

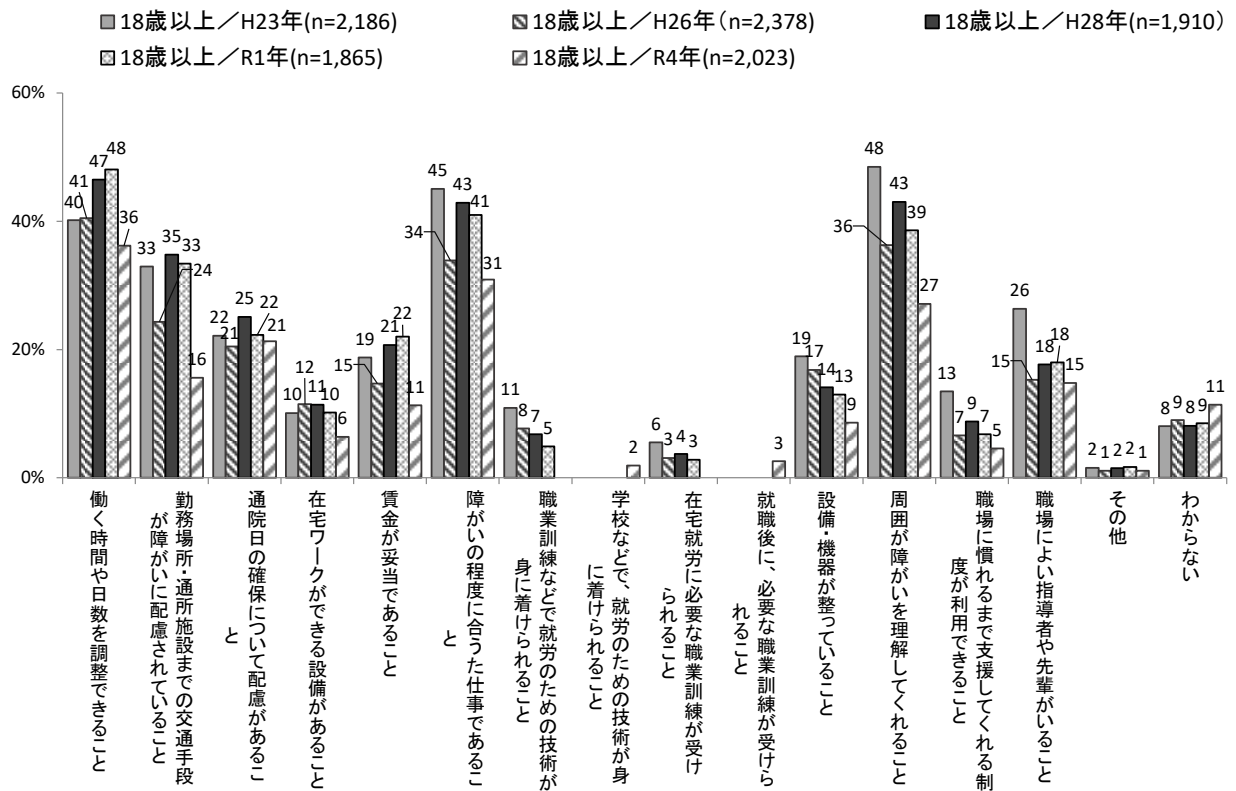
	働く時間や日数を調整できること	勤務場所・通所施設までの交通手段が障がい配慮されていること	通勤日の確保について配慮があること	在宅ワークができる設備があること	賃金・工賃が妥当であること	障がいの程度に合った仕事であること	学校などで、就職前に、就労のための技術が身に付けられること	就労後に、必要な職業訓練・指導が受けられること	勤務場所に障がい配慮した設備・機器が整っていること	雇用側や同僚が障がいを理解してくれること	ジョブコーチなど職場に慣れるまで支援する制度が利用できること	職場により指導者や支援者、相談できる先輩がいること	その他	わからない	無回答
全体 (2231)	34.9	16.0	20.6	6.3	11.7	31.3	2.4	3.1	8.6	28.8	5.1	15.9	1.0	11.2	19.0
就労意向あり (741)	40.8	17.5	27.3	6.5	19.4	38.2	5.0	4.7	10.1	41.2	7.0	25.0	1.8	6.6	1.9
就労意向なし (662)	39.7	20.1	20.7	6.3	8.6	33.7	1.5	3.0	11.3	26.9	3.9	13.4	0.9	15.7	12.7
わからない (364)	44.0	17.9	26.6	10.2	13.5	38.7	1.1	2.7	8.8	34.1	5.8	14.3	0.5	14.3	3.6



<経年変化>

過去の調査結果と同様に、「働く時間や日数を調整できること」「障がいの程度に合った仕事であること」「周囲が障がいを理解してくれること」は上位項目となっている。

※令和元年までは「勤務場所・通所施設までの交通手段が障がいに配慮されていること」を「通勤・通所手段があること」、「通院日の確保について配慮があること」を「通院などの保障があること」、「在宅ワークができる設備があること」を「自宅で仕事ができること」、「学校などで、就労のための技術が身につけられること」を「職業訓練などで就労のための技術が身につけられること」、「職場に慣れるまで支援する制度が利用できること」を「職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」としていた。
 ※令和元年までは回答数の上限は4までだったが、今回調査では回答数の上限を3としているため、全体的に数値の低下が見られる。

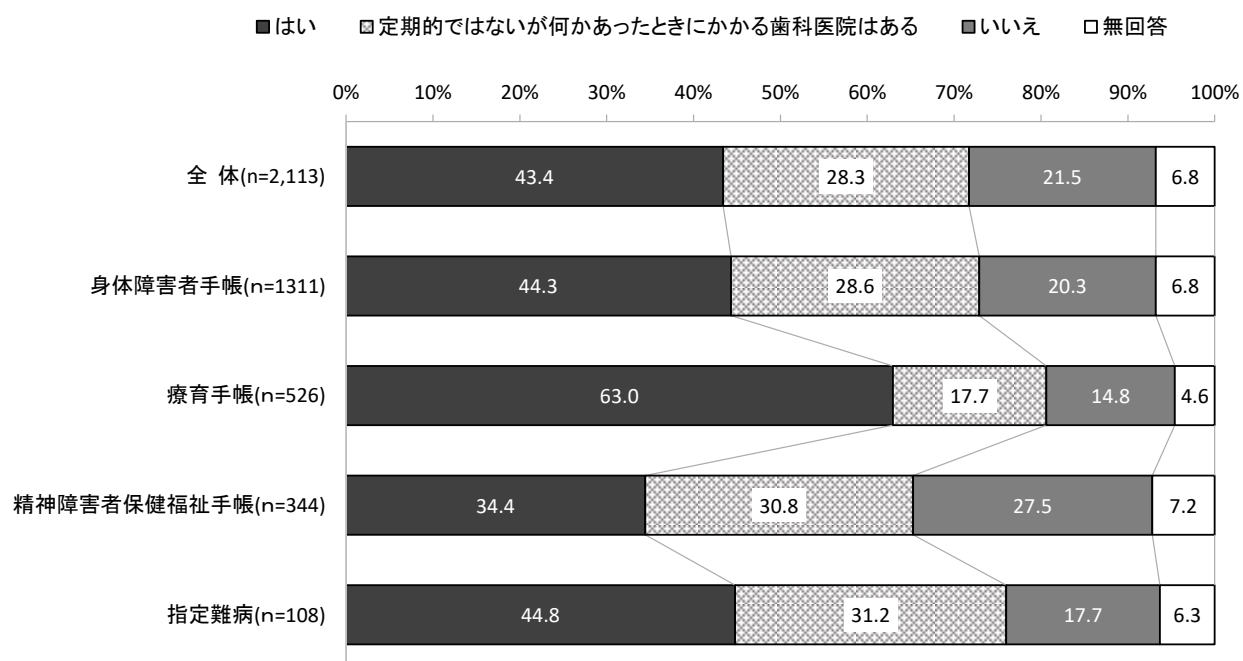


9. かかりつけ歯科医について

(1) かかりつけ歯科への受診

問 42 かかりつけ歯科医を持ち歯と口を大切にすることは健康な生活を送るために重要です。あなたは、かかりつけ歯科医を定期的に受診していますか。

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも定期的に受診している割合（「はい」）が最も高くなっており、特に療育手帳所有者では63.0%と高くなっている。



10. 権利擁護について

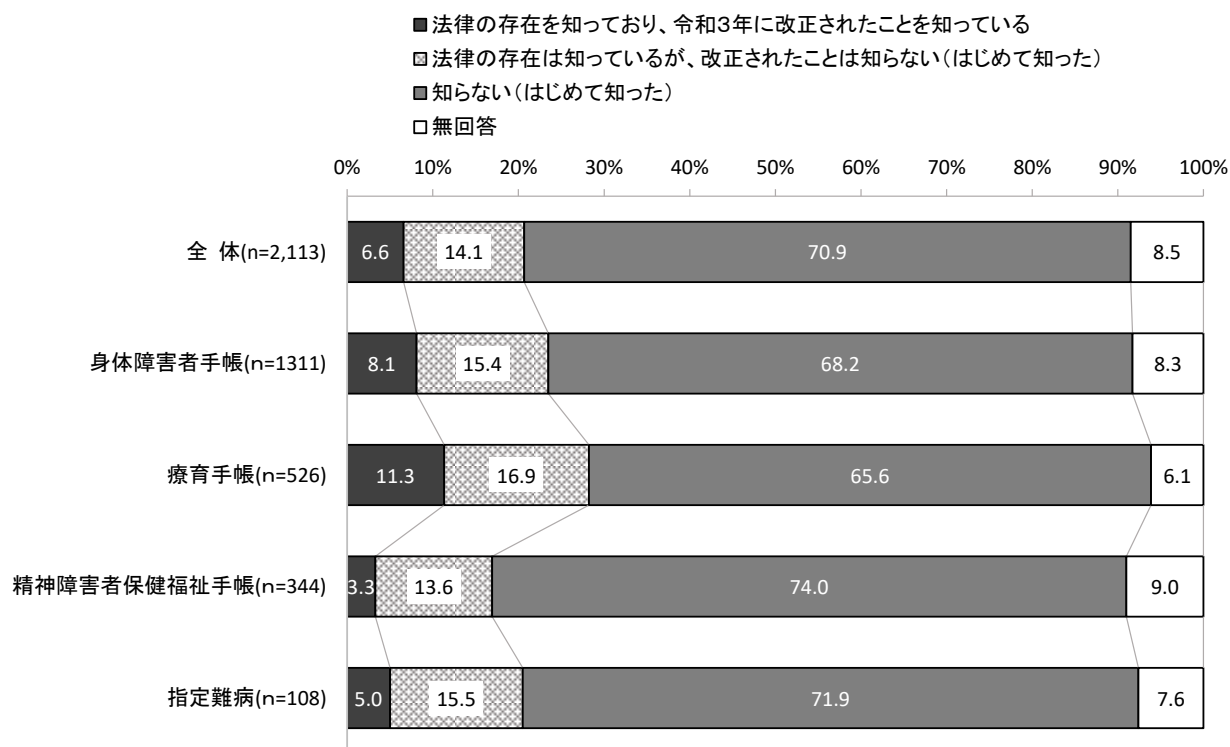
(1) 「障害者差別解消法」の認知状況

問 43 あなたは、平成 28 年4月1日から施行された「障害者差別解消法(42 ページ参照)」を知っていますか。
(○は1つ)

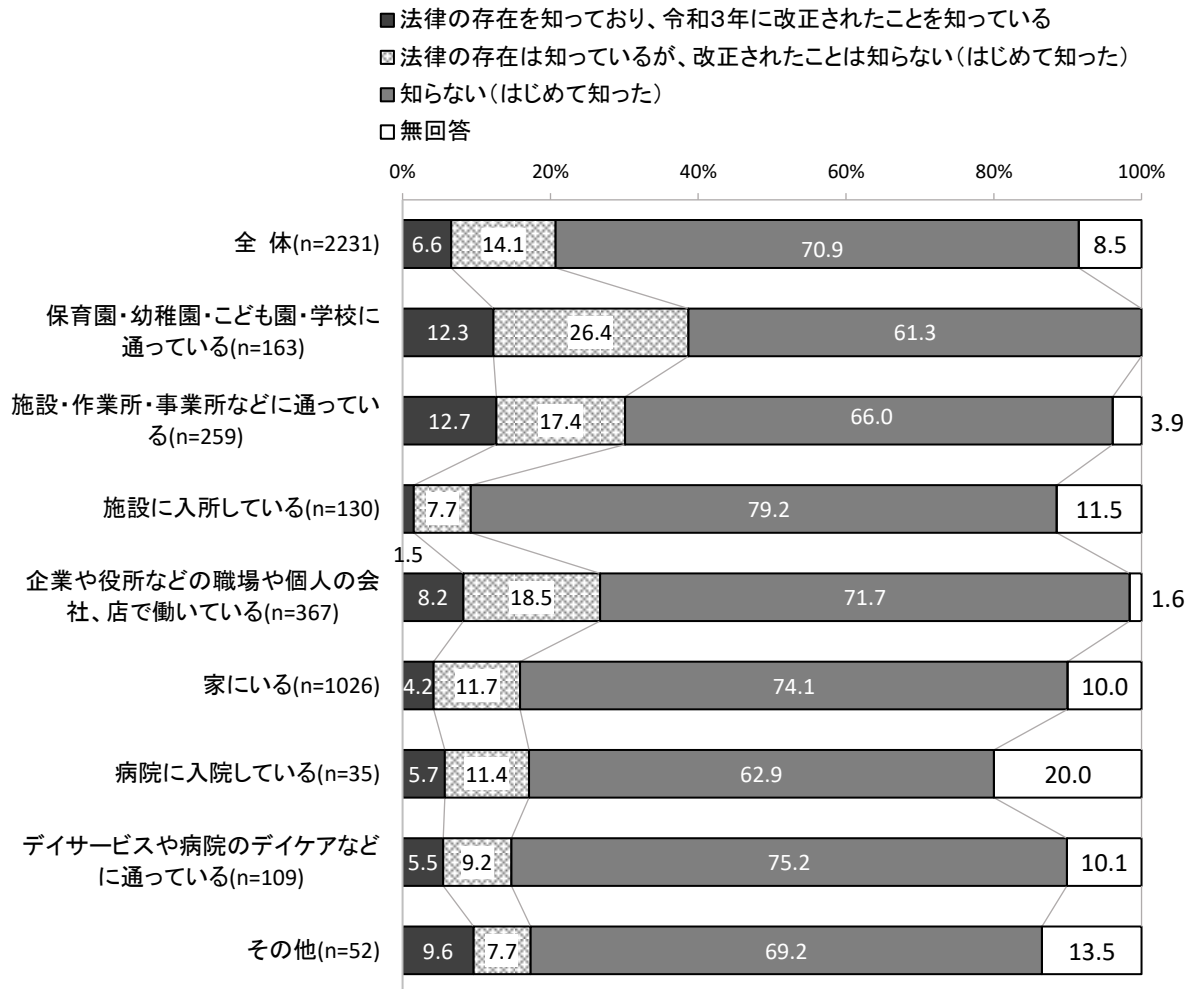
「障害者差別解消法」を認知している人は、全体の2割を占め、うち「令和3年に改正されたことを知っている」は6.6%。

療育手帳所有者では「改正されたことを知っている」が11.3%と高くなっている。

日中、主に過ごす場所別で見ると、「保育園・幼稚園・こども園・学校に通っている」人で4割弱の認知、「職場や個人の会社、店で働いている」人、「施設・作業所・事業所などに通っている」人の認知はおよそ3割となっている。



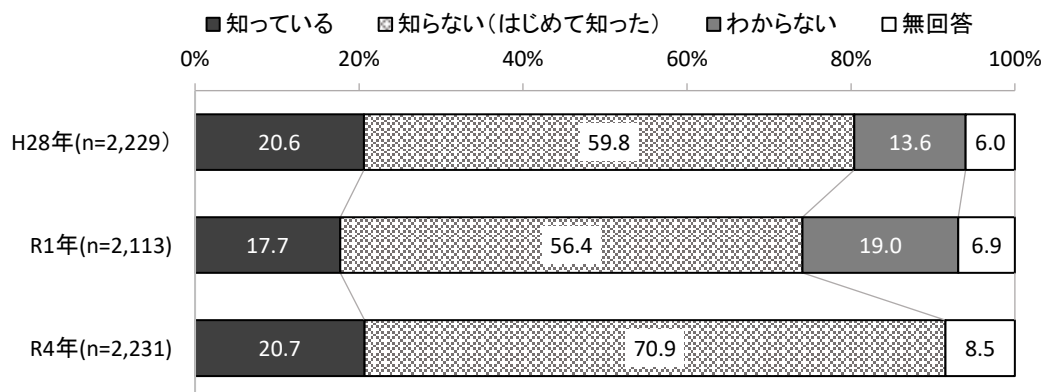
<日中、主に過ごす場所別>



<経年変化>

選択肢の変更があるため注意が必要だが、認知度は平成28年と同水準に回復している。

※令和4年は「法律の存在を知っており、令和3年に改正されたことを知っている」と「法律の存在は知っているが、改正されたことは知らない(はじめて知った)」を合わせて「知っている」として比較している。また、令和4年は選択肢に「わからない」はない。



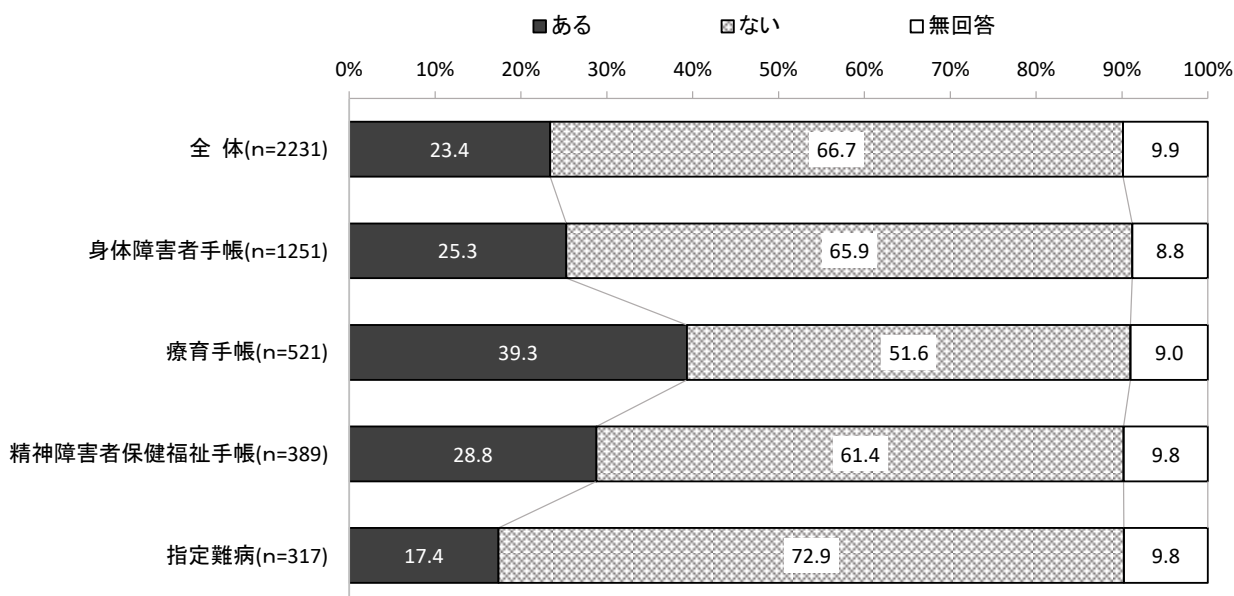
(2) 差別を受けた経験

問 44 あなたは、障がいを理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(○は1つ)

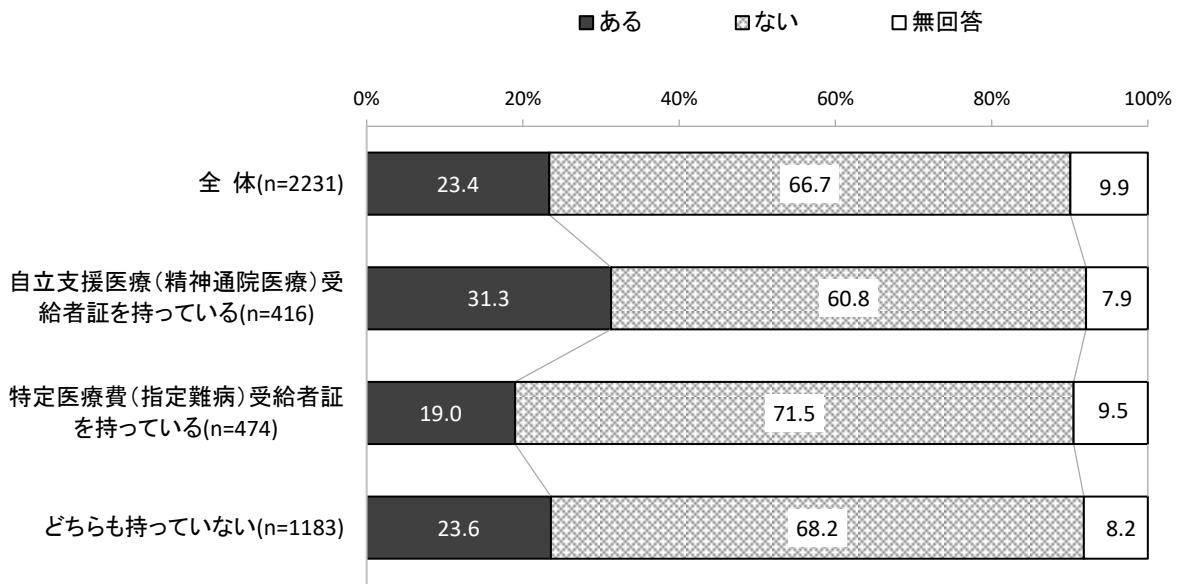
差別を受けた経験がある人は、身体障害者手帳所有者は 25.3%、療育手帳所有者は 39.3%、精神障害者保健福祉手帳所有者は 28.8%、指定難病者は 17.4%となっている。

受給者証有無別で見ると、自立支援医療受給者証所有者は 31.3%、特定医療費受給者証所有者は 19.0%となっている。

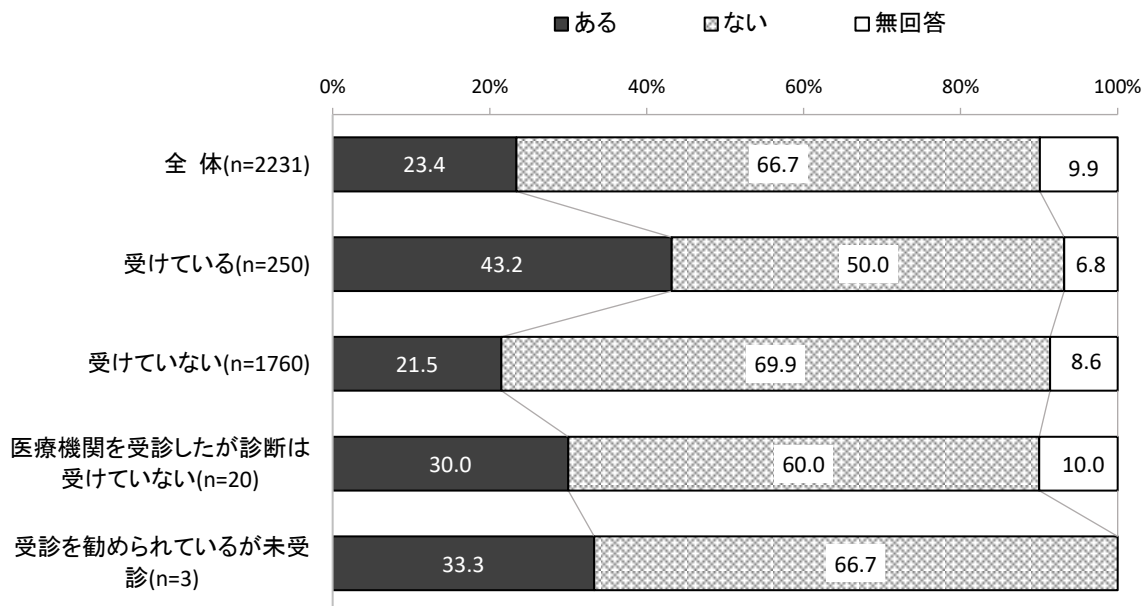
発達障がいの診断有無別で見ると、「受けている」人は 43.2%となり、診断を受けていない人に比べて高くなっている。



<受給者証有無別>



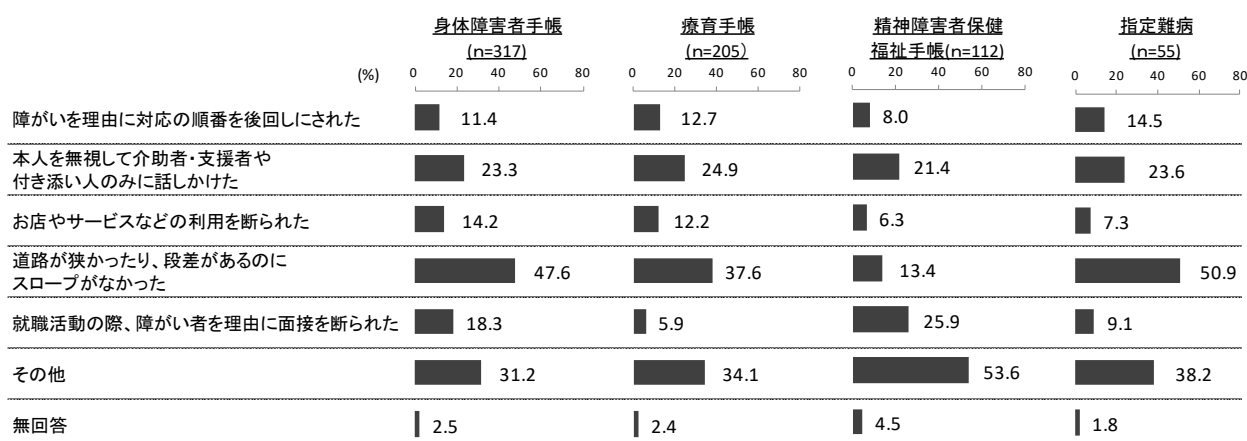
<発達障がい診断有無別>



(問 44 で「1 ある」と答えた方にお伺いします)
付問① どのようなことがありましたか。(〇はいくつでも)

「道路が狭かったり、段差があるのにスロープがなかった」は、身体障害者手帳所有者で 47.6%、療育手帳所有者で 37.6%、指定難病者で 50.9%と最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者は、「就職活動の際、障がい者を理由に面接を断られた」が 25.9%と高くなっている。

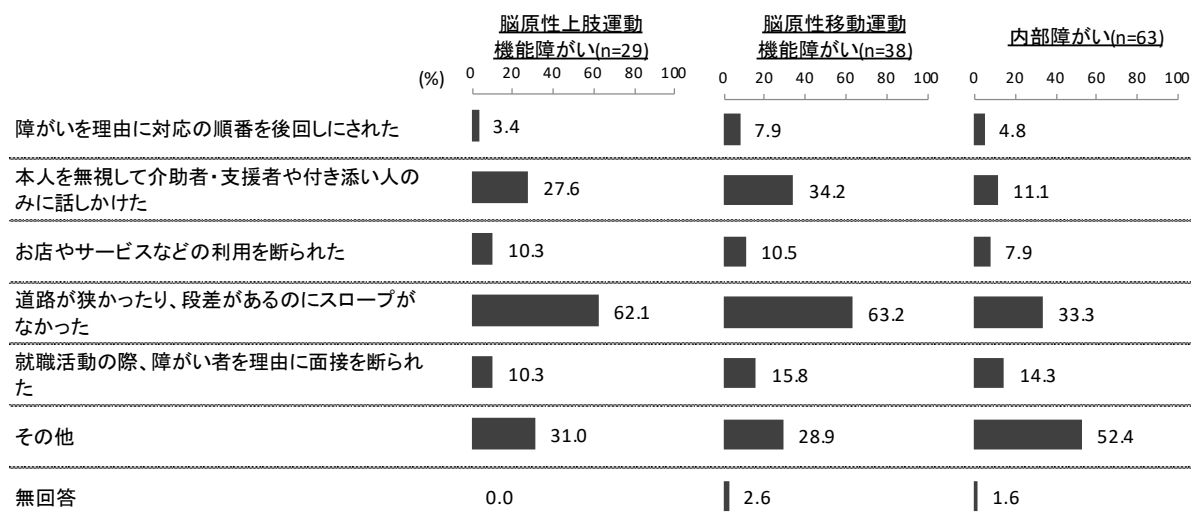
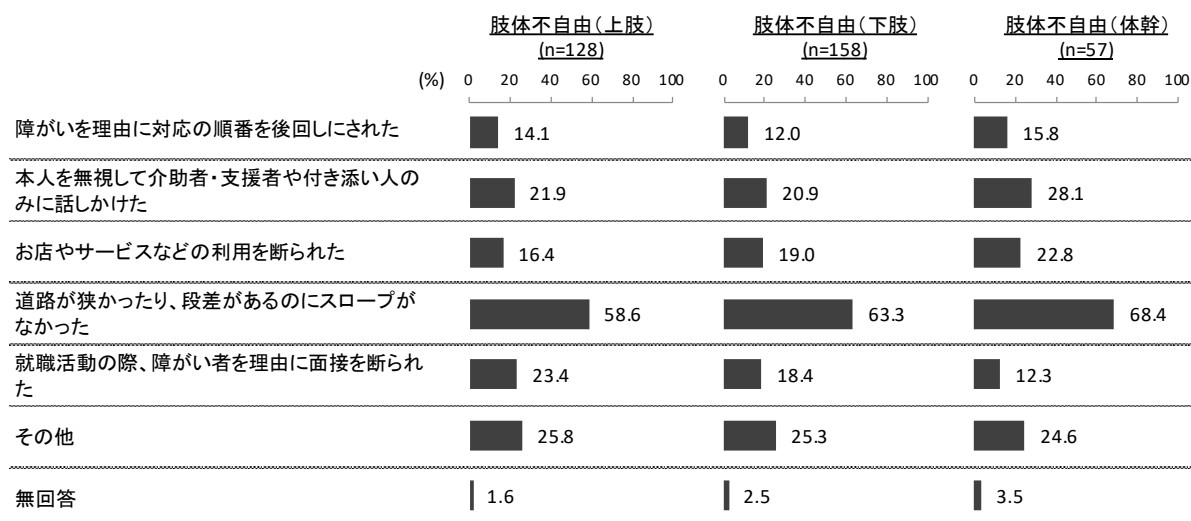
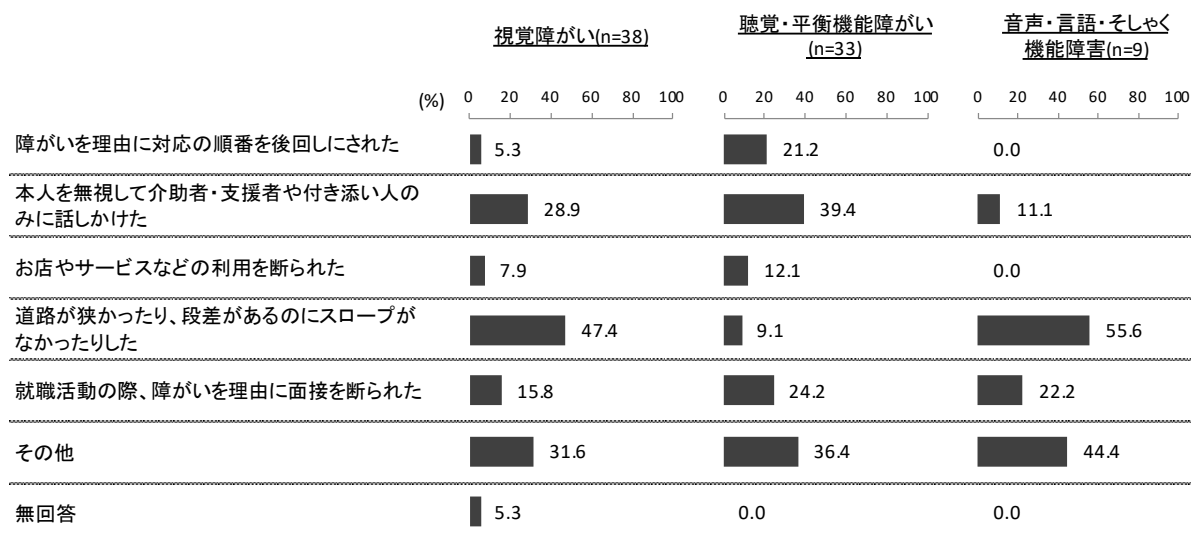
身体障害者手帳所有者の区分別でみると、肢体不自由の(上肢)(下肢)(体幹)および、脳原性運動機能障がいの(上肢)(下肢)のいずれも「道路が狭かったり、段差があるのにスロープがなかった」は6割を占めている。



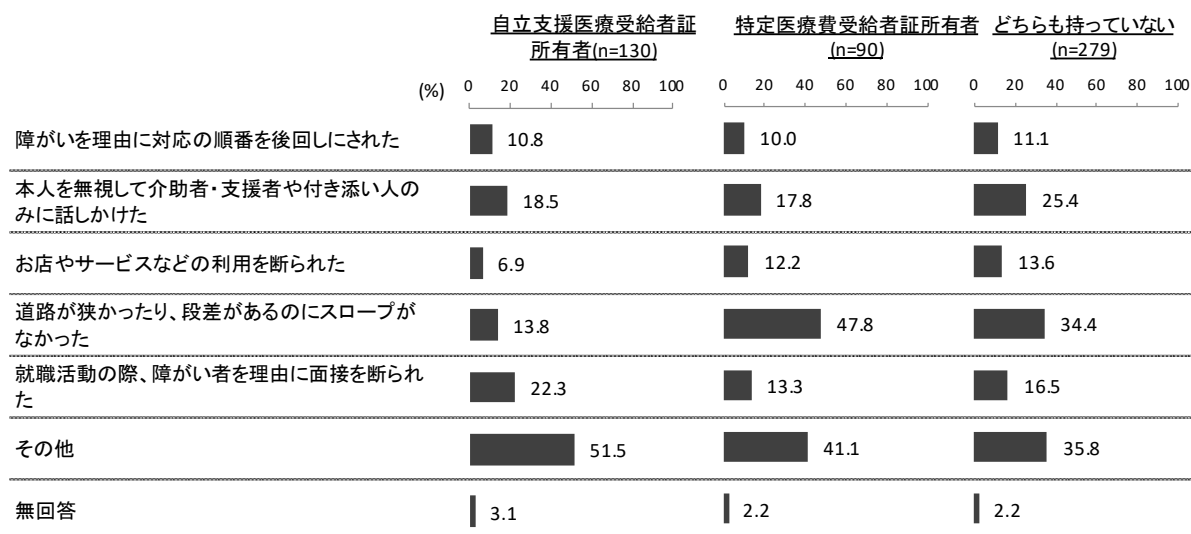
(その他)

- ・ じろじろ見られる(8 件)
- ・ いじめられた(7 件)
- ・ 学生の時に差別があった(5 件)
- ・ 病院で受診、治療を断られた(4 件)
- ・ 陰口、悪口(4 件)
- ・ 解雇された(4 件)
- ・ 笑われる(3 件)
- ・ 行動が遅いと文句を言われた(3 件)
- ・ 職場でのいじめ、パワハラ(3 件)
- ・ バカにされた(2 件)
- ・ 就職できなかった(2 件)
- ・ 結婚を反対された(2 件)
- ・ 変な目で見られる(2 件)
- ・ 見下される(2 件)
- ・ たくさんあって書ききれない(2 件)
- ・ 無視(2 件)
- ・ 賃金格差(2 件)
- ・ 車イス用の駐車場の使用で文句を言われた(2 件)
- ・ 税金の無駄遣いと言われた(2 件)
- ・ 仲間外れ(2)
- ・ 車イスを邪魔と言われた(2 件)
- ・ 不動産を借りられなかった(2 件)
- ・ マスクを外してしまうので、つけていられないか注意されたり、放デイで責任者から「来ないで」的な事を言われた
- ・ 偏見
- ・ 見た目で判断されたり、わざとつらい仕事をあたえられた
- ・ 障害(医療ケアが必要)があり保育園の入園の書類さえもらえなかった
- ・ 病気、障害の事を言われた
- ・ 障害ではないが病気になった時片端と言われた
- ・ コミュニケーションがとれない事
- ・ バスで障害者手帳を見せた時にマイクを通して障害者の方はいいと何回も言われた。
- ・ 調子が悪いのをやる気がないように扱われた
- ・ 何かあった時、障害を言い訳にするなど言われた
- ・ もう連絡しないでと大人はいう
- ・ いえない
- ・ 家庭菜園を借りるとき心臓障害1級を理由に断られたが、すでに畑を借りた後だったのでムツとして家裁に訴えると威したらオーナーは引き下がった。
- ・ 他の病院へ転院させられた。
- ・ 研修を受けられなかった。
- ・ 障害があると色メガネで見られた
- ・ 大学の教授に暴言を吐かれたり、障害を抱えながら学習できる環境づくりを拒否された
- ・ 口汚い言葉で辱められた。
- ・ 障害の内容を理由に福祉施設職員から暴言、侮辱を受けた
- ・ 障がいを考慮した勤務内容でない作業をさせられる。
- ・ 電話での対応
- ・ 小学生に「バカ」「アホ」と言われた事
- ・ 仕事の休みを少なくされた(一般就労で)
- ・ 上司に痛くてもできるだろうと言われてる
- ・ 健常者からの心ない言葉や態度
- ・ 大変さを理解してもらえない
- ・ 邪魔扱いされた、並んでいる列に割り込まれた
- ・ 専門学校入る際、障がいを理由に入学を断られた
- ・ 視覚障害者です。駅ビルの中の誘導ブロックで向こうから歩いて来た視覚障害者と鉢合わせ。ここは視覚障害者専用ですと注意された。私も視覚障害と伝えた
- ・ 自動車学校の入校を(自動車学校では判断できないとの理由で)「免許センターに確認して下さい」とのことで保留され、免許センターも1ヵ月の時間を要したため結果として自動車学校の入校(免許の限定解除)をあきらめざるを得なかった
- ・ しかたのない事で仕事内容が体力的に無理だと

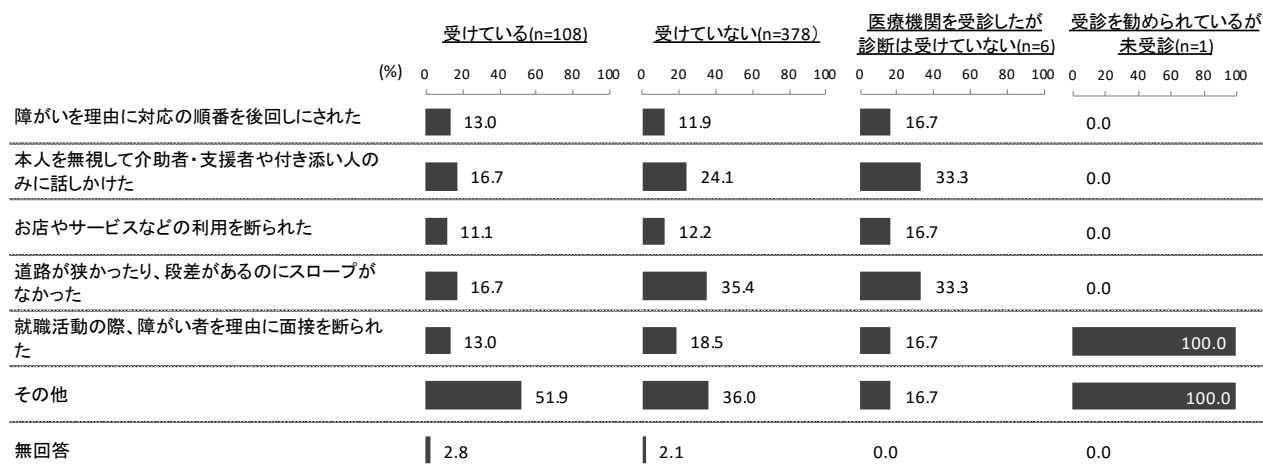
<手帳の種類（詳細）別>



<受給者証有無別>



<発達障がいの診断有無別>

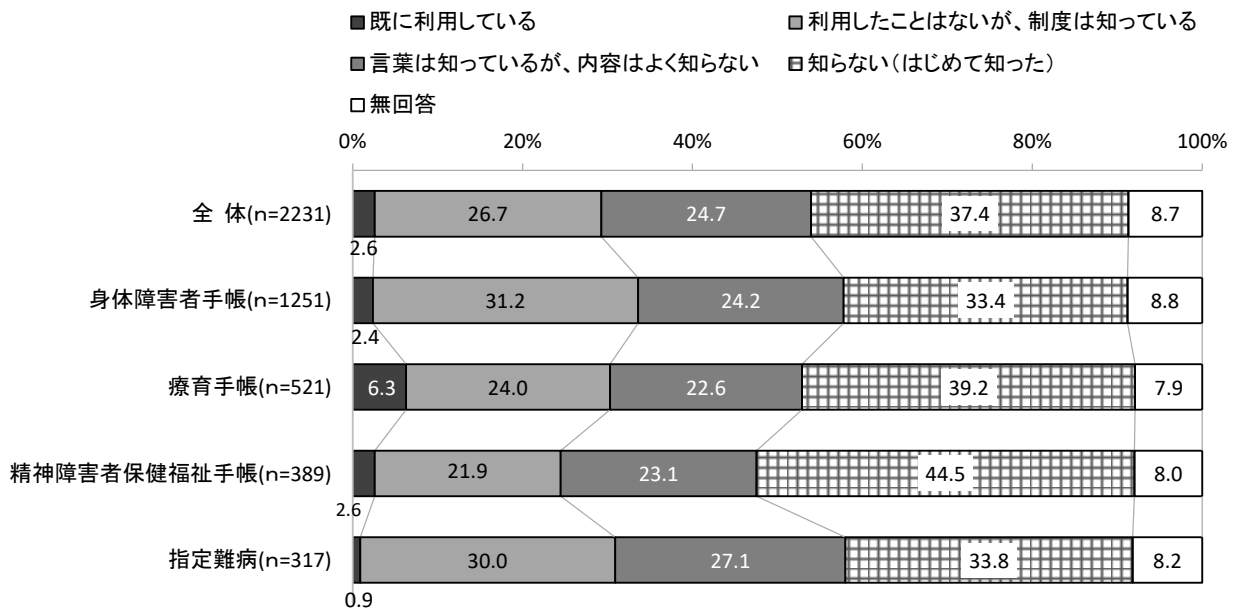


(3) 成年後見制度の認知状況

問 45 あなたは「成年後見制度(43 ページ参照)」を知っていますか。(○は1つ)

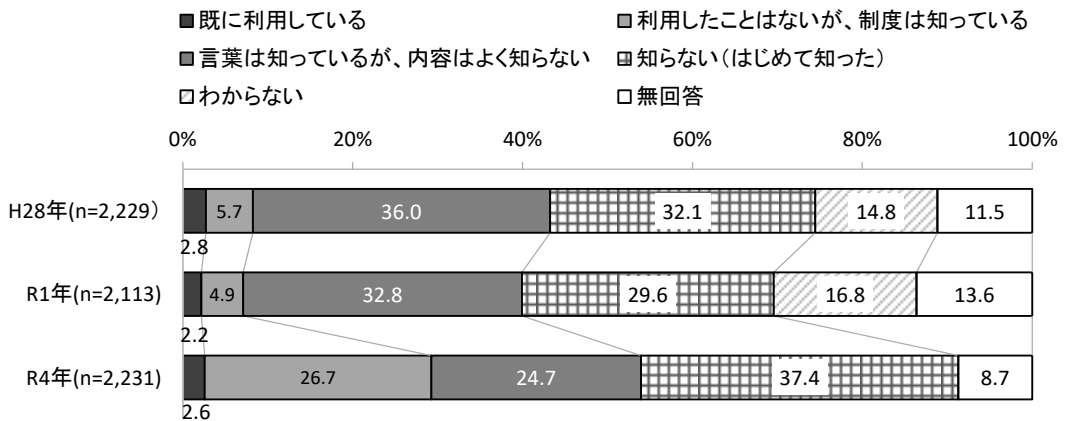
全体では「既に利用している」「利用したことはないが、制度は知っている」「言葉は知っているが、内容はよく知らない」をあわせた認知度は54.0%。

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれにおいても「知らない(はじめて知った)」が最も高くなっている。療育手帳所有者で「既に利用している」が6.3%で、他よりやや高くなっている。



<経年変化>

※令和元年までは「既に利用している」を「既に成年後見制度を利用している」、「利用したことはないが、制度は知っている」を「相談したことがあるが、利用したことがない」、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」を「言葉は知っているが、内容は知らない」としていた。また、令和4年は選択肢に「わからない」はない。

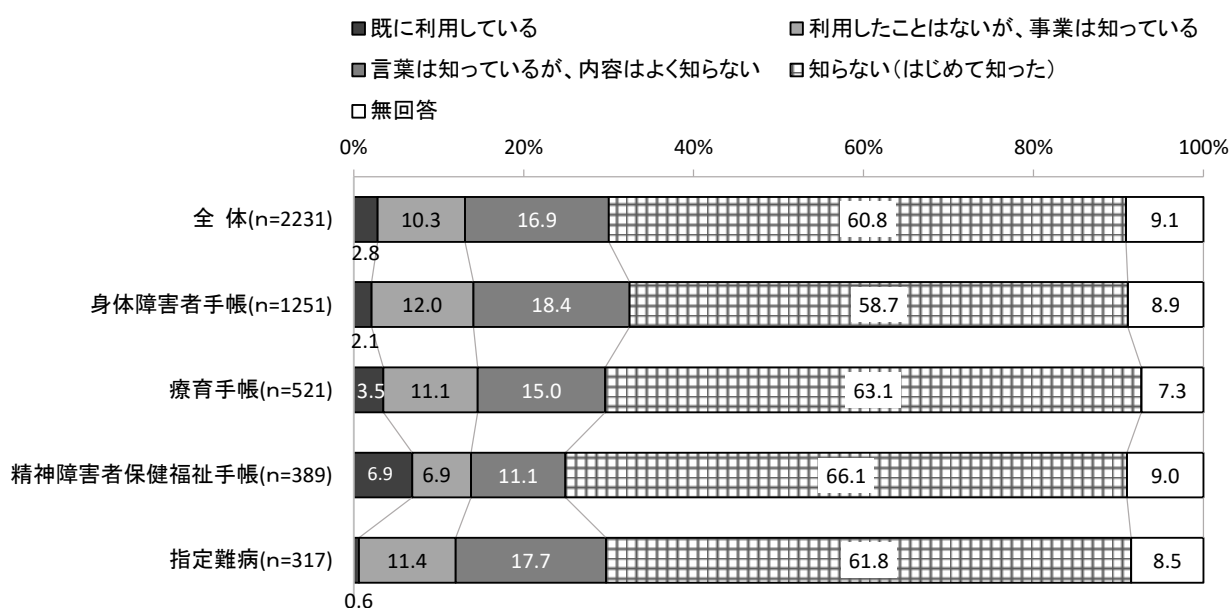


(4) 日常生活自立支援事業の認知状況

問 46 あなたは「日常生活自立支援事業(44 ページ参照)」を知っていますか。(○は1つ)

全体では「既に利用している」「利用したことはないが、事業は知っている」「言葉は知っているが、内容はよく知らない」をあわせた認知度は 30.0%。

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれにおいても「知らない(はじめて知った)」が最も高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者で「既に利用している」が 6.9%で、他よりやや高くなっている。

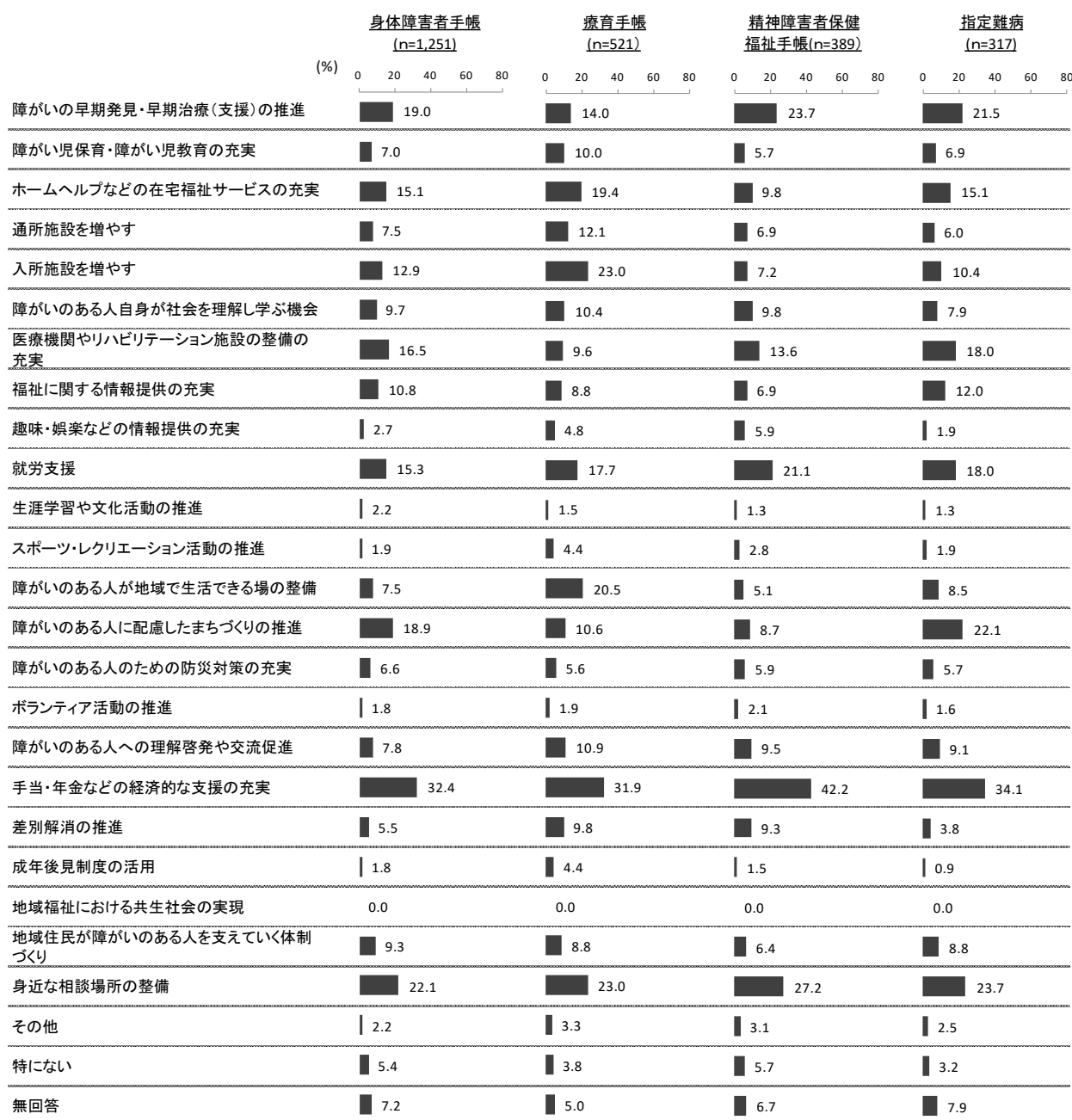


11.障がい福祉に関する施策について

(1) 障がい福祉事業への要望

問 47 あなたは、障がいのある人が安心して暮らしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

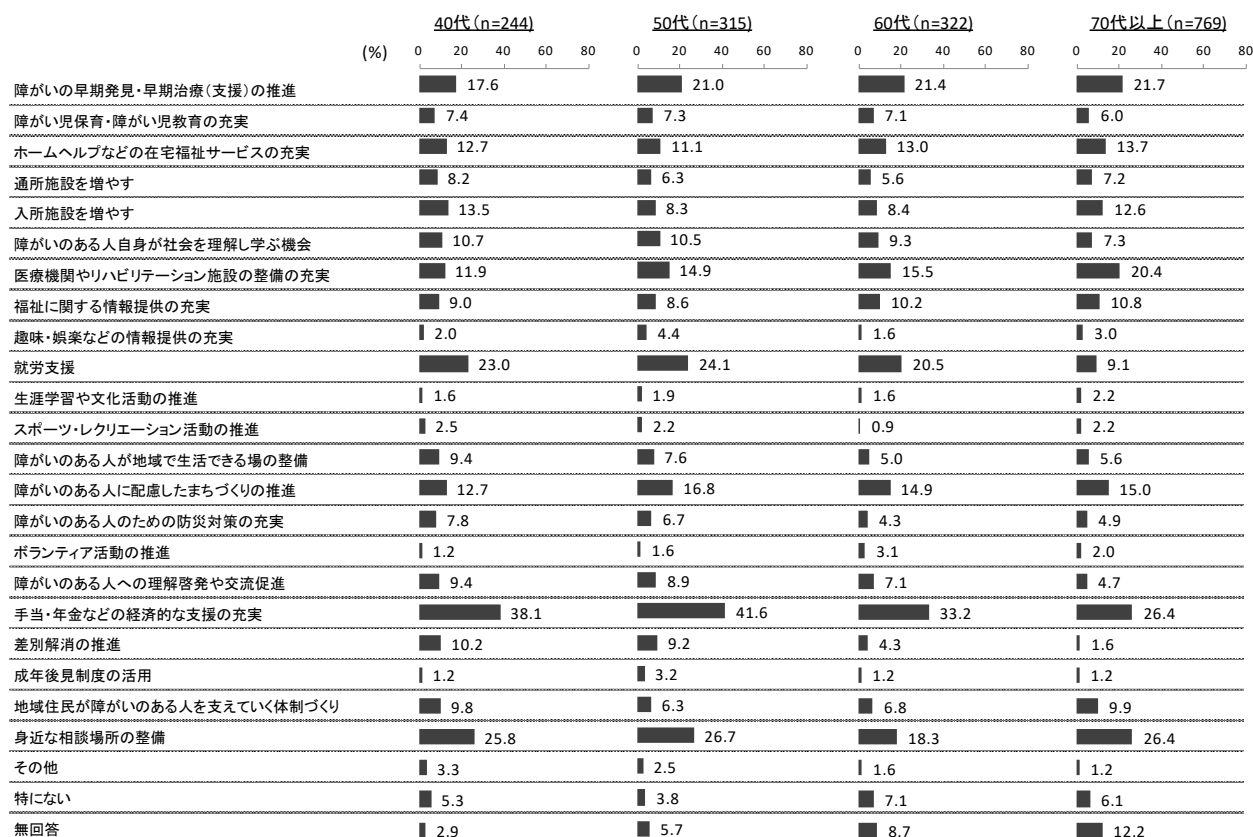
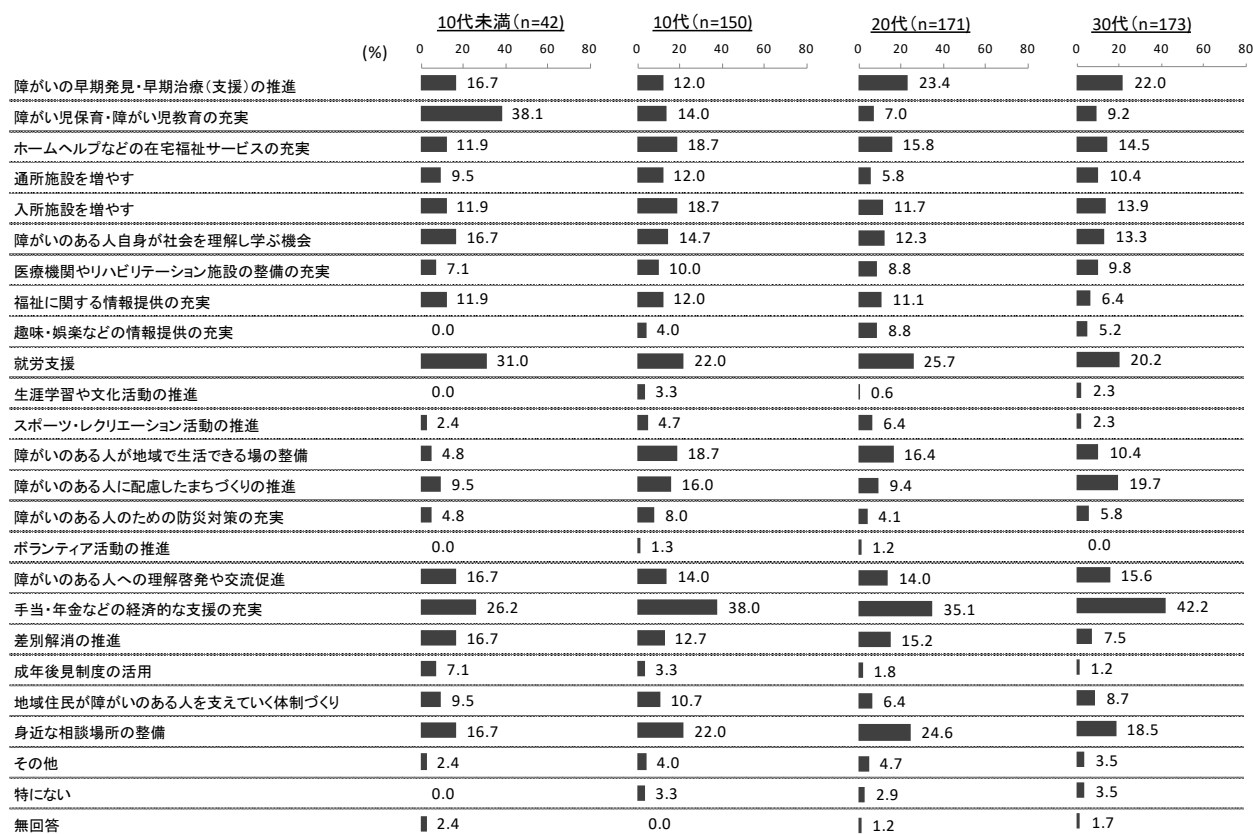
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「手当・年金などの経済的な支援の充実」がトップ、次いで「身近な相談場所の整備」。身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では、「障がいの早期発見・早期治療（支援）の推進」と続く。療育手帳所有者は、「身近な相談場所の整備」と並んで「入所施設を増やす」が高い。指定難病者は次いで「障がいのある人に配慮したまちづくりの推進」が高くなっている。



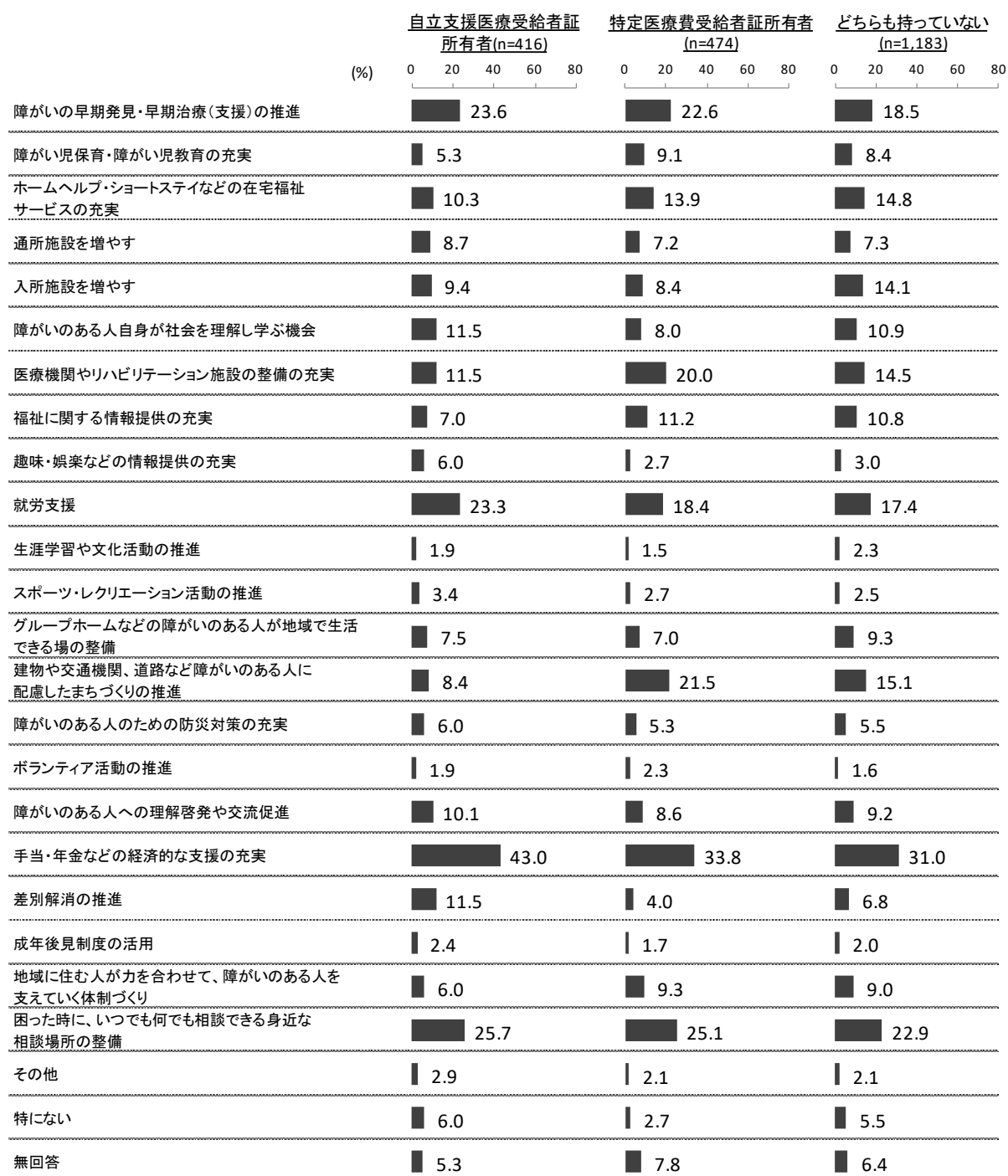
(その他)

- ・ 全部(3件)
- ・ 経済支援として現金支給を毎月
- ・ すべての人がそれぞれ障害(欠点)をもっている同じ人間だという共通認識
- ・ 福祉サービス業に従事する人たちの待遇改善(賃金アップ etc)
- ・ 入所希望なのに受け入れが難しいのですぐ入れない
- ・ 難病の人が受けられるサービスを充実させてほしい。障がい者手帳の難病版みたいなものがほしい。公共のサービスを「障がい」と同じようにしてほしい。
- ・ バリアフリー都市
- ・ 障害があっても自身で収入を得る意思・意欲
- ・ 先ず家族の心構え
- ・ 支援者の育成
- ・ 福祉人材の教育と充実
- ・ 施設を訪問した時に嫌がらせをされた。このようなことがないようにしてほしい
- ・ 生涯学習センターには何度か行ったが、講師が休みで今日の講座はお休みしますが多い。なので必要としない。
- ・ 障がいのある人に対する理解や対応の学校での教育
- ・ 障害のある人を見る家族・親族のサポート。身寄りが無いか見てくれる家族がいない場合を除いては家の事に違憲レベルに国や制度を介入させない事。
- ・ 通学代行(送り迎え)
- ・ 地域の誰もが「人は生まれながらに価値がある」などの福祉理念に触れ学べる機会
- ・ 市民が困ったときの相談先
- ・ 障がい扱いをしないこと
- ・ 発達障害や強度行動障害を理解し、支援を考えられる職員を増やすこと。
- ・ 障害のある人を支える。在宅でケアしている人への支援や社会での理解が乏しいと思う
- ・ 小中高は医ケア児の親に頼りすぎている。看護師が休む時は、子どもも休まなければならない。校外学習は看護師が付き添えず、親がついて行くか学校で留守番。平等な教育がうけられていない。そこを何とかして欲しい。親の学校待機、付き添いを少なくしてほしい。また給食のミキサー食を食べたいが、学校の都合で栄養剤を持参。食べられるのに食べられない。義務教育なのにと思う
- ・ 知的障害だと、A型就労支援も難しく、B型に通っていますが賃金が少ない。B型で給料UPの仕組み、仕事があればと思います。将来1人になった時の生活費が心配
- ・ 障がい者家族の支援。様々な手続きが大変であり家族の負担が大きい(仕事を休まなければならない)手続きを簡単にしてほしい
- ・ 地域の人に障害を知ってもらう
- ・ 長田地区にバスが走るのを期待しています。レベル別に支援を受けたい
- ・ 施設等の質の向上
- ・ 地域の園や学校で共に学び育つこと

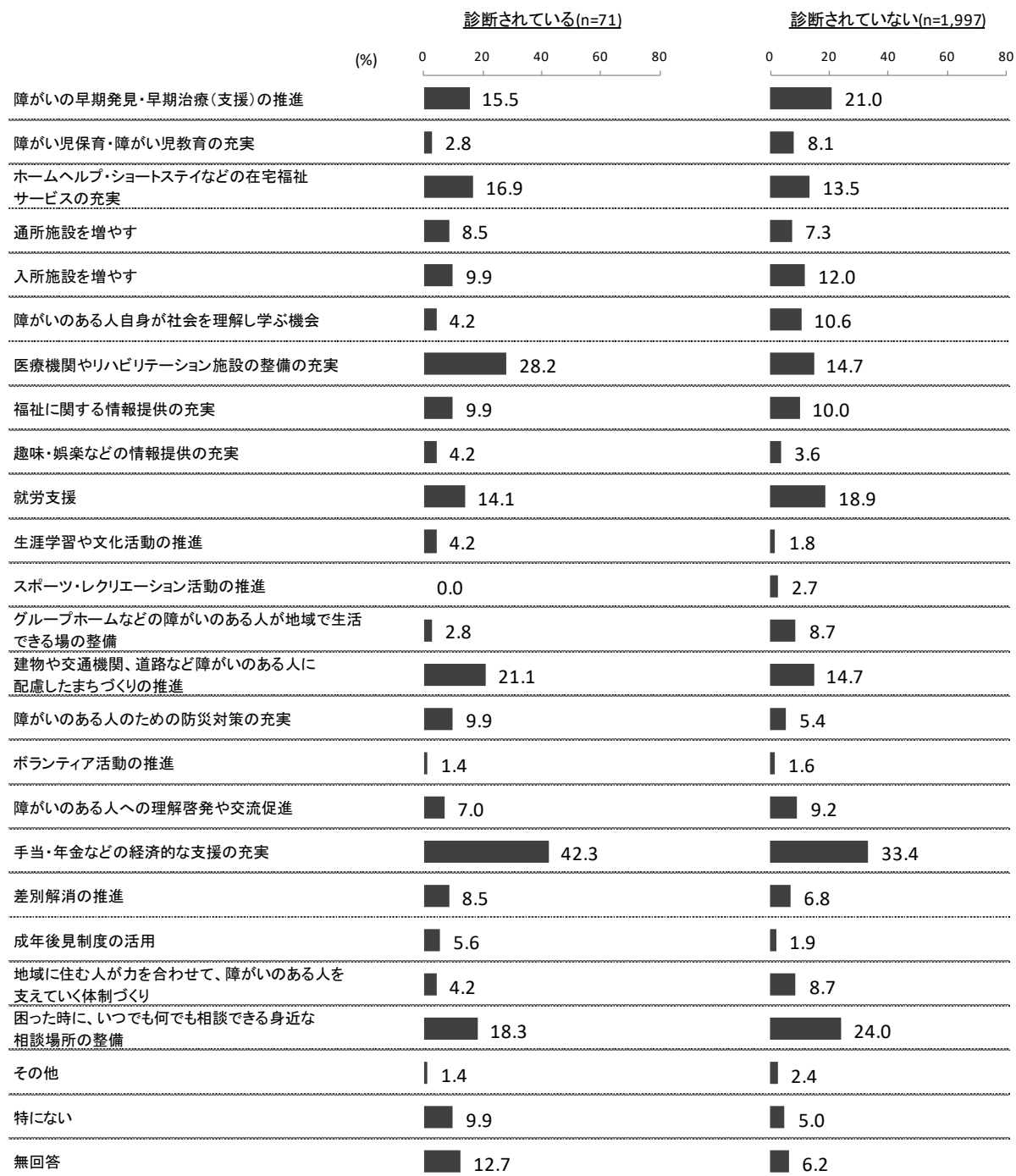
<年齢別>



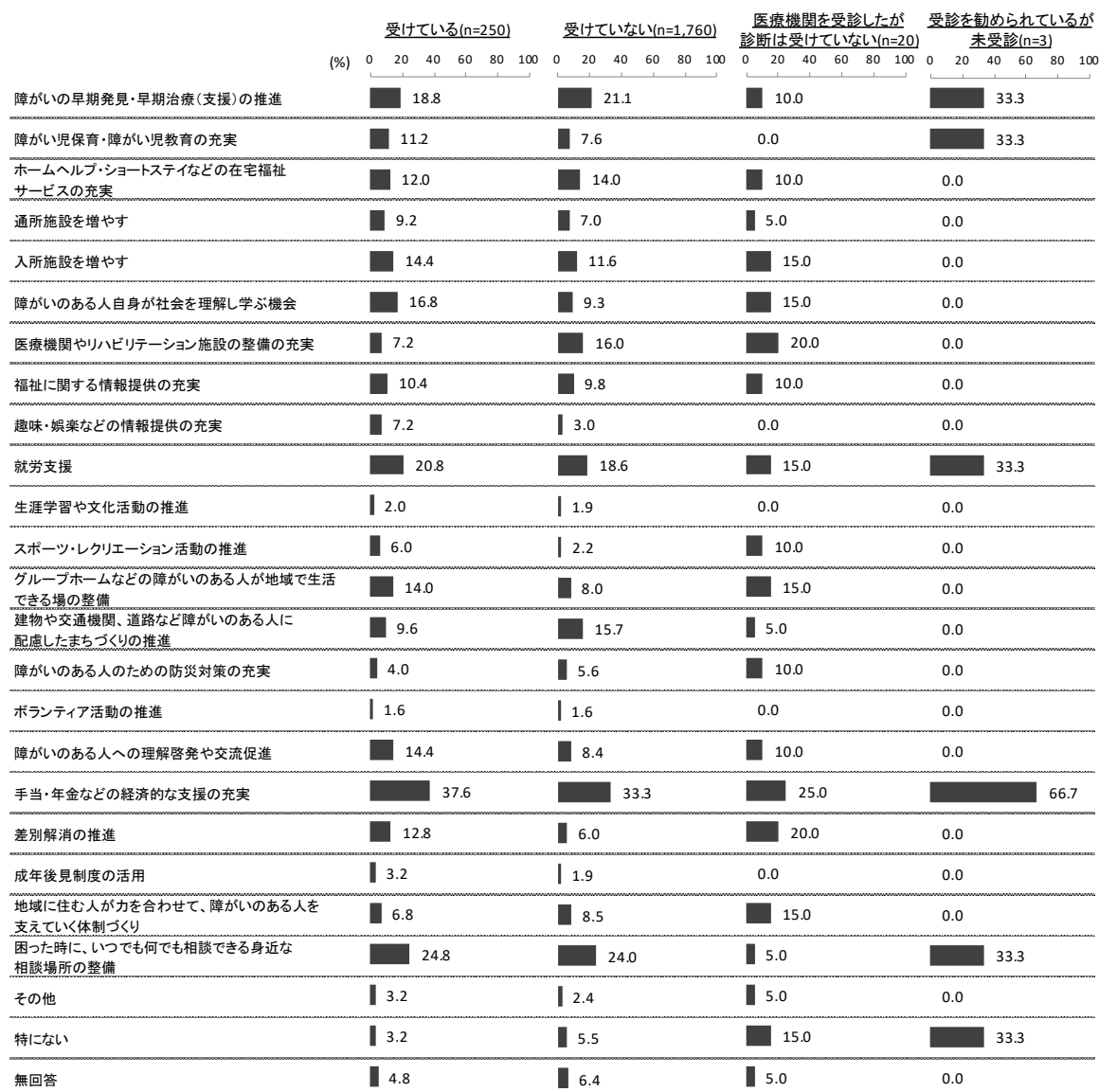
<受給者証有無別>



<高次脳機能障がい診断別>



<発達障がいの診断有無別>



<経年変化>

過去の調査では回答数上限が7であったのに対し、今回の調査では回答数を3までと大幅に削減したため、参考までに掲載し、考察は割愛する。

単位 %、()内 実数

		障がいの早期発見・早期治療(支援)の推進	障がいの見保 育・障がいの見 教育の充実	ホームヘル プ・ショートス テイなどの在宅福祉サービスの充実	通所施設を増やす	入所施設を増やす	障がいのある人自身が社会を理解し学ぶ機会	医療機関やリハビリテーション施設の整備の充実	福祉に関する情報提供の充実	趣味・娯楽などの情報提供の充実
18歳未満	H23年 (625)	20.5	39.4	17.4	29.4	18.4		18.7	28.5	
	H26年 (117)	29.9	45.3	22.2	32.5	23.1		24.8	20.5	
	H28年 (215)	27.0	46.0	21.9	24.7	21.4	27.0	33.0	27.0	9.8
	R1年 (211)	29.9	47.4	22.7	26.1	26.1	20.9	33.6	20.4	9.0
	R4年 (163)	13.5	21.5	17.2	11.7	17.8	16.0	10.4	12.9	2.5
18歳以上	H23年 (2186)	16.3	8.6	20.5	16.0	22.6		16.0	21.2	
	H26年 (2378)	32.6	17.1	20.9	16.8	23.7		27.5	19.6	
	H28年 (1910)	28.4	18.7	23.4	19.1	22.4	19.4	34.1	23.8	10.2
	R1年 (1865)	32.4	17.8	22.6	16.2	21.0	21.4	30.5	22.2	9.9
	R4年 (2023)	21.1	6.9	13.3	7.1	11.4	9.5	15.6	9.7	3.6

		就労支援	生涯学習や文化活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の推進	グループホームなどの障がいのある人が地域で生活できる場の整備	建物や交通機関、道路など障がいのある人に配慮したまちづくりの推進	障がいのある人のための防災対策の充実	ボランティア活動の推進	障がいのある人への理解啓発や交流促進	手当・年金などの経済的な支援の充実
18歳未満	H23年 (625)	52.6	7.5	10.6	21.8	16.8	41.8	4.2	28.5	45.1
	H26年 (117)	52.1	4.3	5.1	23.9	17.9	18.8	3.4	29.9	55.6
	H28年 (215)	52.1	6.0	10.7	22.3	30.2	26.5	7.0	33.0	53.0
	R1年 (211)	38.4	4.3	8.5	19.0	35.5	29.4	3.3	33.2	47.4
	R4年 (163)	21.5	2.5	3.7	13.5	14.7	7.4	1.2	15.3	36.2
18歳以上	H23年 (2186)	18.3	5.4	6.5	23.7	19.2	24.9	4.4	16.1	39.9
	H26年 (2378)	24.3	5.2	5.3	12.7	28.5	16.2	5.7	14.9	48.2
	H28年 (1910)	35.4	4.7	7.3	17.6	34.7	17.9	5.7	19.1	50.0
	R1年 (1865)	35.0	5.0	6.6	14.9	33.2	18.7	5.2	20.4	49.5
	R4年 (2023)	17.7	1.9	2.5	7.9	14.9	5.5	1.7	8.1	33.4

		差別解消の推進	成年後見制度の活用	地域福祉における共生社会の実現	地域に住む人が力を合わせて障がいのある人を支えていく体制づくり	困った時に、いつでも何でも相談できる身近な相談場所の整備	その他	特になし	無回答
18歳未満	H23年 (625)								
	H26年 (117)				28.2	36.8	5.1	0.9	4.3
	H28年 (215)	21.9	9.3	11.2	25.1	42.8	4.2	0.9	1.4
	R1年 (211)	21.3	5.2	12.3	19.9	37.9	4.3	1.9	0.9
	R4年 (163)	14.1	4.9		11.0	20.2	3.7	2.5	0.6
18歳以上	H23年 (2186)								
	H26年 (2378)				16.1	42.4	1.7	3.8	10.5
	H28年 (1910)	15.8	5.1	8.5	16.4	42.1	2.9	3.9	6.9
	R1年 (1865)	16.1	4.8	8.8	14.0	39.2	2.8	5.1	7.2
	R4年 (2023)	6.0	1.5		8.4	24.2	2.2	5.3	7.5

※ 平成 23 年調査・平成 26 年調査・28 年調査では、「障がいの早期発見・早期治療(支援)の推進」は「障がいの早期発見・早期治療事業の推進」、「医療機関やリハビリテーション施設の整備の充実」は「医療機関やリハビリテーション整備の充実」という表現の選択肢になっている。

※ 平成 23 年調査・平成 26 年調査「障がいのある人自身が社会を理解し学ぶ機会」「趣味・娯楽などの情報提供の充実」「地域福祉における共生社会の実現」「差別解消の推進」「成年後見制度の活用」は選択肢に含まれていない。

※ 平成 23 年調査では、「地域に住む人が力を合わせて障がいのある人を支えていく体制づくり」「困ったときに、いつでも何でも相談できる身近な相談場所の整備」は選択肢に含まれていない。「グループホームなどの障がいのある人が地域で生活できる場の整備」は「障がい者が住みやすい住宅の確保や居住環境の改善・整備をはかってほしい」という表現の選択肢になっている。

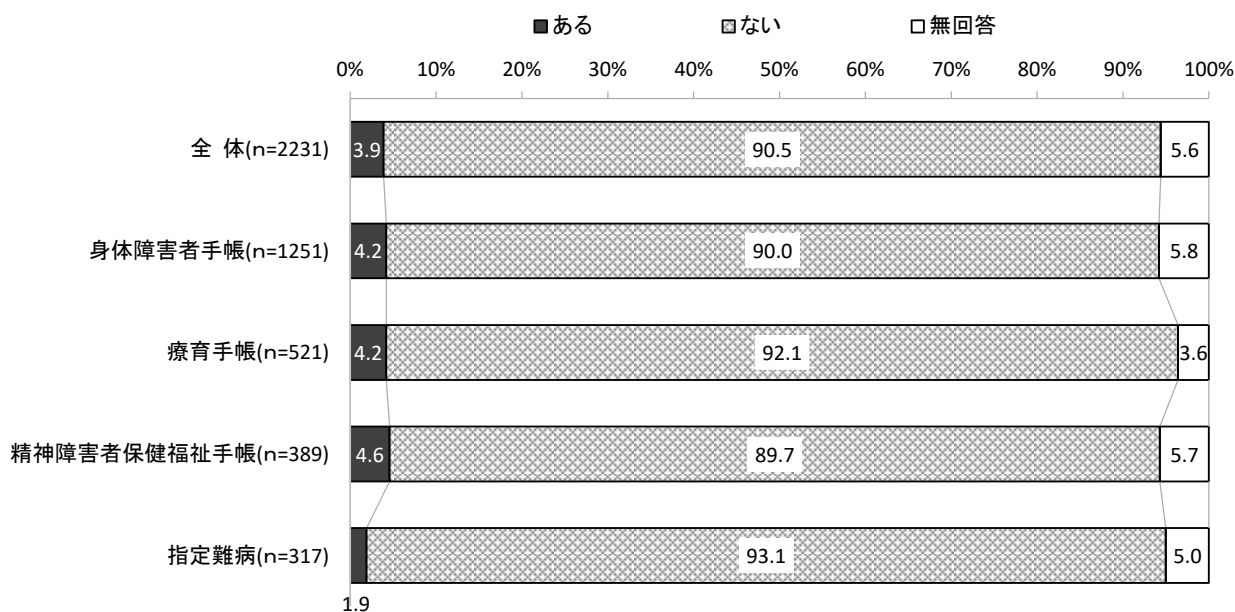
12. 静岡市立図書館の福祉サービスについて

(1) 静岡市立図書館の福祉サービスの利用有無

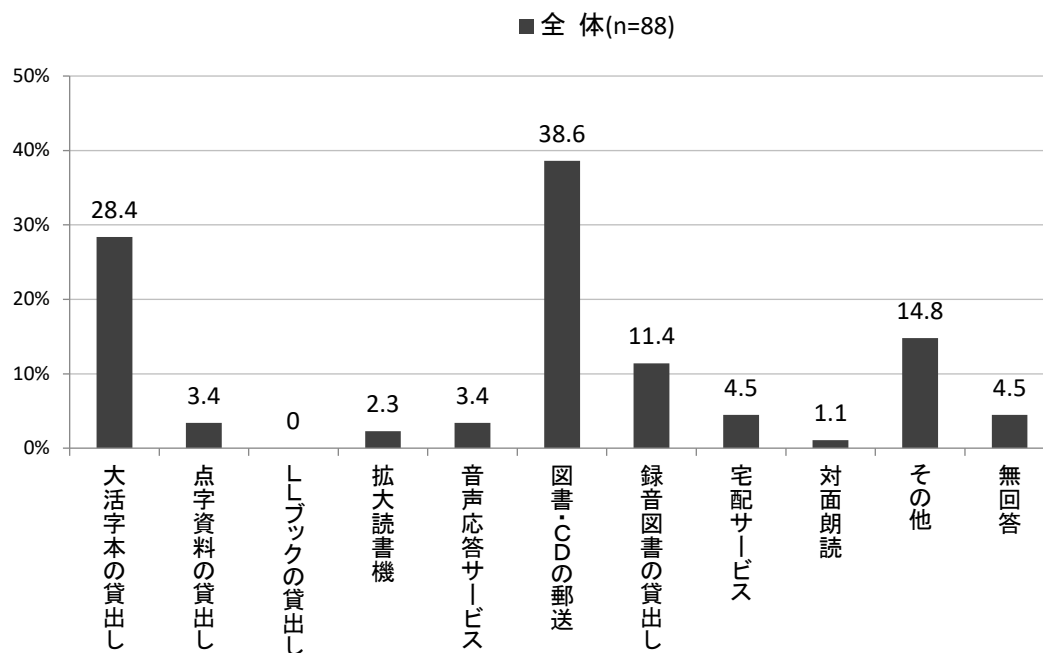
問 48 あなたは今までに静岡市立図書館の福祉サービス(46 ページ参照)を利用したことがありますか。
(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「ない」が9割を占める。

サンプル数が少ないので参考程度だが、利用したサービスは全体で「図書・CDの郵送」が4割弱、「大活字本の貸し出し」が3割弱と高くなっている。

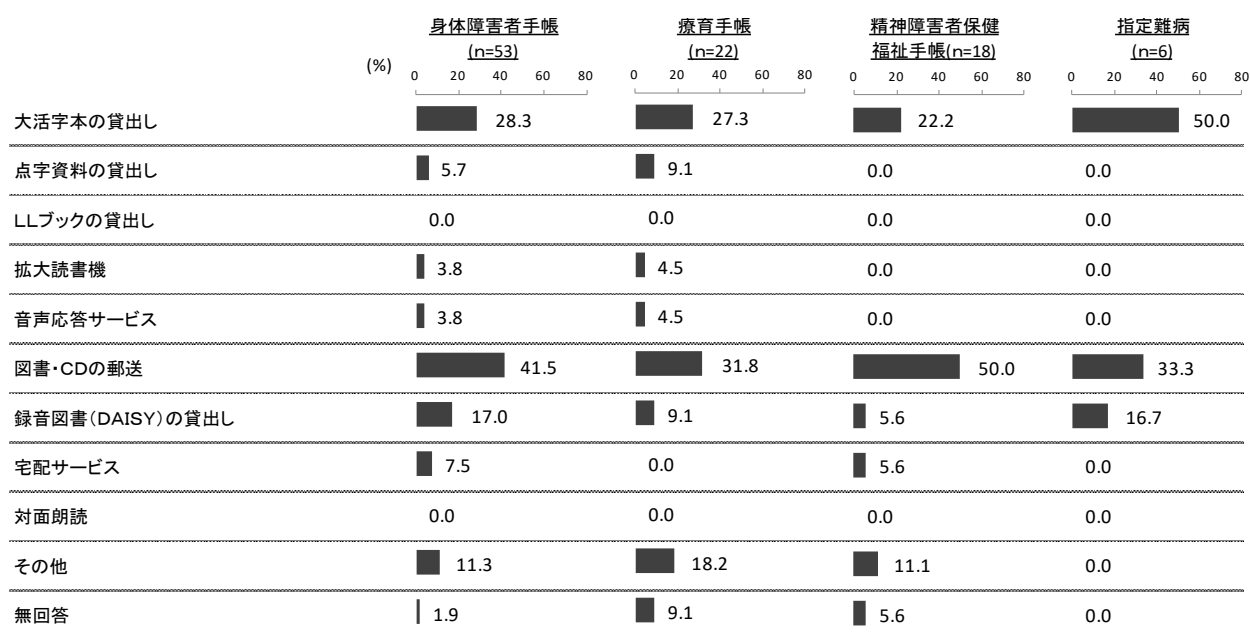


付問① (問48で「1 ある」と答えた方にお伺いします)
 利用したサービスをお答えください。(〇はいくつでも)

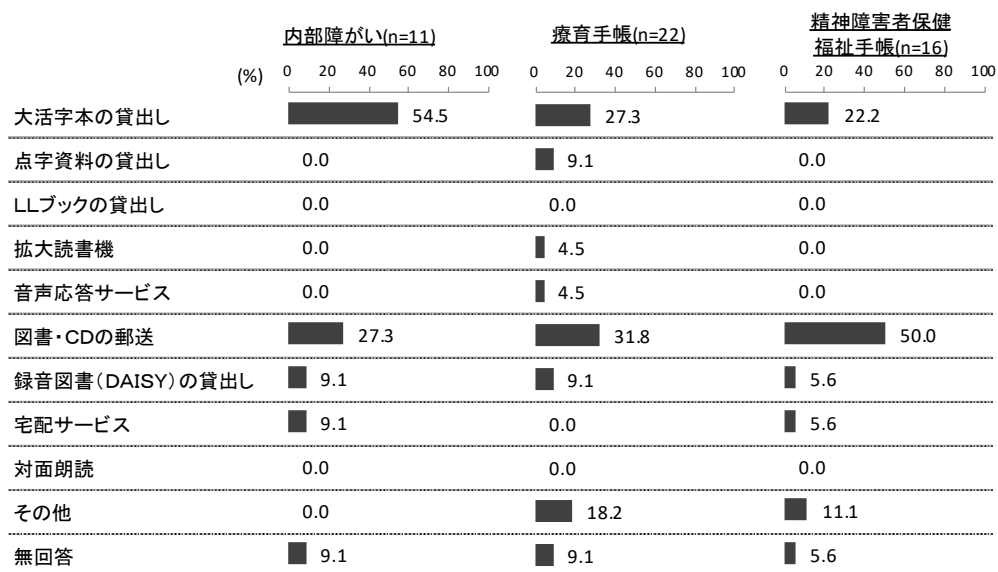
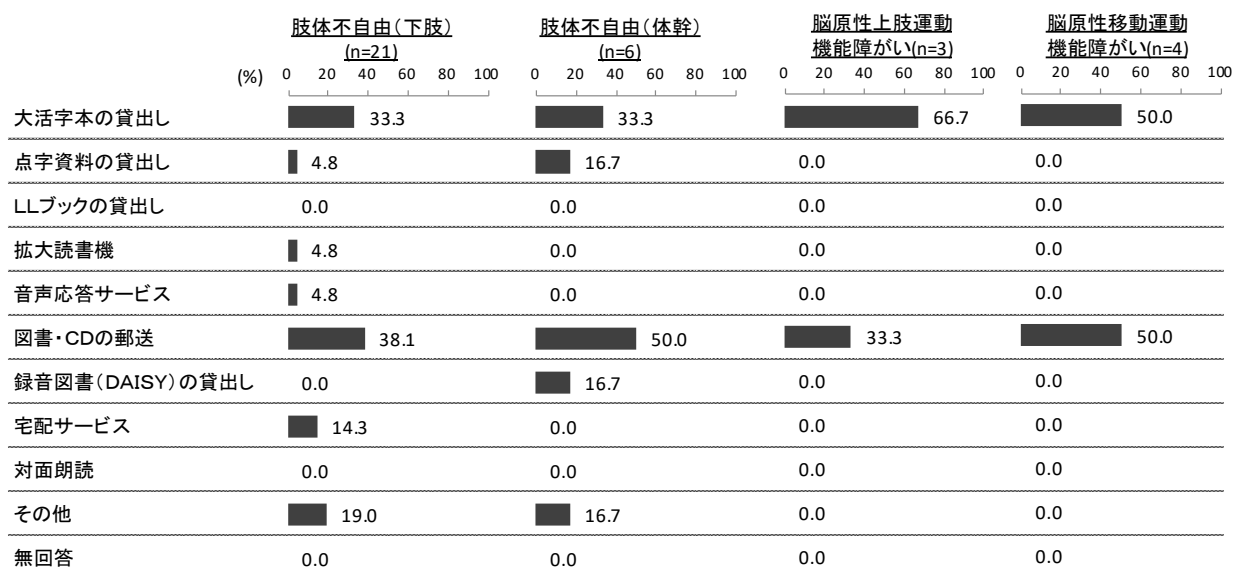
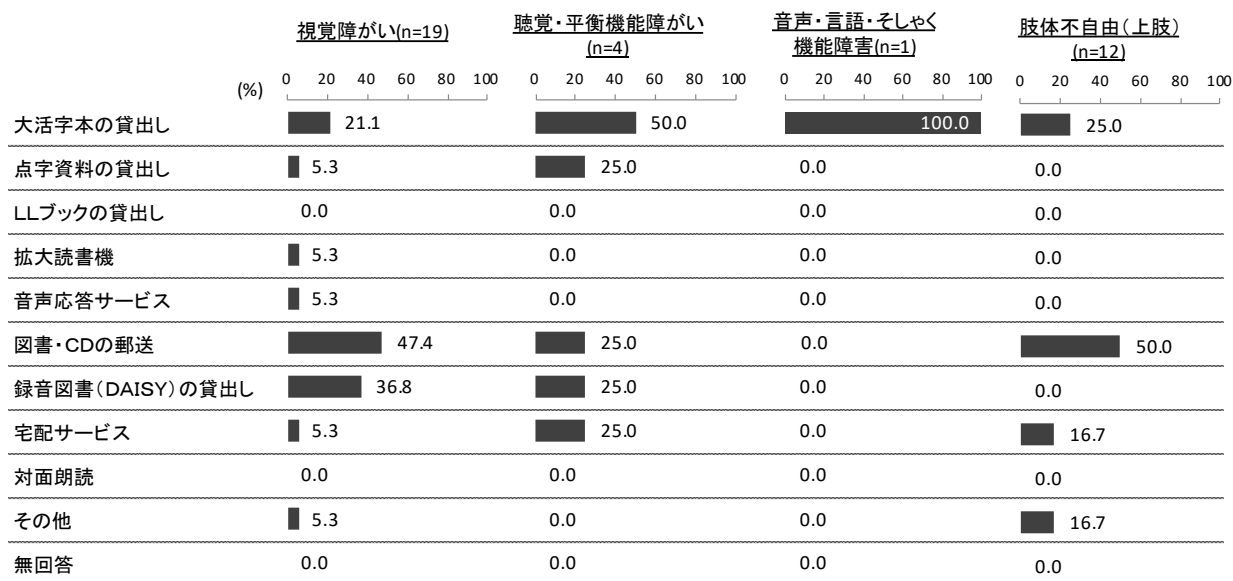


(その他)

ストマ助成金/手話の本 / 自衛隊の昔の歴史 / 地図/学校で行った



<手帳の種類（詳細）別>

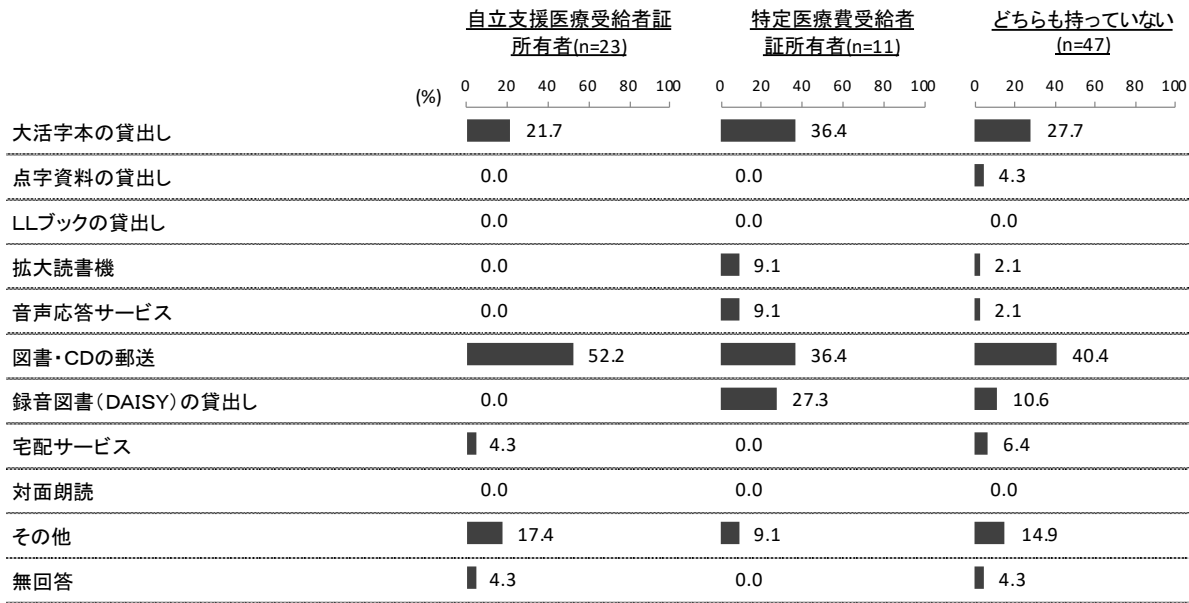


II 調査結果

単位 %、()内実数

		大活字本の貸出し	点字資料の貸出し	LLブックの貸出し	拡大読書機	音声応答サービス	図書・CDの郵送	録音図書(DAISY)の貸出し	宅配サービス	対面朗読	その他	無回答	
全体	(88)	28.4	3.4	0.0	2.3	3.4	38.6	11.4	4.5	1.1	14.8	4.5	
身体障害者手帳	視覚障がい	(19)	21.1	5.3	0.0	5.3	5.3	47.4	36.8	5.3	0.0	5.3	0.0
	聴覚・平衡機能障がい	(4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障がい	(1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肢体不自由(上肢)	(12)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
	肢体不自由(下肢)	(21)	33.3	4.8	0.0	4.8	4.8	38.1	0.0	14.3	0.0	19.0	0.0
	肢体不自由(体幹)	(6)	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	脳原性上肢運動機能障がい	(3)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	脳原性移動運動機能障がい	(4)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内部障がい	(11)	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	療育手帳	(22)	27.3	9.1	0.0	4.5	4.5	31.8	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1
精神障害者保健福祉手帳	(18)	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	5.6	5.6	0.0	11.1	5.6	

<受給者証有無別>



単位 %、()内実数

		大活字本の貸出し	点字資料の貸出し	LLブックの貸出し	拡大読書機	音声応答サービス	図書・CDの郵送	録音図書(DAISY)の貸出し	宅配サービス	対面朗読	その他	無回答
全体	(88)	28.4	3.4	0.0	2.3	3.4	38.6	11.4	4.5	1.1	14.8	4.5
自立支援医療受給者証所有者	(23)	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	52.2	0.0	4.3	0.0	17.4	4.3
特定医療費受給者証所有者	(11)	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1	36.4	27.3	0.0	0.0	9.1	0.0
どちらも持っていない	(47)	27.7	4.3	0.0	2.1	2.1	40.4	10.6	6.4	0.0	14.9	4.3

<高次脳機能障がい診断別>

		大活字本の貸出し	点字資料の貸出し	LLブックの貸出し	拡大読書機	音声応答サービス	図書・CDの郵送	録音図書(DAISY)の貸出し	宅配サービス	対面朗読	その他	無回答
全体	(88)	28.4	3.4	0.0	2.3	3.4	38.6	11.4	4.5	1.1	14.8	4.5
診断されている	(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
診断されていない	(77)	28.6	2.6	0.0	2.6	3.9	40.3	13.0	3.9	0.0	15.6	3.9

<発達障がいの診断有無別>

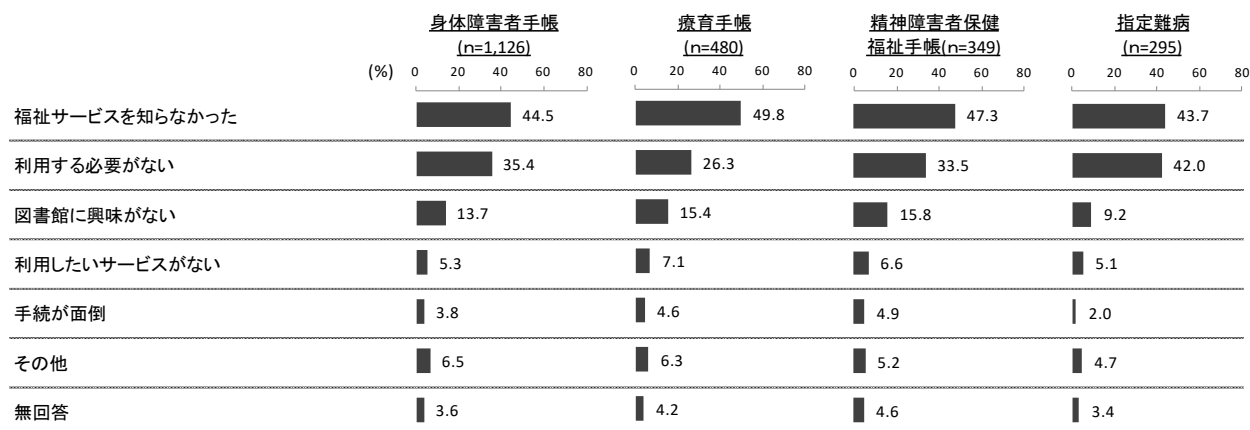
単位 %、()内実数

		大活字本の貸出し	点字資料の貸出し	LLブックの貸出し	拡大読書機	音声応答サービス	図書・CDの郵送	録音図書(DAISY)の貸出し	宅配サービス	対面朗読	その他	無回答
全体	(88)	28.4	3.4	0.0	2.3	3.4	38.6	11.4	4.5	1.1	14.8	4.5
受けている	(13)	38.5	7.7	0.0	7.7	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	15.4	15.4
受けていない	(63)	30.2	1.6	0.0	1.6	3.2	42.9	12.7	4.8	0.0	17.5	0.0
医療機関を受診したが診断は受けていない	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
受診を勧められているが未受診	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 静岡市立図書館の福祉サービスを利用しなかった理由

問 49 (問 48 で「2 ない」と答えた方にお伺いします)
「ない」と答えた理由を教えてください。(〇はいくつでも)

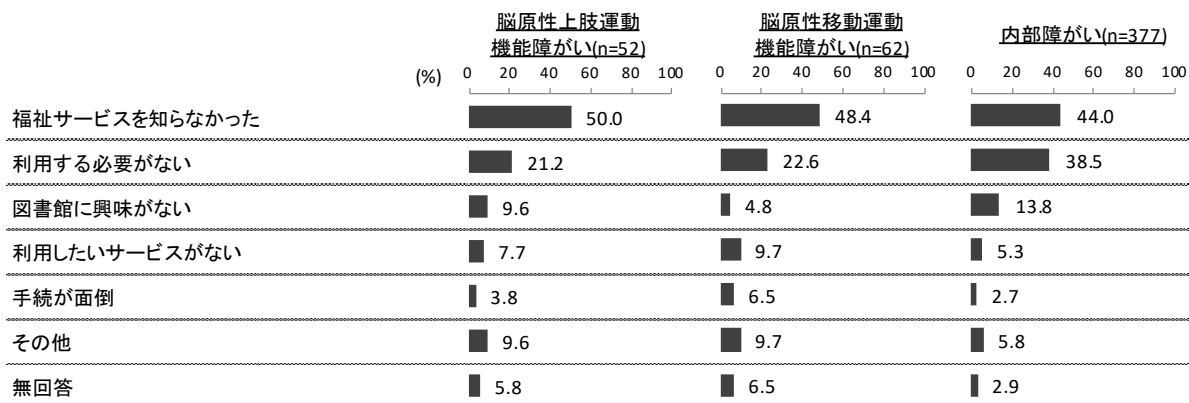
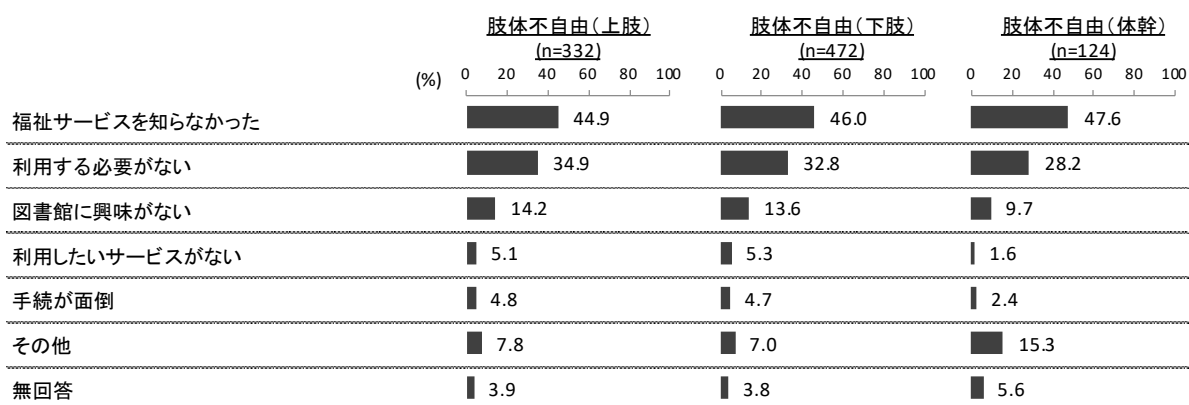
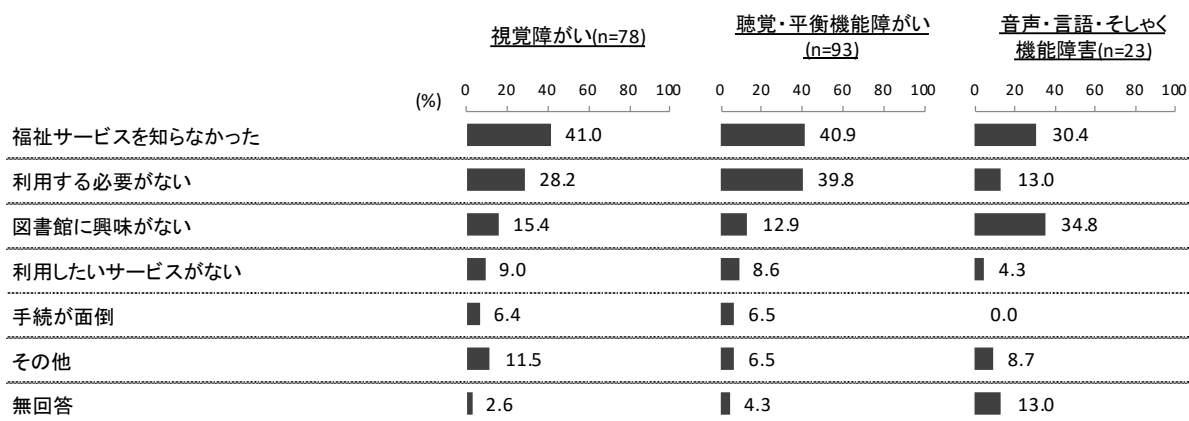
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「福祉サービスを知らなかった」が最も高く、4割以上を占める。



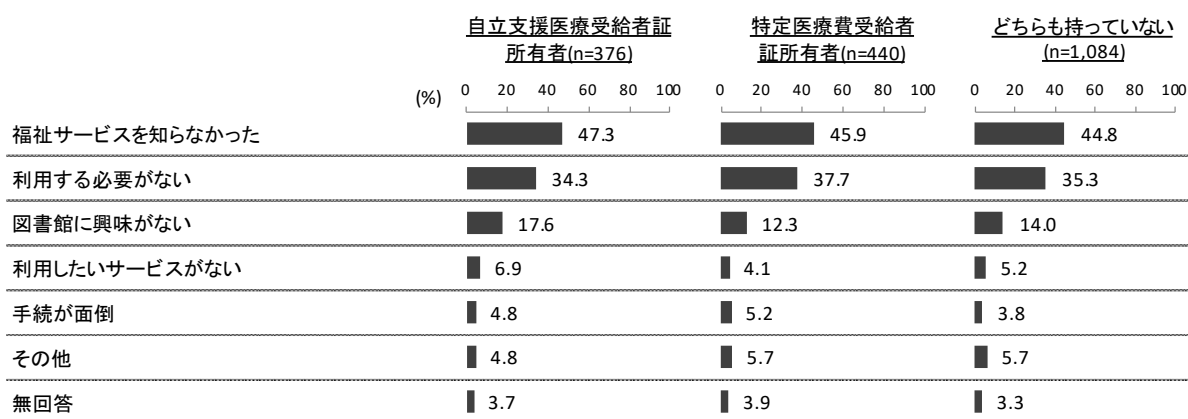
(その他)

身体的理由などで図書館まで行けない(22 件)/文字が読めない(10 件)/遠いので行かない(11 件)/図書館の場所を知らない(3 件)/機会がなかった(3 件)/必要がない(3 件)/本屋で買う(2 件)/入院中(2件)/目が見えない(2 件)/施設に入居中(2 件)/騒いでしまう。じっとしてられない/認知症の為、読書の習慣が無い/興味がないわけではなく行く気にならない、時間と体力も必要/時間が取れなかった/本を郵送してもらえると大変助かるが、書籍が傷みそうで気がひけてしまう/手続きに対する対応の不備/体力的に生活に追われている/施設の職員が不足で利用することができない/自分の車イスで、施設職員と出かけられたため必要無かった/利用したいけど行動にうつせない/利用しなくても使用できます/障害特性から大声や紙を破る行為がある/自分自身読書に興味がない/まだ自分の事に専念できない/あまり読書をしなない/対人恐怖症の為自分では行けない。興味のある本は母に借りてきてもらっている/例えば CD のあつかいもていねいにできないキズをつけてしまう。だから全てがむり。

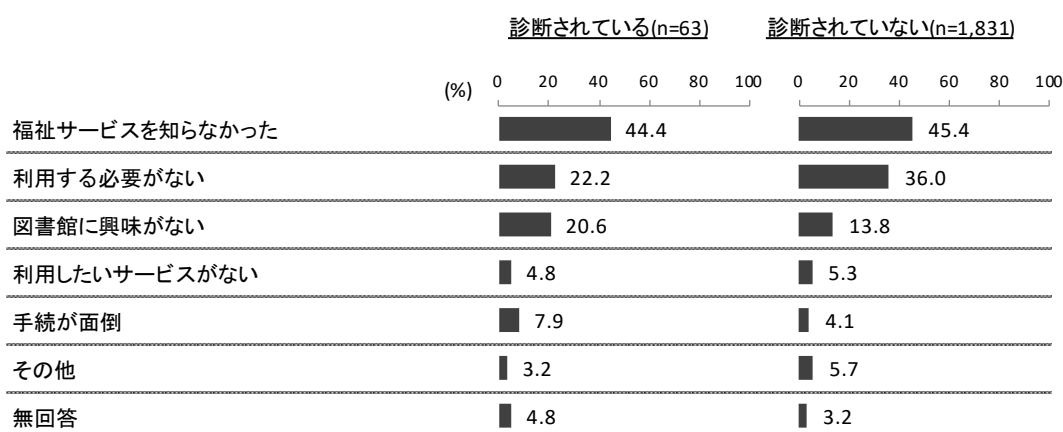
<手帳の種類（詳細）別>



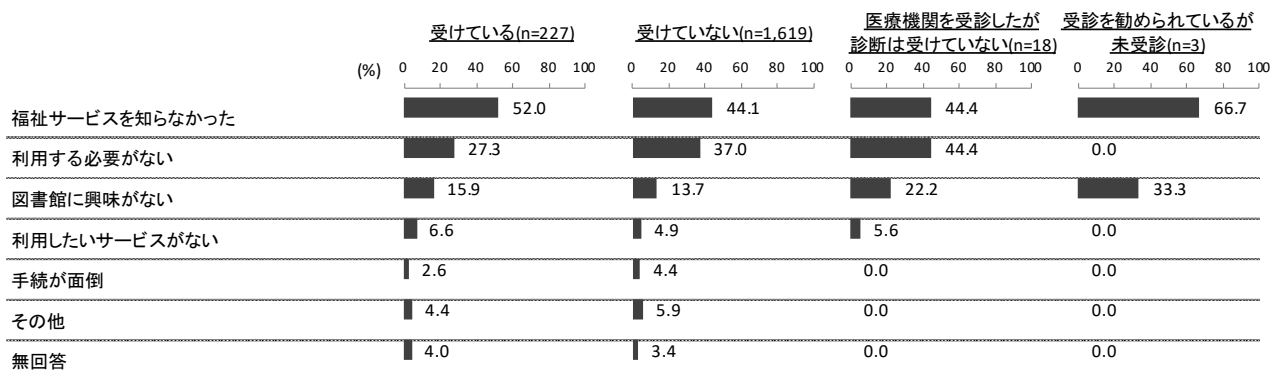
<受給者証有無別>



<高次脳機能障がい診断別>



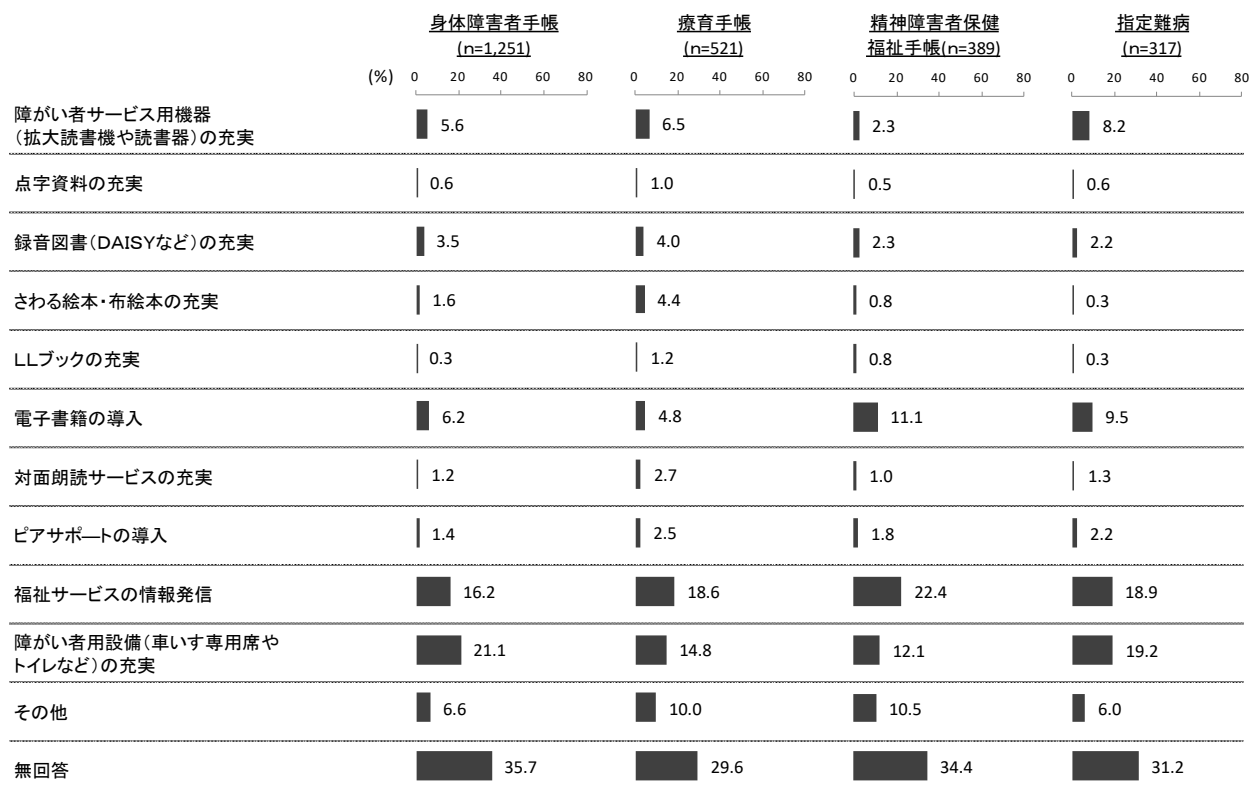
<発達障がいの診断有無別>



(3) 今後、静岡市立図書館に求める福祉サービス

問 50 今後、どのサービスの充実を求めますか。(○は1つ)

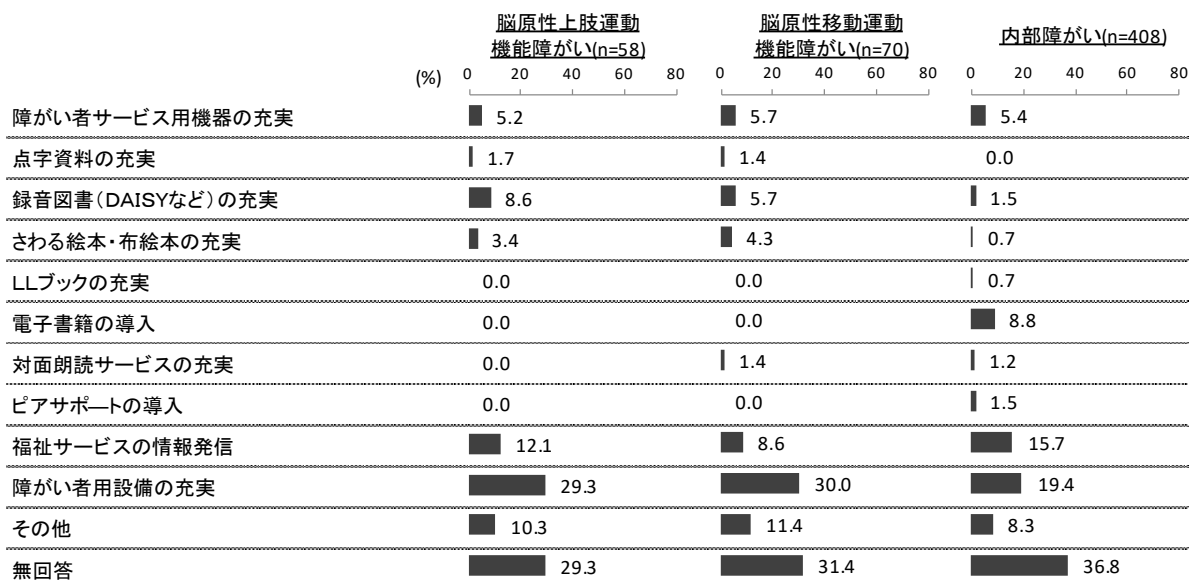
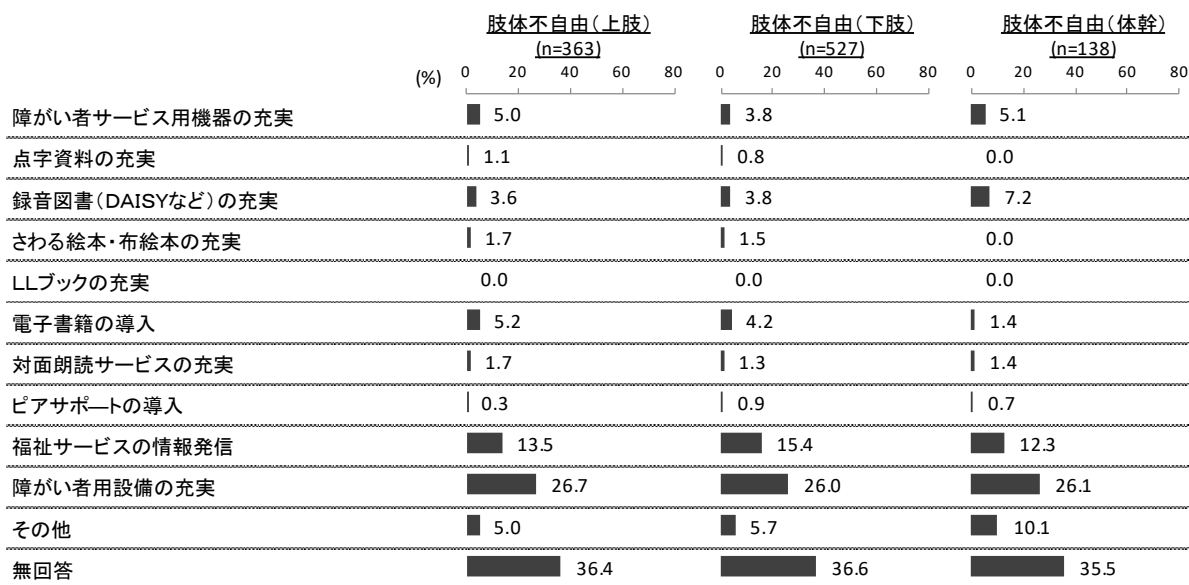
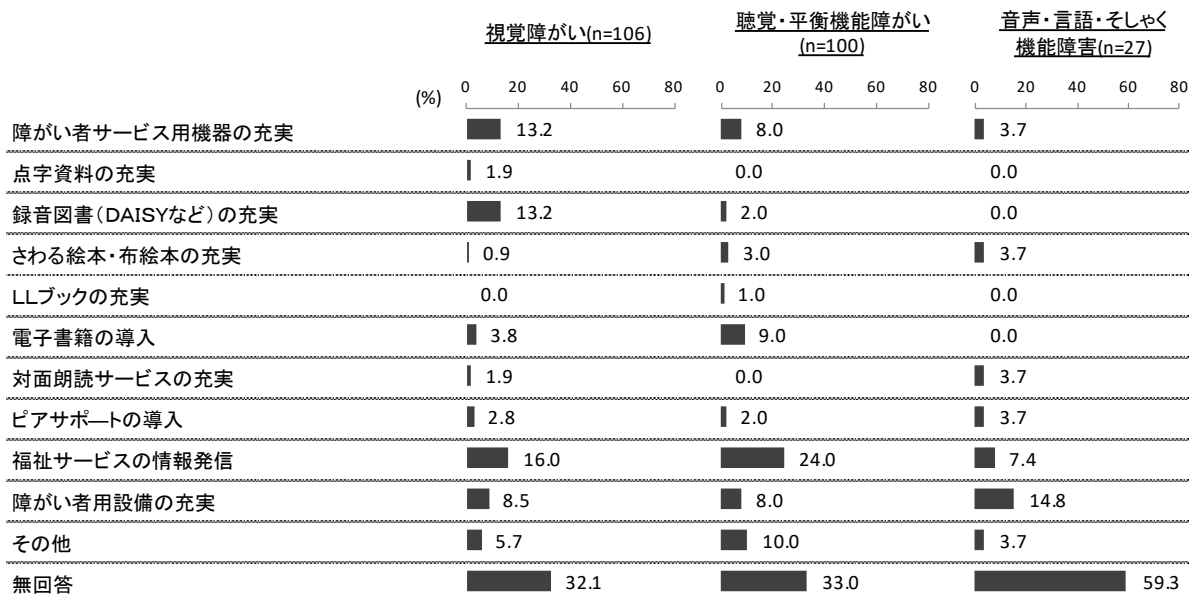
身体障害者手帳所有者、指定難病者では「障がい者用設備の充実」が2割で最も高く、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では「福祉サービスの情報発信」が2割で高い。



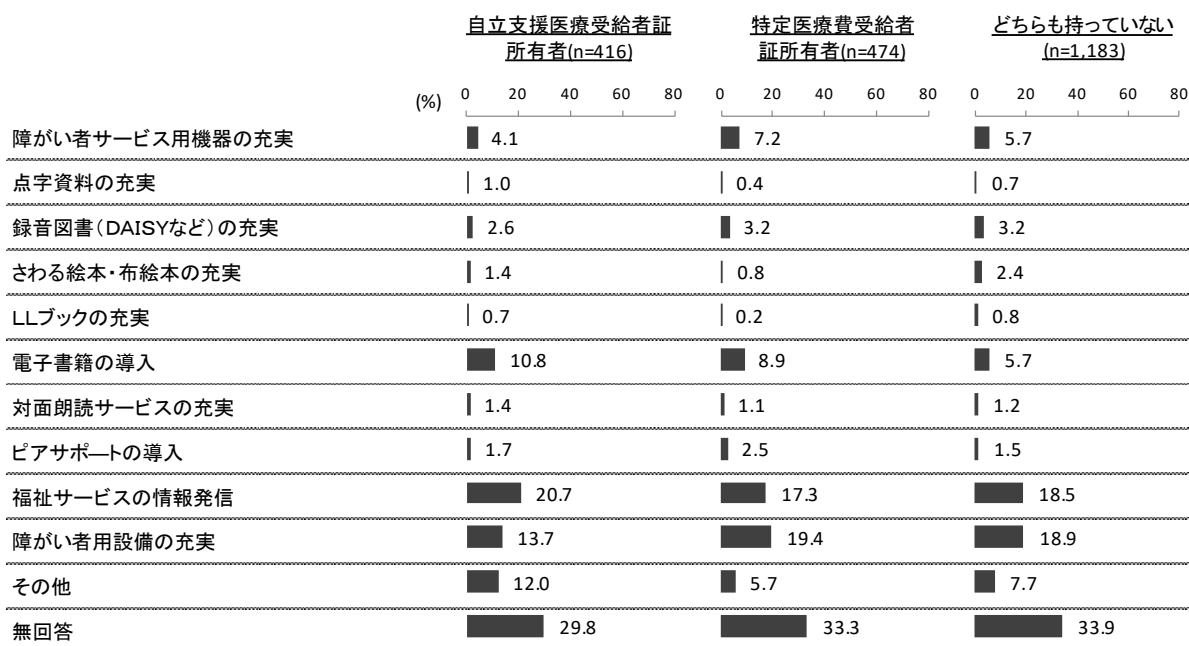
(その他)

分からない(7件)/騒いでしまってもいい環境(4件)/公共交通の整備(2件)/現状でいい(2件)/移動図書館(2件)/個室(2件)/送迎(2件)/宅配(2件)/破損してしまう可能性があるため、柔軟に対応してもらいたい(2件)/駐車場の利用時間の延長/自分で本は買います/お金、クーポン、もらえるサービス/親子異性の時困る時がある(私達の場合)/トイレが洋式であること/カラオケ等/文字化する機器/障害者への理解/手話の本が福祉カテゴリではなく言語に入ること/1つは選ばせませんでした/内部障がい者のトイレがない/重複障害(重心)の人にも大きな絵本、紙しばいなど充実希望/自由に選べる自動音声、ヘッドホンで聞けるといいな/学校の図書充実/清潔、確実に清潔であれば利用したい/駐車場、スペースの確保と屋根あり、施設建物に近いこと/防音室/サービスの流布、手続きの簡素化/イスがとても少ないです。テーブルも/インターネット情報の代行/本を紛失したときにそれ以上の立派な本を提供したのに別の新しい本を購入してくれと言われお金が無いのでそれから図書館を利用していない。(3冊)●●●●の図書館

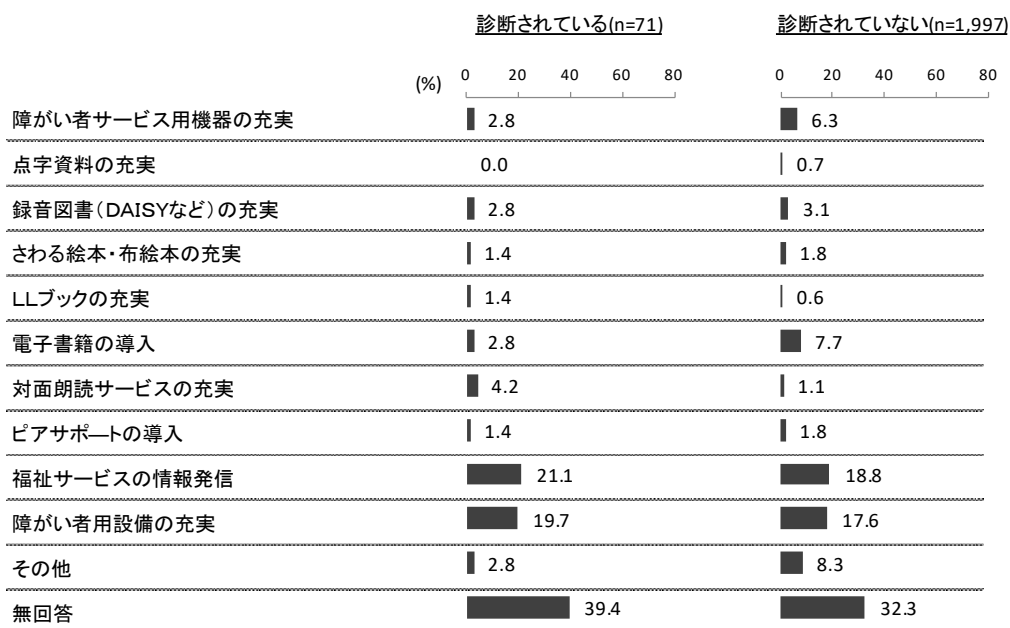
<手帳の種類（詳細）別>



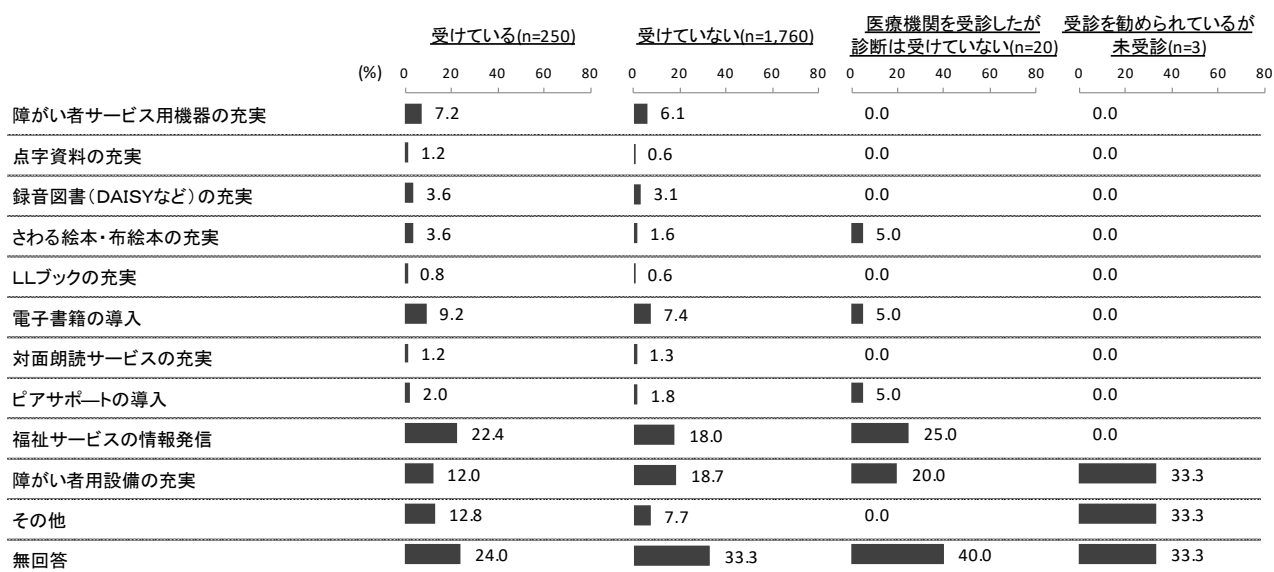
<受給者証有無別>



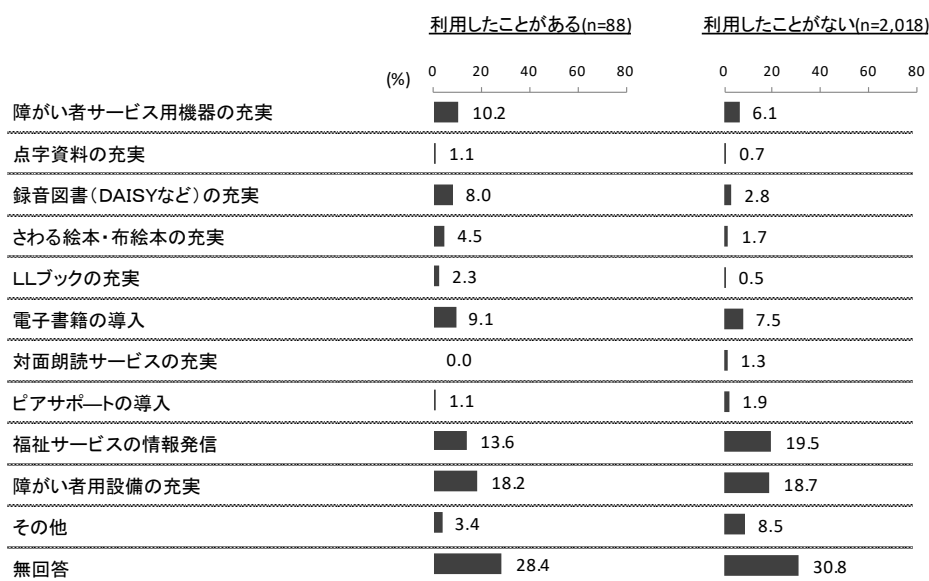
<高次脳機能障がい診断別>



<発達障がいの診断有無別>



<静岡市立図書館の福祉サービスの利用有無別>



<利用したサービス別>

単位 %、()内実数

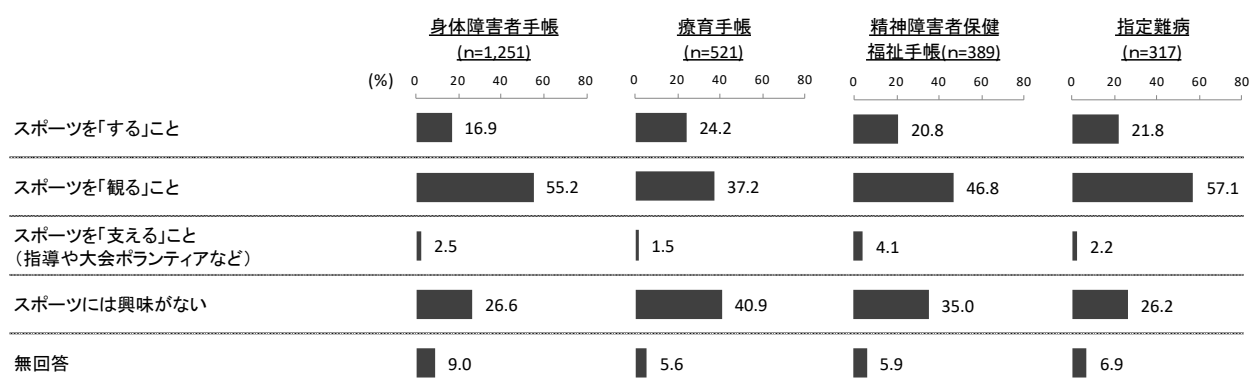
		障がい者サービス用 読書器(拡大読書機や 機器)の充実	点字資料の充実	録音図書(DAISY Yなど)の充実	さわる絵本・布絵本 の充実	LLブックの充実	電子書籍の導入	対面朗読サービスの 充実	ピアサポートの導入	福祉サービスの情報 発信	障がい者用設備(車 など)の充実	その他	無 回 答
全 体	(88)	10.2	1.1	8.0	4.5	2.3	9.1	0.0	1.1	13.6	18.2	3.4	28.4
大活字本の貸出し	(25)	16.0	0.0	0.0	4.0	4.0	20.0	0.0	0.0	4.0	20.0	4.0	28.0
点字資料の貸出し	(3)	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
LLブックの貸出し	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
拡大読書機	(2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
音声応答サービス	(3)	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
図書・CDの郵送	(34)	11.8	0.0	11.8	2.9	2.9	5.9	0.0	2.9	14.7	17.6	2.9	26.5
録音図書(DAISY)の貸出し	(10)	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0	30.0
宅配サービス	(4)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
対面朗読	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	(13)	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	23.1	7.7	38.5

13. スポーツの実施・観戦について

(1) スポーツへの興味

問 51 スポーツに対して興味があることは何ですか。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「スポーツを『観る』こと」が最も高く、次いで「スポーツには興味がない」が続く。療育手帳所有者では「スポーツには興味がない」が40.9%で最も高い。



(2) スポーツをする頻度

問 52 あなたはスポーツをどのくらい行っていますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「ほとんどしない」が6～7割を占める。療育手帳所有者では年に1回以上スポーツをする人が2割以上と高くなっている。

